# 史上最高91107人が体験した奇跡のイベント！

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成14年10月10日発行　増刊　第4巻・19号・通算78号

# SRS DX

Special Ring Side

10・10
臨時増刊号
2002
定価680YEN

SUMMER NIGHT FEVER in 国立
Dynamite!
速報号

## 吉田秀彦という男 圧勝！

食うか、食わざるべきか？
食わず嫌いか？

## 「Dynamite!」炸裂 国立、大炎上！

吉田、グレイシーに圧勝！
桜庭、ミルコに敗れる！

(株)ローデス　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社　〒105-8070　東京都港区海岸1丁目15番1号
本体648円

# アントニオ猪木と私達が同じ時代を生きてきた証。
# オフィシャル・ボックスセット「INOKI ROCK」
# 完全予約制、限定発売。

〈内容〉

DOCUMENTARY BOOK ●自宅から新日本プロレス・ロサンゼルス道場まで密着、**超ロング・インタビュー**を敢行。今、猪木が考えていること、日常生活をすべて明かした**10万字に及ぶドキュメント『サンタ・モニカ――猪木という旅』**（文・木村光一）／猪木信者のバイブルでありながら、現在入手困難の**村松友視・著『ファイター 評伝アントニオ猪木』完全再録**／特別寄稿・**古舘伊知郎**／猪木の魅力をすべて知り尽くした**百瀬博教による『猪木八景』**他

PHOTOGRAPHIC BOOK ●594×420mmの**超大判・オールカラー写真集**（撮影・堀口マモル）

CD ●アントニオ猪木のテーマ:**『炎のファイター』**オリジナル盤を紙ジャケット仕様CDで**復刻**

AND MORE ●**書き下ろしオリジナル詩・手形**を豪華額装

**25,000円**（税込）／ソニー・マガジンズ刊
**通販限定発売（完全予約制）**

## 〈予約申し込みは9月30日まで! 次の方法でお早めに!〉

### インターネットでの申し込み

**http://www.catchbon.jp/にアクセスして下さい。**

### 郵便振替での申し込み

①ご注文は郵便局から「郵便振替」で（株）ソニー・マガジンズF口座宛にご入金ください。電信扱い、速達扱い、切手によるお申し込みや現金書留などによる送金は、処理の関係で受け付けできませんのでご注意ください。
②お近くの郵便局に備え付けの「郵便振替払込取扱票」の（※）欄に、以下の「記入事項」を参考に必要事項を記入して下さい。

記入事項
●口座番号欄:00150-5-549205
●金額欄:25,000円（←1セットの場合。2セット以上ご希望の方は、25,000円×数量分の金額をご記入下さい）
●加入者欄:（株）ソニー・マガジンズF口座
●通信欄:INOKI ROCK（◯セット）
※◯にはご希望のセット数をご記入下さい。おひとり様何セットでもお申し込みになれます。
※用紙によって、通信欄は1枚目に記入するものと2枚目に記入するものがありますので、必ず商品名を記入して下さい。
●払込人住所氏名欄…あなたの郵便番号、住所（都道府県名から正確に）、氏名、電話番号（必ずご記入下さい）
※商品の送り先ですので、わかりやすく丁寧にご記入下さい。

③窓口で渡される「受領書」はあなたの申し込みの控えになります。商品が届くまで、必ず保管して下さい。
④お申し込みの際には、代金とは別に手数料がかかりますので、郵便局でお支払い下さい。

■申し込み期限:郵便局での手続きは必ず2002年9月30日までに行って下さい。
■日本国内の住所のみへの発送とさせていただきます。
■商品は2002年11月下旬から発送開始予定、払込人住所氏名欄にご記入の住所に宅配便でお届け致します。
■振込後に住所変更が生じた場合は、ハガキでご連絡下さい。ハガキには①申し込み日（郵便局で手続きした日）②お名前③旧住所④旧電話番号⑤新住所⑥新電話番号 ⑦昼間の連絡先（電話番号）をご記入のうえ、
〒113-0033　東京都文京区本郷3-29-6
「ソニー・マガジンズ　通販受付センター・INOKI ROCK係」までお送り下さい。
■お問い合わせは「ソニー・マガジンズ通販受付センター」
（TEL　03-5840-8553／土・日・祝日を除く10:00～18:00）まで。

**全国コンビニエンスストア ローソンに設置された**
**“Loppi”にて予約受付中!**
販売についてのお問い合わせは、ローソンカスタマーセンター
（TEL 0120-36-3963／年中無休／10:00～18:00）まで

※この商品は完全予約受注生産商品ですので、一般書店での販売はありません。

**アントニオ猪木 オフィシャル・ボックスセット「INOKI ROCK」百瀬博教 監修**

# 吉田、激勝！

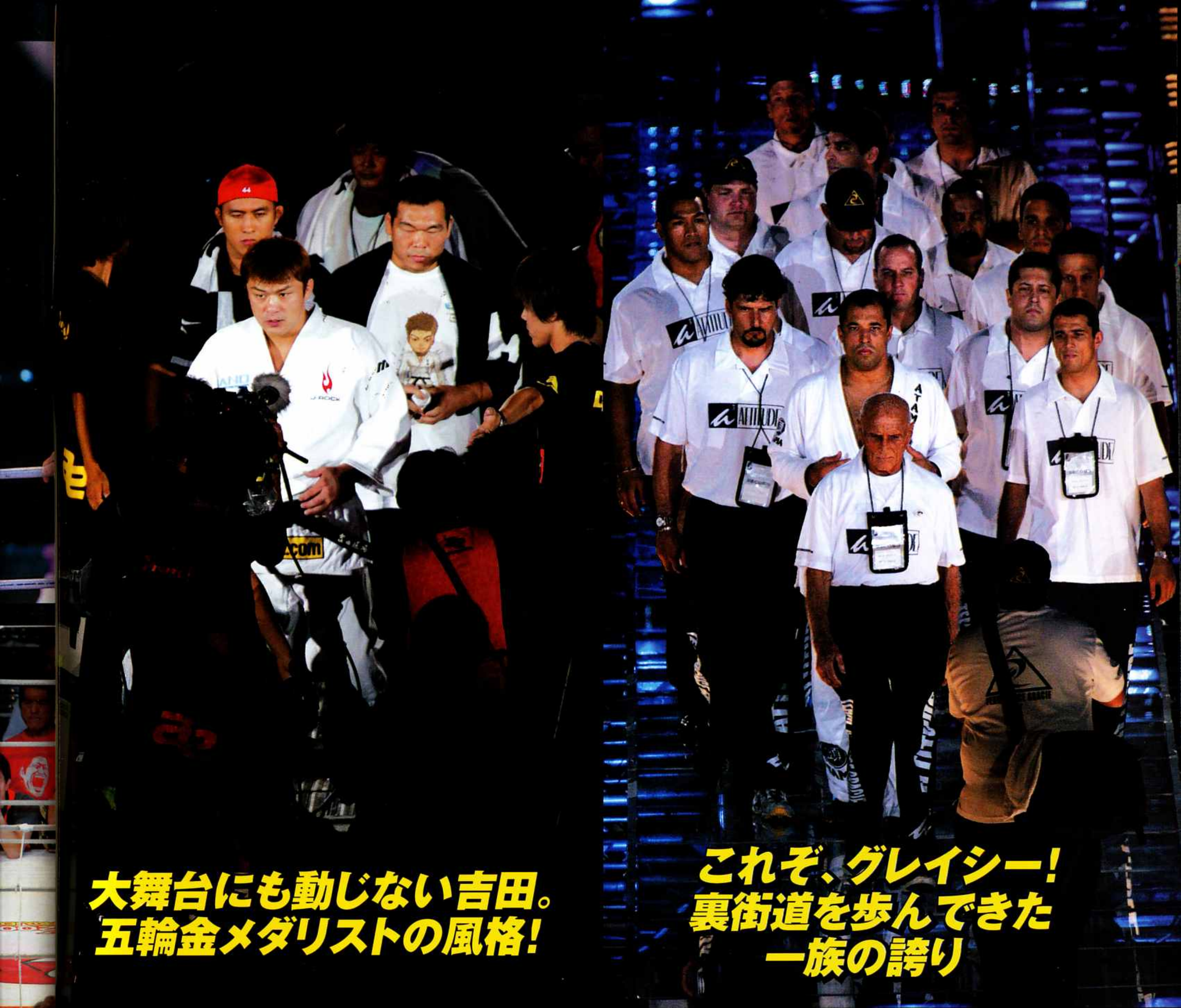
この男をもっと知ろう！

# "太陽"が"月"を圧倒。

(表のヒーロー) (裏の実力者)

格闘技界に新種のヒーロー誕生！

「私は負けていないいっー！」（ホイス）

撮影◎長尾迪、中島ミノル（望遠）、©K－1

# 大舞台にも動じない吉田。五輪金メダリストの風格！

▲一方の吉田は、髙阪剛、大山峻護、小原道由など柔道出身の総合ファイターとともに入場。初めてのプロの舞台にもかかわらず、吉田にはほとんど緊張した様子はなく、大物の風格さえも感じられた

# これぞ、グレイシー！裏街道を歩んできた一族の誇り

▲今回はグレイシー・トレインでの入場ではなかったが、テーマ曲「ラスト・オブ・モヒカン」の流れる中、長老エリオを先頭に厳かな雰囲気を漂わせながら入場。グレイシー一族の入場はいつ見てもカッコイイ

8・28『Dynamite!』国立競技場大会は、まさに史上空前のスケールで行われ、格闘技史に輝く金字塔を打ち立てた。

9万1107人という観客数もさることながら、試合内容、演出、どれをとっても、絶賛に値する過去最大最高の格闘イベントだったと言っていいだろう。おそらくこの日、国立に来た観客は、大満足で会場をあとにし、歴史の証人として、友人・知人など多くの人たちに、その素晴らしさを伝えていくことだろう。

しかし、この『Dynamite!』によって、実はマット界は既成の概念や価値観を覆すような、もの凄いイレギュラーを起こし始めている。その原因は、今回鮮烈なプロデビューを果たした柔道のオリンピック金メダリスト・吉田秀彦の登場と、その吉田の圧倒的な強さにあった。

柔道というのは、言うまでもなく五輪競技であり、いわば表の世界のもの。そこで頂点に輝いた吉田は、ある意味〝太陽〟のような存在と言える。それに対して、格闘技やプロレスは裏の世界、いわば〝月〟の世界であり、その代表的な存在がグレイシー一族だった。今までは、表の世界からの訪問者はことごとく倒し、裏の実力者の誇りを守ってきた。しかし、今回の訪問者・吉田は、強烈な輝きを放ち、裏の実力者を圧倒してしまったのだ。

グレイシー一族は、『UFC』などで圧倒的な強さを見せて、裏の世界での確固たる地位を確立してきたわけだが、当然、表の世界である柔道に対する敵愾心は尋常な

HIDEHIKO YOSHIDA

Dynamite! 8・28国立競技場

# プロ格闘家・吉田秀彦、その輝きはバルセロナの頃と変わらない!

◀名前をコールされた吉田は、姿勢を正して立礼。まるで柔道の試合に臨むように自然な振る舞いだった

▲対する吉田は180センチ102キロ。ホイスとの体重差は14キロ

▲185センチ88キロ。ホイスはいつもより体重を上げてきていた

▲吉田の左足に腕を絡めて足関節狙いにきたホイスに対し、吉田はホイスの襟の辺りを掴んで引きつける。柔道にはない足関節への対策もできていた

▲先に仕掛けたのはホイス。いきなり前に出て吉田に掴みかかるやすぐに引き込みにかかった

ものではなかったはずだ。おそらく、50年前にグレイシー柔術の祖であるエリオ・グレイシーが柔道家・木村政彦に負けたことは、一族の遺伝子に、いつか晴らすべき〝屈辱〟として刷り込まれているのではないだろうか。

今回のホイスVS吉田戦はグレイシー一族にとっては、願ってもないチャンスだった。9万人という大観衆の前で、裏柔道ともいうべき柔術が勝つことができれば、いまや世界中に広まった柔道の鼻をあかすことができる。現役を退いた選手とはいえ、間違いなく吉田は柔道の世界のトップに君臨した男なのだ。その男に勝てば、本当に強いのは柔術だと証明することができ、ちょっと大袈裟かもしれないが、柔道人口をそのままグレイシー柔術人口に変えることができるくらいの野望を持っていたのではないだろうか。

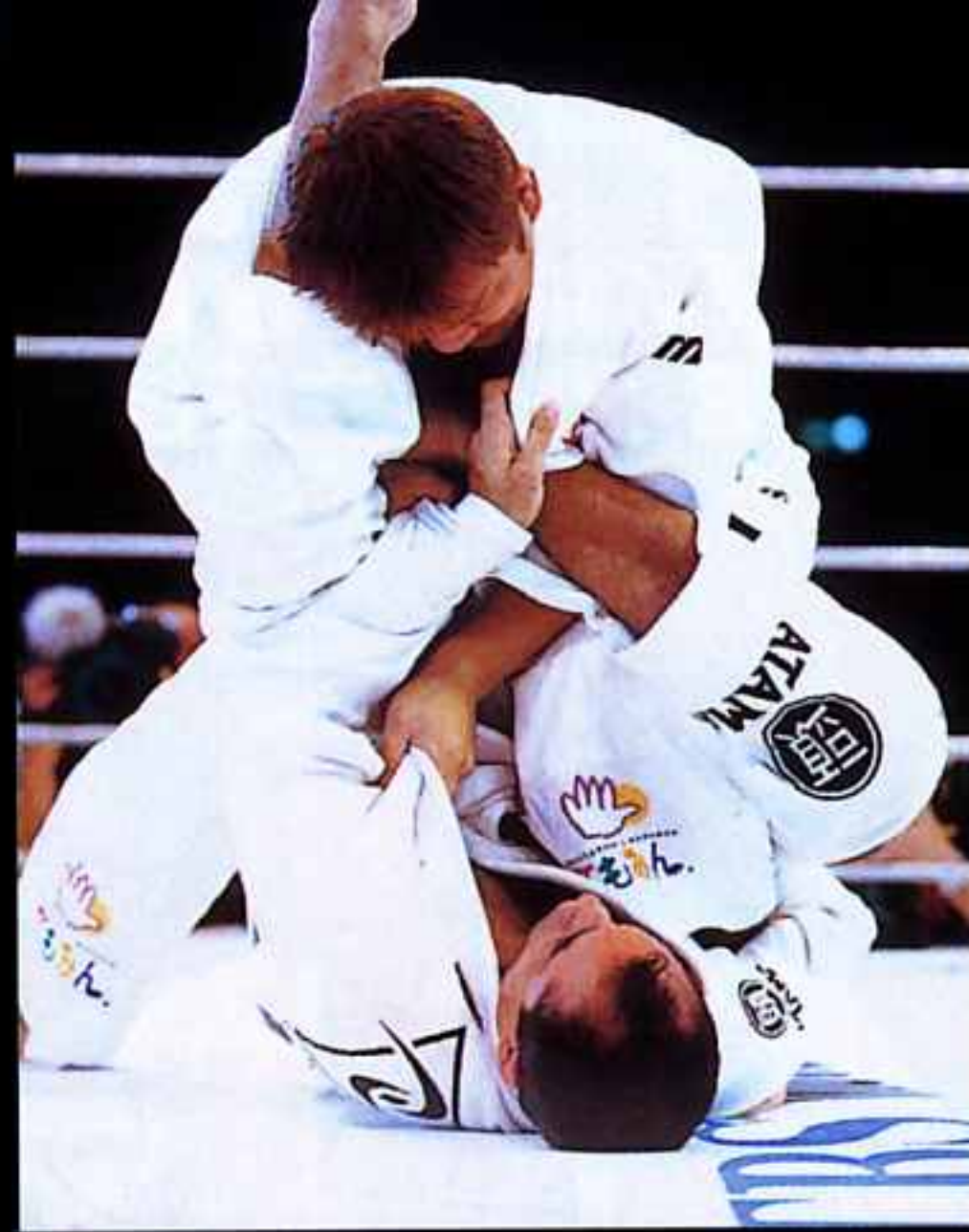
しかし、表のヒーロー・吉田の実力は、グレイシー一族が考えていたよりもはるかに上だった。ルール的な問題で試合後にモメはしたが、内容的には完全に吉田の勝ちと言ってもいいだろう。

グレイシー側は、「アグレッシブに攻めたのはホイスであり、吉田はディフェンスをしていただけだった」と言い、エリオにいたっては、50年前の木村戦を持ち出し、「キムラはヨシダと違ってワシを攻めてきた。誠に勇気ある男じゃった」と言うが、今回の試合に関して言えば、ホイスは吉田の投げを警戒し、最初から引き込んで、吉田の投げを食らわないようにしていたのは明らか。モノは言いようで、吉田は柔道の技術を使ってこ



ROYCE GRACIE VS

ヒールホールドを耐えたホイスは、吉田のアキレス腱を取りにいく。足関合戦だ

◀道衣を使ってしっかりと抱え込まれているため左足を抜くことができない吉田。それでも実に落ち着いた対処をしていた

◀執拗なまでに長い手足を吉田に絡めていくホイス。緊張感が走る

# 驚愕の身体能力!

# 吉田はわずか2カ月の練習でヒールホールドまで身に付けていた!!

▲果敢にヒールホールドにもチャレンジした吉田。場内の特大ビジョンに大写しにされるや「お～っ」とどよめいた。極まりかけていたのだ。ホイスは明らかに険しい表情に

なかったというが、最後の、横四方に抑えたところからの技術は柔道の寝技そのもの。横四方から縦四方、そして最後の袖車絞めにしても、講道館創始の頃からある柔道の技術。ルールが変わり、柔道衣の袖口が広くなったことで使いやすくなり最近の、柔道界における流行技とも言える技なのだ。

ご存知のことと思うが、吉田は内股、大外刈りなどキレ味鋭い投げ技が身上の選手であり、バルセロナで優勝した時などは、全試合投げ技で一本勝ちしている。いわば〝立ち技〟の選手。柔道時代に寝技で勝った試合などは、正直あまり覚えていない。その吉田がプロ総合への転向を決めてわずか2カ月の練習で、相手の土俵で闘う技術を身に付け、相手のもっとも得意とする寝技で勝負し、勝ったのだ。これが柔道の金メダリストの身体能力なのだ。

吉田の作戦としては、少しでもホイスが立ち技で勝負してくることがあれば、大外刈り、内股などで容赦なく頭から落とすつもりでいたという。吉田の前の試合で、ボブ・サップが強引なパワーボムでノゲイラを叩きつけ、大きなダメージを与えたが、もしも吉田が〝本物〟の投げで相手を頭からマットに叩きつければ、それだけで失神、殺人技にもなりかねない。最初から一貫してグラウンドの攻防に持ち込み、吉田に投げを使わせなかったホイスの作戦はそういう意味では正しかったと言える。

ホイスはまるでタコのように、吉田に足や手を絡ませ、グラウンドに引きずり込もうとした。しかし、吉田は落ち着いて、的確なデ

HIDEHIKO YOSHIDA

# 盤石！横四方から縦四方、そして〝袖車絞め〟に！

そして、横四方のポジションを奪う。抑え込みのポイントがないとはいえ、この状態になったことで戦況は一気に吉田に傾いた

▲再び引き込もうと下になったホイスの肩を左ヒザで制した吉田。本当に落ち着いている

▼横四方から縦四方に移行。左腕をホイスの首の後ろに巻き、左手で自分の右袖を掴み、右腕をホイスの頸動脈に押しつける。伝統的な柔道の絞め技であり、柔道衣の規定が変わった（袖口が広くなった）ことで最近、柔道界でよく使われ始めた"袖車絞め"だ。吉田は身体を前のほうに伸ばしながら胸を張り、一気に絞め上げた

# ホイスが〝落ちた〟と判断したレフェリーが試合をストップ！

▲ほどなくホイスの身体から力が抜けたことを実感した吉田は、ホイスが落ちたことをアピール。レフェリーが確認し、すぐさま失神KOを宣告したのだった。大歓声と同時にウェーブが起こり、吉田の鮮烈なプロデビューを祝した

イフェンスをしスキを見せない。それどころか、覚えたてのヒールホールドまで出して、ホイスを追いつめていったのだ。これには、満員の観衆もどよめいた。柔道家・吉田のヒールホールド。しかも、これがかなりしっかりと極まっていたのだ。ホイスの険しい表情を見れば、効いていたかどうかは一目瞭然。これがグレイシー一族でなければここで試合は終わっていたかもしれない。

そのあとの足関節の取り合いには、少しキモを冷やされたが、吉田本人はいたって冷静。一瞬のスキをついて立ち上がった。

立ってからの再開も、再び引き込もうとするホイス。しかし、吉田もただ同じことをやられているわけではない。左肩をヒザで制して腕を殺し、あっけなく横四方のポジションを取ってしまったのだ。

ホイスが来日した時、一緒に来たホイラーが言っていた。「スピード感のあるグラウンドテクニックは柔道のほうが上、逆に柔術は試合時間が長い分、技の駆け引きも使えるしじっくり攻撃できる」

まさに、その特徴どおりの展開と言ってもいいかもしれない。試合開始早々から、下からの寝技でネチネチと吉田のスキを狙っていたホイスに対し、横四方のポジションを取った吉田のその後の展開は速かった。横四方で腕がらみを狙い、それがダメならさっさと縦四方に移行、首の後ろに手を回すや、あっと言う間に袖車絞めに入ってしまったのだ。

胸を張って絞め上げる吉田。ほどなくホイスから力が抜けていくのを感じた吉田は、「落ちた！　落



ROYCE GRACIE VS

# サイコーだぜ吉田!

柔道オリンピック金メダリストとしてのプレッシャーはかなりあったはず。この表情が全てを物語っている

★第7試合/ジャケット特別ルール(10分2R)
○吉田秀彦(1R7分24秒、失神KO)ホイス・グレイシー●
〈日本/吉田道場〉
〈ブラジル/グレイシー柔術アカデミー〉
※袖車絞め

▶試合後、高阪、大山ら仲間たちが見守る中、マイクを持った吉田は、一番に柔道関係者への感謝を気持ちを語り、続いて判定に不服を唱えるホイスに関しては、「またこれから因縁の対決が続くんじゃないかと思うんですけど……(笑)」と余裕のコメントを残した

◀戦前予想では吉田不利と語っていた猪木だが、吉田の勝利を祝福していた。それにしても、こんなショットが見られる時が来るとは……。右は『プライド』の怪人こと作家の百瀬教博氏

ちた!」とレフェリーにアピール。レフェリーが「失神した」と判断し、試合をストップさせ、吉田の勝利が宣せられたのだった。

しかし、すぐに立ち上がったホイスは、「タップしてないし、落ちてもいない」と激昂。怒ったホイス陣営がレフェリー陣に詰め寄り、しばらくリング上は蜂の巣をつついたような状況だった。

そんな中、吉田は涼しい顔で仲間たちと勝利を喜び合い、騒動が落ち着くとマイクをとった。

「ホイスは『まいったしてない』と言っていると思う。納得するまでやりたい。これから因縁の対決が続くんじゃないかと思います。また、よろしくお願いします」と笑顔を見せたのだ。

この余裕、この風格。吉田は、もはや完全なプロだ。

アマチュア時代から幾多のドラマを築いてきた吉田だが、プロデビュー戦でいきなりこんな面白いドラマを作り出すとは、驚きを通り越してあきれるばかりだ。

吉田がプロ転向を表明してから、吉田の周りには柔道出身の総合格闘家が続々と集まってきている。今回の因縁から飛び火し、グレイシー柔術VS柔道に発展していっても面白いことになりそうだ。

これまで格闘技はプロレスラーやグレイシーのような、裏の世界の住人たちにより物語が作られてきたが、柔道という正真正銘の表の世界の参入により、今後、格闘技の勢力図が大きく変わっていくのは間違いない。

最後に一言だけ言っておこう、柔道家の本当の凄さは、まだまだこんなもんじゃない。(林)

HIDEHIKO YOSHIDA

# "グレイシー劇場"勃発！

## グレイシーの言い分は間違ってはいない しかし、場内に巻き起こるブーイング

▲なぜか、まるで勝ったように肩車されてガッツポーズをするホイス。判定には問題があったとはいえ、ここまでやるか？

◀吉田に詰め寄るホイラー。ホイスも吉田を連れだって本部席にいき、「オマエもそう思うだろ？」と猛抗議

▶失神KOを宣告されたホイスは、吉田が腕を解くとすぐに立ち上がり、「失神していない」とアピール。険しい表情でレフェリーを突き飛ばし、さらに顔面にパンチ

## ノーコンテストになるのか？ 結果は2週間後に出る！

◀全試合終了後、リングに立ったホイス、エリオ、そしてペドロ・バレンテコーチが正式に抗議を表明した。その内容は「第一に、ヨシダ選手の技は完全に極まっていたワケではありません。第二にホイスはタップしていません。今回のルールに基づくと、選手がタップしない場合には試合を中止する権利を持つ者は、ホイスのセコンドであるエリオだけです。ヨシダのようなチャンピオンで金メダリストである世界的な選手が、レフェリーを味方に付ける必要はないはずです。(場内からブーイングが巻き起こる) 今回の結果は、正しい結果ではなく、この試合を無効試合にすることを要求します。ヨシダはホイスともう一度闘うべきです。最後に、試合後のリング上での私たちの態度をお詫びします。私たちも人間であることを分かってください」というものであり、それを受けてマイクを取った石井館長は「2週間、審議する時間をください。今日の試合は、皆さんが思っているほうが勝ちです！」と語った

ルール問題で毎回と言っていいほど物議を醸すグレイシー一族だが、今回も大会前にひと波乱、そして試合後にはそれにもまして強烈な大波乱を巻き起こした。

しかし、今回の試合後の騒動は、グレイシーの言い分が正しい。というのも、ルール上では、口頭にて戦意喪失の意思表示をするかタップをしない限り、レフェリーに試合を止める権限がないことが明記されていたからなのだ。

それにもかかわらず、今回、レフェリーを務めた野口氏は、吉田の袖車絞めにホイスが失神したと判断し、咄嗟に試合を止めてしまったのだ。ホイスは浅く落ちていたかもしれないが、まったく落ちていなかったのかもしれない。その真偽は分からない。VTRではその真偽は分からない。しかし、試合が止められた直後にホイスは、自分で立ち上がり、落ちていないことをアピールしているのだ。案の定、モメにモメた。ホイスは怒りに顔を真っ赤にしてレフェリーを突き飛ばし、さらにパンチを浴びせる。リング上は騒然。グレイシー陣営が怒るのも無理はないが、手を出すのはよくない。

全試合終了後、その暴力行為に対しては謝罪したが、同時に、グレイシー陣営は正式な抗議を表明したのだった。

たしかに試合の状況は完全に吉田優位だったたし、あそこから逆転の道があったとは到底思えないが、それでもルールに則るならば、グレイシーの言い分は間違ってはいない。

いずれにしても、今回の野口レフェリーの行為が越権であったことは否めない。たとえ、それがホイスの身を案じての行為だったとしてもだ。

グレイシーの抗議を受け、石井館長は「2週間、審議する時間をください」と語った。果たして2週間後、どんな結果が出るのだろうか？ ■

▲ホイス陣営がリング内に飛び込み、レフェリー陣に詰め寄る。興奮するセコンド、レフェリーが入り乱れてリング内は騒然となった


ROYCE GRACIE VS

ROYCE GRACIE VS HIDEHIKO YOSHIDA

## 「やっていて気持ち良かったです。それほど緊張もしなかったですし」

吉田のコメント

――試合を終えて、率直な感想をお願いします。

**吉田** まぁ、ホッとしたというか、後味悪いなと。

――最後はホイス選手はどんな状態だったのですか？

**吉田** 力がなかったので、絞めが完璧に入っていたので。あのままいっても多分落ちていると思いますし、落とす自信はありました。というか、落ちたと僕も思ったので。力がぜんぜん抜けていくのが分かって、最後は力が入っていなかったですから。

――闘う前に恐怖心とかはなかったですか？

**吉田** それはないって言ったら、ウソになりますけど……。すいません。（吉田の携帯が鳴る）

――ホイス選手は無効試合だと主張していますが？

**吉田** ねぇ？　じゃあ、あの体勢からもう一度（笑）。

――対戦要求されたら、受け入れるつもりですか？

**吉田** べつにやってもいいですし、納得いかないなら納得いくまでやりたいと思いますし。正直言って今日はけっこう自信につながりました。

――あの技は柔道で、なんていう技ですか？

**吉田** 『袖車』です。どっちかと言うと柔術ですよね。

――寝技は柔道の時、かなり練習されていたんですか？

**吉田** 僕は柔道の時は、寝技はまったくやらなかったです。疲れるんで。

――ヒールホールドも出しましたが。

**吉田** 入りそうだったんですけどね。結構難しかったです。

――ヒールホールドとかの練習は？

**吉田** 結構いろいろ、高阪剛に習って練習はしましたけど。逃げ方も知っておいたほうがいいんで。まずゼロからまた始めました。柔道には足の関節はないんで。そこが一番勉強したところですね。

――闘い方としては自分の思うような攻め方ができましたか？

**吉田** いえ、本当だったら豪快に投げて、それから寝技にもって行きたかったんですけど。やはり両襟を持って、すぐ引き込んでくるというのは予想していたので、予想どおりになってしまいました。相手の状況になってしまったなと。だから投げるところを見せたかったんですけど、それができなくて残念でした。

――「自信が出てきた」と言っていましたが、ホイス選手は、この格闘技の中でトップクラスの選手なんですけど、その選手を相手にして、力はこんなものかというか、予想どおりでしたか？

**吉田** いや、今回はジャケットマッチなんで、やはりジャケット着ているのと着てないのは全然違いますし、ルールによっても全然違うと思いますので。ただね、この中での、ジャケットマッチの中での自信にはつながりました。

――今後は、柔道衣を着て闘っていくということですか？

**吉田** 今後、闘うかどうかも分からないですから。今は、この試合が終わってホッとしているので。次どういう形になるかというのは、僕も全然考えてませんし、全然分からないです。

――想像していたリングと実際上がったリングというのは全然違いますか？

**吉田** よく周りに友達が見えたんですけど、やっていて気持ち良かったです。それほど緊張もしなかったですし。ただ、みんなが水をまいているので、凄く滑ったのが気になりました。

――畳とは違いました？

**吉田** 全然違います。

――危ないなと思ったシーンはありましたか？

**吉田** 最初に足を取られそうになったので、裸だとまぁ、すぐに外れるんですけど、ホイスが柔道衣を引っ張って固めていたので、なかなか外れなかった。まぁ痛くなかったですけど。

――逆にそれで落ち着いたような感じですか？

**吉田** いや、こっからどうしようと、迷い迷って、ヒールホールドです。

――勝利の味というのは柔道時代とまた違ったものを感じましたか？

**吉田** まぁ今回はやはり、うれしいというより、本当にホッとしたと。まぁちょっと後味悪いですけど。1試合終わって気が楽になったなと。また次に臨むとしたら、もう今日みたいな気持ちではないな、というのはありますね。

――闘ってみたい選手はいますか？

**吉田** いや、べつにいないです。

――木村VSエリオ戦を意識したことはありますか？

**吉田** いや、全然ないです。

――五輪の金メダルの味と、今日の勝利の味は違いますか？

**吉田** うーん、何でしょうね。やはりオリンピックはね、凄い苦労して、苦労して練習して勝ち得たものなので。まぁだから今回が練習してないわけではないですけど。やはりアマチュアの最高峰の大会で優勝した味と、今回、10万人集まった会場で勝利した味は違いますよね。本当のうれしさっていうのはオリンピックで、この国立でやった今日の闘いにはホントひと安心っていう、ホッとしたっていうのが正直な気持ちです。■

ホイスは会見場に現れず、代わりにエリオがコメント

## 「この試合はノーコンテスト。改めて試合させてほしい」

**エリオ** まず言いたいのですが、今回の試合に関して、自分としては「なかったもの」と思っています。

レフェリーは今回の試合に関しては、止める権限はなかったと思います。止めてしまったことは非常に残念です。本当に不公平だったと思います。レフェリーのした行為は、日本の人たち全ての意見ではないと私は理解しています。ですから、日本人を本当に尊敬しているので、このようなことは絶対にやらないと考えています。レフェリーがやった行為は日本の皆さんの意見ではないと確信しています。

プロモーターの方たちに申し上げたいのですが、この試合に関しては、ノーコンテストだったということにしてもらいたいです。その点をはっきりさせてもらいたいです。あと改めて試合をさせていただきたいと思います。これはリベンジではなく、新たな試合になります。

――試合前にレフェリーストップについて、どのような取り決めをしていたのですか？

**エリオ** ルールに関しては、試合前にはレフェリーストップはなしということではっきり話し合いました。試合を止めることができるのは、セコンドである私たちだけだったのです。しっかりと契約もしています。

――タオル投入以外では試合がストップすることがないということですか？

**エリオ** はい、そのとおりです。試合を止める権限は私たちにはあるが、レフェリーにはありません。

――吉田選手の柔道の技術に関してはどう思いますか？

**エリオ** 吉田選手に関しては、試合前から、非常に優れた選手だということは分かっていましたし、柔道の世界チャンピオンだったことも知っていましたので、そういった面では尊敬しています。

――レフェリーが試合を止めていなかったら、どういう展開になっていたと思いますか？

**エリオ** そのことに関しては、予想できないことです。残念ながら試合を進めることはできなかったので。自分としては、息子に勝ってほしかったです。■

# 9万人が言葉を失った真夏の夜のフィナーレ……

# またかよぉ!!

## 桜庭、復帰戦を飾れず！なぜ、これほど不運を被るのか……

2R終了時にまたもドクターストップがかかった桜庭。まさか、桜庭が負けるなんて。初の国立大会はハッピーエンドでは終わらなかった

# 頼むぞ、プロレス界最後の砦 国立に"ザク・ベイダー"見参

## プロレス・ハンター 不気味な余裕——

予告どおり、桜庭はビッグバン・ベイダーバージョンのコスチュームで入場。煙も吐いた

▶ベイダーマスクまで用意している周到ぶり。さあ、初の国立競技場大会を締めくくってくれよ

◀入場の雰囲気を見ると、やはりやや桜庭は緊張しているかのように見えた。まだコンディションは万全ではないのか?

◀一方のミルコは不利なルールにもかかわらず、完全にリラックスしていた。実はミルコもハードスケジュールでコンディションは完璧ではないと聞いていたのだが……

マット界初の国立競技場イベント『Dynamite!』。この壮大なロマンにK—1と『プライド』が立ち向かっていったわけだが、成功するか否かは、いざフタを開けてみるまで分からなかった。それほど、10万人キャパの国立で興行をやるということは、無謀な賭けだった。

初めての大会名、初めてのコンセプト、初めてのK—1&『プライド』の合体、初めての国立競技場……それでいて、準備期間もプロモーション期間も足りないから、本当に関係者にとっては神経を磨り減らす毎日だったに違いない。

しかし、この国立大会の開催にあたって、私は唯一絶対的に信頼できるものがあった。それが、"桜庭和志"というメインイベンターの存在である。

この国立大会で一番の話題となった"吉田秀彦"という存在。しかし、内容から結果に至るまで、吉田は終わってみるまでまったくの予測不能だった。だいたい、吉田VSホイス戦のジャケット・マッチルールにしたって、面白くなるかどうか分からなかった。その意味で、この国立大会はほとんどギャンブルみたいな興行だったのだ。

そもそも、他流試合というコンセプトすら、興行という視点で見れば、ギャンブルそのものである。競技の違う者同士、体格の違う者同士が闘えば、そこには緊張感とか、勝負論は生まれるものの、試合内容は決して保証できない。同じ練習、同じルールで普段から闘っている者同士が作り上げる"予定調和"が生まれないからである。

"予定調和"が生まれないからこ

Dynamite! 8・28国立競技場

▼▶"ギミック"技を使い、いつもタイミング、スピードと申し分ないと思われていた桜庭のタックルが、何度も何度もミルコに潰された。恐るべき、ミルコの身体能力だ！

# なぜだ!?桜庭のタックルが決まらない！

▼ミルコはとにかく桜庭のタックルを切ることを第一と考えていた。だから、先に攻撃をあまり仕掛けなかったのだ。またパワーの差も大きい

そ、他流試合はスリリングなのだが、反面コケる可能性は大いに秘めている宿命を持っている。

たとえば、K―1で言えば、予定調和の名勝負がK―1フランス大会のバンナVSハントで、どこか歪んで殺伐とした名勝負が昨年の藤田VSミルコのような他流試合だと考えると、分かりやすいだろう。つまり、他流試合では客を楽しませる予定調和の試合なんか、ほとんど期待してはいけないのだ。

ところが、その他流試合でさえ、予定調和させてしまうところが桜庭の天才的なところ。他流試合でも、緊張感よりも試合内容で見せてしまう。だから、桜庭の試合は、メインイベンターとしてほとんどハズレがないのだ。

では、なぜ桜庭はそういう試合ができるかというと、プロとして面白い試合を見せてやろうという発想をいつも持っているからである。面白い試合をやろうとするには、相手の良さを引き出さなければならない。そうやって、桜庭はいつもゆっくりと闘いながら、グレイシーやランペイジ、シウバなど対戦相手の良さを引き出してきた。桜庭の相手の力を8まで引き出し、10で仕留める戦法は、まさにプロレスそのものだった。

だから、国立のメインを桜庭が務めると決まった瞬間に、もうどんなことがあっても、最後の帳尻は合ったようなものだと思えた。『プライド』が新しいプロレスと言われるのも、桜庭のようなメインがいるからである。

吉田がコケても、ノゲイラVSサップがコケても、最後は桜庭が帳尻を合わせてくれる。いい試合を

# なぜだ！桜庭が立ち技で真っ向勝負！

▲打ち合いになると、これはもうミルコの世界。しかし、桜庭も何度かミルコにパンチを当てていた。お見事！

▲左ハイを打つための布石と、タックルに対処するため、ミルコはローキックを多用した

タックルが切られたためか、桜庭は自ら立ち技でミルコと勝負しはじめた。このペースになると、いつ必殺のハイが出るか、ヒヤヒヤだ

やるには、いい試合をやろうという意識が大切である。その意味で、桜庭や高山、ドン・フライのような選手は、主催者サイドから見ると、これ以上ないほど頼もしい存在に見えるのだ。

実際、約9カ月ぶりの復帰戦とはいえ、桜庭は見事にミルコの良さを引き出していた。ミルコもまた抜群の運動センスを持っているため、桜庭のような相手ならどんどん良さが引き出されていくタイプ。だから、桜庭VSミルコは、手が合いすぎるんじゃないかと思えるほど、面白い試合を展開していった。いいポジションをいち早くとって、勝った負けたを競い合うのがバーリ・トゥードの本質ならば、これほど面白い試合ができるのは桜庭の真骨頂である。

ミルコがバーリ・トゥーダーとして格段に進化しているように見えたのは、明らかに桜庭が試合を引っぱっていたからだ。だが、それは同時に、相手の土俵に自ら飛び込んで闘うことになる。桜庭は終始ミルコのペースで闘っていたから、いつKOされてもおかしくない緊張感もあった。

格闘技の試合、特にバーリ・トゥードの闘いになると、いかに自分のペースにはめ込んでいくかが勝負の鍵となる。しかし、桜庭はいつも、相手の良さを引き出しながら自分のペースにはめ込んでいくタイプだから、強いだけでなく、面白い試合ができるのだ。

だから、私はどこかで桜庭に頼りきっていた。ところが、である。この国立大会は、不確定要素の多かった吉田やサップが爆発的な面白さを見せつけ、観客の体が最高

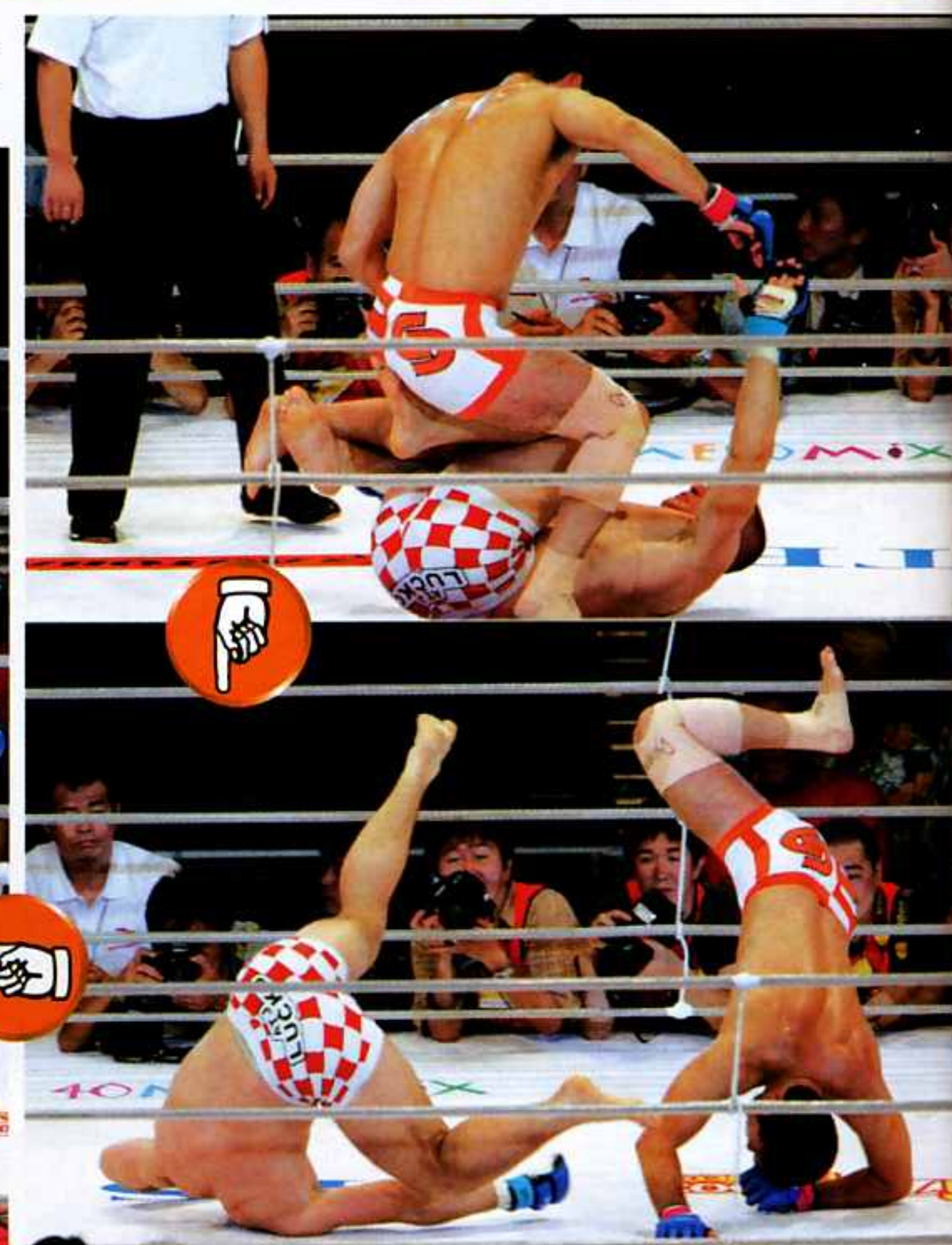
Dynamite!
SUMMER NIGHT FEVER in 国立
8・28 国立競技場

# このローキックは効いた！

▲ミルコのこの左ローの連打で桜庭の体がよじれた。これは効いた

▲下になってもミルコはガッチリとホールディングしてディフェンス。やはり10キロ以上の体重差は厳しい

# 恐るべきスピードとテクニック、この2人はウマが合いすぎる？

▼▶身体能力が高いだけに、手が合いすぎる2人の攻防。桜庭がジャンピング・フットスタンプをしようとすると、ミルコは下から蹴り上げ、巴投げのように投げ捨てた

潮に温まったところで、まさかまさかの大どんでん返しが起こってしまった。

まさか、ここで桜庭が負けるとは思っていなかった。この国立競技場という日本最大の屋外スタジアムで、ファンはきっとハッピーエンドを期待していただろう。その期待感が音を立てるように崩れ落ちてしまった。

まさに、真夏の夜の悪夢。もう9万人の観客は言葉を失うしかなかった。プロレス界最後の砦として、切り札の桜庭がミルコに負けるなんて、何人のファンが思っていただろう。土壇場にきて、『Dynamite!』は、最も予定調和の作れる桜庭が、見事にそれを破壊して幕を閉じた。

しかも、桜庭にとってこれほど悔しい負け方はない。2R終了間際、グラウンド打撃の攻防の中で、ミルコが下から突き上げたキックが、桜庭の右目を直撃。「眼窩底骨折」の疑いがあるとして、またもドクターストップがかかってしまったのである。

格闘技における負けにも、いろいろなパターンがあるが、よくグレイシーが言う「ラッキーパンチ以外に我々は負けない」というのがこのパターンだ。完全にKOされたり、一本極められたのならまだあきらめもつく。しかし、試合の途中でシウバ戦同様、桜庭はまたもアクシデントに見舞われてしまった。おまけに、眼窩底骨折だなんて、また長期欠場の可能性もあるじゃないか。この結果は『プライド』にとっても、日本の格闘技界にとっても、あまりに痛い！

桜庭がなぜ負けたかという理由

# 今度は眼窩底骨折！

## あまりにも不運、あまりにも悔しい……

今度は眼窩底骨折か？いずれにせよ、長期欠場がまたも濃厚になってきた。本当に厄払いするしかない

## 悪夢は2R終了直後に起こった

▶桜庭がガードポジションから殴りにいこうとした時、ミルコが下から蹴り上げた。この時、カカトが桜庭の右目にモロに入ってしまったのだ

▶下からパンチ、そして肩にエルボーを落とすミルコ。もはや完全にバーリ・トゥーダーに変身している

▶顔を上げた時、桜庭の目は完全にふさがっていた。この時、すでに眼球が動かない状態になっていたのだ

については、いろいろ言われるだろう。ミルコが予想以上に進化していたこと。体重10キロ以上の差がやはりきつかったこと。さらに、復帰戦で試合勘が完全に戻ってなかったこと。2Rの残り時間が少ないから、調子に乗って殴り合いに付き合いすぎたこと。そして、グレイシーとの連戦で燃え尽き症候群に体が勝手に陥ってしまっているのではないかということ……。それらは、たしかに全て当たっている気がする。

しかし、今回に関しては、それ以上に桜庭の運の悪さ、国立大会成功の不安要素を、桜庭が全て被ってしまったような印象をまっ先に感じた。対策はもう〝厄払い〟しかないんじゃないかと。

きっと桜庭のことだから、今頃悔しくて、早く試合がしたくて仕方のないモードになっているだろう。シウバとミルコからは、一生かけても〝一本〟取ってやる。そんな気持ちで、右目の回復を待っているのではないだろうか。

それがサクという人間である。そう、このケジメは必ず桜庭につけてほしい。今回こそ、ミルコは息の根を絶たれ、〝ストップ・ザ・プロレスハンター〟に終止符が打たれるかと思われたが、国立という大舞台でも、それは実現しなかった。

かくしてドラマはまだ続く。では、ミルコを誰が倒すかというと、それはノゲイラやシウバではなく、やはり藤田か、桜庭に成し遂げてもらうしかないのだ。この2人がそれをやらないことには、ファンは救われない。

ミルコにも、シウバにも、その

# プロレス・ハンターは死なず、ミルコはまだ強くなっている！

今度こそ首を刈られると思われていたミルコ。それにしても、藤田、永田、桜庭を倒した実績は凄い！

▶勝ったミルコは涙ぐんでいたようにも見えた

▶総合プロデューサーの石井館長もミルコを祝福。K―1ファイターの適応力は凄い

## 藤田よ、桜庭よ、このケジメつけてくれ！

▲最後に「夏休み最後に勝てなくてすみません」とマイクで謝った桜庭。本当に悲しい結末だった

### ミルコのコメント

「凄く気分がいい。たぶん、グラウンドでのキックで負傷したんだと思う。サクラバは人間としても、選手としても尊敬している。ナイスガイだね。ただ、ここで言っておきたかったのは、今回、7日間しか寝技の練習ができなかったのだが、それでもサイドチョークを出したり、ガードに戻すことができたことだ。タックルが切れたのも練習のおかげ。ただ、それでも練習の全てを見せたわけではないよ。もちろん、私はまだ総合格闘家として完璧ではない。でも、マイクという新しいブラジリアン柔術の黒帯を持ったスパーリング・パートナーを手に入れたので、私にとってまったく新しい時代が始まることになるだろう。立ち技プラス寝技の練習をしていくので、今後私と闘う相手は月からでも見つけてこない限り、いなくなるのではないかな」

★第8試合/PRIDE特別ルール（5分3R）
○ミルコ・クロコップ（2R終了時、ドクターストップ）桜庭和志●
〈クロアチア/クロコップ・スクワッドジム〉 〈日本/高田道場〉
※ミルコの打撃による眼窩底骨折の疑いがあるため

時まで、一つの取りこぼしもしてもらいたくない。どんどん勝ち続け、どんどん増長してもらえれば結構。ミルコには「私ほど強い人間はいない」と、このままずっと言い続けてほしい。そうなってこそ、藤田や桜庭のリベンジの価値が上がるというもの。少なくとも、私はあきらめていない。

藤田にせよ、桜庭にせよ、ミルコ戦は、正真正銘の〝負け〟である。しかし、その負けは、決して絶望的な負けではなかったところをもっと見てみよう。ここでめげていたって始まらないじゃないか。

たしかに、今のミルコには藤田や桜庭の運気をも吸い取るような勢いがある。これは、本当に今年のK―1グランプリの大本命と言っていい。とにかく今のミルコは1年前とは別人と思えるほどのタマになった。本人も自信を全身にまとって歩いているようなオーラが出ている。

一方の桜庭だが、まずは何より気分転換が必要なのではないだろうか。桜庭にとっては、ミルコとシウバに借りを返さない限り、未来は見えてこない。でも、これだけついてないのなら、まずは厄払いと気分転換が必要である。

その気分転換としては、プロレスのリングに立つのもいいだろう。あるいは、本職とは何か別のこと、いい意味で変身するか、じっと耐えて時を待つしかない。そのくらいはファンも待つ必要がある。

国立大会の唯一の誤算は、ハッピーエンドを味わえなかったことだ。だが、それをドラマにつなげないでどうする？ 私はあきらめないで、桜庭を待つ！ （谷川）

『プライド』チャンプをぶち壊す、ボブ・サップ！

# こいつは最終生物兵器だっ!!

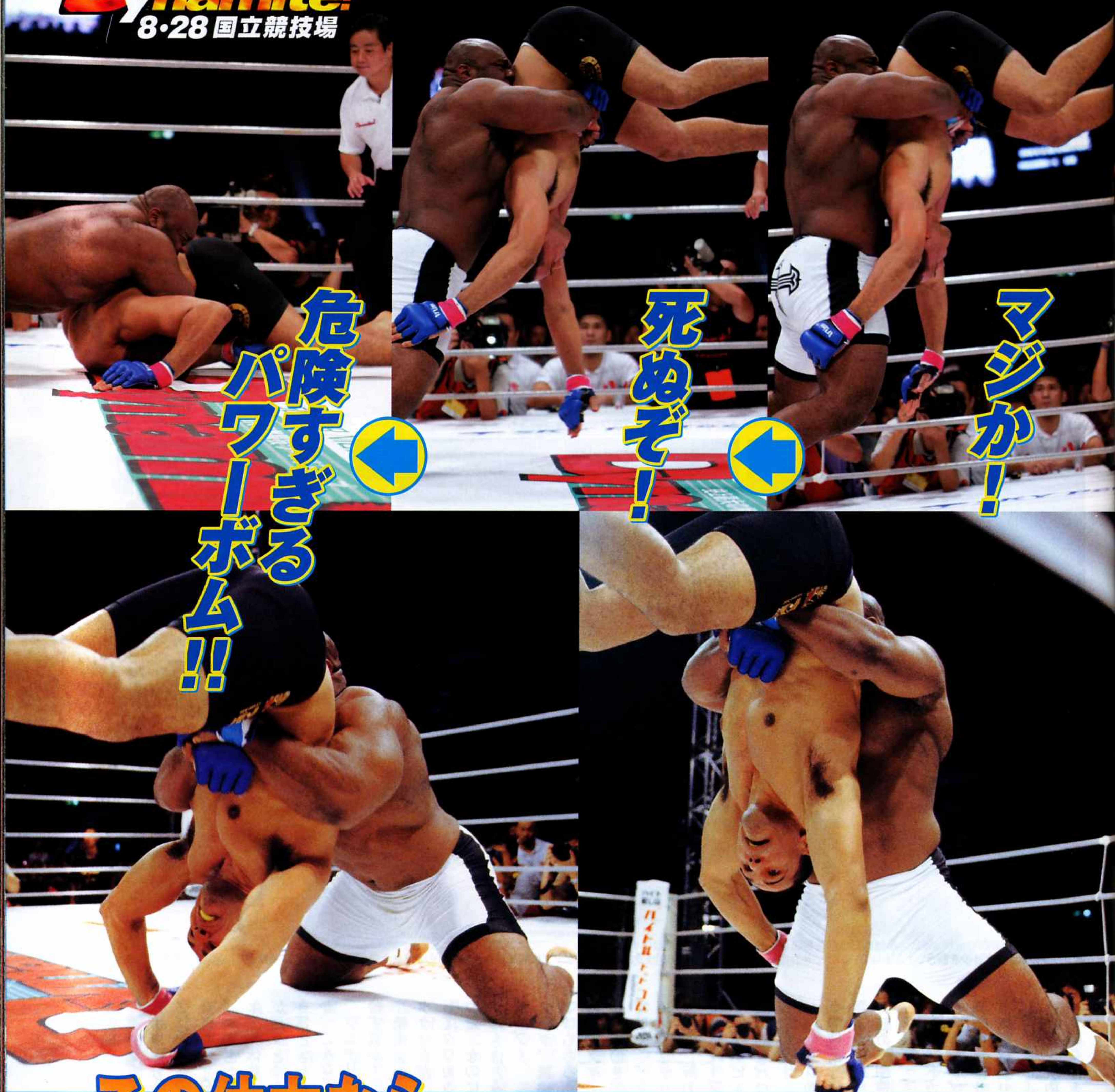
これぞ、VT史上の『LEGEND』

『Dynamite!』級ベストバウト！

足関節を狙うノゲイラだが、サップはまったく
意に介さずノゲイラを殴りまくる

▼ゴング直後、タックルを仕掛けたノゲイラだが、サップはこれを楽々切って、パワーボム！　なんて危険な落とし方なんだ！

マジか！

死ぬぞ！

危険すぎるパワーボム!!

# この体力なら、どんなプロレス技もできることを証明！

# 技術を凌駕する圧倒的パワー！こいつが最強論争の答えだ!!

▲怖ぇぇ！　なんだこのバケモノ！

▲ゴリラに捕まったブラジル人。為す術なし

▲ゴリラの拳がノゲイラを襲う

▲下になるノゲイラだが、こんなヤツに関節技なんか効くのか？

9万人の観客が同時に息を呑んだ瞬間！　目の前で起こった光景が異常過ぎて信じられない一瞬！

ボブ・サップのパワーボムはまさにそれだった。

これぞ、Ｄｙｎａｍｉｔｅ！

俺たちが見たかったのはこれだよ！　体重１０５キロのノゲイラが高々と持ち上げられ、頭から叩き落とされたのだ。普通、できるか、こんなこと！

グニャリと曲がるノゲイラの首。殺す気か！

柔術家のタックルはたいがいヘタクソだが、ノゲイラのそれは決してクワガタ・タックルではなかった。なのに、この始末。バケモノにもほどがありすぎるだろう、サップ！

だが、驚愕のシーンはこれだけではもちろん済まない。スタンド状態でノゲイラがパンチ、キックを出すのを、サップは突き飛ばすだけで、マットに這わせてしまう。ノゲイラがサイドポジションを奪っても、腕力で身体を浮かせられて、スイープされてしまう。『プライド』ヘビー級チャンプの技術を圧倒的なパワーでねじ伏せてしまうのだ。

しかし、観客はまだまだノゲイラの技術を信頼していた。数々の猛者たちを仕留めてきた、あの三角絞めに期待していたのだ。

そして、その機会はやってきた。インサイドガードの状態で殴ろうとするサップの腕を掴み、それと同時に足はサップの身体を滑るように駆け登り、首に巻きつく。よし、そこだ！

だが、次の瞬間、サップはノゲイラの身体を持ち上げ、思い切り

# ウソだろ！ 必殺の三角絞めが効かない！

▲数々の強敵を倒してきたノゲイラの芸術的な三角絞め。だが、サップの規格外の身体では足のロックができない。逆にサップはパワーボムでノゲイラを痛めつけていく

# ケタ外れ！ ジャンピングパンチまでできるのか!!

▲こんなことまでできるのか！　パワーだけでなく運動能力までケタ外れ

叩き落とした。ホントかよ！　もはや為す術なしじゃねえか！

打撃も効かない。タックルも全て切られる。そして最後の頼み、三角絞めも通用しない。

客席に広がる絶望感。リング上のノゲイラはサップのパンチをまともに食らって流血までしている。柔よく剛を制す。日本人の大好きなこの言葉は無惨に砕け散る。リング上で展開されているのは、柔よく、ではなく獣欲。狂ったケダモノが獲物を蹂躙する食人祭そのものだ。

身長2メートル、体重160キロの筋肉の塊。元NFLのプロフットボーラーというスポーツエリートであり、かつ格闘技術はUFCチャンプのジョシュ・バーネットが徹底指導。生まれながらの体格、運動能力に加えて超一流のテクニックが備わった最終生物兵器が目の前にいるのだ。

しかも、このモンスターは1Rの終わり間際で、下に敷いたノゲイラにパンチを連発。スタミナも切れないようなのだ。

対抗手段なし。ノゲイラだからこそ、1Rはなんとかしのぎきったが、この先どうなるか？

そんな中、この信じられない展開にノゲイラのセコンドはついにこんな指示を出す。「寝技をやるな。お前には重すぎる。打撃で勝負しろ」と。絶望的だ。

たしかにサップのスタンドの打撃は、うまくない。だが、突進力だけで十分対抗できる上に、そもそもノゲイラ自体がもうフラフラ。打撃勝負なんかできるわけがない。

そして第2R。ノゲイラはセコンドの指示どおりにパンチを打っ

もはや、絶望的。誰もがノゲイラの負けを予感していたのだが、ただ一人ノゲイラ自身は勝つことをあきらめなかった

# ノゲイラ絶体絶命！

## ところが!?

▲このアームロックは腕力で返されてしまうが、ノゲイラは寝技にこだわった

▲第1R途中、ノゲイラの頭が当たり、サップは流血する

て出るが、案の定、サップの岩の身体には通用しない。たまらず、タックルして逆に潰され、上に乗られてしまう。終わった。誰もがそう思っただろう。

ところがだ。ノゲイラはここからサップの腕を取って下からアームロックを敢行。一旦は腕力で戻されても諦めず、スイープしてサイドポジションを奪取！　思わず身体を横向きにしてノゲイラに背中を向けるサップ。ノゲイラの目の前にはサップの腕がある。腕十字の絶好のポジションだ！

サップの右腕を両手でクラッチし、両足を身体に巻き付かせて一気にのけぞるノゲイラ！　9万人の観客全員が一瞬、息を止め、サップの腕が伸びきってタップした時、大歓声が巻き起こった。

奇跡だ。ノゲイラが勝った。

バーリ・トゥード史上最高の闘い。恐怖と絶望と歓喜がギッチリ詰まった究極の闘い！

「私が世界で一番強いことを、この試合で証明しました。いつ何時、誰の挑戦でも受ける！」と、試合後にマイクアピールした、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラはまさにリアル・アントニオ猪木だ！

実際、8・8の『LEGEND』、8・28の『Dynamite!』と、いつ何時でも勝負し、菊田、サップを下し、UFCチャンプのジョシュの挑戦も受ける。

サップの攻撃の全てを受け、最後に大逆転して観客の溜飲を下げる、リアル風車の理論。猪木幻想をあらゆる形で見せてくれたのだ。

強い！　本当に強かったと痛感したのである。

その一方でボブ・サップのバケ

Dynamite!
8・28国立競技場

# 奇跡の大逆転！
## A・ノゲイラはリアル猪木か!?

## 「私は世界で一番強い！ いつ、何時、誰の挑戦でも受ける！」

▲両者ともに疲れ切る中、ノゲイラは執念の腕十字に全てをかけた

▲マリオ・スペーヒーら、トップ・チームの仲間たちが祝福

▲2R4分2秒、ノゲイラが究極の死闘を制した。勝ったノゲイラ、敗れたサップともに誉め称えたい

▲偉大なチャンピオン、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ。サップがタップした時、9万人の観客から大歓声が上がった

モノぶりも凄かった。4点ポジションをもしもノゲイラが認めていたら、秒殺していたんじゃないかと思える強さだった。

しかも、試合後のサップは疲れはあるとはいえ、顔にはバッティングで負った右眉の裂傷があるのみ。ノゲイラが病院直行（異常なしと診断され、翌日の会見には出席）したのに比べて、試合後の共同会見でコメントも出す。

そして、何より凄いのはその夜、六本木に行って遊んでいたという驚愕の事実だ！　さすがに中国式エステには行かなかったようだが（行ってほしかったが）、あんな試合のあとで飲みに繰り出せる体力は凄すぎる。

プロレス・ファンが夢見るプロレスラーのあるべき姿が凝縮しているだろう。その昔、アルティメット・ジャパンという大会に出場したバンバン・ビガロに託した夢の現実化がサップなのだ。

姿形に、パワーボムに、試合後の乱痴気騒ぎにと、まさにレスラー幻想の塊だろう。

この闘いがこんなに面白かったのは、人々が憧れる超人が確かに存在することを証明したからなのだと思う。

パワー対技術、デカイ男対小さい男。劣勢を強いられた男が最後の最後で大逆転という結末の気持ち良さ。

ないものがない。まさにこの両者の闘いは国立競技場でこそ、相応しいＤｙｎａｍｉｔｅ！な試合であったのである。

ところで、試合後、突如、ノゲイラに挑戦したジョシュ・バーネットだが、実は、ノゲイラとはち

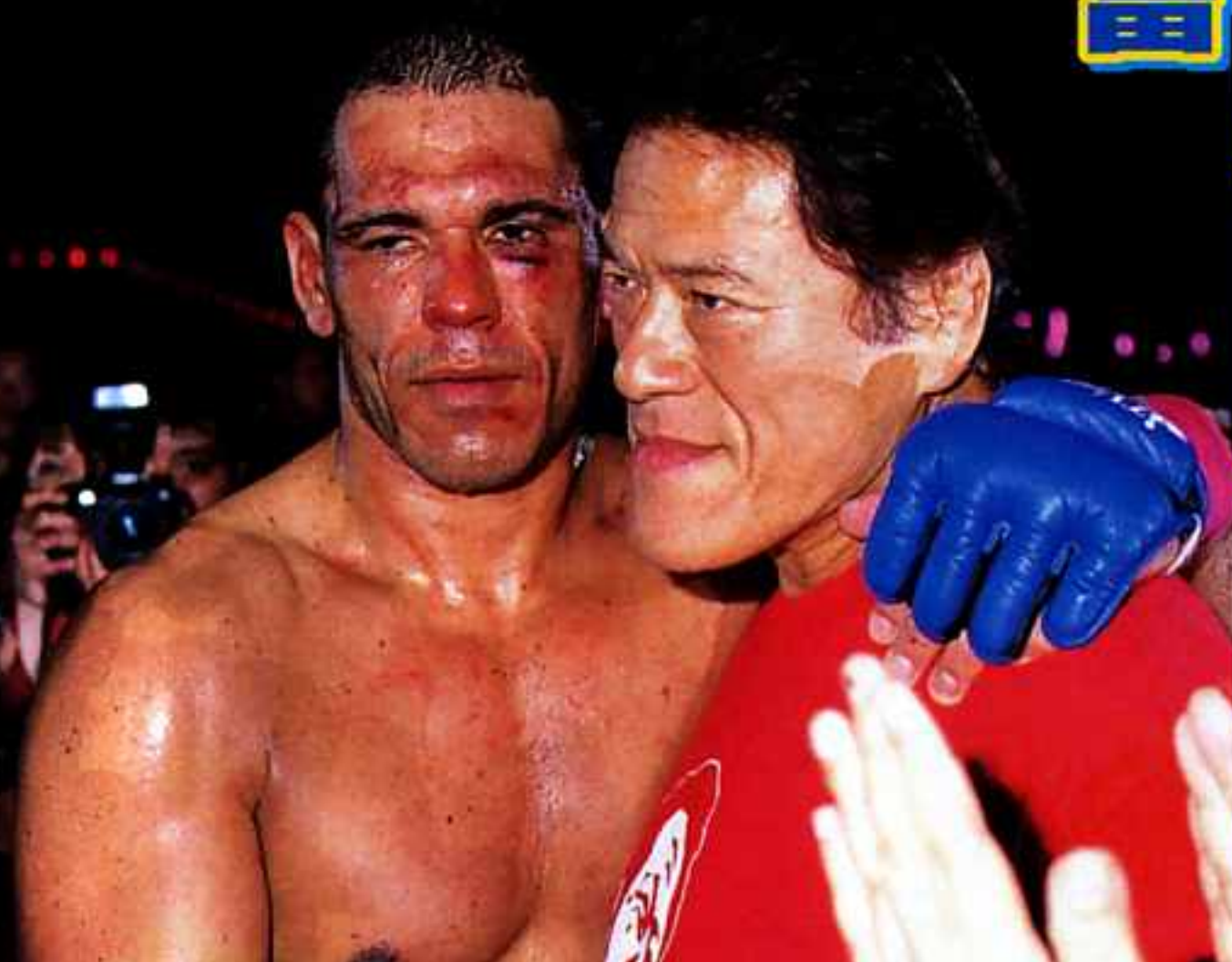
# 次々と現れる強敵！ UFCチャンプ、ジョシュ・バーネットが挑戦！

## サップのコメント

「ノゲイラはエクセレント・ファイターだった。ただ、勝つチャンスは何度もあったが、試合が長引きすぎたな。だが、スタミナ切れってことじゃない。ヤツのが経験が上だったってことさ。もう一度、ビデオを見て研究してみるさ。パワーボムは最初から考えていた技だ」

▶試合後、サップのセコンドについていたUFCチャンプ、ジョシュ・バーネットがマイクを持ち、ノゲイラに挑戦する

## 『お前はもう死んでいる！』

## 朋友ゴールドバーグも大興奮

▲最後は猪木さんに勝利の報告

▲負けたサップも凄かった。ゴールドバーグからもその闘いを称えられた

▲UFCチャンプになってから常にノゲイラに対して挑発的な言葉を繰り返していたジョシュ。この日、彼は日本語で「お前はもう死んでいる」とケンシロウばりに言い放つ

★第6試合/PRIDEルール（1R10分、2・3R5分）
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（2R4分02秒、腕ひしぎ十字固め）ボブ・サップ●
〈ブラジル/ブラジリアン・トップチーム〉　〈アメリカ/モーリス・スミス・キックボクシング・センター〉

ょっとした因縁を持っている。今年、ランディー・クートゥアーを破ってUFCヘビー級チャンピオンに輝いた彼は、その直後にUFCとの決別を匂わせ、そのついでに『プライド』ヘビー級チャンプのノゲイラを口汚くののしっていたのだ。

　その発言について、直接彼に聞いたところ、やはりノゲイラは「昔、一緒に練習していた頃と別人だ。あんな人間だと思わなかった。もう友達じゃない。私のことを弱くて技術がないというようなことを吹聴しているらしいけど、だったらいつでもやってやる！　まったく彼の魂胆は見え透いている。『プライド』に上がって有名になりたいんだ。売名行為もいい加減にしてほしい」と、やはり激怒していたのであった。

　そして、あのリング上なのである。凄ェ、図々しいなジョシュって。ノゲイラが怒っていることも承知していながら、あの場に出てくる神経は並じゃない。ノゲイラだって断るわけにはいかないはず。で、対戦を口約束とはいえ了承させたとたん、「お前はもう死んでいる」と日本語で侮辱！　汚いやり口にもほどがある。

　とはいえ、『プライド』チャンプVS UFCチャンプという統一王座決定戦は見てみたいもの。

　ジョシュのタチの悪さも分かった以上、この因縁の頂上対決は盛り上がるだろう。

　サップという難敵を倒したノゲイラにとっても、統一王座という栄冠はぜひ手にしてほしい。今後のヘビー級戦線からは目が離せないというわけだ。（ブチ）

# 負けても男になる。

# ドン・フライ最高！

## K—1ルール初挑戦のフライ
## バンナとのド突き合いの末
## 壮絶KO負け!!

初のK—1ルールの試合で真っ向勝負を仕掛けたフライ。1分30秒でKO負けを喫したが、負けてもなお雄々しい……

# the Toughest Guys in the World!

# 男の中の男たち

▲ゴングと同時にガンガン前へ出てパンチを入れるフライ。まさに「攻撃あるのみ」だ！

▶ひときわ大きな声援で迎えられたＰＲＩＤＥ男塾塾長・フライ。対するは、Ｋ—１男塾塾長・バンナだ

▼スタンディングダウンを取るレフェリーの制止もきかず、闘争心をむき出しにするフライ

フライの気持ちに応えるように、パンチ、蹴りを打ち込むバンナ。左ハイからパンチラッシュへと続けて１つ目のダウンを奪う

選手にとって試合は勝つためにやるもの。負けると分かってやるバカはいない。まして試合の結果が、厳しい評価となってしまう状況においてはなおさらだ。

だが、その試合を見る我々、観客は自由で勝手な見方をすることが許されている。それがないと観客なんてやってられない。

ということは選手の気持ちと観客の思いは、当然のことながらそこにギャップが出てくる。ズレが出てきてもそれはいいのだ。

ドン・フライとジェロム・レ・バンナの試合。バンナの圧勝に終わった。フライのKO負けだ。

事実はそれしかない。きわめてシビアである。その時、私を含めて男という生きものは、バンナのパンチを食ってマットに倒れていくフライに目がいったはずだ。

勝った選手よりも負けた選手のほうに自然と視線がいってしまうのは、男たるものの宿命である。

それは何を意味しているかというと「あれはオレ自身だ！」と思ってしまうからだ。同じ敗北でも野球やサッカーは、命には別状のない競技である。だが、ボクシングやK—1や『プライド』など、人間存在の危機をイメージさせるKO負けでは、男は身につまされる思いにかられる。

実際、私はフライがマットに崩れ落ちるシーンを見た時、私自身をフライにだぶらせながら見ていたことを認めざるをえない。

今までフライは何回も日本で試合をしてきたが、多くの場合、彼は勝利者の側にいた。最近では高山善廣戦が印象的である。

しかし勝ち続けてきたフライに、

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER in 国立 8・28 国立競技場

# ミスターイシイのためなら、日帰りでもファイトするぜ！ K―1男塾塾長・バンナ

◀日本での滞在時間24時間弱――「ミスターイシイのためなら」と、ハードスケジュールもこなすバンナ。こちらも男だ！

# 俺は消防士だから、現場に急行するのは当然だ！ PRIDE男塾塾長・フライ

▶主催者側から「相手がハントから急きょバンナに変更になる」と告げられると、「困った人がいたら助けるのが消防士だろ？」と言ってのけたフライ。男だ！

「あれは私だ！」と思ったことは一度もない。逆にフライを憎たらしいヤツと思ってきた。

シリル・アビディを破った時のフライはまさにそれ。私は「なんだ、あいつ」と思ったものだ。

これは判官びいきの感情とは少し違う。フライのずるさとしたたかさに私は拒否反応していたのだ。それだけ彼はプロ中のプロ。

必殺仕事人のスペシャリストのようなもの。だから狙った獲物は絶対に仕留めてみせる。

私はフライをそういう男だと思っていた。それが今日、彼にとって明らかに不利と思われるK―1ルールの試合に出てきた。

いくらフライが〝闘うプロ〟だといっても、立ち技の打撃攻撃が主体となっているルールのもとでは勝てる保証はない。むしろその確率は限りなく少ない。

そこがまず不思議だった。疑問だった。いくらなんでもK―1ルールの試合では、フライといえども簡単には通用しない。では、なぜ、それをOKし選んでしまったのか？ それはたぶんフライの中にバランス感覚があったからだ。

どういうバランス感覚かというと、K―1ファイターのアビディと試合をした時は、K―1ルールではなく、総合のルールでやった。それなら今度は自分がK―1ルールで試合をやる必要がある。

それで初めて五分と五分の条件になるからだ。これでやっとフライは対等にして平等なポジションを自分で作ったことになる。

これこそまさに男の中の男。フライには人間としての美意識が存在している。ということはバンナ

# フライの敗北はオレ自身ですよおぉぉ!!

バンナのパンチがアゴを打ち抜く！

## バンナのコメント

「フライはまったく逃げようとしなかった。素晴らしいファイターだ。今日はK—1ルールだから、精神的にも肉体的にもベストを尽くせたよ。今後はK—1に集中して、今年こそは絶対にK—1王者になりたいね。でも、昨年末の『猪木祭り』でヤスダに負けたのは悔しい。あの時は総合の練習も全然してなかったんだ。『プライド』でリベンジしたい」

## フライのコメント

「強烈なパンチをもらったので試合のことをよく覚えていない。今回はボクシングとキックの練習をかなり集中的にやってきたのだが、いい結果が出せなくて残念だよ。バンナはスタンドでの距離の取り方がうまいな。タカヤマ戦後に引退宣言したが、今回は負けてしまったのでこのまま引退はできないね。やっぱり俺はファイターなのさ」

★第5試合/K-1ルール（3分3R）

○ジェロム・レ・バンナ（1R1分30秒、KO勝ち）ドン・フライ●

〈フランス/ボーアボエル&トサジム〉 〈アメリカ/フリー〉

※右フック。フライにパンチ連打によるスタンディングダウン1あり

▲見事、男の闘いを制したのはバンナだ。「次の目標はK—1王者だ！」とキッパリ言い切った

▶徐々にコーナーに詰め、フライのガードが下がったところでバンナの左ストレートがクリーンヒット！

◀その場に崩れ落ちたフライ。バンナの強烈なパンチを喰らってしばらく起きあがれず、記憶もブッ飛んだ

と闘ったフライは、最初から負けることを意識していたことになる。偉いと言うしかない。彼は敗北がどういう意味を持っているのか、よく分かっている。高山との試合でフライは、負けたいという願望にかられていったと私はそう解釈している。

あの試合でフライは高山に圧勝したが、心の中では「あの男にやられた……」と思っていたのでは。高山の〝プロレス魂〟がフライの心を動かした。フライが感性のいい人間だったら、そのことに気付かないはずがない。

フライの中でそういう心の変化がもし起きていたとしたら、これは凄いことなのだ。高山がプロレスラーならフライも、間違いなく正真正銘のプロレスラー。

プロレスとは敗北という〝負の座標軸〟が、アイデンティティ（自己同一性）の一部になっているところに大きな特徴がある。

それはすなわち男のアイデンティティでもあるのだ。高山戦が終わった直後、フライは現役引退を表明した。「この手の試合は卒業だ。もう、いい」と自分に言い聞かせたのだろう。これは賢明な判断だった。さすが自らの引き際を知っている男だ。

しかし、彼はそこでふと思った。何かが変だ。おかしい。こうしてフライは自分が負けると分かっている試合に出ていった。

これは全て私の身勝手で都合のいい解釈、裏目読みだ。バンナに負けたフライは「このまま負けたままで終わるわけにはいかない」と、新たなモチベーションを獲得したのだ……。

（ターザン山本）

## VTデビュー戦でシウバに挑むトンパチぶり!

シウバのマウントパンチを浴びる岩崎。
だがここは耐え抜いた

▲岩崎はもちろん、空手衣で入場。
セコンドには阿部裕幸が付いていた

# 岩崎達也に『空手バカ一代』の遺伝子を見た!

## 対戦決定は大会の3日前

# プロレスラーたちがオファーを蹴る中、元・極真の空手家が一歩踏み出した！

▶リングに上がった岩崎は、気合いと落ち着きが同居した非常にいい表情

▲ゴング直前の睨み合い。相手が誰だろうと、シウバのガンつけっぷりはいつも怖すぎ！

## ファーストコンタクトまでの期待感は最高！

▲日本の空手家と生っ粋のバーリ・トゥーダーの対決。間合いを測る両者のたたずまいには、実に緊張感があった

「相手が分からないままヴァンダレイを飛行機に乗せなきゃ……」

大会の10日ほど前、そう嘆いていたのはシウバのブッキングを務める〝ブッカーK〟こと川崎浩市さんだった。今大会、最もカード決定が難航したのがシウバの試合だったのだ。一度はジェレル・ヴェネチアンとの対戦が発表されたのだが、石井館長は国立の大舞台に見合う試合を組もうと、なんと大会5日前の時点で再度、シウバの相手を〝募集〟した。

普通、というかファンが持っている幻想からすると、そこで出てきてほしいのはプロレスラーだろう。館長も当初から多くの日本人プロレスラーにオファーをかけたのだが、ことごとく断られてしまったのだという。

結局、名乗りを挙げてきたのは大山峻護と金泰泳の2人だった。しかし、大山は1カ月後の『プライド22』でハイアン・グレイシーとの対戦が決まっており、金も既に引退した身。この段階でシウバと闘わせるのは難しい。

そして大会3日前。ついに正式決定したシウバの対戦相手は、プロレスと並ぶ巨大な格闘幻想・極真で育った岩崎達也だった。だけど、総合格闘技デビュー戦でいきなり『プライド』ミドル級チャンプと対戦というのはムチャにもほどがあるんじゃないのか？

岩崎は〝第2回世界大会以前〟の極真を愛してやまないという。つまり『空手バカ一代』、初期・極真の世界。初期の極真といえば、それこそムチャし放題であった。ローキックを知らないままムエタイの強豪をKOした藤平昭雄（大

# シウバの凶拳が岩崎を襲う！

▶岩崎がミドルを一発打ったところで、シウバが怒濤の反撃開始！ パンチのラッシュで追い詰める

◀マウントパンチ、バックからチョーク狙いと攻め立てたシウバだったが、岩崎はなんとかしのいだ。しかしその直後、立ち上がろうと中腰になった岩崎の顔面にシウバの蹴りが直撃！ さらにグラウンドでパンチを連打したところでレフェリーストップに

▲パンチの次はアゴへヒザをガツッ！ 岩崎の倒れ方は、ほとんどKOと言ってもいいくらいだった

## シウバのコメント

「対戦相手が何回か変わったけど、自分は勝つために来てるんだから全然心配してなかった。相手のことはあまり知らなかったし、試合もすぐ終わってしまったけど、自分とリングの上で闘う相手は全て素晴らしい選手だと思っている。キョクシンのことは雑誌やTVでしか見たことはないけど、素晴らしい格闘技だと思う」

## 岩崎のコメント

「空手でも勝ったり負けたりはしたんですけども、生まれて初めて本当に負けた気持ちです。逆に爽やかな心境です。準備をするよりも、出れるチャンスがあったら出なければいけないという気持ちがあったので。常に稽古はしていましたし。コンディション的には無謀なんですけど、やれてよかった。シウバ選手にも感謝してます」

## 『生まれて初めて、本当に"負けた！"って気がする』（岩崎）

▶コメントブースに現れた岩崎の顔はアザだらけ。ヒザを食らったアゴは切れてしまったようだ

▲試合終了直後、悔しそうにシウバを見つめる岩崎

★第1試合/PRIDE特別ルール（5分3R）
**○ヴァンダレイ・シウバ（1R1分16秒、レフェリーストップ）岩崎達也●**
〈ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー〉 〈日本/フリー〉
※グラウンドでのパンチ連打

沢昇」、焼けた線香を腕に押し付けた黒崎健時、道場からの帰り道、目が合ったヤツ全員にケンカをふっかけた"ケンカ十段"芦原英幸……。大山館長に「やれるかね、キミ」と言われれば「押忍！」の一言で猛スピードで迫ってくる車を飛び越えたり、熊と闘ったりもするトンパチどもの梁山泊が極真だったわけだ。

今は極真から独立してはいるが、岩崎には『空手バカ一代』イズムが遺伝子レベルで刷り込まれている。極真の世界大会では、ジャン・リビエールの後ろ回し蹴りに、何を思ったか同じ技で対抗。世にも珍しい後ろ回し合戦をわざわざ挑んで轟沈したこともあった。"ものを考えて行動する"ということが（いい意味で）できない男なのだ、岩崎は。

そんなトンパチの岩崎と、VT最強の打撃屋シウバが向かい合った時の緊張感は相当なものだった。だが、それもファーストコンタクトまで。ミドルキックで先制した岩崎だったが、その直後からパンチのラッシュ、ヒザ、マウントパンチ、そして立ち上がり際にハイキックと、シウバの猛攻になすすべなし。たった76秒で敗れ去ってしまう。

「生まれて初めて、本当に"負けた"という気持ちです」（岩崎）

『空手バカ一代』の遺伝子で『四角いジャングル』に乗り込み、結果は『カラテ地獄変』だったというわけで、むしろ新たなスタートとしては気持ちいいくらいの完敗だろう。トンパチ野郎には"無難な"とか"まずまずの"なんて言葉は似合わないのである。（橋本）

# 上空3000メートルの破廉恥!

# 降りて来たアァァァ!!!

# 華麗なる馬鹿野郎!!

# 闘魂と1000億円の男・アントニオ猪木のダイブ!

真夏の夜空に浮き上がる猪木。国立の夜空を右に左に舞い、両手を突き上げながら国立競技場に着地した。一千億円役者、猪木に向かって観客は声の限りに猪木コールを送る

猪木さんの第一声はまるで、前半のダレた試合に向けて言い放たれたかのごとく、国立の夜空に心地よく響き渡った。

「馬鹿野郎ォ〜!」

地上3000メートルのかなたから〝ヘリ下ってきた〟マット界の神の一言によって、『Dynamite!』は闘魂を注入され、狂喜乱舞の格闘空間を立ち上らせたのである。

猪木闘魂ダイブ!

この大企画が発表された時、新日本プロレスの蝶野正洋は、〝猪木さんには1000億円の価値がある。死んだらどうする? 中止しろ!〟と新日の役員会議にかけるほどの猛反発を巻き起こした。

ところが、当の猪木さんは「3000メートルから受け身を取ってきます。ムフフ」と笑うのみ。

そして、当日、休憩後のざわつく会場にヘリコプターのバタバタという回転音が響き渡った。その時、照明が消え、鳴り響くのは猪木ボンバイエ! サーチライトが指し示す上空を見上げれば、夜空の中を舞い降りてくる影が8つ。

ウォォオ! あの中に猪木がいる!!

さらにオーロラビジョンには、猪木さんの顔が大写しだ!

凄ェ、笑ってるぞ。しかも、引きつった笑顔だ!

もう会場は、大猪木コール。その真っ直中に、最初のパラセールが会場に入ってきた。

ヤバい! 客席に落下するんじゃねぇか!

パラセールは客席スレスレを飛び去り、場内に設けられたスペースに見事に着地した。その後、

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER
8・28 国立競技場

# 「今宵のリングは蟻地獄！アリガトォー！」

「馬鹿野郎ォ！　俺は怒ってるぞォ！　元気があれば何でもできる。元気があれば根気が続く、根気が続けば自信が湧いて、勇気が湧いてくる。今日は飛び出す勇気で『プライド』のリングにヘリ下ってきました、ムフフフ。え〜、東京の夜空はキレイだったです（笑）。そして、上から国立競技場が浮き上がってですね、最高の体験をさせてもらいました。ありがとうございます。今宵のリングは蟻地獄！　食うか、食われるか、強いヤツが這い出せる。そんな闘いが今日は繰り広げられると思いますが、ひとつ、最後までお楽しみください。アリガトォー！　やるかぁ。猪木が笑えば世界が笑う！　1、2、3、ダァー！」

▲最後はやっぱり、「1、2、3、ダァー！」。満面の笑顔が9万人の観客を魅了した

# 猪木のダイブが『Dynamite!』に火をつけた!!

リングに上がっての第一声は「馬鹿野郎ォ！　俺は怒ってるぞォ！」

次々にパラセール部隊が国立競技場に降り立ち、上空に浮かぶ影はたった一つ。さらに高まる猪木コール。上空の猪木さんはそれに応えるように右手を突き上げる。

イ～ノキ！

イ～ノキ！

そして、見事に着地点にバンプ！　ホントに3000メートルの受け身を成功させたぞ。凄ぇ！

そのまま、リングへと向かった猪木さんは「馬鹿野郎ォ！　俺は怒ってるぞォ！」と怒りを爆発させ、「元気があれば何でもできる」と一転、自分を誉め称え、「今日は飛び出す勇気で『プライド』のリングに〝ヘリ下って〟きました」とダジャレが飛び出す。

最高だ！

「今宵のリングは蟻地獄。食うか、食われるか、強いヤツが這い出せる。そんな闘いが今日は繰り広げられる」と、その後に続く、ド熱い試合を予言したのである。

アントニオ猪木の命がけのダイブは、『Dynamite!』に火をつけたのだ。

猪木さんがマイクで叫んだ、元気、根気、自信、勇気。この4つの言葉は国立競技場に集まった人々に向けられた言葉だ。面白いものに惹きつけられ、面白いものを体感しようと集まった人々のために投げ掛けられた。

先行き不安の世の中に内心焦りながらも着地点が見つけられず、浮遊する人々にここが着地点だと言い切った。

飛び出せ！　そして目指す地点に着地しろ！　この興行を一気に盛り上げた、まさに闘魂そのもののダイブであったのである。（プチ）

# 恒例！　猪木成田会見！

# ゴールドバーグ問題？ そういうことをやった奴は必ず落ちていく！

真夏のプロ格興行戦争、最大のクライマックスを目前に控えた8月23日、アントニオ猪木が帰国。28日の『Dynamite！』から新日本プロレス、全日本プロレスと続く４連戦を猪木はどう見たのか？　また、かつてWCW時代に新日本が招聘しようとしていたゴールドバーグが、対立関係にある全日本プロレスに、それもＫ－１の石井館長経由で参戦したことについて、どのように考えているのか？　恒例の猪木会見をお届けする。

――今回の帰国はどんなご予定で？

**猪木**　明日から講演なんで、1週間。北海道とか仙台とか、大阪。去年から決まっていることなんですけど。

――今年の夏は例年になく興行が重なっていまして、28～31日まで、Ｋ―1と『プライド』の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』、新日本、そして全日本が2日間あるんですけど？

**猪木**　まあ、結果を見てみないと分からないんで、みんな成功してもらいたいと思うんだけど……。う～ん、ちょっとやっぱり客の立場になると、もうちょっと時間を空けたらいいんじゃないかと。

――29日の新日本の武道館には行かれるんですか？

**猪木**　まだ決めていないです。28、29と予定が入っていたんですけど、急きょそういうことがあって、去年から決まっちゃっていることなんで、結構苦労したようですけど、とりあえず納得してもらって、日にちをずらしてもらったりしています。まあ、ちょっと予定が全部狂っちゃったんだけど、今日行って、様子を見て……。いろいろと注文が出てくると思います。

――Ｋ―1の石井館長が全日本プロレスと、ゴールドバーグ選手の派遣のような形で、提携したようなんですけど、それについてはいかがですか？

**猪木**　表と裏が違うんでね。裏の話はあんまりできないんで。皆さんは表の話でいいと思いますけど。いや、だから、ハッキリ言えばね、面白くない部分と、もう一つは「いいんじゃないの」と。オレは何が起きたってビクともしませんから。それはそれでいいじゃないかと。まあ、新日本ってのはオレが作ったあれですから、頑張ってもらわなきゃ困るんですけど、その要するに、一つのそういうきっかけをバネにする気力があるのか、怨念に変えるのか、どっちかです。いろんなことがアメリカでも起きていて、正直言って、やっぱり手を付けちゃいけないものってあるんですね、絶対にね。だけど、そういうのに平気で手を付けてくる状況っていうのかな、今。だからまあ、そりゃ、みんなそれぞれで飯を食ってるでしょうけど。オレらはそんなことをしなくても飯食っていけるから、悠長なこと言ってるかもしんねえけど。現場で、アメリカで生きている何人かのブッカーをやっている連中なんかも、もうそんなことをお構いなしに、とにかくはったりをかましてやろうという奴等もいるからね。事件じゃないけど、そういうこともあったからね。そんなことに構っている暇もねえんだけど、ただ、やっぱり、ルールとして、そういうことをやった奴は必ず落ちていくからね。オレの人生の経験から言えば。だから、落ちていったら可哀想だなと思うだけで。まあ、今飯が食えなきゃ、そこにあるものに手を付けなきゃしょうがねえだろうから。これは厳重に、『プライド』側にも文句を言わなければいけない問題だと思う。まあ、サンタモニカの道場がやっと始動を始めたとこですから、いい選手がそっから、この間も予想外にノゲイラ（弟）を倒したロシアの選手（ウラジミール・マティシェンコ）とかも提携して出てきていますんでね。だから、言えば貸してあげるんだけど。『プライド』じゃなくてね、その代理人をやっている奴等が……とにかく……、だから、テメエらが作りゃいいじゃねえかと。オレは人の選手を取ってくることは絶対にしませんから。自分で選手を作っていくというあれですからね。まあ、これは、今日、今回はちょっと『プライド』側とハッキリ話をしなければ……。『プライド』がやらしてるわけじゃないけどね。結局、そういう材料を売り込んで飯を食っている連中がいっぱいいますから。いいでしょうか！■

▶猪木の帰国から遅れること2日、話題騒然のゴールドバーグが遂に初来日。かつて、新日本プロレスが提携していたWCWのエースだけに、ライバル団体全日本プロレスの興行の目玉として来日したのは、新日本にとっても、猪木にとっても心中穏やかでないできごとだっただろう

## 8.23

# アンディ三回忌法要で石井館長が爆弾発言！「今の日本人は情けなさすぎる！シウバの相手を再度募集します」

▲法要にはスイスからアンディ未亡人のイロナさんも駆け付けた。イロナさんは近々、アンディとの思い出を綴った自伝を出版する

◀三回忌法要はアンディの墓がある大徳寺芳春院で営まれた

▲今から2年前の2000年8月24日、急性骨髄性白血病でこの世を去ったアンディ。「アンディのサムライ魂を継ぐ日本人はいないのか？」と石井館長

8月24日は、アンディ・フグの命日。今から2年前の2000年同日、アンディは突如、急性骨髄性白血病でこの世を去った。その三回忌が23日、24日の2日間にわたって、京都にある大徳寺芳春院で行われたが、ちょうど『Dynamite!』というビッグイベントが開催される前だったということもあり、石井館長にとっても特別な思いだったことだろう。法要は23日が関係者とマスコミ、24日が一般法要として営まれたが、アンディの墓前に手を合わせた石井館長はしみじみと記者の前でこう語った。

「正直、国立という大舞台に見合うマッチメイクをするのは、やっぱり並大抵の苦労ではなかった。僕としては、グッドリッジVSヴァン・ダムまでは満足しているけど、シウバVSヴェネチアンは不満が残る。ヴェネチアンは強いファイターだし、シウバを倒す可能性はあると思うんですけど、やっぱり名前がないじゃないですか？　僕は国立でシウバとやれるということで、日本人選手に出てもらいたいと、それこそ30人くらいのファイターに当たったんですよ。でも、マスコミで〝シウバとやりたい〟と言ってた選手まで出て来なかった。準備不足とか、ファイトマネーうんぬんとかいろいろ理由を言ってたけど、アンディをぜひ見習ってほしいですね。アンディは勝ち負け抜きで常に挑戦していったからヒーローになれたんだと思う。もし、今からでも名乗りを挙げる日本人がいたら、僕はシウバのカードを変更してもいいと思っているんですよ」。この石井館長の発言に対し、翌朝のスポーツ紙では「シウバの対戦相手・再募集！」の見出しが躍った。まさにアンディ・スピリットが石井館長を動かした一日だった。■

## 8.25

# 2日後、3人の日本人が名乗りを上げた 金泰泳、大山峻護が直訴！そして、決定したのは意外にも元極真・岩崎達也だった！

石井館長がアンディの三回忌で「シウバの対戦相手を再募集！」した翌日、石井館長のもとに3人の日本人ファイターから「シウバとやらせてほしい」という連絡が入った。「石井館長に〝日本人は情けない〟と言われて熱くなった。玉砕覚悟で行かせてください」と言ってきたのは、かつてシウバにTKO負けした大山峻護。正道会館の愛弟子・金泰泳は「館長から〝誰も行かないのなら、正道空手が行こうか〟と言われました。館長が困っていたり、行けと言われたら、自分は〝押忍〟と言って出ます」と腹を決めて出陣の準備。金はかつてムエタイのWMTC世界王者だが、スタン・ザ・マンとの引退試合からすでに2年が過ぎている。それでも、館長命令で出場を決めた金泰泳は、さすが〝常勝軍団・正道会館〟時代のエースと言えよう。しかし、最終的には、意外な第三の男が現われた。それが極真会館を辞めてフリーの格闘家となり、パンクラスやグラバカで総合格闘技のトレーニングを積んでいるという噂の岩崎達也だった。空手家、元極真の他流試合は『Dynamite!』に欠けていたもの。石井館長は快諾し、岩崎の出場が急きょ決定した。これにより、前日会見から「ヴァンダレイ・シウバVS岩崎達也」「松井大二郎VSジェレル・ヴェネチアン」の2カードに変更された。■

▲ホテル・オークラで急きょ「シウバVSヴェネチアン」から「シウバVS岩崎」に変更すると発表した

◀岩崎達也はかつて極真・全日本ウェイト制王者にも輝いている実力者だ！

8.26

# デイ・アフター・トゥモロー（明後日）はもう『Dynamite!』
## 8・26記者会見に出場15選手揃い踏み！

8月26日、都内のホテルで『Dynamite!』の最終記者会見が行われ、急きょ参戦が決まったジェロム・レ・バンナを除く出場15選手が勢揃いした。石井館長が「いよいよデイ・アフター・トゥモロー（明後日）に迫りました。当日の降水確率は10パーセント」と語るなど、大会へ向けてモチベーションが上がってきたのを感じさせたが、一方で吉田VSホイス戦のルールが決まっていないなど、当日までドタバタしそうな予感を漂わせる会見であった。■

▲急きょ出場が決定したバンナを除く15人の出場選手が勢揃い。この席上で、石井館長は猪木の上空3000メートルからの"闘魂ダイブ"を発表した

撮影◎山口比佐夫

### PRIDEvsK－1 外人対決！

▲『プライド』ヘビー級王者ノゲイラを迎え撃つサップは「数分で終わる」と自信満々のコメント。一方のノゲイラも「力よりテクニックのほうが凄いということを見せたい」と、こちらも負けていなかった

▲スリータイムスチャンピオンのホーストとオランダの大巨人シュルトのツーショットはとても新鮮。やっぱり身長差はかなりある

▲K－1ルールでベルナルドをKOしたばかりのグッドリッジは、「ガンバッテ、ニホンゴデ、スピーチシマス」と最初は調子よく日本語をしゃべっていたが、最後はやっぱり英語に戻ってしまった

### 緊急決定の3カード！

▲シウバの相手は石井館長の呼びかけに応えた岩崎に変更。カード変更となったシウバはいつもと変わらぬ様子であったが……

▲この日になって発表された松井VSヴェネチアン。「僕の試合に注目してください」と松井は意気込みを語った

▶フライの対戦相手だったハントの負傷欠場が発表。さらに、ハントの代わりとして、石井館長が「ハント以上の相手」というバンナをフライの相手として参戦させることも発表した

### 世紀の２大決戦に挑んだ４選手！

▲「この試合は一期一会」とコメントしたホイス。一方の吉田は、いつでも戦闘態勢に入れるようなキリッとした表情だった

▲世紀の大イベントのメインを務めた桜庭とミルコ。桜庭は「今、はまっているゲームがあるので、やりすぎて、当日寝坊しないようにしたい」と相変わらずの脱力感溢れるコメントをした

▼日本が誇る格闘技界の2大スターと激突するミルコとホイス。この２人の対戦も見てみたい！

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・ガイド
No.77 10・10増刊号

# CONTENTS



※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

プロレスラーよ！
なぜ出てこない！？
座談会

# 出でよトンパチ！
# プロレスを救え!!

前田日明さん、
みんな待っています

出席者◎ターザン山本（立石商店街のスター＝収穫ゼロ）
サダハルンバ谷川（本誌"半失神"編集長）
小松魔裟夫（本誌"トンパチ？"編集部員）
司　会◎柳沢忠之（本誌"日明マニア"発行人）

山本　おい、谷川ぁ！　ちゃんと見てくれたかぁ!?
谷川　へ？　何をですか？
小松　山本さんが歌って踊った『THE夜もヒッパレ！』ですよ。
谷川　ああ、ああ、見ました、見ました。我が師匠の晴れ姿に涙が出てしまいました。
小松　あ、それは情けなくてですか？
谷川　おまえ、失礼なこと言うな！
山本　もう、あの番組に出てから、全国のあっちこっちから「見ました！」って電話がかかってきて大変だよぉ。
谷川　あ、反響が……。
――8・8のUFO『LEGEND』の小川直也VSガファリ戦との視聴率戦争はどうだったんだろう？　気になるなぁ。
谷川　かなりいい視聴率でしょう。小川戦には勝っていると思うけどなぁ。
山本　あれに出て俺の地元の立石商店街でも有名になってさぁ、誰かタダ飯食わしてくれないかと待ってるんだけどさぁ。
――ダハハッ！　ズバリ言ってそれは目的も目標も半径が狭すぎます（笑）。
山本　果物屋とか魚屋とかが「テレビ見ました。よかったら、これ持っていってください」って言ってくれるのを、俺は毎日待ってるんだよぉ。
谷川　ということは、立石商店街では何も反響がないんですか。
山本　いや、反響はあるわけよ。放送前に俺がまず「出る！」って宣伝したから。
――パブリシティは万全なんだ（笑）。
山本　クリーニング屋のお姉ちゃんとか、焼鳥屋のお兄ちゃんとか、100円ショップの店員とかに宣伝しといたわけよぉ。
――ぷぷぷっ、100円ショップまで。
山本　でも、さすがにコンビニの店員にまでは言わなかった。
――なぜ、コンビニだけ（笑）。
谷川　どんな反響なのか楽しみですね。
小松　ある意味ではムチャクチャ目立ってましたもんね。
山本　じつは俺は見てないんだよねぇ。
小松　相変わらず無責任ですねぇ。
山本　あんなもん恥ずかしくて見れませんよぉ。で、俺はNHK衛星の「カーペンターズ・フォーエバー」という番組を見てたんだよねぇ。
――「ターザン山本フォーエバー」じゃなくて、カーペンターズを（笑）。
山本　「なんでカレンはあんなに早く死んじゃったんだろう？」と思って、その番組を見て深く考えてたんだよぉ。
小松　ちゃんと見て、自分の動きを深く考えたほうがいいですよ。でも、あれはバツグンでしたね、一人だけ動きが違って面白かったですよ。
山本　やっぱり猪木さんを見てプロレスを学んでいると、現場に強くなるんだよねぇ。
――ぷぷぷぷっ！
山本　どんな相手、どんな場であろうと、「どうやったらいいところを取れるか」と考えるんだよぉ。プロレス心が爆発して「どーやったらおいしいところを取れるか？」と考えるもんなぁ。
小松　で、けっこう司会者から話も振られてましたもんね。
山本　あ、あの時はもう俺は全然スイッチ入っていなかったわけ。歌が終わったら「出番はもう終わりだ、関係ねえや」と思って横を向いてたんだよねぇ。「早く終わんねえかなぁ、早く帰りてえなぁ」とか。
谷川　ホントにそんな感じでした（笑）。
山本　谷川なんかは地上波にい～っぱい出てるから慣れたもんだよなぁ。コスプレとかもできるし。
谷川　そんなこともありましたね……。
山本　なんか疲れてるなぁ、今日の谷川は。
谷川　いやあ、もうホントにこの1週間ほとんど寝てないんですよぉ、忙しくて。K―1のラスベガス大会から帰ってきたと思ったら、もう『Dynamite!』が始まりますし、この号の発売は1週間早まるし、もう自分が何をやってるのか分からないほど忙しいんですよ。
山本　そんな人生はくだらなすぎるよぉ。
小松　まあ、自然体がいつも何をやってるか分からないって感じですけどね。
山本　人間はフリーで自由な立場じゃなければダメだよぉ。興行があったって俺は現場に行って楽しむだけだからねぇ。俺なんか、この土・日は競馬ばっかりやってたもんなぁ。で、競馬やってたら携帯電話に田舎から電話がかかってくるわけよぉ。それで「ヤバイ！」と思って切ったんだよねぇ。
谷川　な、何がヤバイんですか。
山本　よ～するにさぁ、「お母さんの四十九日法要だから実家に帰って来い」と言われてるんだよねぇ。俺は長男だから、それに行かなきゃいけないわけですよぉ。でも、面倒くさいからスイッチを切っちゃったよぉ。
――ダハハッ！　なんたる極悪非道。
山本　俺はお母さんの四十九日を放棄した失格人間ですよぉ。
――人の子にあらざる人生ですねえ。
山本　香典返しもま～ったくしてねえし、まさに「破壊された夏」ですよぉ！
小松　「破壊された」って、自分で破壊してるんじゃないですか。
山本　そういう言い方もできるなぁ。
――んあ～！（笑）。

プロレスラーよ！なぜ出てこない!?座談会

## 「アントニオ猪木」と聞いただけで、俺たちは条件反射してきたんだよぉ

谷川　ということで、いよいよ本題に。山本さん、今日のテーマはなんでしょう？
山本　モグタン、なんだ？　今日のテーマは。
小松　えーっ？　僕に聞かれても……。山本さんが決めてくださいよ。
谷川　そうそう、山本さんが決めてください。
小松　編集長は相当疲れているみたいなんで、今日は山本さん主導で進めてください。
――「今日も」だろう（笑）。
山本　今日のテーマは『Dynamite!』で石井館長が新しい挑戦をしたことの意味ですよぉ。でも、この流れは結局、これまでは猪木さんの遺産でやってきたことだったわけですよぉ。これまで「アントニオ猪木」とか『猪木祭』と聞

いただけで、俺たちは条件反射してきたんだよねぇ。プロレスファンはそれを聞くだけで理屈抜きでパーッと足を運んでたわけですよぉ。ところが、その猪木さんを外してやった新たな挑戦が今回の『Dynamite!』でしょ。ここが一番重要だよな！

**小松**　えーっと……、何が猪木さんをどうしたんですか？

**山本**　よ～するに俺たちはこれまでずっと、なんらかの形でアントニオ猪木というものを越えなきゃいけないと思い続けていたわけですよぉ。『Dynamite!』はその最初のチャレンジというか、第一歩というか、そういうふうに俺は見てるわけですよぉ。その第一歩がどう新しい波を作っていくかという、そのインパクトというか、ある意味では巨大な地雷を踏んだというか、8・28以降はいったいどうなるんだ、と。なあ、谷川ぁ。

**谷川**　Zzzzz………。

**小松**　あ、半失神してます。

**山本**　谷川ぁ！　目を覚ませっ！

**谷川**　……Zっ！　あ……、はい。

**山本**　猪木さんって、本当の意味ではプロデューサーじゃないでしょ。「猪木」という名前やブランドで食ってたというか観客を動員してたんだけど、「もう、それではダメだ」という形で、よ～するに今回『Dynamite!』が国立競技場に挑戦したわけですよぉ。しかし、俺たちはやっぱり記憶というものでビッグマッチを見続けてきた流れの中で「今回で本当に記憶を精算しなきゃいけないのか」という刃を突きつけられたわけですよぉ。「猪木」というブランド、「猪木」という記憶を精算しなきゃいけない時が来てしまったという見方で、俺は国立の大会を見に行くんですよぉ。俺たちの持っているこの記憶は巨大でしょ。「日本プロレス、力道山、馬場・猪木の対決、UWF……と流れてきた巨大な記憶をここでピリオドを打たなきゃいけないのが国立なのか」と。

**谷川**　………えーーと、新日本プロレスの藤田プロデュースの大会は「記憶」でやっている大会ですよね。NWFのベルトを引っぱり出してきたりして。

**山本**　あ、あれは出しちゃいけない記憶なんだよねぇ。あれは記憶というより、ずっと封印されて俺たちの心の隅っこに温めているもので、それを経験した者にとってはいい思い出なんだけど。ところが、それを出したら「記憶」と「フィクション」が風化して逆にイレギュラーを起こすわけですよぉ。

## つまり俺たち自身が頭の中身をチェンジしなきゃいけないんですよぉ

——「俺たちの大事な宝物に何をしやがるんだ！」と（笑）。

**山本**　そう！　つまり、今こそ新日本プロレスそのものが記憶をチェンジしなければいけないところに来てるわけですよぉ。それなのに、キチンッと箱に入れていたものを出してしまった。つまりあれは玉手箱を開けてしまったわけだよぉ。

——開けてはいけない玉手箱（笑）。

**山本**　玉手箱を開けたら、浦島太郎みたいに老人になってしまうんだよなぁ。

**小松**　誰が老人になってしまうんですか。

**山本**　それは猪木さんですよぉ！

**谷川**　でも、あれは猪木さんは関係ないでしょう。

**山本**　関係ないんだけど。新日本プロレスが妙な形で昔のものを引っぱり出してきてしまったことと、『Dynamite!』の出現は非常にシンクロしてるんだよねぇ。

**谷川**　でも、新しいチャレンジっていうのはよく分かりますね。ゴールドバーグと全日本のことや、今回の国立っていうのは。

**山本**　いわゆる、これまでにあった全日本と新日本の対立みたいなものがあったのに、ゴールドバーグが石井館長と全日本の三角トレードみたいな形で全日本に上がるでしょ。それ自体がもう新日本と全日本の対立が終わったというか、ジ・エンドというか。プロレス界の勢力地図というか、対立構造さえもフィニッシュになったのが8・28～31に集約されてるんだよぉ。

**谷川**　なるほどぉ。

**山本**　ゴールドバーグの存在がなかったら、単なる格闘技とプロレスの対立だったでしょ。だから、あのゴールドバーグはメチャクチャ大きなキーパーソンになったんですよぉ。つまり、あれをやったことによって石井館長はこれから「昭和のプロレス」とか「新日本プロレス」とは違った新しい記憶作りをやっていかなきゃいけないんだよねぇ。難しいですよぉ、これ。

**小松**　それは新しいプロレスの形ということですか。

**山本**　つまり、これからは『猪木祭』に代わる祭を作らなきゃいけない。それがどういう祭なのか。単なる『石井館長祭』とかっていうことじゃなくて。

**谷川**　それは『石井BOM―BA―YE』かもしれないですね。

**小松**　編集長、しばらく寝ててください。

——ぷぷぷぷっ！

**山本**　まあ、猪木さんの場合はファイターだったから良かったけど、館長の場合は始めからプロデューサーだから。そういった意味で『猪木祭』に代わる祭をどうやって創造していくかの第一歩が今回の『Dynamite!』ということですよぉ。

**谷川**　ああ……、なるほど。

**山本**　だから、これからは我々マスコミも「新しい幻想作り」というか、方法論も手段もオールすべてぜ～んぶ変えなきゃいけないんだよねぇ。

**谷川**　今回の国立も、マスコミは猪木さん手法に慣れすぎちゃっているから、煽り方が分からないように見えますもんね。

**山本**　これまでの猪木手法は巨大な大河ドラマの中で終わりを遂げたんだよねぇ。でも、ここからは新たに大河ドラマを進めなきゃいけないので、手法を変えなき

ゃいけないんですよぉ。つまり俺たち自身が頭の中身をチェンジしなきゃいけないんですよぉ。リセットして、一からやっていくということが重要なんだよねぇ。

**谷川**　だから、ある意味ではマスコミはUFOのほうが煽りやすかったでしょうね。あのバタバタさも含めて猪木さん手法じゃないですか。

――でも、『Dynamite!』でも「今度こそタイソンが来ます！」って言ってくれたらステキなんだけどな（笑）。

**山本**　まあ、よ〜するに俺たちにも新たな課題が与えられたということですよぉ。

**谷川**　なるほど。じゃあ、猪木さんは今後どうすればいいんですか。

**山本**　猪木さんはこれまで「世界に向けて格闘技を発信する」とか言い続けてきたんだけど、猪木さんがやらなきゃいけないことは別にあるんだよぉ。今はもうプロレスラーがプロレスそのものを実体として表現できなくなってきてるでしょ。いろんな形で格闘技のエッセンスとかを入れたりもしてるけど、とにかくプロレスが「プロレス」というものを表現できなくなってるわけ。それを回復できるかどうか。猪木さんはそこに着手しなきゃいけないんだよねぇ。でも、猪木さんはプロレスと格闘技の2つを混ぜ合わせて考えてるでしょ。それをやってる限りはプロレスそのものを「プロレス」として表現するところまで行き着かないんだよねぇ。

――まさにそれはそのとおりで、猪木さんが自分で切り離さないとダメでしょう。

**山本**　そういうことです！　そのジレンマと闘わなきゃいけないんだけど、切り離せないんだよなぁ。でも、そうしないと格闘技でもないしプロレスでもないという形で中途半端になってしまうわけ。そういう意味では格闘技の側もこれからはプロレスのいいところ、よ〜するにプロレスの持っている戦略みたいなものをうまく取り入れてやるべきなんだよねぇ。それをやれるかどうかが格闘技側のテーマですよぉ。

**小松**　でも、『猪木祭』みたいな形でやっていくというのではダメなんですか？

**山本**　『猪木祭』をやっている限りは新しいことができないんだよぉ。あとは今のプロレスは後ろ向きでしょ。デカイ舞台があるのに、小さいところへ行こう行こうとしてるもんねぇ。それを最も明確に表してるのが『Dynamite!』に日本人レスラーが出てこないことですよぉ。

**小松**　あぁ……、なるほど。

**山本**　これは大問題なんだよぉ！

**谷川**　「『Dynamite!』に出てやろう！」っていう日本人レスラーは、なんでいないんですかねぇ。

**山本**　それはつまり、「非葉隠イズム」に侵されてるからですよぉ。

――国立の大会名を山本さんが提案した「HAGAKURE」にしていたら恥ずかしかったですね（笑）。

**山本**　「葉隠」どころか、日本人レスラーはみ〜んな「雲隠れ」だもんなぁ。

**谷川**　まあ、最後に元極真の岩崎達也がシウバ戦に名乗りを挙げましたけど、格闘技側にそういう選手が数人いただけですからねぇ。

――だからね、俺たちの概念としての「プロレスラー」っていうのが本当に終わっていますよ。

**谷川**　昔の新日本プロレスで猪木さんに噛みついていった前田日明とか、ああいうレスラーが今はまったくいないよなあ。それに昔の猪木さんだったら絶対に、佐

## プロレスラーよ！なぜ出てこない!?座談会

# とにかくプロレスが「プロレス」というものを表現できなくなってるわけ

山聡にシウバ戦をやらせたでしょう。

**山本**　そう！　それがマーク・コステロ戦だんだよぉ。

**谷川**　猪木さんだったら絶対にやらせるでしょう。たとえば永源遙VSシウバとか。

――それは今でも見たいな（笑）。

**谷川**　今はそういう感覚がまったくないですよね。

**山本**　「プロレスラーにスイッチが入る瞬間」というのはどういうことかというと、つまり2つあるんだよねぇ。

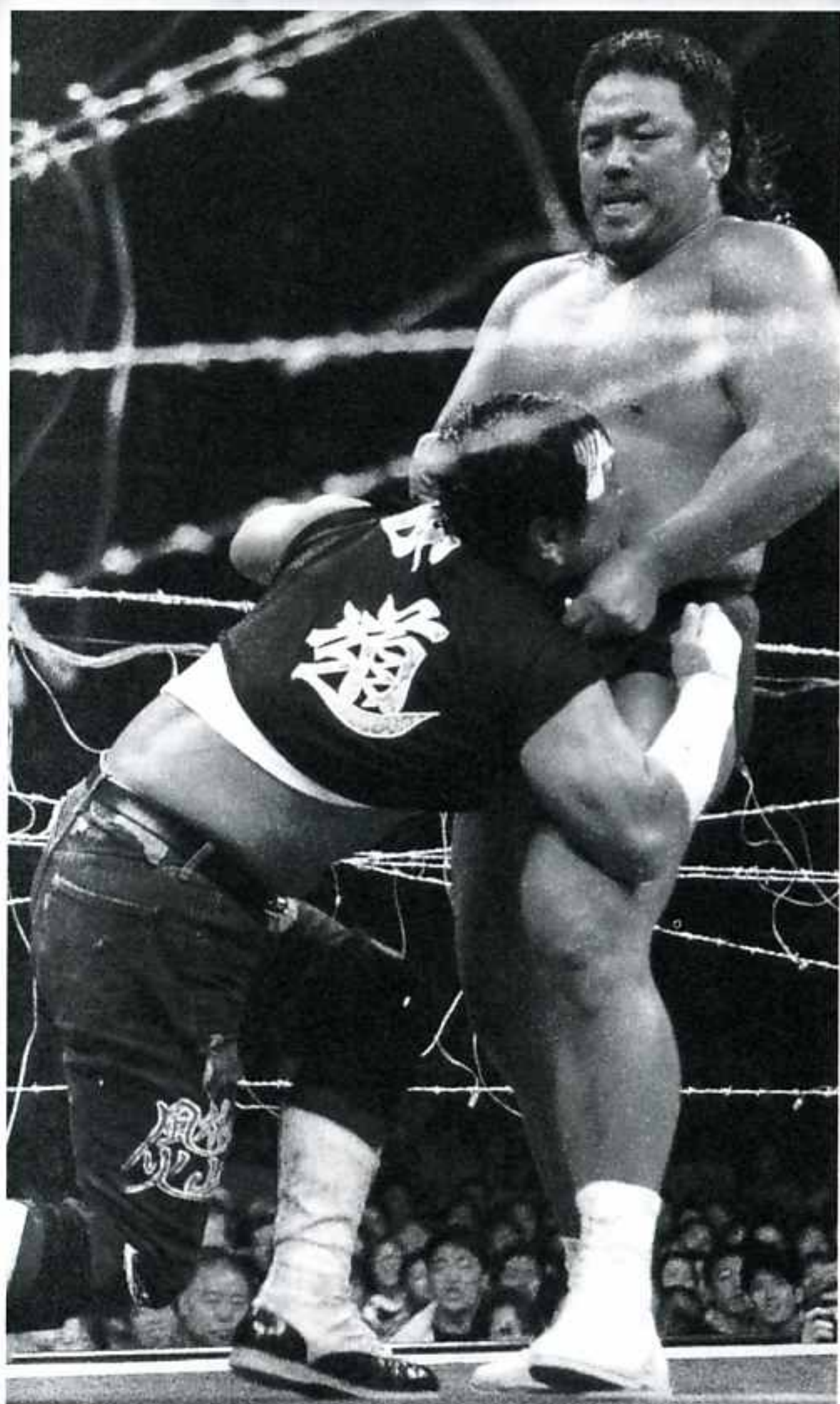
**小松**　久々に出ましたね。今日は2つですか。

**山本**　1つは細かい日常生活のレベルで世間から「八百長だ！」とか「ショーだ！」と言われた瞬間にスイッチが入らなきゃいけないんだよねぇ。その瞬間にガーッと一気にプロレスラーのアイデンティティを証明しなきゃいけないわけですよぉ。レスラーの中にプロレスはそういう形で24時間闘い続けるという自意識が世間と闘ってきたわけだよなぁ。で、もう1つは「プロレスよりも強いものが外側に出てきたら、それを叩き潰さなきゃいけない」という、この2つの宿命を背負って生きてきたわけですよぉ。

**谷川**　ふんふん。

**山本**　プロレスの外側に上位概念、あるいは強いものがあったとしたら、それに対して無条件に一気に最短距離で立ち向かっていかなければいけないということを言い続けてきたのがアントニオ猪木であり、新日本プロレスなんだよねぇ。で、これがなくなったんだよぉ。ハッキリ言って「それを継承してないでプロレスラーと言えるのか！」と。つまり、『Dynamite!』では誰も証明できなかったんだよぉ。外側の敵であるシウバ、K―1の王者、『プライド』の王者というプロレス側にとっては見下している敵がいるのに、それに対して誰も立ち向かっていかないということは、プロレスが老いたわけですよぉ。だってこれ、闘わずして土下座してるようなもんよぉ。

――闘わずして土下座（笑）。

**山本**　身体に触れられもしないでギブアップですよぉ。俺たちは「プロレスは立ち向かっていくものだ」と学んできたわけ。力道山はそれだけで生きてきたでしょ。それを猪木さんが受け継いで、今は誰が受け継いでるんだよぉ。つまり、プロレスラーが『Dynamite!』に出ていかないということは、K―1の王者も『プライド』の王者も認めてるということで、すなわち不戦敗の思想なんですよぉ。

**谷川**　K—1のファイターにしても、『プライド』のファイターにしても、プロレスラーが出てきてシウバの首を取っていたら、大変なことになると思うんですけどね。プロレスラーがおいしいところを全部持っていっちゃうわけですからね。

**山本**　結局、自分の世界に閉じこもって、自己満足していた、あのアーネスト・ホーストさえ出てきたんだからねぇ。「スリー・タイム・チャンピオンとして我慢できない」と。「俺は3度もGP王者になってるのに、なぜ人気がないんだ！　なぜマスコミは俺を表紙にしないんだ！　なぜ、俺を特集しないんだ！　なぜリスペクトしないんだ！」と怒ったわけでしょ。それがあったから、今回ホーストは出てるわけでしょ。

**谷川**　ラスベガス大会で試合をやったばかりなんですけどね（笑）。今までのホーストではあり得ないことですよ。

**山本**　普通だったら、あの男は出ませんよぉ！　「俺はK—1でやってるんだ。それ以外になんの舞台に上がる必要があるんだ！」っていう形で言う男でしょ。

**谷川**　でも、自ら新しい波に飛び込んできましたからね。

**山本**　でも、もしプロレスラーがシウバ退治に名乗りを挙げたらカッコ良かっただろうなぁ。

**谷川**　出てきたら、たとえどんなレスラーでもメチャメチャに光ったでしょう。

**小松**　山本さんは誰に出てきてほしかったですか。

**山本**　誰だろうねぇ。俺は大谷晋二郎でもよかったと思うんだよねぇ。

——でも、ここで出てきてほしかったのは長州力でしたよね。

**山本**　長州が出てきたらエライことになってたよぉ。オールすべてぜ～んぶおいしいところを持っていかれたよぉ。

——ここで長州が出てきたら、そのセンスに拍手喝采だったのになあ。

**山本**　大仁田厚にはオファーしなかったのかなぁ。

——大仁田にオファーして「やる！」って言われても困るじゃないですか（笑）。

**山本**　つまり、プロレスラーが出なかったということは凄く残念なことだったし、ショックであると同時に、俺たちが思い描いていたプロレスが終わりを告げたんだからある意味では良かったわけですよ。だから、俺は悲観してないよぉ。

# ハッキリ言って「それを継承してないでプロレスラーといえるのか!!」と

——あ、悲観してないんだ（笑）。

**山本**　だって、出てこないという形でダメな世界になってしまったと明確に理解できたわけだから。ダメなヤツが本当にダメだとあからさまに示したってことでしょ。いいんだよ「キミたちは終わったんだ。これからは新しい時代が始まるんだな」と分かったから、俺はそれでいいんですよぉ。

**谷川**　今回、プロレスマスコミ的には、プロレスラーが出てこないから煽りにくい部分もあるんでしょうね。

——でもね、今回は吉田秀彦が出るでしょう。これまでプロ格闘技の世界にアマチュアスポーツのトップ選手が上がるっていうのはプロレス以外にないわけじゃないですか。で、今回は初めて吉田がプロレスの舞台以外のデビューを果たすわけですよね。それはもの凄く重要なことでね。で、今回もう一人マスコミの噂に上がっていたのが若乃花なんですよ。もし若乃花が『Dynamite!』のリングを選んでたりしたら、プロレスって立場がなかったですよね（笑）。

**山本**　あ、そうだよなぁ。

**谷川**　でも、これからはそういう人たちが『Dynamite!』のような舞台にどんどん出てくるでしょうねえ。

——そう。今後、そういう人たちが選ぶのはプロレスじゃなくて『Dynamite!』みたいな場かもしれないですよ。

**山本**　そういうイベントというかさぁ、そういう形態の興行に変わったということだよねぇ。つまり、そこでもプロレスは敗北してるわけよぉ。

——というか、感覚的には今のその形態が真のプロレスということですよ。だって、俺たちからすれば、昔のプロレスの感覚のままですからね。

**山本**　異次元のリングに上がってくるんだからねぇ。昔はそれがプロレス、今は格闘技と言われるだけで一緒だということだなぁ。

——見る側というか、我々の記憶からすれば、それはプロレス以外の何物でもないですよ（笑）。

**山本**　それも含めてプロレスなんだということだよなぁ。

——昔のプロレスで言うところの「トンパチ」っていう言葉があるじゃないですか。「トンパチ」って定義しづらいけど、ものを知らないやんちゃさっていうかね。ものを知らないっていうことは、そういう場に出る選手にとって凄く重要だと思いません？

**山本**　うん、重要ですよぉ。

——まあ、ある意味では純真無垢っていうか。「トンパチ」っていうのは、そういういい部分も含めて言われるじゃないですか。

**山本**　無防備というか、あるいは自分を信じ切ってるというかねぇ。

——だから、昔の新日本プロレスって、本当のトンパチ集団というか、「自分たちはガチンコをやっても絶対に強い」っていう、その信じ切り方があったでしょう。でも、今は知り過ぎちゃってますからね。「自分がシウバと闘ったらどうなるだろう」とかリアルに知っちゃってる。でも、とことんプラス思考のトンパチさがなくなった時点でレスラーはダメですよね。その意味では岩崎達也があそこに出ていくという、そのトンパチさだけは称賛に値しますよね。

**谷川**　そういう意味では今回の『Dynamite!』にはトンパチが3人いま

すよね。岩崎達也と吉田秀彦とボブ・サップですよ。自分があそこに出ていって、どうなるか分かってないですから。

**山本**　美しいねぇ、それ（笑）。

**谷川**　ボブ・サップなんか、絶対にノゲイラに勝つつもりでいますからね。

**山本**　俺から言わせたら、それが男というもんだよぉ！

――つまり、たとえそれを知っていても「自分だったらいける」と思えるだけのレベルってあったじゃないですか。まあ、年末の永田なんかはまさにそういう自分への幻想があったと思うんだけど。でも、今はそれを言えるのがアマチュアの格闘家だったり、プロであっても本当のガチンコの勝負をしてきた人間たちじゃないと、そのトンパチさを持っていないっていうのが悲しいですよ。

**山本**　トンパチが出てきてほしいねぇ。

**小松**　若乃花VSシウバとか、絶対に見たいですもんね。

**山本**　そういう意味で俺はね、今のこの状況の中で最も再生してほしいというか、今こそこの場に飛び出してきてほしいというか、今こそ名乗りを挙げてほしいのは「前田日明」という人ですよぉ！

――前田日明という人（笑）。

**山本**　「今こそ前田日明の出番じゃないのか！」と。前田日明が「プロレスは何をやってるんだ！」と怒ってさぁ、行動を起こすチャンスだと思うけどなぁ。リングスは活動を休止してしまったけど、今の現状の中で彼がやらなければいけないことがい～っぱいあると思うんだけどなぁ。だって「トンパチ」と言われたら、まず前田日明のことが思い浮かぶもん。

――まったくそのとおり（笑）。

**山本**　第2次リングスという空間を作ることよりも、この状況に打って出るというかね。プロレスはそういった意味で前田日明を軸にして別のチャンスがあると思うし、それをやれるのは前田日明だと思うんだよなぁ。

**谷川**　それは最高だなあ。

**山本**　よ～するに日本人選手であろうと、ロシア選手であろうと、ブルガリアの選手であろうと、次々と強い選手を養成して新たなるプロレス幻想を作って『プライド』とかに殴り込みをかける。これをやったら前田日明は爆発的に生き返るけどねぇ。これこそが今の時代の前田幻想ですよぉ。

――それは今の時代で最も夢のある話だ。

**谷川**　そうですよね、だって本当に初期のリングスは新しいプロレスですからね。あれが一番いい感じがしましたからね。

――それに今はその「トンパチ」って言葉を最も実感できるのがロシア勢とかでしょう。そういう感覚がプロレスなんですよ。プロレスラーってやっぱり『Dynamite!』みたいな場に出てくるトンパチさが絶対に必要でしょう。たとえば「そういう場に平然と出てくる橋本真也」がいれば俺たちにとっては至上のレスラーなわけですよ。逆に言えば、「俺たちの破壊王・橋本真也はそうあってほしい！」というか（笑）。

**山本**　その無防備さが魅力なんだよなぁ。

――そこでたとえボコボコにされても、ファンはそういう橋本真也を抱きしめたいって絶対に思うでしょう（笑）。

**小松**　プロレスファンは一生、橋本真也に付いていきますよね。

**山本**　だから、そういう意味で俺はホントに前田日明待望論なんだよなぁ。だってノゲイラも前田が作ったわけでしょ。リングスの世界に固執しないで、そういう選手たちのエージェントとして、「前田日明」という大帝国を築いてほしいんだよぉ。よ～するに「前田日明がノゲイラという『プライド』のチャンピオンを作ったんだ」と、明確な形に表してほしいんだよなぁ。



## だから、そういう意味で俺はホントに前田日明待望論なんだよなぁ

――それが一足飛びに「ノゲイラ＝猪木軍」になっちゃうわけですからね（笑）。

**山本**　あのヴォルク・ハンが養成したヒョードルっていう選手がいるでしょ。あの選手なんかも前田日明がエージェントにならなきゃおかしいわけですよぉ。

**谷川**　でも、前田日明はそれを分かってるんだと思いますよ。でも、『プライド』でやるという一点だけには納得できないんでしょうね。

**山本**　それは捨てなきゃダメだし、捨てた時に前田日明は光り輝くんだけどなぁ。

――そのニュー前田日明が出てきたら、マット界は凄いことになりますよ。

**谷川**　前田日明が興行なんて面倒くさいことをやる必要はないんですからね。

**山本**　そんなことしなくていいんだよぉ。よ～するに人作りに専念すれば、巨大な前田幻想が生まれるわけですよぉ。それに腕を振るえばいいんですよぉ。

**小松**　まあ、それをやっていたら、確実にマット界の功労賞ものですよね。

――間違いないね。

**山本**　俺が全マスコミを代表して「葉隠イズムがある男」として表彰しますよぉ。だって「葉隠」って最後は己の身を捨てて対象にぶつかっていくことだから。自分の存在とか立場とか、あるいは家族とか自分が守らなければいけないもののためにいかにして最後は「死」というゼロに正対して自分を燃焼できるか、と。死を怖れるとかではなく、生をどうやったら最大限に爆発できるか、その気持ちになれるかということだから。それは「死を見つめることによってできるんだ」というポジティブな思想なんだよねぇ。それを分かってないよなぁ。プロレスラーが守るべきものを持ってどうするんだよぉ。

**小松**　あ、何かを守ってるんですか。

**山本**　そんなもんは幻で、もともと守るべきものなんてないんだよぉ。

**谷川**　だからエリオ・グレイシーとか大山倍達なんかはそっちの人作りの人だったんですよね。前田日明がそういう形で進んでいけば、今や前田日明の天下ですよねえ。

**山本**　まあ、レスラーは組織作りはヘタ

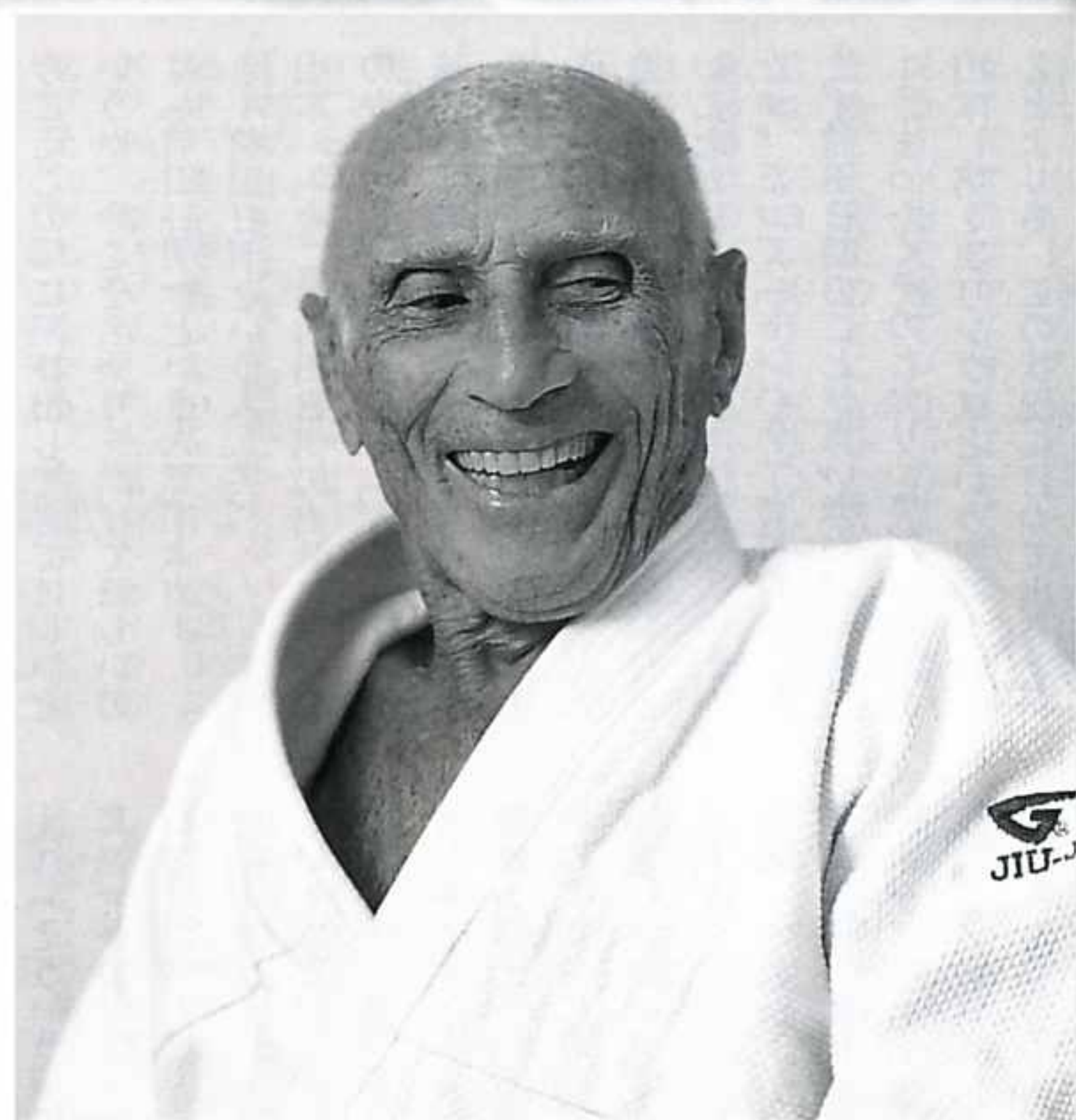
なんだよなぁ。誰もが行き当たりばったりしかやらないんだから。まあ、そういう意味では大山総裁っていうのは世界的にシステムを作ったし、拠点を広げていったよなぁ。

**谷川** ただ、大山総裁もエリオさんも組織はあんまりしっかり作ってないですけどね。

**山本** まあ、エリオの場合は人作りというより子作りだけどなぁ。

――ダハハハハッ！

**山本** 自分の遺伝子をたくさん残した人間の勝ちというかさぁ。これね、俺は今の日本にいちばん言いたいことなんですよぉ。「子作りの思想」というか、いかにDNAに多様性を持たせて残すにはい～っぱい子供を作るしかないんだよぉ。そこからグレイシー一族というものができたわけでしょ。だってあれはもう、末広がりというかネズミ講みたいなもんですよぉ！

――ネズミ講！（笑）。

**山本** エリオの爺さんも偉いよぉ、奥さんを変えたりしてどんどん子供を作ってるでしょ。俺も国際結婚したいですよぉ。

**谷川** んあ～！

**山本** 俺はまだまだ遺伝子を拡大させますよぉ！

**谷川** まあ、大山倍達なんかを見ると、トンパチな人をどんどん作りましたよね。とくに計画して組織を作ったということはないんですけど、突出したいろんな弟子を作っていったじゃないですか。

――まあ、プロレス心とかプロレス魂みたいなことを求める心ってなんだろうといったら、やっぱりトンパチさでしょうね。我々が村松友視さんの影響の中で育ってきて、やっぱりプロレスの定義が高山善廣みたいな高度なものになりつつある一方で、逆に今のZERO―ONEみたいなスタイルに人気があったりね。その根底で大事なのはやっぱりトンパチさですよ。

**谷川** そういう意味でも僕は前田日明と橋本真也しか思い浮かばないなあ。

**山本** そうでしょ？ 無防備というかトンパチというか無鉄砲というか、その根底にあるのは「男の見栄」なんだよねぇ。男というのは見栄を張るしかないんだよ。

――で、見栄を張る最低限の素養を持っていたのが昔のプロレスラーの基本っていうか、概念でしょう。その基本が今は

# あれはもう、末広がりというか ネズミ講みたいなもんですよぉ！



なくなってるから歯がゆいんですよね。

**山本** プロレスがどんどんこぢんまりした世界に入ってるというかね。そんなもんに俺たちはプロレス幻想なんてないわけですよぉ。力道山がいかに世間と闘っていたか。よ～するにわざと「開かずの踏切」とか赤信号をクルマで突っ切っていくとか。今のレスラーはそういうことをしないもんなぁ。

――まあ、今の時代にそこまでやれとは言わないけど（笑）。そういう気概というかね。だから、そこから考えると『Dynamite!』のコンセプトは他流試合とは別に「トンパチの祭典」っていうのがありますよね（笑）。

**山本** まあ、一つは自分で手を挙げるというのがあるでしょ。これはなかなか難しいわけですよぉ。やっぱり今は昔の猪木さん、馬場さん、力道山のようにリーダーとして下の者に命令してやらせるという構造がないからですよぉ。「おまえ出ろ！」とか、大山館長が「キミィ、行きなさい」とかあったでしょ。

――大山倍達の場合は「キミィ、これをできるかね？」でしたからね。でも、弟子たちは「押忍！」と言うしかない。禅問答みたいなもんですから（笑）

**山本** 薄給で磯部師範をブラジルに行かせたり、大山茂さんをアメリカに行かせたり、そういう度を越した不条理な問答無用の世界があったわけですよぉ。

**谷川** その茂さんだって、ウィリーに「熊と闘え！」ですからね（笑）。

**山本** そういう人がいなくなってるんだよねぇ。肝心要のそういうトップがいなければ、レスラーだってそういう場に出ませんよぉ。そうなると高山善廣的な賢いプロレス感覚が光るというか。でも、それだけじゃなくてやっぱりプロレスにも不条理なトップがいないとダメなんだよなぁ。それにシウバはこれまでずっと勝ってきてるけど、あれを過剰に怖れてるわけでしょ。それ自体がプロレスラーとして恥ずかしいよねぇ。過剰に考えるな、冷静に分析しろよぉ！ 「あんなヤツ、倒してみせる」と思わないのかなぁ。

**谷川** そう思わないとダメですよね。

**山本** よ～するに幻想だけが独り歩きしてるわけでしょ。シウバに隙がないとか、そう考えること自体が素人ですよぉ。あんなもん、たまたま勝ってるだけなんだからぁ。

**谷川** 逆に今が一番おいしい時期なんですよね。シウバなんて誰でも首を取れる可能性がありますからね。そういう意味でもシウバを食ってやろうっていうレスラーがいなかったのは残念ですよね。

――まあ、でも今回はトンパチの権化であるアントニオ猪木がやってくれますからね。3000メートル上空から国立競技場に飛び降りてくるんですから（笑）。

**山本** あれは超トンパチだよなぁ。

――それをOKするんだから、ある意味ではシウバ戦に名乗りを挙げるよりもはるかにトンパチですよね。だから、『Dynamite!』は本当にトンパチの祭典で、裏のテーマは「トンパチ世界一決定戦」なんですよ。

**谷川** 僕は3000メートル上空から飛び降りろと言われたら、迷わず「シウバと闘いますから勘弁してください」って言うなあ。

**山本** 俺も迷わずシウバと闘いますよぉ！

**小松** あ、そうですか。僕は迷わず3000メートル上空から飛び降りますけどね。

**谷川** んあ～！ ■

# 9/4WED～9/26THU
## CALENDAR

| 日付 | 予定 |
|---|---|
| 9/4 WED | ★『SRS・DX』78号発売日 |
| 9/5 THU | |
| 9/6 FRI | ■全日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p48 |
| 9/7 SAT | ■DEEP2001/東京・有明コロシアム（18:00～）⬅p46<br>■女子ボクシング協会/東京・ディファ有明（18:00～）⬅p50 |
| 9/8 SUN | ■ニュージャパンキック連盟/東京・後楽園ホール（17:00～）⬅p49<br>◆PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR/チケット発売⬅p46 |
| 9/9 MON | |
| 9/10 TUE | |
| 9/11 WED | |
| 9/12 THU | |
| 9/13 FRI | |
| 9/14 SAT | ■全日本キック連盟/チケット発売⬅p48 |
| 9/15 SUN | |
| 9/16 MON | ■修斗/神奈川・横浜文化体育館（16:00～）⬅p47<br>■新日本キック協会/東京・SHIBUYA-AX（16:30～）⬅p48<br>■J-DO/兵庫・神戸チキンジョージ（19:00～）⬅p50 |
| 9/17 TUE | |
| 9/18 WED | |
| 9/19 THU | |
| 9/20 FRI | |
| 9/21 SAT | |
| 9/22 SUN | ■K-1 ANDY SPIRITS～JAPAN GP決勝戦～/大阪城ホール（15:00～）⬅p46<br>■新日本キック協会/東京・ディファ有明（16:00～）⬅p48<br>■シュートボクシング協会/東京・後楽園ホール（18:00～）⬅p48 |
| 9/23 MON | |
| 9/24 TUE | |
| 9/25 WED | |
| 9/26 THU | ★『SRS・DX』79号発売日 |

# 格闘技パーフェクトガイド
## Perfect Guide

# GUIDE & TICKET

# 大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

## パンクラス

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR

**9月29日（日）　神奈川・横浜文化体育館**

◆開場/15:00　試合開始/16:30　◆入場料/SS席16,000円　RS-A席7,500円　RS-B席5,500円　2F-A席10,000円　2F-B席6,000円　2F-C席4,000円　3F席4,500円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード:594-040）、ローソンチケット（Lコード:32966）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス　◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

#### 決定対戦カード

謙吾vsロン・ウォーターマン
（パンクラスism）　（コロラド・スターズ）

藤井克久vs高田浩也
（スタンド）　（RJW/CENTRAL）

今成正和vs大場裕司
（チームRoken）　（P's LAB東京）

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR

**10月29日（火）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30　試合開始/18:30
◆入場料/指定席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/9月8日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

## PRIDE

### PRIDE.22

**9月29日（日）　愛知・名古屋総合体育館レインボーホール**

◆開場/14:00　試合開始/16:00（予定）　◆入場料/VIP席100,000円（特典：専用入場ゲート、グッズ付）、RRS席25,000円、スタンドS席15,000円、スタンドA席7,000円　◆チケット発売所/各有名プレイガイド　◆会場アクセス/JR東海道本線笠寺駅より徒歩3分、名鉄名古屋本線本笠寺駅より徒歩15分　◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

## DEEP2001

### DEEP2001 6th IMPACT in ARIAKE COLOSSEUM

**9月7日（土）　東京・有明コロシアム**

◆開場/16:30　試合開始/18:00　◆入場料/VIP席30,000円　SRS席20,000円　RS席10,000円　スタンドS席10,000円　スタンドA席8,000円　スタンドB席6,000円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、フィットネスショップ水道橋、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、ファイター☎03-3354-1903、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、デポマート☎03-3515-6507、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、BATTLE PLACE☎03-3881-7770、格闘技プロショップ東京イサミ☎03-3352-4083、パンクラス☎03-5792-0815、DEEP2001事務局　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩8分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車　◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

#### 決定対戦カード

田村潔司vs美濃輪育久
（U-FILE CAMP.com）　（パンクラスism）

三島☆ド根性ノ助vs伊藤崇文
（総合格闘技道場コブラ会）　（パンクラスism）

〈日本選抜選手VSブラジリアン・トップチーム3対3対抗戦〉

髙阪剛vsアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
（チームアライアンス G-スクエア）　（ブラジリアン・トップチーム）

上山龍紀vsギルソン・フェレイラ
（U-FILE CAMP.com）　（ブラジリアン・トップチーム）

矢野卓見vsファビオ・メロ
（烏合会）　（ブラジリアン・トップチーム）

ドス・カラスJrvs中野巽耀
（AAA）　（フリー）

雷暗暴vsジョン・ホーキ
（フリー）　（ノヴァ・ウニオン）

滑川康仁vsMAX宮沢
（フリー）　（荒武者総合格闘術）

長南亮vs臼田勝美
（U-FILE CAMP.com）　（バトラーツ）

大久保一樹vs一宮章一
（U-FILE CAMP.com）　（フリー）

#### 決定対戦カード

大山峻護vsハイアン・グレイシー
（フリー）　（ハイアン・グレイシー柔術アカデミー）

マリオ・スペーヒーvsアンドレイ・コピィロフ
（ブラジリアン・トップチーム）　（ロシアン・トップチーム）

K-1

## K-1ワールドシリーズ

### K-1 WORLD GP 2002 開幕戦

**10月5日（土）　さいたまスーパーアリーナ**

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分、JR埼京線北与野駅から徒歩7分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

#### 出場予定選手

マーク・ハント
（ニュージーランド／リバプール・キックボクシングジム）

フランシスコ・フィリォ
（ブラジル／極真会館ブラジル支部）

アレクセイ・イグナショフ
（ベラルーシ／チヌックジム）

ステファン・レコ
（ドイツ／ゴールデン・グローリー）

アーネスト・ホースト
（オランダ／ボスジム）

ジェロム・レ・バンナ
（フランス／ボーアポエル&トサジム）

ピーター・アーツ
（オランダ／メジロジム）

## K-1ジャパンシリーズ

### K-1 ANDY SPIRITS ～JAPAN GP 決勝戦～

**9月22日（日）　大阪城ホール**

◆開場/13:30　試合開始/15:00
◆入場料/SRS席20,000円　RS席12,000円　S席8,000円　A席6,000円
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス
◆会場アクセス/JR大阪城公園駅、地下鉄大阪ビジネスパーク駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

#### 出場予定選手

天田ヒロミ（TENKA510）
大石亨（日進会館）
ノブ・ハヤシ（ドージョーチャクリキ）
富平辰文（SQUARE）
野地竜太（極真会館）
中迫剛（ZEBRA244）
武蔵（正道会館）
X

総合格闘技&ノールール系

## 修斗

### プロフェッショナル修斗公式戦
**9月16日（月・休）　神奈川・横浜文化体育館**

◆開場/14:00　試合開始/16:00
◆入場料/1階SRS席15,000円　1階RS席10,000円　1階SS席7,000円　2階パノラマS席10,000円　2階パノラマ席8,000円　2階A席6,000円　2階B席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、KEEL CAFE ☎03-5725-7338、フィットネスショップ水道橋、後楽園ホール、書泉ブックマート、大盛堂書店☎03-5784-4900、チケット＆トラベルT-1 ☎03-5275-2778、e-ticket　◆会場アクセス/JR京浜東北線関内駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

#### 決定対戦カード

〈フェザー級チャンピオンシップ〉

大石真丈vs池田久雄
（K'zファクトリー）（PUREBRED大宮）

五味隆典vsクリス・ブレナン
（木口道場レスリング教室）（ネクストジェネレーション柔術）

勝田哲夫vs山本"KID"徳郁
（K'zファクトリー）（PUREBRED大宮）

鶴屋浩vsピトー・"シャオリン"・ヒベイロ
（パレストラ松戸）（ブラジル/ノヴァ・ウニオン）

マモルvsホブソン・モウラ
（シューティングジム横浜）（ブラジル/ノヴァ・ウニオン）

〈フェザー級トーナメント1回戦〉

今泉堅太郎vsABKZ
（SKアブソリュート）（パレストラ東京）

石川真vs村山英慈
（PUREBRED大宮）（シューティングジム八景）

#### 出場予定選手

植松直哉（K'z FACTORY）

ハビエル・バスケス（ミレンニア柔術）

### SHOOTO GIG EAST 11
**9月25日（水）　東京・北沢タウンホール**

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/S席6,000円　A席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/KEEL CAFE☎03-5725-7338、パレストラ東京
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

#### 決定対戦カード

松根良太vs村田一着
（パレストラ松戸）（無所属）

風田陣vs溝口なおすけ
（ピロクテテス新潟）（誠流会）

WILD宇佐美vs小島直人
（無所属）（パレストラ東京）

横山宣行vs三上洋平
（総合格闘技STF）（東京イエローマンズ）

橋本平馬vs中蔵隆志
（パレストラ東京）（シューティングジム大阪）

### SHOOTO GIG CENTRAL
**10月6日（日）　愛知・名古屋市公会堂**

◆開場/14:00　試合開始/15:00
◆入場料/RS席8,000円、S席6,000円、A席5,000円、B席4,000円
◆チケット発売/ALIVEまで問い合わせ
◆会場アクセス/JR・地下鉄鶴舞線鶴舞駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ALIVE☎052-713-0133

#### 決定対戦カード

吉岡広明vs野中公人
（ALIVE）（PUREBRED大宮）

松下直輝vs鈴木洋平
（ALIVE）（パレストラ東京）

〈02年度新人王トーナメント フェザー級決勝戦〉

木部亮vs小松晃
（ALIVE）（総合格闘技道場コブラ会）

〈ブラジリアン柔術マッチ〉

梅村寛vsホドリゴ金城
（ALIVE小牧）（谷柔術）

赤木康洋vs生駒純司
（ALIVE）（直心会格闘技道場）

蔵田圭介vs澤田健一
（ALIVE）（パレストラ東京）

日沖発vs菅谷Gatch正徳
（ALIVE）（直心会格闘技道場）

### SHOOTO GIG WEST Ⅲ
**10月27日（日）　大阪・NGKホール**

◆開場/14:00　試合開始/15:00
◆入場料/S席4,000円　A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ☎06-6363-9999、シューティングジム大阪☎06-6390-5010、シューティングジム神戸☎078-332-6615、リング魂☎078-333-6690、KEEL CAFE☎03-5725-7338、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/JR・地下鉄・南海難波駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

#### 決定対戦カード

〈02年度新人王トーナメント ウェルター級決勝戦〉

川尻達也vs尾松賢
（総合格闘技TOPS）（総合格闘技道場コブラ会）

加納学vs田中寛之
（相補体術）（直心会格闘技道場）

## キングダムエルガイツ

### 王国の逆襲
**9月14日（土）　東京・Z-ZONE**

◆開場/18:00　試合開始/18:30
◆入場料/スーパーZ（ドリンク付き）10,000円　Zゾーン5,000円　スタンディングゾーン3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、武念伸、きんとき中央林間店、Z-ZONE☎042-376-1639
◆会場アクセス/京王線・小田急線永山駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/キングダムエルガイツ☎042-331-2797

#### 主な対戦カード

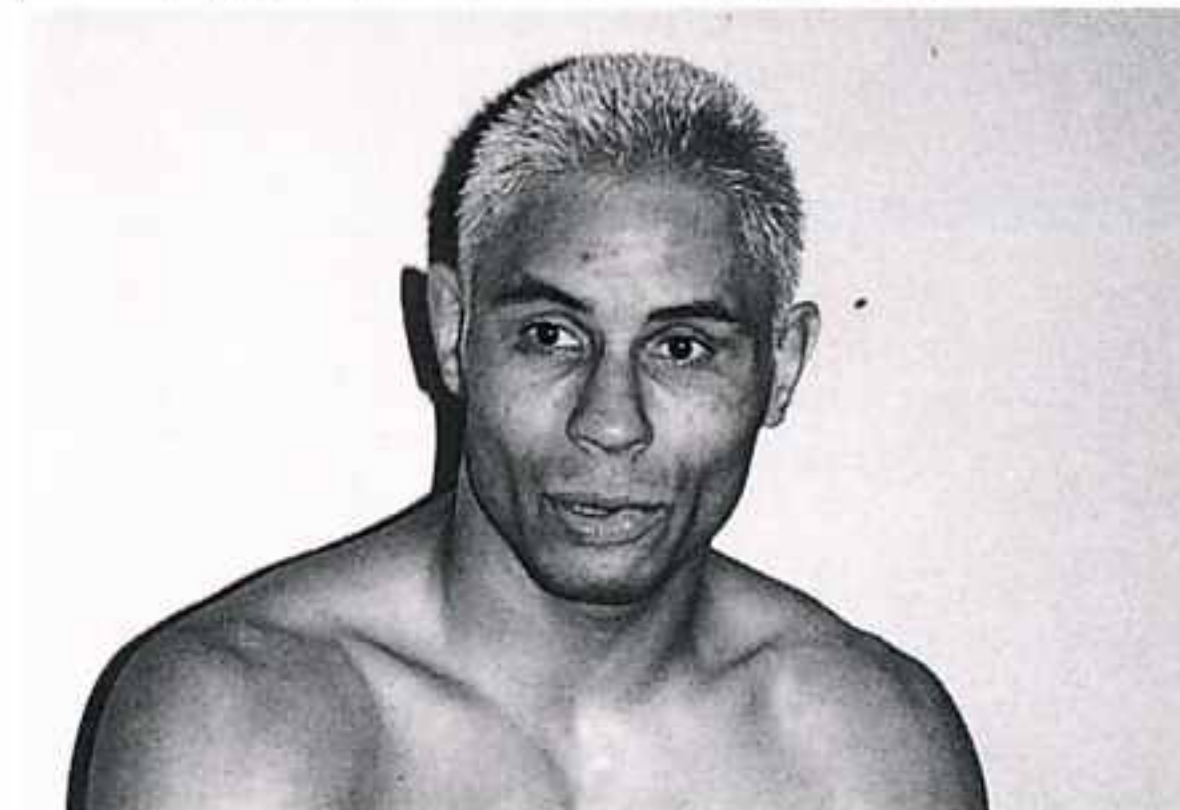
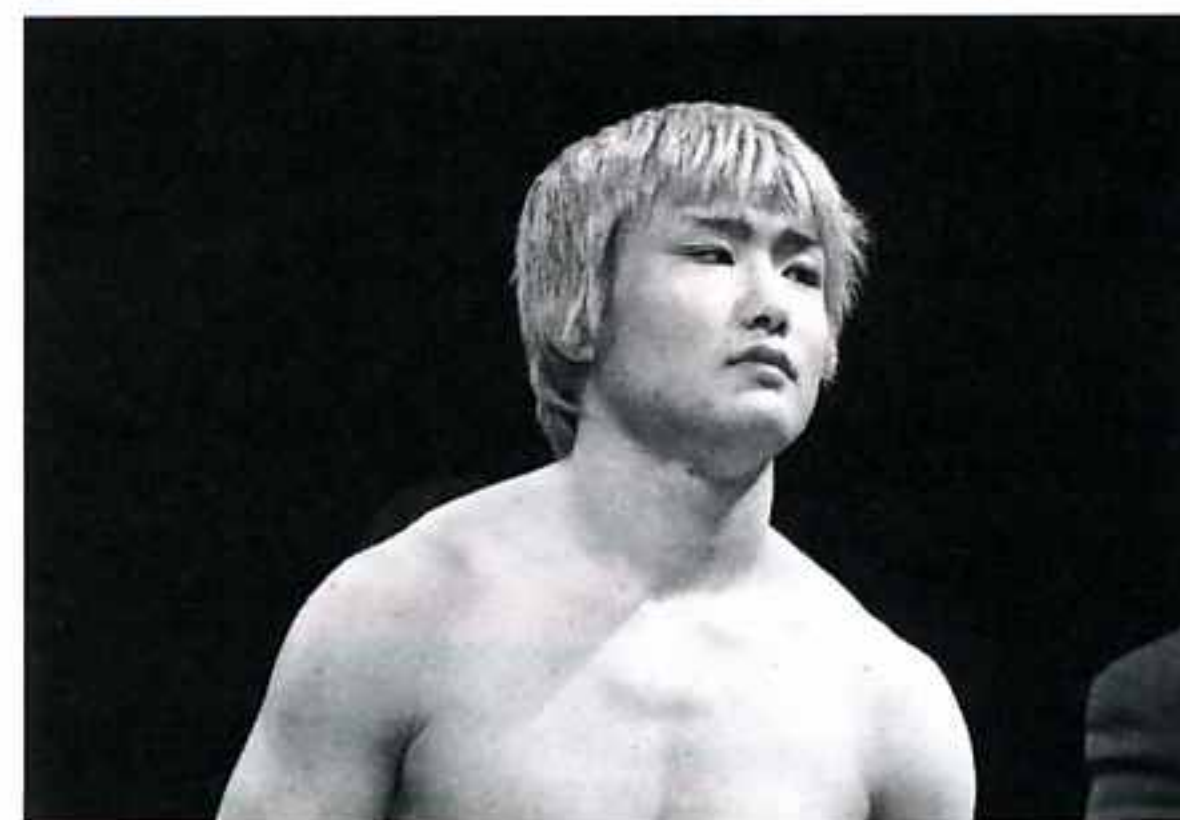
佐藤力vs富山浩宇
（EVOLUTION）（P's LAB横浜）

〈エキシビジョンバウト〉

入江秀忠vsランバー・ソムデート吉沢
（キングダムエルガイツ）（M16ジム）

小池秀信vs萩原光
（Team GRABAKA）（シューティングジム横浜）

鈴木徹vs広瀬和哉
（和術慧舟會）（IMNグラップリング）

**9.16横浜、五味の相手は決定！植松、バスケスの相手は誰だ？**

## シュートボクシング協会

### The age of "S" Vol.4
9月22日（日） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/18:00 ◆入場料/RS席10,000円 SS席7,000円 S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザKINGS☎03-3462-1001、シュートボクシング協会 ◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分 ◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

#### 主な対戦カード
ーエキスパートクラスー
アンディー・サワー vs 後藤龍治
（オランダ/リンホージム） （STEALTH）
〈SB日本Sフェザー級タイトルマッチ〉
前田辰也 vs 及川知浩
（王者/寝屋川ジム） （龍生塾）
〈SB日本Sバンタム級タイトルマッチ〉
森谷吉博 vs 市政貴文
（王者/シーザージム） （挑戦者/大阪ジム）
宍戸大樹 vs タリック・ベンフキー
（シーザージム） （フランス/オートテンション）
〈現役引退スペシャルマッチ〉
平直行 vs X
（シーザージム）
ホセイン・キャリミラード vs X
（湘南ジム）

## 新日本キックボクシング協会

### ADVANCE ATTACK ～進撃～
9月22日（日） 東京・ディファ有明

◆開場/15:30 試合開始/16:00
◆入場料/SRS席15,000円 RS席10,00円 S席7,000円 A席5,000円 立見席4,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、治政館
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/治政館☎048-953-1880

#### 主な対戦カード
ー5回戦ー
武田幸三 vs メッケンナー・ソーキングスター
（治政館） （タイ）
鈴木敦 vs 遠藤心平
（尚武館） （治政館）
小川和宏 vs 新宅大介
（治政館） （伊原）
阿佐美義文 vs 鈴木祐作
（治政館） （伊原）
小原祥寛 vs 白熊市原
（藤本） （市原）

## 全日本キックボクシング連盟

### Golden Trigger
9月6日（金） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円 S席7,000円 A席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、BoutReview、全日本キック電話予約☎03-3365-1171、全日本キック公認サイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171

#### 主な対戦カード
ー5回戦ー
小林聡 vs サムゴー・ギャットモンテープ
（藤原） （タイ）
花戸忍 vs 蔵満誠
（モンゴル/高橋道場） （J-NET/JMTC）
浜川憲一 vs 砂田将祈
（作真会館） （はまっこムエタイジム）
〈全日本フェザー級王座決定トーナメント準決勝〉
ーサドンデスマッチー
前田尚紀 vs 石川直生
（藤原） （青春塾）
WINDY智美 vs ジェット・イズミ
（作真会館） （J-NET/アクティブJ）

### ROAD TO MUAY-THAI 2002
10月20日（日） 東京・後楽園ホール

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/伊原道場☎03-3461-4258

#### 主な対戦カード
ー5回戦ー
庵谷鷹志 vs 鷹山真吾
（伊原） （尚武会）

#### 日本・タイ国際戦出場選手
深津飛成（伊原）
菊地剛介（伊原）
小出智（治政館）
石井宏樹（藤本）
北沢勝（藤本）
松本哉朗（藤本）

### Brandnew Fight
10月17日（木） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/18:00
◆入場料/RS席5,000円 S席3,000円 ※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/9月14日（土）
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、Bout Review（http://boutreview.com）、全日本キック電話予約、全日本キック公認サイト（http://www.aj-kick.com）
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171

#### 主な対戦カード
〈全日本フェザー級王座決定トーナメント準決勝〉
ーサドンデスマッチー
竹村健二 vs サトルヴァシコバ
（名古屋JKF） （勇心館）

#### 出場予定選手
佐藤嘉洋（名古屋JKF）
清水貴彦（超越塾）
西田和嗣（SVG）
藤牧孝仁（はまっこムエタイジム）

▲10月17日の後楽園大会に出場予定の佐藤嘉洋

### RIKI ONODERA GREATEST HITS!
9月16日（月・祝） 東京・SHIBUYA-AX

◆開場/16:00 試合開始/16:30
◆入場料/SRS席20,000円 RS席15,000円 A席12,000円 B席10,000円 C席7,000円 立見4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/渋谷駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/藤本ジム☎03-3493-5988

#### 主な対戦カード
ー5回戦ー
小野寺力 vs ラタナサック・サックタウィー
（藤本） （タイ）
石井宏樹 vs アダム・アグレッサー
（藤本） （オーストラリア）
北沢勝 vs ジョン・スーパーレック
（藤本） （オーストラリア）
マサル vs 正木和也
（トーエル） （藤本）

## J-NETWORK

### J-BLOODS Ⅳ

**10月25日（金）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　立見（当日のみ）3,500円　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

**出場予定選手**

蔵満誠
浦林幹
尾田淳史
黒田英雄



## 禅道会

### バーリ・トゥード2002・オープントーナメント リアルファイティング空手道選手権大会

**9月15日（日）　南長野運動公園総合運動場体育館**

◆開場/9:30　試合開始/11:00　◆入場料/1,500円（当日券1,800円）　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/長野県内の各種プレイガイド、フィットネスショップ格闘技☎03-3265-4646、書泉ブックマート☎03-3294-0011、公武堂☎052-241-2511　◆会場アクセス/JR信越線篠ノ井駅から川中島バス「松代行き」に乗車、東福寺下車から徒歩10分　◆お問い合わせ/空手道禅道会長野支部☎026-293-6944

**主な出場予定選手**

秋山賢治（82.5キロ超級）
百瀬善規（82.5キロ超級）
熊谷真尚（72.5キロ以下級）
金子真理（女子の部）
中村珠美（女子の部）
酒井真紀（女子の部）

**ワンマッチ**

熊崎愛子vs瀧本美咲
小池亜伊子vs藤田由希恵
片桐美紀vs有賀美由紀

## レックスジャパンエンタープライズ

### 第5回関西少年・女子グローブ空手交流大会

**9月22日（日）　大阪府立体育会館 柔道場**

◆開場/9:30　試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR・近鉄・南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/格闘スポーツスクール レックスジャパンエンタープライズ 龍生塾大会事務局☎06-6351-7994

## MA日本キックボクシング連盟

### SPIRIT

**9月28日（土）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30　◆入場料/SRS席20,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/MA日本キックボクシング連盟事務局☎03-3485-7063

**主な対戦カード**

—5回戦—

〈日本Sライト級タイトルマッチ〉
井上哲 vs 山崎通明
（王者/山木）（挑戦者/東金）

〈日本ヘビー級タイトルマッチ〉
内田ノボル vs 中西陽介
（ビクトリー）（山木）

〈日本ライト級王座決定戦〉
木村允 vs 水町浩
（土浦）（土道館）

山田健博 vs 増田博正
（東金）（ソーチタラダ）

マグナム酒井 vs 中村高明
（土道館）（全日本キック/藤原）

カズ工藤 vs ファイティング前沢
（土道館新座）（土浦）

飯塚英史 vs ランボー豊栄
（山木）（東金）

阿倍乃泰彦 vs 吉岡篤史
（新潟山木）（武勇会）

## IKUSA事務局

### IKUSA　その弐「雷襲」

**10月27日（日）　東京・Club WOMB**

◆試合開始/15:00（予定）　◆詳細未定　◆会場アクセス/渋谷駅より徒歩10分　◆お問い合わせ/IKUSA事務局・アクアプラネット☎03-5213-7332

**決定対戦カード**

土屋ジョーvs X
（エイワジム）

隼人vs水野章二
（PHOENIX）（湘南格闘クラブ）

## 正道会館

### 第15回オープントーナメント 西日本新人戦空手道選手権大会

**10月14日（月・祝）　大阪府立体育会館 柔道場**

◆開場/9:00　予選開始/10:00　開会式/13:00　◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR・近鉄・南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/正道会館総本部☎06-6357-1654

## ニュージャパンキックボクシング連盟

### DREAM RUSH 6

**9月8日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/16:45　試合開始/17:00
◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　指定A席5,000円　指定B席4,000円　指定C席3,000円　立見2,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング事務局☎03-5625-2371

**主な対戦カード**

—5回戦—

〈NKB統一トーナメント／フェザー級王者決定戦〉
桜井洋平 vs TURBO
（岩瀬）（TEAM O.J）

〈NKB統一トーナメント／フェザー級王者決定戦〉
笛吹丈太郎 vs AVIS-SV01
（大和）（小国）

〈NKB統一ランキングライト級2位決定戦〉
ソムチャーイ高津 vs 野崎勇治
（小国）（東京北星）

ヌントラガーン・ポームアンウボン vs HIROSHI
（タイ）（サシプラパー・J）

〈NKB統一ランキングフェザー級2位決定戦〉
岩井伸洋 vs 伊藤陽二
（小国）（大阪真門）

〈NKB統一ランキングフライ級2位決定戦〉
佐藤友則 vs 高嶺幸良
（小国）（大阪真門）

孫悟空丸山 vs 立嶋篤史
（小国）（ASSHI-P）

飯田誠一 vs 高野義章
（町田金子）（健心塾）

### DREAM RUSH 7

**9月22日（日）　東京・CASSスポーツクラブ**

◆開場/14:30　試合開始/15:00
◆入場料/指定席5,000円　自由席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/CASSスポーツクラブ☎03-3935-1910、小国ジム
◆会場アクセス/東武東上線上板橋駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/小国ジム☎03-3989-0368

**主な対戦カード**

—5回戦—

木浪シャーク利幸vs　デーブ・オード・ボーシャー
（小国ジム）（オランダ/ブリジム）

藤原国崇vs米田貴志
（拳之会）（小国ジム）

## J-DO

### J-DO 第4回神戸大会

**9月16日（月・休）　兵庫・神戸チキンジョージ**

◆開場/18:00　試合開始/19:00
◆入場料/SRS席15,000円　RS席6,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/J-DOオフィシャルHP（http://www.j-do.jp）
◆会場アクセス/JR・阪急・阪神三宮駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/Iam（アイエーエム）☎078-334-7753

## 日本女子ボクシング協会

### FIGHTING GIRLS PT3

**9月7日（土）　東京・ディファ有明**

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/SRS席22,000円（当日25,000円）　RS席17,000円（当日20,000円）　S席12,000円（当日15,000円）　A席8,000円（当日10,000円）　B席6,000円（当日7,000円）　C席4,000円（当日5,000円）　立見席3,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/日本女子ボクシング協会
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/日本女子ボクシング協会☎03-3485-4446

**主な対戦カード**

ライカ（山木） vs シャロン・アニオス（オーストラリア）
八島有美（ゴールドジム横浜馬車道） vs アマンダ・ブキャナン（オーストラリア）
土田奈緒子（入谷） vs ミサコ山崎（岩井）
山口直子（山木） vs 猪崎かずみ（鴨居）
ジプシー・タエコ（山木） vs 山田香子（MUSTANG）
袖岡裕子（SPEED） vs 渡邊久江（LIMIT）
キャロライン（SPEED） vs 亜利弥'（F.ギャラクシー）

## 日本グローブ空手道連盟

### 第13回グローブ空手オープン選手権大会

**10月5日（土）　東京武道館 第一武道場**

◆試合開始/12:00（予定）　◆入場料/無料　◆会場アクセス/地下鉄千代田線綾瀬駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/日本グローブ空手道連盟☎03-5625-2371

## 勇健塾

### 第6回格闘技空手拳法選手権大会

**9月15日（日）　香川・善通寺市民体育館サブアリーナ**

◆開場/10:00　試合開始/11:00　◆入場料/無料　◆会場アクセス/JR土讃線善通寺駅より車で5分　◆お問い合わせ/大会事務局☎0877-57-2207

## 士道館

### 第13回関東空手道選手権大会

**9月22日（日）　東京・東村山市民スポーツセンター**

◆試合開始/10:00　◆入場料/無料　◆会場アクセス/西武新宿線東村山駅より車で約5分　◆お問い合わせ士道館橋本道場☎042-530-8630

## 合気道S.A.

### 第2回合気道杯争奪 実戦・リアル合気道選手権大会6

**10月12日（土）　東京・都立多摩スポーツセンター会館 柔道場**

◆開場/12:30　試合開始/13:00　◆入場料/3,000円　※当日は基本的に入場不可　◆チケット発売所/観覧希望・氏名・年齢・住所・電話番号を明記し、現金書留で9月末日までに下記の住所まで郵送　〒193-0821 東京都八王子市川町128-280 櫻井文夫　◆会場アクセス/JR青海線東中神駅より徒歩5分　◆お問い合わせ/合気道S.A.☎042-651-8418

## AX事務局

### プロジェクトA

**9月23日（月・祝）　東京・夢の島総合体育館 柔道場**

◆詳細未定　◆会場アクセス/地下鉄有楽町線・JR京葉線新木場駅より徒歩12分。または、地下鉄東西線東陽町駅から都バス「新木場駅行き」乗車し、「夢の島」下車、徒歩6分　◆お問い合わせ/AX事務局☎03-3478-4605



## 日本国際空手協会

### 第6回全日本空手道選手権大会

**9月29日（日）　神奈川・川崎市とどろきアリーナ**

◆開場/9:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR南武線・東急東横線武蔵小杉駅から1番乗り場より市バス「溝05、杉40」系統で「春日神社」下車または、2番乗り場より東急バス「宮内経由溝口」行きで「等々力グランド入口」下車すぐ
◆お問い合わせ/勇志会空手道・大会事務局☎03-5393-9763

## 真樹道場

### 2002オープントーナメント 第3回全日本空手道選手権大会

**9月22日（日）　愛知・豊田市体育館**

◆開場/9:30　試合開始/10:00
◆入場料/自由席2,000円（当日券3,000円）　小学生1,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/真樹道場・愛知本部
◆会場アクセス/名古屋鉄道豊田市駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/世界空手道連盟真樹道場・愛知本部☎0565-24-3861



## アマチュア修斗

### 第9回全日本アマチュア修斗選手権大会

**9月29日（日）　千葉・柿ノ木台公園体育館**

◆開会式/11:30　試合開始/12:00
◆入場料/一般1,000円　プロライセンス所有者無料
◆チケット発売/当日販売
◆会場アクセス/JR松戸駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/全日本アマ修斗選手権大会事務局☎03-5984-3209

## 主要チケット発売所一覧

**チケットぴあ**
☎03-5237-9999
**ローソンチケット**
☎03-3569-9900
**CNプレイガイド**
☎03-5802-9999
**オデッセー**
☎03-3408-0331
**渋谷東急文化チケットセンター**
☎03-3406-1513
**レッスル渋谷店**
☎03-3464-0078
**レッスル池袋店**
☎03-3989-0056
**板橋大山アメリカン**
☎03-3962-6443
**チャンピオン**
☎03-3221-6237
**書泉ブックマート**
☎03-3294-0011
**フィットネスショップ水道橋**
☎03-3265-4646
**後楽園ホール**
☎03-5800-9999
**e+（イープラス）**
http://eee.eplus.co.jp
☎03-5749-9911

## プロ団体連絡リスト

**K－1事務局**
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

**修斗**
※各興行のプロモーターに問い合わせ

**ワールドパンクラスクリエイト**
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

**高田道場**
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

**UFO**
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

**ドリームステージエンターテインメント**
〒107-0052 港区赤坂8-5-4ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

**S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション**
〒150-0021 東京都昭島市大神町1-2-22
☎042-544-6979

**マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟**
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

**全日本キックボクシング連盟**
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

**日本キックボクシング連盟**
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

**新日本キックボクシング協会**
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3780-1350

**ニュージャパンキックボクシング連盟**
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

**J－NETWORK**
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12三元ビル5F
☎03-3419-0536

**K－U(キック・ユニオン)**
〒195-0834 東京都八王子市東浅川町8-1
☎0426-66-9541

**シュートボクシング協会**
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1・2F
☎03-3843-1212

**極真会館総本部道場（松井派）**
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-38-1
☎03-5992-9200

# バックナンバー インフォメーション

これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）

**《6・13 臨時増刊号 70号》**

●完全速報/4・28『PRIDE.20』横アリ大会
●直前情報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、黒崎健時インタビュー、ガオラン・カウイチットとは何者か？
●これからどうなる？ K-1vsPRIDE/セーム・シュルト、武蔵インタビュー
●SRS・DXの注目/5・11パンクラス直前情報…DDT橋本友彦インタビュー、ノゲイラ兄弟＆マリオ・スペーヒーvsターザン山本対談
●大会レポート/4・21J-NETWORK後楽園大会、4・25木口道場下北沢大会、4・21極真全アジア空手選手権大会

**《6・13&6・27 合併号 71号》**

●特集/2002年マット界上半期総括座談会
●完全詳報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、初代王者アルバート・クラウスインタビュー、黒崎健時インタビュー
●直前情報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会…ボブ・サップ、中迫剛インタビュー
●GW前後の大会大特集/5・10『UFC37』ルイジアナ大会、5・11パンクラス大阪大会、5・2プロ柔術『GI-um』、5・5修斗後楽園大会、5・6プレミアム・チャレンジ、5・6スマックガール&5・4AX、5・13 SB大阪大会、5・5北斗旗仙台大会、4・28 MAキック後楽園大会、5・4全日本キック下北沢大会、5・12ニュージャパンキック後楽園大会、4・29女子ボクシング下北沢大会

**《7・11 臨時増刊号 72号》**

●大会速報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会
●6・23『PRIDE.21』直前情報/桜庭和志インタビュー、大山峻護インタビュー
●大会詳報/5・25『K-1 WORLD GP 2002 inパリ』
●SRS・DXの注目/6・8～9極真全日本ウェイト制選手権大会プレビュー、6・17 J-DO東京進出、東孝 大道塾塾長インタビュー、7・7 S-cup直前情報…緒形健一の総合特訓に密着
●大会レポート/5・26新日本キック後楽園大会、5・28パンクラス後楽園大会、6・1スマックガール、5・31～6・2全日本ブラジリアン柔術選手権、5・30全日本キック後楽園大会

**《7・11 73号》**

●完全速報/6・23『PRIDE.21』さいたまスーパーアリーナ大会
●SRS・DXの注目/須藤元気インタビュー、BCGがパワーアップ！、シーザー武志インタビュー
●大会詳報/6・8～9極真全日本ウェイト制大会、6・9 DEEP2001ディファ有明大会
●大会レポート/6・13～14全日本選抜レスリング選手権大会、6・17 J-DO第1回東京大会、6・16全日本キック後楽園大会、6・16 IKUSA&6・9 ANGEL TORNADO

**《7・25 74号》**

●夏のイベント情報/8・28『Dynamite!』…桜庭和志vsターザン山本対談、吉田秀彦道場開き、石井和義インタビュー/8・8UFO東京ドーム大会、G1予想
●SRS・DXの注目/マット・ヒューム&シュルトセミナーinBCGほか
●6・23『プライド21』振り返り企画/田村潔司インタビュー、ターザン山本vsロシアン・トップ・チーム対談、ダニエル・グレイシーインタビュー
●7・14 K-1福岡大会直前情報/アイブル、セフォーインタビュー
●大会詳報/6・29修斗大阪大会、7・7S-cup横浜大会
●大会レポート/6・23 UFC37.5、7・7 ZERO-ONE両国大会 ほか

**《8・8 75号》**

●夏のイベント最新情報/8・28『Dynamite!』国立競技場大会…吉田秀彦インタビュー、ホイスインタビュー、"伝説の他流試合"木村政彦vsエリオ・グレイシーを検証/8・8UFO『LEGEND』東京ドーム大会情報
●大会詳報/7・14『K-1 WORLD GP 2002 in福岡』、8・17『K-1 WORLD GP 2002 inラスベガス』対戦カード情報
●SRS・DXの注目/8・10『一撃』特集…フィリォインタビュー、ロイドの師匠トム・ハーリックインタビュー/9・7『DEEP2001』有明コロシアム大会最新情報
●大会詳報/7・13 UFC38ロンドン大会、7・19大道塾『THE WARS 6』後楽園大会、7・21全日本キック後楽園大会
●大会レポート/7・5 WFAラスベガス大会、7・12 J-NET後楽園大会、7・14ニュージャパンキック後楽園大会、7・19修斗後楽園大会、7・20 THE BESTディファ有明大会

**《8・22 76号》**

●夏のイベント最新情報/真夏のプロ格興行戦争を説くためのキーワードとは？ 8・28『Dynamite!』国立競技場編/8・8 UFO『LEGEND』東京ドーム編/8月、プロレス界編、小林まことvs吉田秀彦、桜庭のハイキック特訓を潜入取材、プロレス者の夏休みの課題＝I編集長＆ターザン山本を読もう！
●SRS・DXの注目！/9・7 DEEP有明大会最新情報 田村潔司、美濃輪育久インタビュー、/真夏の極真ニュース/8・25 SB大阪大会情報/柔圭vs小松魔裟夫対談/小林聡インタビュー
●特集/9・22 K-1ジャパンGP決勝戦 武蔵、中迫剛、富平辰文、天田ヒロミインタビュー
●大会レポート/7・28パンクラス、7・27新日本キック

**《9・12&26合併号 77号》**

●いざ、国立10万人の祭典 8・28『Dynamite!』最終情報/桜庭和志インタビュー/決戦直前！ 吉田秀彦vsホイス・グレイシー、ホイス来日会見、吉田秀彦、準備OK！/ボブ・サップ インタビュー/ドン・フライ インタビュー
●大会詳報/8・8 UFO『LEGEND』東京ドーム大会&8・10『一撃』NK大会
●特集/9・22 K-1ジャパンGP決勝戦（後編）野地竜太、ノブ・ハヤシ、大石亨
●最新情報/8・25 パンクラス、9・7 DEEP有明大会、9・16 修斗 横浜文体大会
●大会速報/8・17 K-1ワールドGPラスベガス大会
●SRS・DXの注目！/ターザンが斬る、今年のG1とは？

**バックナンバー 通信販売方法**

定価／各680円 送料／1冊＝110円、以下一冊増えるごとに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-14-12 神田NSビル8F 『SRS・DX バックナンバー係』まで お問い合わせは ☎03-3295-4445

---

激動の"夏"終了！ マット界も2学期突入だあ！

次号予告 NEXT ISSUE

直前情報
# 9・29 PRIDE.22 名古屋大会
# 好カード勢揃い！

アンドレイ・コピィロフvsマリオ・スペーヒー
大山峻護 vsハイアン・グレイシー

大会速報
## 9・22 K-1 JAPAN GP 決勝戦
優勝候補筆頭はやはり武蔵、しかし……
## 波乱の予感！

大会詳報
9・7 DEEP有明大会
9・16 修斗横浜文化体育館大会

SRS・DX スペシャル・リング・サイド

9/26（木）発売！

2002 10/10号 No.79

毎月第2・第4木曜日発売 定価680円 発行/フジテレビ出版・ローブ 発売/扶桑社

次号は、通常どおり第4木曜日

# 浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.asakusakid.com

## 9・7『DEEP』で注目の対決! セコンド王・髙阪のセコンドは誰?

**博士** これ書いている時点でどうなってるか分からないけど、『Dynamite!』はどうだったんだろうか?

**玉袋** まさか猪木様が空から降ってくるとは思わなかったですよ!

**博士** 神様が降ってきたようなもんだからな。

**玉袋** まさか隣の神宮球場に着地するとは!

**博士** してないよ!

**玉袋** 猪木が降りてきた代わりに、エリオが昇天したのも驚きましたよ!

**博士** 勝手に殺すな!

**玉袋** 聖火ランナーも良かった!

**博士** 見てないくせに勝手に書くな!

**玉袋** エリオは自分を焼いちゃうとは!

**博士** 焼いてないよ! だからエリオはまだまだ元気だろ!

**玉袋** ターザンまで登場してましたよ!

**博士** あれが一番のダイナマイッ!だったな。

**玉袋** しかし、全カード決定が大会2日前!

**博士** そこまで客を満足させるための必死さが伝わったよ!

**玉袋** フライと闘うはずだった選手がマーク・ハントからジェロム・レ・バンナになるとは!

**博士** こっちのほうがダイナマイッ!!だよ。

**玉袋** バンナは当日日本に入って闘うんだから凄いですよ!

**博士** このイベントを成功させたいと協力する姿は浪花節プンプンだ! そして一度は対戦相手が決まったシウバの相手も変わった。

**玉袋** シウバはタクシー代を払ってましたよ!

**博士** ホテトルのチェンジじゃないんだよ! シウバの対戦相手に名乗りを上げた日本人選手が3人いたそうだ。

**玉袋** 羽柴誠三秀吉、長谷川敬子、中川陽三……。

**博士** 長野県の田中康夫の対立候補だろ! 大山峻護、岩崎達也、そして驚いたのが、正道会館で「金ちゃん」で親しまれた金泰泳!

**玉袋** 現役を遠ざかっても、『Dynamite!』のために手を上げる侠気に感動ですよ!

**博士** 奥さんと離婚してでも出るとまで覚悟したらしいもんな!

**玉袋** こういったいい裏話も『Dynamite!』を観る者に火を点けてくれましたよ!

**博士** でも、その反面、実際このシウバとの対戦にプロレスラーが手を上げなかった悲しい現実もあるんだよ!

**玉袋** う~ん、プロレスファンとしてはトホホですよ!

**博士** とにかく出場して、勝ち負けなんて後からついてくるんだよ!

**玉袋** 勝ったらスターになるし、負けても、そこから物語が生まれるのにね。

**博士** 今の『プライド』や今回の『Dynamite!』はそれっきりじゃなく、その踏み出した選手に、壮大な物語性を提供してくれるのにね。

**玉袋** 髙田延彦はヒクソンに負けたけど、そこから得たもの、そして髙田延彦というレスラーとして、もの凄い厚みをつけたんですよ!

**博士** それと同じことをなぜ、プロレスラーは気が付かなかったんだろうかね。そして夏休み明け格闘技の新学期、9月7日の有明コロシアム『DEEP』が大注目だ! カードのパッと見は、リングスとパンクラスとUインターの合同興行みたいだよ。

**玉袋** ここに、鈴木健社長の持ってきた現金1億円があれば文句ナシですよ!

**博士** 幻の1億円トーナメントの話は蒸し返すなよ! でも佐伯代表は凄い! 総合系から、U系、ルチャ、インディーまで今回もモアDEEPな面子が揃ってる!

**玉袋** 全女のミゼット系、リトル・フランキーさんまで参戦だからね。

**博士** ウソつけ! フランキーさんはお亡くなりになっただろ!

**玉袋** 天国から必殺「真空投げ」で選手を投げ飛ばしますよ。

**博士** 安らかに眠ってくれていいよ!

**玉袋** まあ今回の大会、いくらDEEPとは言っても、風間ルミのヘアヌードに興奮する輩のディープ度にはかないませんけど。

**博士** あのヌードのディープ度とまともに争えるわけねーだろ! ほっとけよ!

**玉袋** しかし、よく旦那さんも自分の女房のヌード写真を許しましたよね?

**博士** ちょっと待て、風間ルミは独身じゃないのか?

**玉袋** いえ、既婚してますよ!

**博士** それは驚いた!

**玉袋** いや~旦那としてたいした度量ですよ神取忍は。

**博士** なんで神取が男になってるんだよ! あの2人は夫婦じゃないよ! しかしDEEPだな本当に。

**玉袋** そしてドス・カラスJr VS 中野巽耀ですよぉ? 言ってみりゃメキシコのテキーラと日本の焼酎のチャンポンみたいなもんですよ。

**博士** 思いっきり悪酔いしそうだもんな。中野はあのヤーブロー戦以来じつに4年ぶりの「ガチ」!

**玉袋** ある意味、オーちゃん以上にガチ説得が難しい選手と言われてますからね。

**博士** 中野は単純に今まで話が来なかっただけだろ! 流浪の戦士、リングス勢も多数参戦。髙阪、田村、上山、滑川……。

**玉袋** 臼田まで出てますからね。

**博士** 臼田まで元リングスに入れるのかよ、マニアックだな! 滑川は前回、和田レフェリーに勝利したMAX宮沢と対決。

**玉袋** この試合、裁くレフェリーは和田さんらしいです。

**博士** ウソつけ! サッカーW杯以上に不正が起きそうだろ! 横井といい滑川といい、リングス最後の遺伝子組は、せっかく伸び盛りなのに試合の機会がなかなかなくて大変だよ。

**玉袋** 本当、こういう機会を大事に頑張ってほしいですよ。

**博士** 第1試合に目を向けると、U-FILEの大久保一樹と対戦するのが、一宮章一だ。

**玉袋** 一宮といえば、IWAジャパンであのゴージャス松野さんと対立してた男ですよ!

**博士** 最近では、『Dynamite!』の煽り特番で、吉田とスパーリングしていたことで、ガチファンを戦慄せしめた男だ。こうなったら、早くも松野さんは大久保と共闘宣言だ。

**玉袋** 大久保は松野さん直伝の「軟骨ねじり」で一宮を一蹴ですよ!

**博士** そんな技、沢田亜矢子には効いても、一宮には効くかよ! このカードが果たしてゴージャスなのかどうかは理解に苦しむが。

**玉袋** ゴージャスっていうより、ボーナストラックみたいなもんですよ。

**博士** それじゃ完全におまけだろ! 失礼だよ! そしてあのノゲイラの双児の弟、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラが髙阪と対戦。

**玉袋** 当日はまた双児作戦でお兄さんが出てくる可能性がありますよ!

**博士** 出てくるわけないだろ! 国立で吉田秀彦のセコンドに付いた髙阪が自分の試合では何を見せてくれるか!

**玉袋** 髙阪は自分の試合にもセコンドに付くってくらいセコンド好きですからね。

**博士** どうやって付くんだよ! それだけみんなに信頼されてるってことだろ!

**玉袋** 見てる俺たちも髙阪がセコンドに付いてると安心するんですよね!

**博士** 吉田に続くのか、吉田の敵を取るのか分からないが、ブラジルVS日本の2大決戦を見逃すな! そして大注目なのが田村潔司VS美濃輪育久の一戦!

**玉袋** 「Uの直系遺伝子」VS「Uの隔世遺伝子」ですよ。

**博士** U-FILEの大久保が昨年12月に美濃輪に負けてることを考えても、田村は負けられない。

**玉袋** 田村が負けたら、あとはU-FILEには御大・府川唯未しか残ってませんからね。

**博士** 府川は単なるU-FILEのインストラクターだろ! 彼女にどんな幻想があるんだよ! 逆に田村が勝つとなると、じゃあパンクラスは「次は誰だ?」ってことになるから興味は尽きない。やはり近藤か?

**玉袋** 楽しみだな~パンクラスとの夢のカードが広がるよ! ルッテンVS成瀬、鈴木みのるVS佐々木健介……。

**博士** おまえはやっぱり新日見てろ! ■

噂の三面記事

# 『Dynamite!』の次もビッグイベント目白押し!

豪華☆純K-1、そしてPRIDE VS K-1も続く……

9月22日◎大阪城ホール
K-1ジャパンGPシリーズ（日本テレビ）
**『K-1 ANDY SPIRITS 2002 ～JAPAN GP 決勝戦～』**
※K-1日本一が決まる!

9月29日◎名古屋レインボーホール
PRIDEシリーズ（フジテレビ）
**『PRIDE.22』**
※K-1ファイターも出陣か?

10月5日◎さいたまスーパーアリーナ
K-1ワールドGPシリーズ（フジテレビ）
**『K-1 WORLD GP 2002 開幕戦』**
※豪華14名のファイターによるオールスター戦

10月11日◎有明コロシアム
K-1中量級シリーズ（TBS）
**『K-1 WORLD MAX 2002』**
※K-1中量級のベストメンバーによるスーパーファイト戦

さあ『Dynamite！』が終わってからも格闘技界はビッグイベントが目白押し！　中でもK－1はジャパン、ワールド、中量級とまさに純K－1天王山決戦のオンパレード！　ますますドラマはクライマックスに近づいていく。そんな注目の各イベントにどんなカードが飛び出すかを占ってみる。

崖っぷち

# K―1ジャパンGP、ニコラスの代役は韓国テコンドー？

# 『負ければ引退？』のベル出陣！ 見てみたいサップVSアビディ！

8・28『Dynamite!』が終わっても、プロレス界は8・29新日本、8・30～31全日本武道館と3連戦が続くが、格闘技界でも9月以降、さらにビッグイベントは続いていく。

9・7『DEEP』は85ページからの最終情報でご覧いただくとして、9月以降イベントラッシュが続くのがK―1だ。

まず9月22日、大阪城ホールでK―1日本一を決めるK―1ジャパンGP決勝トーナメントが開催される。当初、今年のK―1ジャパンGPのテーマは、〝打倒・ニコラス！〟〝打倒・極真！〟だった。ところが、ジャパン王者のニコラスは、先の6・2K―1ジャパン富山大会のセルゲイ・グール戦で右スネを骨折。今年のジャパンGP決勝大会を断念せざるを得ない状況に陥ってしまった。

現在、ジャパンの出場メンバーで決まっているのは、①武蔵、②中迫剛、③天田ヒロミ、④ノブ・ハヤシ、⑤大石亨、⑥富平辰文、⑦野地竜太の7名。残りの1枠は、日本人の大物打撃格闘家、韓国テコンドー選手、中国武術・散打選手の中から候補者がリストアップされ、現在検討中。9月1日に大阪でトーナメント組み合わせ抽選会が行われるというから、本誌の今号が発売される頃には決まっているだろう。

ニコラス欠場に伴い、やはり本命は武蔵。しかし、他の出場選手も僅差で武蔵に肉迫しており、実力はほぼ一線。その意味で、今年ほど誰が優勝するか分からない大会はないだろう。その中で、経験不足とはいえ、極真の野地が勝ち上がってくれば、面白い大会になる。本誌は野地の活躍に期待したい。

また、9・22K―1ジャパンは『アンディ・スピリット』と銘打ち、スーパーファイトが数試合組まれる。その出場予定選手になっているのが、マイク・ベルナルド、シリル・アビディと、『プライド』で活躍するトム・エリクソンとボブ・サップの4人だ。

ベルナルドは先の8・17K―1ラスベガス大会で、『プライド』の剛腕ファイター、ゲーリー・グッドリッジに、まさかまさかの1RKO負け。これにより、4年連続で東京ドームでのGP決勝大会に出られなくなったばかりか、10・5開幕戦の出場権さえ失ってしまった。

そのため、ベルナルドとしては、まさに引退を賭けて今回のスーパーファイトに出場することになる。対戦相手としては、ゲーリー・グッドリッジのスパーリング・パートナーで、K―1ラスベガス大会でホーストと対戦することが濃厚だったエリクソンになりそうだ（エリクソンは年齢が38歳で、ネバダ州アスレティックコミッションの認可が下りなかったため、ラスベガス大会に出られなかった）。まさにベルナルドとしては背水の陣。これが最後の大会となるか？ ベルのアンディ魂をとくと見よ！

また、〝暴走ゴリラ〟ボブ・サップのK―1出陣も決定的。8・28ノゲイラ戦の結果次第となるが、アビディが出場予定選手に挙がっているのなら、ぜひサップVSアビディの対決が見てみたい。果たして、アビディのケンカ魂は60キロの体重差がある怪物に通用するかどうか？ このカードが実現すれば、テレビ・ゲームのような対決となるだろう。

K―1ジャパンGPとスーパーファイトの豪華2本立て。ぜひ、今年最後のジャパンシリーズを見逃すな！■

**スーパーファイト出場予定選手**

トム・エリクソン
〈アメリカ／ｒAwチーム〉

マイク・ベルナルド
〈南アフリカ／スティーブズ・ジム〉

シリル・アビディ
〈フランス／ロメロ・ボクシングジム〉

ボブ・サップ
〈アメリカ／モーリス・スミス・キックボクシング・ジム〉

▲会場となる大阪城ホール。今年唯一のK－1大阪大会であり、ジャパン・シリーズにとっては初の大阪上陸となる

豪華絢爛

### こんなに贅沢なスーパーファイト戦が一日で見られるなんて！

# 完売必至のサバイバルGP開幕戦 全7試合がまさにメインイベント！

9・22K—1ジャパンGP決勝戦で日本代表1名が決定すれば、あとは12・7東京ドームで行われる今年のK—1ワールドGP決勝大会に出場できる枠は残り7名。その最終戦が、10・5さいたまスーパーアリーナで、『K—1ワールドGP2002開幕戦』として行われる。

その開幕戦では14名の選手が、7試合のスーパーファイトを行い、勝ったほうが東京ドーム行きのキップを手にするというシステム。つまり、K—1の14名のオールスターが開幕戦に集結するというのだから、さいたまスーパーアリーナの2万5千席は完売必至となるだろう。『プライド』との対抗戦や、ミルコVSハント、バンナVSハントの純K—1のど迫力ファイトで、今のK—1にはそれほどまでに勢いがあるのは間違いない。

そんな開幕戦の出場予定選手だが、昨年のベスト8ファイターからジャパン王者ニコラスを抜いた7名は自動的に繰り上がり。①ハント、②フィリォ、③イグナショフ、④レコ、⑤バンナ、⑥アーツ、⑦ホーストの7名はすでに出場権を得ている。それに世界地区予選の優勝者を集めたトーナメント（8・17ラスベガス大会）で優勝した⑧マクドナルドは当確である。

では、残りの6名をどうやって選ぶかというと、そこで参考にされるのが、7・14福岡大会と8・17ラスベガス大会のスーパーファイト戦の結果である。

まず、7・14福岡大会で『プライド』のアイブルをKOした⑨セフォー、そしてボンヤスキーをKOした⑩ミルコ、グラウベをKOした⑪ホルムの出場権獲得はほぼ決定的。この3人は、まだ今年のK—1イベントで一度も負けを喫していないのも理由だ。

また、8・17ラスベガス大会でベルナルドをKOした⑫グッドリッジも『プライド』ファイター初の開幕戦出場となる。グッドリッジの参戦は、新鮮であり、誰がK—1の敵を討つのか見ものである。

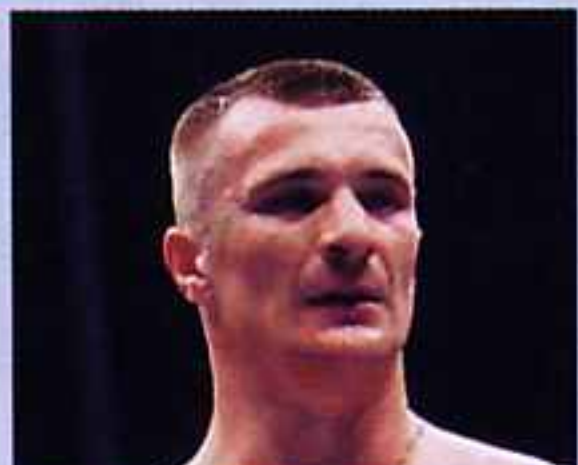
この12名の出場はほぼ間違いないとして、残り2名の候補に挙がっているのが、4・21K—1ジャパン広島大会で、武蔵を破った⑬大巨人シュルトと7・14K—1福岡大会でアビディをKOした⑭ランペイジ・ジャクソンだ。この2人もまた出場資格は十分あると言えるだろう。中でも、シュルトは出場に意欲的。ジャクソンが出るかどうかはまだ未定だ。

それにしても、これだけのオールスターが集結すれば、全ての試合がメインイベント級になる。ベスト8同士の潰し合い、リベンジ戦、そしてK—1VS『プライド』の他流試合と、テーマも盛りだくさんな大会となりそうだ。

まさに昨年のK—1王者であるハントでさえ、東京ドームに行けるかどうかのサバイバル戦。常連のベスト8ファイターに勝ち進んでもらいたい気持ちはあるが、必ず誰か大物選手が波乱の敗退を喫してしまうところがK—1の面白いところ。昨年のハントのように、後半一気に頭角を現す超新星の登場にも期待したい。

正直言って、今のK—1は他流試合をやるようになって新しいタイプのトップ選手が人気を呼んでいるし、新旧世代交代は猛スピードで進んでいる。果たして、K—1の女神は誰に微笑むのか？　また、勝つのは20代の新世代軍なのか、それともやっぱりホーストが一番強いのか？　本番まであと1カ月。その答えが10・5さいたま開幕戦で決定する！■

◀K-1ワールドGPシリーズ初の進出となる、さいたまスーパーアリーナ。これだけの豪華オールスターが揃えば完売必至だ

## K−1 WORLD GP開幕戦 出場予定選手

- マーク・ハント 〈ニュージーランド／リバプール・キックボクシングジム〉
- ミルコ・クロコップ 〈クロアチア／クロコップ・スクワッドジム〉
- ジェロム・レ・バンナ 〈フランス／ボーアボエル&トサジム〉
- アーネスト・ホースト 〈オランダ／ヨハン・ボスジム〉
- フランシスコ・フィリォ 〈ブラジル／極真会館〉
- ステファン・レコ 〈ドイツ／ゴールデン・グローリー〉
- ピーター・アーツ 〈オランダ／メジロジム〉
- レイ・セフォー 〈ニュージーランド／アメリカンプレゼンツ・ボクシングジム〉
- マイケル・マクドナルド 〈アメリカ／チーム・アンディ〉
- ゲーリー・グッドリッジ 〈トリニダード・トバゴ／フリー〉
- マーティン・ホルム 〈スウェーデン／ヴァレンテュナ・ボクシング・キャンプ〉
- アレクセイ・イグナショフ 〈ベラルーシ／チヌックジム〉

ゴールデン

## 今年一番、格闘技界に新風を巻き起こしたK―1中量級が再び！

# 王者クラウスの相手は魔裟斗か、コヒか？今度はワンマッチで完全決着へ！

全ての闘いが12・7東京ドームの『K―1ワールドGP決勝戦』につながるのが、9・22K―1ジャパンGPと10・5K―1ワールドGP開幕戦ならば、まったく新しいファンを開拓しているのがK―1中量級シリーズ『ワールドMAX』だ。

はっきり言って、今年一番成功した格闘技の新ソフトがこのK―1中量級シリーズ。魔裟斗は一躍メジャー入りしたし、小比類巻貴之のストイックな生き方も一般世間を驚かせた。魔裟斗と小比類巻は今年デビューした新人ではないが、間違いなくマット界で一番急激にスターとなった成功者である（外国人ではボブ・サップか？）。

そんなK―1中量級人気に気をよくしたTBSも、同シリーズは今後毎回ゴールデンタイムで放送して大切に育てていく方針だ。これにより、K―1はフジテレビ、日本テレビに続き、TBSでもゴールデンタイム放送を制覇したことになる。また、ヘビー級のK―1と比べて中量級は、魔裟斗と小比類巻が新しいファン層を獲得しているところがいい。つまり、K―1のイベントが立て続けに行われても、ファンは意外にバッティングしていないのだ。

それにしても、『K―1ワールドMAX』の出現により、再び中量級にスポットが当てられるようになった立ち技格闘技界。TBSにとっても、沢村忠全盛のキックボクシング以来のソフトとして期待している。

そこで気になるのが、他のキックボクシング団体の選手の動向である。あれだけK―1の中量級が輝いたことで、分裂を繰り返してきたキックボクシング多団体時代がどう変化するのか？ そのへんが今後気になるところだ。

K―1ワールドMAXの日本代表決定戦には、全日本キックの新田明臣やシュートボクシングで活躍する後藤龍治が出場。しかし、この階級はまだまだ人材豊富で、新日本キックの武田幸三やシュートボクシングの土井広之らがいる。このあたりの選手がK―1中量級に出場すれば、さらに黄金時代を築くことになるだろう。また、この階級はボクシング界からも日本人の大物が参戦する可能性を秘めているところが面白い。

そんな楽しみなK―1中量級だが、10・11有明コロシアムで今年3回目の『K―1ワールドMAX』が開催される。TBSでは19時からのゴールデンタイム放送を検討しているが、前回がトーナメントで世界一決定戦を行ったのに対し、今回はワンマッチで完全決着をつける闘いが展開される。

初代K―1中量級世界王者アルバート・クラウスと対決するのは、魔裟斗か、小比類巻か？ また、K―1はキックボクシングではなく、その根底には他流試合の思想が流れているため、プロレスラー村浜武洋や総合ファイター須藤元気も早くも名乗りを挙げており、彼らによって異種格闘技戦の空間が作られそうだ。

もちろん、5月に行われた『K―1ワールドMAX』世界大会の出場者は全て参戦候補。ムエタイ、中国武術、韓国テコンドー、総合系ファイターと多種多様な選手が出場する。また、シュートボクセやS―cup出場者も参戦リストに名を連ねており、どんなマッチメイクが組まれるのか興味深い。格闘家に休みなし！――10・11中量級を見逃すな！ ■

◀今回の中量級ワンマッチは、K―1としては久々の有明コロシアムに進出。若い客層で盛り上がりそうだ

### K－1 WORLD MAX 出場予定選手

- 魔裟斗〈シルバーウルフ〉
- アルバート・クラウス〈オランダ／リンホージム〉
- 小比類巻貴之〈黒崎道場〉
- マリノ・デフローリン〈スイス／チーム・アンディ〉
- 村浜武洋〈大阪プロレス〉
- 須藤元気〈ビバリーヒルズ柔術クラブ〉
- ジャン・ジャポー〈中国／中国武術協会〉
- チャンプアッグ・ウィラサクレック〈タイ／ウィラサクレック・ジム〉
- 小次郎〈ウィラサクレック・ジム〉
- シェイン・チャップマン〈オーストラリア／フィリップ・ラム・リーガー・ジム〉

## 優勝候補

# DSEのお膝元、名古屋に久々の上陸！
# 『Dynamite!』明けにメイン決定！
# 大山VSハイアン、旧リングス対決決定！
# 桜庭、シウバの登場はあるのか？

8・28『Dynamite!』が終わり、『プライド』のほうも新たなドラマが展開される。『プライド』の場合、11・23東京ドーム大会を控えており、国立競技場大会と東京ドーム大会の2大ビッグイベントの間に入って行われるドラマ作りの大会が、9・29『プライド22』名古屋大会と言える。

『プライド』を主催するDSEの森下直人社長は、もともと名古屋出身のビジネスマン。そのスタッフの多くが名古屋出身ということもあり、名古屋はある意味DSEのお膝元。久々の開催ということもあって、地元の東海テレビと協力し合って力の入った大会になるだろう。なにせ東海テレビは、ずっと『プライド王』というレギュラー番組を放送するだけでなく『THE BEST』まで中継してきた局である。

そんな『プライド22』だが、本誌の締め切り時点で発表されているのが2カード。大山峻護VSハイアン・グレイシー、アンドレイ・コピィロフVSマリオ・スペーヒーの対決がすでに決定している。

大山は『プライド21』でヘンゾ・グレイシーに判定勝ちし、『プライド』初白星を挙げたが、その消極的なファイトが試合後に物議を醸した。本人もそのことは十分感じており、弟ハイアンから今度こそすっきりとした勝利をものにしたいところだろう。一方、ハイアンにとっては、この一戦は兄の敵討ちとなる。

また、前回の『プライド21』でロシアの怪物ヒョードルがオランダの大巨人セーム・シュルトに勝って衝撃のデビューを果たしたが、そのロシア軍の大将格であるコピィロフが初参戦してくる。対戦相手はブラジリアン・トップチームの大将格マリオ・スペーヒーだ。

つまり、この対決は旧リングス同士の対決であり、ロシアン・トップチームとブラジリアン・トップチームのリーダー対決でもある。また、ヒョードルがコマンド・サンボ出身と言いながら、その闘いが柔道と強烈な打撃をベースにしているのに対し、コピィロフは正真正銘のコマンド・サンボのテクニックを駆使する。『プライド』でサンボの技術が通用するかどうか注目の一戦となるはずだ。

また、これまでダン・ヘンダーソン、ノゲイラ、ヒョードルと旧リングス勢が『プライド』で大活躍しているが、コピィロフほど前田日明リングスの影を感じる選手はいない。その意味で、キャラクター抜群のコピィロフのなんでも有りに期待したいところである。

今のところ発表されているのはこの2カードだが、『プライド22』では、小路晃やアレクサンダー大塚、山本尚憲など、再起を賭けた日本人ファイターが多数出場する予定。そうなれば、エース桜庭和志の出場に期待したいところだが、こればかりは8・28『Dynamite!』のミルコ戦の結果次第だろう。

しかし、その桜庭を破って現ミドル級王者に君臨するヴァンダレイ・シウバの参戦はほぼ決定的。当初、シウバは1週間前のK—1ジャパンでK—1勢と他流試合を行うプランもあったが、最適な相手がなかなかいないため、『プライド22』で純『プライド』試合を行いそうだ。いずれにせよ、『Dynamite!』以降にカードは一気に決まっていく予定。果たして、桜庭やシウバといった大物の参戦はあるのか？ 期待したい！■

◀約2年ぶりの名古屋大会となる『プライド22』。会場はレインボーホールだ

### PRIDE.22 決定カード

大山峻護〈フリー〉 VS ハイアン・グレイシー〈ブラジル／ハイアン・グレイシーアカデミー〉

アンドレイ・コピィロフ〈ロシア／ロシアン・トップチーム〉 VS マリオ・スペーヒー〈ブラジル／ブラジリアン・トップチーム〉

ヴァンダレイ・シウバ〈ブラジル／シュートボクセ〉

桜庭和志〈高田道場〉

# 渋谷、崖っ縁で大変身！

## タイ修行で打撃開眼、下馬評を覆し郷野とドロー

★第6試合・メインイベント/ライトヘビー級5分3R
△郷野聡寛（3R判定0-0、ドロー）渋谷修身△
〈パンクラスGRABAKA〉　〈パンクラスism〉
※採点…30-30、30-30、30-30

撮影◎糸井孝康

昨年から今年にかけてのパンクラスで、最も精彩を欠いていたのが渋谷修身だった。ヘビー級王者決定トーナメントでは準決勝で藤井克久に敗退。グラバカとの対抗戦では佐々木有生の十字でタップし、さらにグラバカの若手・石川英司にも判定負け……。

勝った試合もあるにはあるのだが、どうにも印象が薄い。負けた試合ばかりが思い出されてしまう。というのも、負けっぷりがあまりにも悪かった。寝技になると、まるでどうしていいか分からないといった感じなのだ。とりあえず抑え込むことばかりに腐心して、そこから先の展開が一向に見えてこない。まして下になったら、もうお手上げである。

かつては國奥麒樹真、近藤有己と並んで次代を担う存在と目されていた渋谷。その肉体の強さとしっかりしたレスリングテクニックはグラバカからも評価されていたのだが、完全に取り残された状態になってしまっていた。

「自分でもちょっと行き詰まってるっていうのがあって。練習してもなんかうまくいかないんですよね」

「ちょっともう『ダメかな』と考えてたところもあるし」

渋谷自身、相当な危機感を抱いていたのだ。そんな時に命じられたのがタイ修行。6月8日からの1カ月、渋谷はパンクラスと提携するイングラムジムでムエタイ漬けの生活を送った。

そして今回の郷野聡寛戦。下馬評から言えば、渋谷は圧倒的に不利だった。

「タイで変わってこなかったら、

▶これがタイ修行の成果。ミドルやハイをどんどん出していく渋谷からは、試合に対する自信がうかがえた

## 渋谷のコメント

「今日はけっこうコンディションも良くて、冷静に闘えたんですけど、その冷静さがアダになったっていうか。グラウンドで、向こうが一枚上なんじゃないかって苦手意識があって、なかなか、いいポジション取っても、そこから先に進めなかったですね。（立ち技が多かったのはタイ修行の影響？）タイの1カ月だけと取られるとアレなんですけど（笑）。でもほんと、タイ修行が心の中で凄い大きかったんで。作戦としても打撃でいこうっていうのはありましたね。（効いた攻撃は？）蹴りですね。けっこうローが、カットしててでも。パンチもけっこう入ってたんで。今後はやっぱり、一本かKOで勝っていかないと。上に行くには内容も結果も両方問われるんで」

# 渋谷がグラウンドで押している！

▲打撃戦は郷野も望むところ。いいパンチが入るシーンもたびたびあった

「相手の攻撃で効いたのはローキック」と渋谷。これで右足の蹴りがうまく使えなくなったという

▲グラウンドで押していたのは、なんと渋谷のほうだった。差し合いからテイクダウンを奪い、いいポジションで殴っていく

# 郷野は1Rで記憶が飛んでいた!?

◀フルラウンド闘って判定はドロー。立ち技で郷野、寝技で渋谷がやや有利といった感じで、このドローは妥当なところだろう

◀1Rにもらったパンチで、それ以降の記憶がないという郷野。大事を取って救急車で病院へ向かった。KOされても無理して立って会場を去る選手も多いが、場所が場所だけに万が一を考えるべき。担架で運ばれるのは決して恥ではない

▲打撃→差し合いという攻防が多かったこの試合。だがここから先がいつもの渋谷とは違った

▲何度か蹴り足をキャッチされた渋谷だが、テイクダウンを許さずに踏み止まる

オレの敵じゃない」

郷野はそう言っていたのだが、その予想は逆の意味で的中した。渋谷はタイで変わったのだ。

まずは立ち技。渋谷は鋭いミドルキックを放つ。その後も打撃を得意とする郷野と一進一退の蹴り合いを演じてみせた。組んでも一歩も退かない。差し合いで妥協せず、それどころか何度もテイクダウンを奪ったのは渋谷のほうだ。グラバカの副将格・郷野と堂々と渡り合う渋谷。長い時間ではなかったものの、グラウンドの展開に至っては渋谷が優勢だったのだから驚く。大変身だ。

渋谷の何が変わったかと言えば、迷いがないことだ。蹴りを打っていくその姿が、確信に満ちていた。タイでみっちり練習してきたのが大きいのだろう、「こうやれば間違いないんだ」という雰囲気なのだ。その迷いのなさは、組み技の攻防にも好影響をもたらした。

グラウンドに関しては「向こうが一枚上なんじゃないかって苦手意識があって、いいポジション取っても、そこから先に進めなかった」と渋谷は言うが、それにしてもこれまでとは格段の差だった。

試合後には、渋谷のパンチによって郷野の記憶が飛んでいたという事実も発覚。渋谷の打撃がそれだけ冴えていたという証拠だろう（郷野がグラウンドで思うように動けなかったのはそのためだ、とも取れるが）。結果はドローだったが、渋谷にとってはただのドローではなかった。

「もう、以前のオレじゃない」。そんな手応えだけは、しっかりと掴めたはずだからだ。

（橋本）

# 髙橋、勝ってコメント拒否！

## セコンド・藤田もビックリの純正ヘビー級に増量！されど、その肉体を操作しきれず

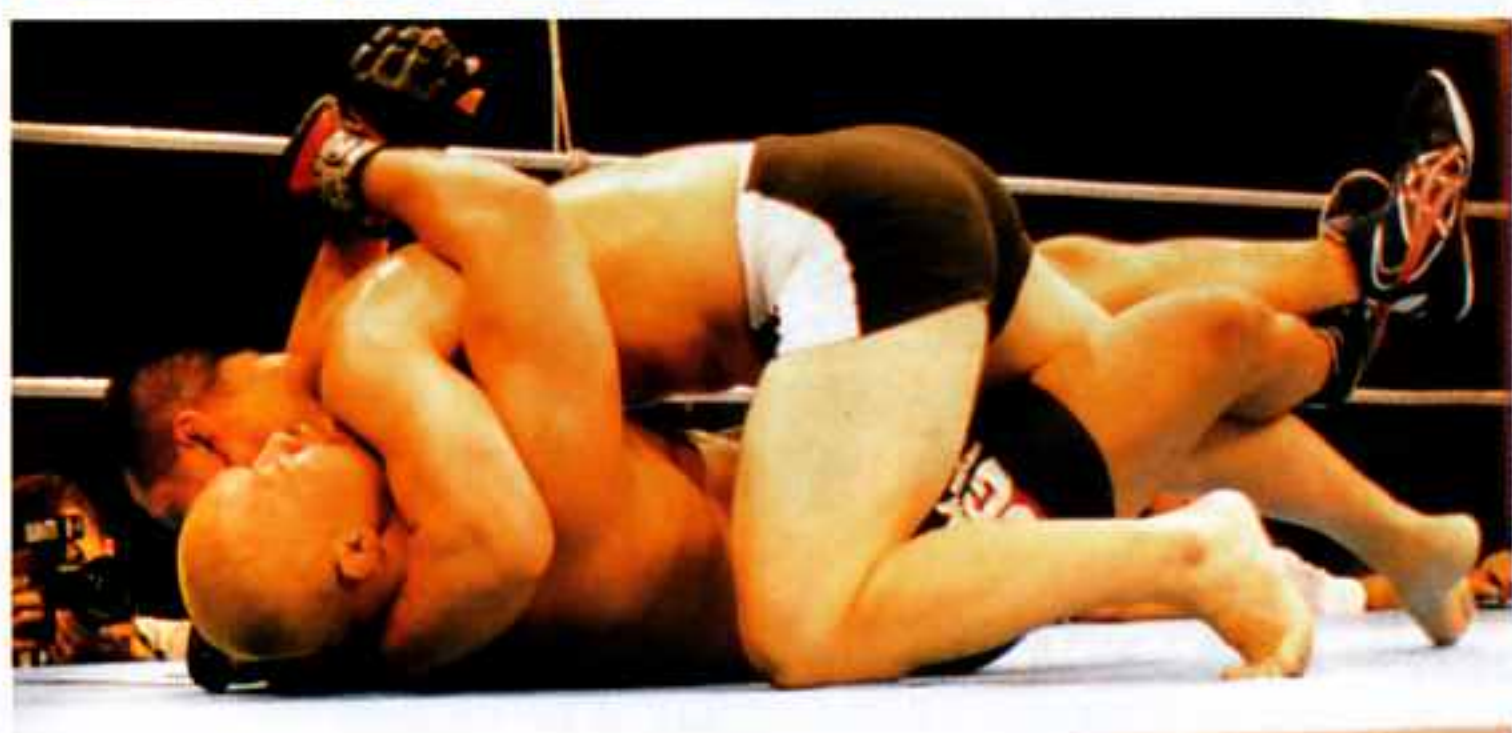
プロ２戦目の多田尾に微差の判定勝ち。試合後の髙橋の顔は、とてもじゃないが納得がいっているようには見えなかった

★第5試合/ヘビー級5分3R
○髙橋義生（3R判定2-0）多田尾秀樹●
〈パンクラスism〉〈RJW/CENTRAL〉
※採点…30-29、30-29、30-30

▲髙橋のセコンドには藤田和之が

▶ヘビー級のチャンピオンベルトを持って入場してきた髙橋。タイトルを獲得してから、これが初の試合となる

差し合いでコーナーを背負っても、余裕でしのいでいた髙橋だが……

▶得意のパンチも、増量のせいか迫力が増した感じだった

◀試合後半になると、テイクダウンを許してしまう。肉体と、それ以外のファクターのバランスが今後のテーマか

髙橋義生がリングに上がると、観客席はちょっとしたざわめきに包まれた。髙橋の身体が、以前とは見違えるようにデカくなっていたのだ。前回の試合（昨年12月）の体重が91・7キロ。そして今回はというと、なんと99・9キロ。ヘビー級のリミットいっぱいである。以前は「（参戦を希望する）UFCに出るなら、ライトヘビー級がいいのでは？」とも言われていたのだが、いまや純正ヘビー級の肉体へと変貌を遂げたのだ。髙橋はあくまでヘビー級にこだわりを持っているのである。

試合ぶりも、前半に関してはその〝肉圧〟が対戦相手の多田尾秀樹にとって脅威となっていた。振り回すパンチは重く、差し合いでもどっしりと構えて微動だにしない。髙橋の横綱相撲という感じ。

だが、後半になると様子が違ってくる。多田尾にテイクダウンを許し〝ドント・ムーブ〟の際にも、元のポジションを巡って「そこじゃねぇだろ、おまえ。何してんだよ」と声を荒げるなど、焦りが見え隠れしていた。

納得のいかない内容での判定勝ちに、試合後の髙橋はコメントを拒否。肉体改造の経緯、それが試合に100％出なかった理由など、聞きたいことはたくさんあったのだが……。

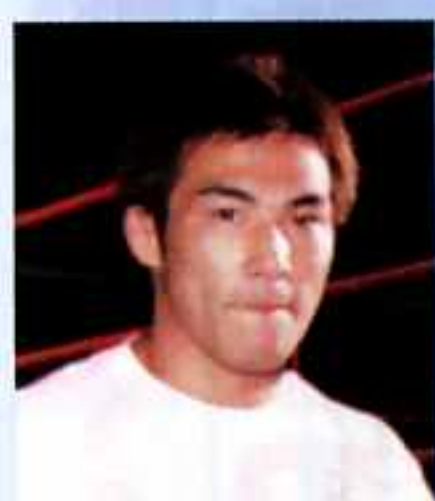
〝こんな試合じゃ、後で何を言っても言い訳になる〟ということなんだろう。だけど、そんなとこでカッコつけなくたっていいじゃないか。ファイターというのは、リングに上がって闘う、ただそれだけで普通の人間より全然カッコいいんだから。

（橋本）

# 一本勝ち男・佐々木、〝極め〟の暗黒面に落ちる

## 格下&階級も下の大石を攻めても攻めても……

初のキャッチレスリングでまさかのドロー。花道を引き上げる佐々木の表情は厳しかった

★第3試合/キャッチレスリング（5分1R）
△佐々木有生（判定1-0、ドロー）大石幸史△
〈パンクラスGRABAKA〉 〈パンクラスism〉
※採点…10-10、10-10、10-9（佐々木）

### 佐々木のコメント

「自分では面白いと思ってても、お客さんにはただ極めるんじゃなくて動いてたほうが面白いのかなって。相手も守るし、でも自分も極めきれなくて、１テンポずつズレてったって感じですね。どうしたもんですかねぇ……。５分の中でどうしても取りたいと思うと難しいですね。実際、腕もパンパンですし」

### 大石のコメント

「気持ちが途切れなかったです。スリーパーの時にあきらめないで、もっと悪い体勢になってもいいから返そうって。佐々木選手は、ismの道場でやってることをやれば、１Ｒならいけないこともないなっていう（笑）。でも下からとかスリーパーでキープする力が強かった。体重差は響きますけど、それを承知でやってれば関係ないです」

▲チョークから逃れて立ち上がった大石を、下からコントロールしようと試みる佐々木。「下からでも狙っていく」という試合前の宣言どおりの闘いぶりではあった

▶終始、主導権を握っていたのは佐々木だったが、判定は無情にもドロー。〝下から〟の採点基準の問題だろう

開始早々、片足タックルで大石を倒す佐々木。打撃なしでもスピーディーな動きは冴える

◀バックを取ってチョークを狙う。あるいは、ここでじっくりと相手を追い込んでいけば良かったのか

今大会はパンクラスゲート（フレッシュマンファイトのような、若手の登竜門的な試合）も含めた全8試合中、なんと6試合がドローに終わるというムチャクチャな興行だったのだが、中でも意外だったのは、佐々木有生の試合がドローとなったことだった。

初めてのキャッチレスリング（打撃なし）とはいえ、相手は格下、しかも階級も2つ下の大石幸史である。佐々木の勝利を疑う者はいなかっただろうし、佐々木自身も、結果は当然として内容が勝負。このルールでも観客を沸かせなければ、と思っていた。

序盤から佐々木はチャンスを作る。バックを奪ってスリーパーを狙っていく。大石も必死でディフェンスするが、極まるのは時間の問題と思われた。

だが、ここで佐々木は躊躇してしまったのかもしれない。〝このままじっくり狙えばチョークは取れる。でも、そんな動きのない展開でお客さんは喜ぶだろうか？〟と。しかも試合時間はたった5分しかないのだ。結局、大石に脱出を許し、そのまま大きなヤマ場を作れないまま試合終了。後半戦で下になっていたためか、判定もドローとなってしまった。

5分という時間の中で観客を沸かせ、しかも極めて勝つ。パンクラス参戦以降全ての勝利が一本勝ちという驚異的な戦績を残している佐々木にも、このテーマは厳しかったようだ。これが通常の5分3Rなら、それだけ極めるチャンスも増えたんだろうが。

試合後の佐々木は「難しいですね……」を連発していた。（橋本）

# 8試合中6試合がドロー！どうなってんだ、この大会？

▶〈第4試合〉ミドル級に転向した窪田幸生（パンクラスｉｓｍ）はＲＪＷの星野勇二と対戦。スタンドではパンチを食らい、グラウンドでもコントロールされる苦しい展開だったが、2R、星野にローブローの減点1があり、判定でドローに。『ＤＥＥＰ』では金的に泣いた窪田だったが、今回は金的に救われた形になった

▲〈第1試合〉1年ぶりのパンクラス登場となる吉信（四王塾）は今回がプロデビューの志田幹（P's LAB東京）とドロー。志田の攻撃を余裕のガードポジションでサバいていた吉信だったが、自分も攻めることができなかった

◀〈第2試合〉冨宅飛駈（パンクラスｉｓｍ）VS芹沢健一（ＲＪＷ）の一戦は、寝技で優る芹沢の勝利。最初は冨宅が攻め込んでいたものの、下からの巧みな動きで芹沢が挽回。最後は三角絞めの体勢から腕を捻る三角固めでタップを奪った（2R2分41秒）

◀プロへの登竜門、『パンクラスゲート』の2試合もドローに終わった（判定なし）。ライルーツコナン所属の松井健二のセコンドには、修斗で活躍する池本誠知がついていた

## 尾崎社長のコメント

## 『Dynamite!』からウチの選手に出場のオファーがあったんですが……

**尾崎**　（郷野は）試合終わって、控室に帰る時に、通路で菊田のほうから僕に話があって。郷野が、1R終わった時点から記憶がないと。ということなので、すぐドクターを呼んで診てもらって、話を郷野から聞いてもらったんですけど、試合の記憶がない、記憶が断片的だと。体のほうは、歩けるし大丈夫なんですけど、念のために救急車を呼んで病院で検査をするということです。今、菊田とも話をしたんですが、1Rの左ストレートしか頭部にはもらってないんで、その左ストレートではないかと。これは予想なんで分からないですけど。まあ大丈夫なんですが、念のために。

――試合はいかがでしたか？

**尾崎**　郷野がどうっていうより、渋谷が良かったですよね。

――かなり成長というか。

**尾崎**　しましたね。1R、自分からグラウンドに行こうとしなかったですもんね。打撃を、タイで1カ月やった何かを見せたかったと思うんですよね。

――8月の大会がこれで終わって、9月の横浜大会へ向けては何か？

**尾崎**　ちょっとケガ人を洗って（笑）。もう1回考えます。今日はまだないですね。

――どの階級でタイトルマッチをやるかとかは？

**尾崎**　タイトルマッチは、ええ、入れる予定です。何試合かはまだ分からないですけど。

――菊田選手はいかがですか？

**尾崎**　それはちょっとまだ、相談しないと。まずは今日の試合が終わってからということで。ＫＯ食らってるんでね、9月はまだちょっと早いかなと思うんですけど。

――菊田選手が出られないとなると、プロモーターとしては厳しいですね。

**尾崎**　しょうがないですよ。看板が出られないっていうのは、過去、何十回ってありますもん（笑）。8月8日に試合をする時点で、9月は出れないかもしれないっていうのは当然、頭にありますから。とにかく、出られる選手でいいカードをファンの方に見せれるようにマッチメイクしたいなと思ってます。

――8・28国立とか、9月の『プライド』に関しては何か話はされたんですか？

**尾崎**　うん。あった、ありましたとだけ言っておきます（笑）。

――それは国立で？

**尾崎**　うん、話はあったと。でも時間がなさすぎたんで（笑）。それはしょうがないでしょう。お話をいただいた時点で（試合まで）10日しかなかったし、お話をいただいたウチの選手が前回、試合をしてて、まだ休養中だったんでしょうがないですよ（笑）。そんなとこで、はい（笑）。■

# CASHING INFORMATION

全日本プロレス×グレート・アントニオ

# いま全日本がダイナマイッ!

FRONT

BACK

●ケンドー・カシン"DON'T BLAZE" Tシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT

BACK

●MUTO Tシャツ
(カラー白/サイズ~~XS~~・~~S~~・~~M~~・L・XL)
¥4,000(税別)数量限定

FRONT

BACK

●KOJIMA Tシャツ
(カラー白/サイズXS・~~S~~・M・L・XL)
¥4,000(税別)数量限定

FRONT

BACK

●高山善廣"アパッチ男塾"キャップ
¥2,800(税別)

●高山善廣"アパッチ男塾"Tシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT

BACK

●ボブ・サップTシャツ
(カラー白/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

●ニーノ・"エルビス"・シェンブリTシャツ
(カラー白/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

## ご注文方法

ご注文は電話 or サイト受付のみです

『グレート・アントニオ』通販専用NAVIダイヤル
☎ 0570-007800 ※携帯電話からは掛かりません。
☎ 03-3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。
【受付曜日・時間】月曜日~土曜日 AM10:00~PM6:00
http://www.great-antonio.jp
【24時間受付】

商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で(株)ジャンボ(大阪)より郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、ご注文を受け付けておりません。

## ACCESS MAP

とうふパン専科
グレート・アントニオ

○神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)より徒歩5分
○小川町駅(都営新宿線)より徒歩5分
○淡路町駅(丸ノ内線)より徒歩6分
○竹橋駅(東西線)より徒歩8分

OPEN 11:00~20:00(月曜定休)
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

# たっつぁん万座ビーチ

読者プレゼント

マット界も2学期スタート！
キミは食欲の秋？ それとも格闘の秋？

## 【本誌編集部提供】

ダイナマイトな「Dynamite!」大会記念グッズだ、ダイナマイッ！

『Dynamite!』大会記念TシャツA
(2大カード／サイズM・L／カラー青・白・黄)
各2名様

『Dynamite!』大会記念TシャツB
(ベーシック／サイズM・L／カラー白・黄)
各2名様

『Dynamite!』大会記念TシャツC
(柔道×柔術／サイズM・L)
2名様

『Dynamite!』大会記念チューリップハット
2名様

サダハルンパ編集長からのラスベガスからのお土産です。
3点セットでどうぞ！

K-1 ラスベガス大会パンフレット
FIGHT SPORT誌
KUNG FU誌
1名様

## 【エンタープレイン提供】

オリジナル流派を作って最強を目指せ！
PS2版ゲームソフト『3D格闘ツクール2』
3名様

※プログラムなどの専門知識がなくても、自分でオリジナルの3D格闘ゲームが作れちゃう優れモノ。ハマるぞ！　価格7,800円（税別）。商品に関するお問い合わせは、（株）エンターブレイン ☎03-5433-7854まで

## 【グレート・アントニオ提供】

本気で作っちゃったんだから、
欲しくなくてももらうんだよ！

ターザン山本Tシャツ
(非売品／サイズXS・S・M・L)
3名様

ターザン山本缶バッジ
(非売品)
10名様

※グレート・アントニオの商品に関するお問い合わせは、グレート・アントニオ ☎03-3219-9550、http://www.great-antonio.jpまで

## 【クエスト提供】

柔術をあまり知らない人にもぜひ見てほしい！
レオジーニョのテクはホントに凄い！

プロフェッショナル柔術リーグ旗揚げ戦
『GI um』ビデオ&DVD
各1名様

※5・2ディファ有明で開催されたプロフェッショナル柔術リーグ旗揚げ戦「GI um」と前日の前哨戦「GI-zero」両方が収録。なんと言っても、ヒカルジーニョ&レオジーニョ兄弟の驚くテクニックは必見だ。価格は、VHS、DVDとも5,600円（税別）。商品に関するお問い合わせは、（株）クエスト ☎03-3360-3810まで

## 【パンクラス提供】

7月、8月に発売されたパンクラスNEW Tシャツ！
まだまだTシャツシーズン続行中！

初代ウェルター級王者決定トーナメントTシャツ
(サイズS・M・L・XL)
3名様

GRABAKA・PANCRASE Tシャツ
(サイズKid's L、M、L、XL)
3名様

※ウェルター級Tシャツ　一般価格3,675円（税込）、FC価格2,940円（税込）。G・P Tシャツ　価格3,150円（税込）。パンクラスグッズに関するお問い合わせは、ワールドパンクラスクリエイト ☎03-5792-0815まで

## 応募方法

**ハガキには必ず応募券を貼ろう！**

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼本誌に対するご意見・ご感想
を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先は
〒101-0054　東京都千代田区
神田錦町3-14-12　神田NSビル8F
SRS・DX編集部「たっつぁん万座ビーチ78」係まで

締め切り…2002年10月3日（木）当日消印有効。

## 【全日本キックボクシング連盟提供】

9・6、小林聡が研ぎ澄まされた「牙」でムエタイ王者に噛み付くぞ！

小林聡×subscabs「牙」Tシャツ
(サイズM、L/カラー白、黒)
3名様

小林聡 のら犬 Tシャツ
(サイズM、L)
3名様

小林聡 野良犬 Tシャツ
(サイズM、L)
3名様

※LAを拠点にundergroundに展開するアンチファッションブランド「subscrab」より、小林聡「牙」Tシャツが登場！　価格は3,900円。商品に関するお問い合わせは、全日本キックボクシング連盟 ☎03-3365-1171まで

## 【DEEP2001事務局提供】

田村ファンも、美濃輪ファンもこれを着て熱い声援を送れ！

美濃輪育久 vs 田村潔司　Tシャツ
(サイズKid's L、M、L、XL)
3名様

※9・7「DEEP 2001」有明大会で行われる夢のカード"美濃輪育久 vs 田村潔司"の記念Tシャツ。美濃輪の「ドクロ」、田村の「U」、二人を象徴するマークが入っているぞ！　価格は3,675円（税込）お問い合わせは、DEEP 2001事務局 ☎052-339-0303まで

SRS SPECIAL RING SIDE

番組インフォメーション

# 9/6、9/13、9/20の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によっては放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは8月25日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

『SRS』は金曜日深夜25時45分～26時15分（時間は変更することがあります）フジテレビ系で絶賛放映中。

## 9/6

SRSが“知られざる格闘技の国”に初進出！

### 格闘大国モンゴル特集！

9月6日（金）26:30～27:00

皆さん、モンゴルって知っていますか？　モンゴリアンチョップのモンゴルです。そうです、今までヨーロッパやアメリカ、ブラジルと世界のトップファイターや格闘技を取材するため、各国を飛び回っているSRSスタッフが、目を付けたのがモンゴル！　モンゴルでは、モンゴル相撲やレスリングが盛んなのは言うに及びませんが、何と現役大関・朝青龍のお兄ちゃんがシドニー五輪の選手だったなんて、皆さん知っていましたか？　さらに新たなPRIDEファイター予備軍に遭遇し、素敵なファイターの金の玉子たちに巡り会いまくってきたモンゴル企画。極真モンゴル支部にもお邪魔してきましたので、たっぷりと30分間モンゴリアンになってくださいませ。うひ！

## 9/13

これからはロシア軍団が格闘技を席巻します！

### 格闘大国ロシア特集！

9月13日（金）25:45～26:15

モンゴルの次はロシアかよ！　SRSってどんな金持ち番組なんだ～！　と皆さんに言われてしまいそうですが、海外取材に行っているスタッフはほとんど瀕死です。洒落にならないくらい、瀕死ロケの毎日（笑）。現在ディレクターが、単身でロシアに乗り込んで、9月にブラジル・サンパウロで開催される『極真ワールドカップブラジル大会』に出場するロシアの猛者たちに突撃取材を敢行中！　ブラジルの次はロシアが驚異だなんて……。がんばれニッポン！　もちろんロシアの格闘技事情もたっぷりお届けする予定です。極真からコマンドサンボまで、この日はたっぷりロシアンルーレット。PRIDEで爆発寸前のロシアン・トップチームも登場だ～！　ピロシキとウォッカ片手にぜひ見てくださ～い。ハラショー。

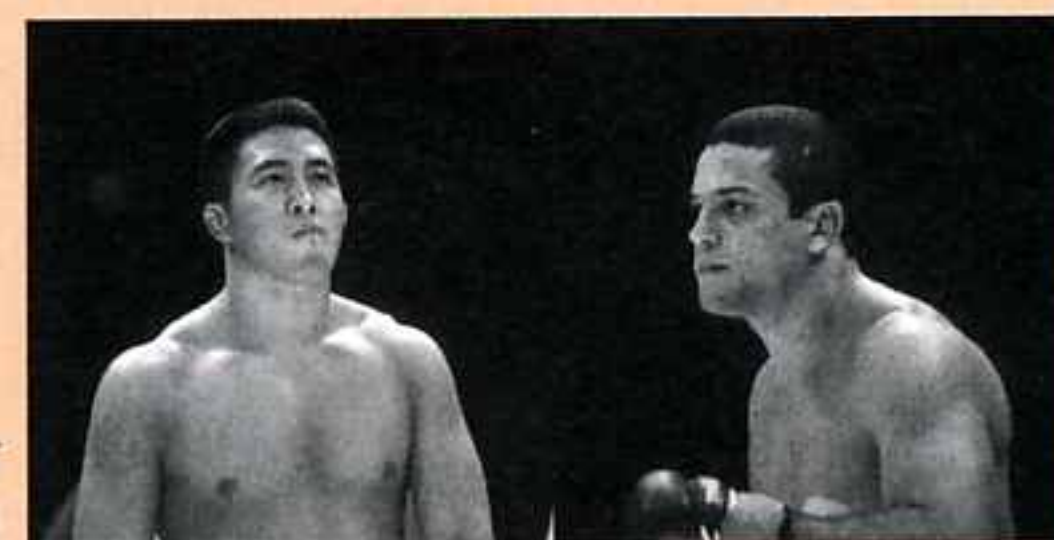
▲『PRIDE.22』に参戦が決定したロシアン・トップチーム

## 9/20

プライド名古屋大会は好カードめじろ押し！

### 『PRIDE.22』情報&『極真ブラジル大会』予告

9月20日（金）25:45～26:15

9月29日、名古屋で行われる『PRIDE.22』の2大カードが早くも発表されました。なんと大山峻護がハイアン・グレイシーと対戦！　大山選手は前回のプライド21で、お兄ちゃんのヘイゾ・グレイシーを判定ながら破っているだけに、大きな期待が掛かります。そして、もう1試合も大変なことになっています。ロシアン・トップチームの叔父貴分、アンドレイ・コピィロフがプライド初参戦！　しかも相手が“ブラジリアン・トップチームの重鎮”マリオ・スペーヒーです。いや～ホント大変なことになっていますよ～。その他に8月31日、9月1日に行われた『極真ワールドカップブラジル大会』の模様も取り上げる予定です。お楽しみに！

▲大山VSハイアン戦は必見です！

### フジテレビ系列の番組から

**8・31&9・1『極真ワールドカップ　ブラジル大会』**
9月29日（日）0:55～25:55

◎CS721
9月15日（日）17:00～17:50『K-1ワールドシリーズPart2』
17:50～20:50
8・17『K-1 WORLD GP 2002 inラスベガス』（再）

◎CS739
9月23日（月・祝）15:00～17:00
1999年『第7回全世界空手道選手権大会』・完全保存版
17:00～19:00
8・31、9・1『極真ワールドカップ　ブラジル大会』

### SRSホームページのアドレスはこちら http://www.fujitv.co.jp/

SRSホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。あなたが書いたエッセイや観戦記、その他マニア情報、プチ情報などで作るコーナーです。あなたの熱い魂の叫びを書いて、どしどしお寄せくださ～い。それから、はせキョーのページもあるのでこちらも必見！

## TV

| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 9/4（水） | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 14：00～15：00 | 海外で行われた修斗の大会を放送。内容未定。同日再放送23：30～ |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| | TBSテレビ | 闘魂筋肉 | 24：50～25：20 | 内容未定 |
| | GAORA | club DEEP in OZON | 25：00～26：00 | 7.14に名古屋club OZONで開催された同大会を放送。再放送9/6・18：00～、14・27：00～ |
| 9/5（木） | GAORA | 全日本キックボクシング | 15：00～17：00 | 7.21後楽園ホール大会。再放送9/18・10：00～ |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 25：00～25：30 | 『週刊格闘JAM』『info@闘龍門』などGAORAのプロレス・格闘技の情報が満載。30分と15分の2バージョンあり。再放送9/6・14：45～15：00と19：00～19：30、7・9：30～9:45と25：30～26：00、9・17：00～17：15、11・18：00～18：15 |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 25：30～26：00 | 『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送9/6・21：30～、8・25：30～、9・17：45～、10・9：00～ |
| 9/6（金） | スポーツ・アイ ESPN | PRIDE REVIVAL | 13：00～16：00 | これまでの『PRIDE』シリーズを毎月1大会ずつ放送。『PRIDE.3』①。再放送9/11・25：00～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 8.24に新宿・リキッドルームで開催されたGCMコミュニケーションズ『CLUB CONTENDERS 02』。再放送9/8・5：00～、14・14：00～ |
| | GAORA | WOLF REVOLUTION ～resurrection～ | 19：30～21：30 | 8.6に東京・ヴェルファーレで開催された同大会を放送。魔裟斗vsメルヴィン・マーリー戦ほか。再放送9/9・15：00～ |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 22：00～24：00 | 船木ヒストリー18 |
| | BSフジ | PRIDE REVIVAL | 23：00～24：00 | スポーツ・アイESPNの『PRIDE REVIVAL』と同内容。『PRIDE.2』①。再放送9/13・23：00～ |
| | Jスカイスポーツ3 | SHOOT 3/60 | 23：00～24：00 | 15分のショートドキュメンタリー3本で構成する"60分3本勝負"の格闘技専門スポーツドキュメンタリー番組。桜井"マッハ"速人、五味隆典ほか。再放送9/7・9：30～、8・7：30～と24：00～、9・9：00～、12・25：00～ |
| | フジテレビ | SRS | 26：30～27：00 | ➲P69 |
| 9/7（土） | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 13：30～14：00 | 東海テレビ『PRIDE王』と同内容 |
| | GAORA | The Wars Ⅵ 7.17 後楽園ホール | 15：00～17：00 | 大道塾が3年ぶりに開催した『The Wars Ⅵ』を放送。小川英樹vsドゥロ・ブノワほか。再放送9/13・10：00～ |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 18：00～20：00 | 8.25大阪・梅田ステラホールで開催の『PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR』 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20：30～21：00 | 上記を参照。再放送9/8・4:30～、9・8:30～と18:00～、10・23:30から |
| | Jスカイスポーツ3 | プロフェッショナル修斗 | 23：00～25：00 | 2002前半戦アンコール1。4.14北沢タウンホール大会① |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | 内容未定 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25：40～26：40 | 内容未定 |
| 9/8（日） | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15：00～17：25 | 8.8広島グリーンアリーナ大会 |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | 魔裟斗が出演するバラエティ番組 |
| | Jスカイスポーツ3 | プロフェッショナル修斗 | 22：00～24：00 | 2002前半戦アンコール2。4.14北沢タウンホール大会② |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24：55～25：25 | 9.7大阪大会のGHCヘビー級選手権試合の模様を放送 |
| 9/9（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18：30～19：00 | 9/7を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19：00～20：00 | 9/4を参照。内容未定。再放送9/10・13：00～、11・14：00～と23：30～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 23：50～24：50 | 休止 |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 26：30～27：00 | 内容未定 |
| 9/10（火） | 東海テレビ | PRIDE王 | 24：40～25：10 | PRE-PRIDE5直前練習＆9.2バトラーツ後楽園大会の模様を放送 |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26：35～27：05 | リングドクター直撃インタビュー |
| 9/11（水） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 8.27に北沢タウンホールで開催の修斗『プロフェッショナル修斗公式戦』。再放送9/12・9：30～、21・7：00～ |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| | TBSテレビ | 闘魂筋肉 | 24：55～25：25 | 休止 |
| 9/12（木） | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 9/5を参照。再放送9/13・21：30～、14・17：30～、15・20：30～、16・23：00～、17・9：00 |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 18：30～19：00 | 9/5を参照。再放送9/13・14：45～15：00、14・9：30～9:45、18・21：30～22：00 |
| 9/13（金） | FIGHTING TV SAMURAI! | パンクラスハイブリッドアワー | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 8.25に大阪・梅田ステラホールで開催の『PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR』。再放送9/15・5：00～、21・11：00～ |
| | スポーツ・アイ ESPN | PRIDE REVIVAL | 22：00～23：00 | 9/6を参照。『PRIDE.3』②。再放送9/18・25：00～ |
| | Jスカイスポーツ2 | SHOOT 3/60 | 22：00～23：00 | 9/6のJスカイスポーツ3と同内容。再放送9/14・20：00～、15・12：55～、16・9：30～、19・3：00～ |
| | フジテレビ | SRS | 25：45～26：15 | ➲P69 |
| 9/14（土） | GAORA | K-2カラテエクストリーム | 18：00～20：00 | 8.11『第10回新空手道千葉大会』 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20：30～21：00 | 9/7を参照。再放送9/15・4：30～、16・8：30～と18：00～、17・23：30～、21・13：30～ |
| | Jスカイスポーツ3 | プロフェッショナル修斗 | 23：00～25：00 | 2002前半戦アンコール3。5.28北沢タウンホール大会 |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | 9/10のテレビ東京と同内容 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 26：00～27：00 | 内容未定 |
| 9/15（日） | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15：00～17：25 | 8.10＆8.11の両国国技館大会の模様を放送 |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 18：00～20：00 | 7.28後楽園大会の昼の部を放送。再放送9/19・22:00～ |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | 魔裟斗が出演するバラエティ番組 |
| | Jスカイスポーツ3 | プロフェッショナル修斗 | 22：00～24：00 | 2002前半戦アンコール4。7.19後楽園ホール大会 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24：55～25：25 | 9.7大阪大会のGHCタッグ級選手権試合の模様を放送 |
| 9/16（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18：30～19：00 | 9/7を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19：00～20：00 | 9/4を参照。内容未定。再放送9/17・13：00～、18・14：00～と23：30～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 24：20～25：20 | 『格闘新世紀』／内容未定 |

# ON THE AIR 9/4～9/26
## 格闘技番組ガイド TV&RADIO

**TV**（右ページから続く）

| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 9/16（月） | Jスカイスポーツ3 | プロフェッショナル修斗 | 24：00～27：00 | 9.16横浜文化体育館大会。再放送9/18・22：00～、19・16：00～、21・10：30～ |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 26：30～27：00 | 内容未定 |
| 9/17（火） | 東海テレビ | PRIDE王 | 24：40～25：10 | PRIDE.22直前企画＆PRE-PRIDE4優勝者・光岡選手の試合結果 |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26：35～27：05 | 8.25大阪・梅田ステラホールで開催の『PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR』 |
| 9/18（水） | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| | TBSテレビ | 闘魂筋肉 | 24：55～25：25 | K-1MAX情報 |
| 9/19（木） | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 9/5を参照。再放送9/20・27：30～、21・17：30～、22・12：30～、24・9：00～ |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 18：30～19：00 | 9/5を参照。再放送9/20・14：45～15：00、21・9：30～9:45と26：30～27：00、22・13：00～13：30、24・18：00～18：15 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 9.8に後楽園ホールで開催のニュージャパンキック連盟『DREAM RUSH 6』。再放送9/20・9：30～ |
| 9/20（金） | スポーツ・アイ ESPN | PRIDE REVIVAL | 22：00～23：00 | 9/6を参照。『PRIDE.3』③。再放送9/25・25：00～ |
| | Jスカイスポーツ1 | SHOOT 3/60 | 22：00～23：00 | 9/6のJスカイスポーツ3と同内容。再放送9/22・19：00～、24・27：00～、25・11：30～ |
| | BSフジ | PRIDE REVIVAL | 23：00～24：00 | 9/6を参照。『PRIDE.2』② |
| | フジテレビ | SRS | 25：45～27：15 | ➲P69 |
| 9/21（土） | FIGHTING TV SAMURAI! | 船木が語るパンクラスストーリー | 14：00～16：00 | 再放送9/23・26：00～ |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 18：00～20：00 | 7.28後楽園大会の夜の部を放送。再放送9/25・19:00～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20：30～21：00 | 9/7を参照。再放送9/22・4：30～、23・8：30～と18：00～、24・23：30～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | 9/17のテレビ東京と同内容 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 26：00～27：00 | 内容未定 |
| 9/22（日） | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15：00～17：25 | 8.29日本武道館大会 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | プライド侍 | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 月1回放送の『プライド』情報満載の話題のバラエティ番組。再放送9/24・9：30～、26・14：00～、 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30<br>24：30～26：00 | PRIDE特集として22日から28日までの1週間にわたり『PRIDE.22』情報を連日放送 |
| | 日本テレビ | K-1 ANDY SPIRITS2002 JAPAN GP決勝戦 | 21：00～22：54 | 当日行われた大阪大会の模様を放送 |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | 魔裟斗が出演するバラエティ番組 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24：25～24：55 | 9.7大阪府立体育会館の模様を放送 |
| 9/23（月） | Jスカイスポーツ2 | プロフェッショナル修斗 | 11：00～14：00 | 9/16のJスカイスポーツ3と同内容。再放送9/24・14：55～、26・19：00～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18：30～19：00 | 9/7を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19：00～20：00 | 9/4を参照。内容未定。再放送9/24・13：00～、25・14：00～と23：30～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | 9/22を参照。同日再放送24：30～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 23：50～24：50 | 『格闘新世紀』／内容未定 |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 26：00～26：30 | 内容未定 |
| 9/24（火） | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | 9/22を参照。同日再放送24：30～ |
| | 東海テレビ | PRIDE王 | 24：40～25：10 | PRE-PRIDE5の模様を放送（前半） |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26：35～27：05 | 内容未定 |
| 9/25（水） | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | 9/22を参照。同日再放送24：30～ |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| | TBSテレビ | 闘魂筋肉 | 24：50～25：20 | 内容未定 |
| 9/26（木） | GAORA | LADY GO! 女子ボクシング | 19：00～20：00 | 9.7『FIGHTING GIRLS PT3』ディファ有明大会 |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 9/5を参照 |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 18：30～19：00 | 9/5を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 生でゴン！×2 | 21：00～22：30 | 9/22を参照。同日再放送24：30～ |

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888
（10：00～20：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
（月～金10：00～18：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00 土日祝除く）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

■スポーツ・アイ-ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
（16：00～21：00）

■Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（10：00～18：00）

# VIDEO & DVD
## 注目作品＆NEWリリース情報

### 〈新作紹介①〉 It's HOT!

**『28 AUGUST 2002 NATIONAL STADIUM』**

発行：フォーブリック　発売：プレスト/BBJ
2,000円/9月6日VHSビデオ発売

**『Dynamite!』オフィシャルビデオ緊急リリース!!**

2002年8月28日、国立競技場で行われた日本最大級の格闘技イベント『Dynamite!』。日本中が注目した2大スーパーファイト桜庭和志VSミルコ・クロコップ戦、そして吉田秀彦VSホイス・グレイシー戦をノーカット完全収録したビデオが9月6日緊急発売！　復活を果たしたスーパースター・桜庭和志と“プロレス・ハンター”ミルコ・クロコップとの激闘、柔道で頂点を極めた男・吉田秀彦と、一族の雪辱に燃えるホイス・グレイシーとの決戦がノーカット完全収録版で早くもリリースされるぞ。当日会場で歴史の証人となった人たちも、残念ながら観戦できなかった人たちも、とにかく全ての国民必見！　の決戦がなんと2,000円であなたの手に！

### 〈新作紹介②〉 It's HOT!

**『アルティメットバトル 忍者VS少林寺』**

GPミュージアム
16,000円/発売中

**超ど級の格闘技アクション巨編、日本上陸!!**

本作品の製作総指揮を取ったユエン・ウーピンは、ご存知ジャッキー・チェンの『蛇拳』で監督としてデビューし、自身の武術指導グループを率いて『酔拳』『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナ』シリーズなど、大ヒット作品を次々と演出した。その後、ハリウッドに招かれ『マトリックス』や、アカデミー賞外国映画賞を受賞した『グリーン・デスティニー』を手掛けるなど、名実共に世界最高のアクション指導者となった。そんなユエン・ウーピンが贈る、少林寺と忍者軍団の究極の死闘は見るものを圧倒すること間違いなし！

### 〈おすすめの一本〉 Recommend!

**『プロフェッショナル柔術リーグ旗揚げ戦 GI-um』**

クエスト
VHS&DVD 5,600円/発売中

**大好評だった旗揚げ興行を完全収録！**

日本におけるブラジリアン柔術の第一人者・中井祐樹が、世界王者でもあるレオジーニョことレオナルド・ヴィエイラと激突した5月2日ディファ有明大会は、レオジーニョの弟であるヒカルド・ヴィエイラや、ホイラー・グレイシーを破ったことで知られるマルコス・バルボーザなど、競技柔術の世界トップに君臨する選手が一堂に会した歴史的イベント。彼らの試合では、ブラジルで頂点に立つ柔術家のテクニックの真骨頂を見ることができるので、見ていない人はすぐに見てほしい！　当作品には、前夜祭として行われた5月1日の下北沢大会の模様も収めてあるので大変お得だよ。

### RENTAL RANKING (8/1～8/20調べ)

1. 『栄光のカンムリワシ 具志堅用高』 日本スポーツ出版/4,835円
2. 『ムエタイの頂上を極めた男　藤原敏男』 日本スポーツ出版/3,864円
3. 『沢村忠キックボクシング教室　基本編』 日本スポーツ出版/4,854円
4. 『PRIDE.20』 フォーブリック/9,800円
5. 『PRIDE.19』 フォーブリック/9,500円

**1位 『栄光のカンムリワシ 具志堅用高』**
“100人に1人”のスーパーヒーローの勇姿が今蘇る！

今ではタレントとしても大人気の元ボクシング世界チャンピオン具志堅用高は、常に闘いながら成長していったボクサーである。当作品では、世界タイトルを奪取したグスマンとの試合など見逃せない一戦がめじろ押し！

### SELL RANKING (8/1～8/20調べ)

1. 『中井祐樹 柔術バイブル』 クエスト/6,600円
2. 『ENSHIN METHOD2 円心会館』 クエスト/6,600円
3. 『修斗10周年記念大会』 クエスト/6,600円
4. 『第8回全日本コンバットレスリング』 クエスト/6,600円
5. 『バス・ルッテンのスーパーテクニック vol,1』 クエスト/5,600円

**1位 『中井祐樹　柔術バイブル』**
中井祐樹のテクニックを余すことなく大公開！

日本の柔術および、総合格闘技界の中心的な存在の中井祐樹。自身が学んだブラジリアン柔術と高専柔術のテクニックを完全網羅した究極のビデオが堂々の第1位に！　基礎から応用までバッチリだぞ。

### 『フィットネスショップ格闘技　水道橋店』

東京都千代田区三崎町3-6-13寺本ビル2F
☎03-3265-4646

格闘技ショップ『フィットネスショップ格闘技』では、6月より格闘技ビデオレンタルをスタート！　当コーナーのランキングにご協力いただいている。ビデオのほかにもTシャツをはじめとする各種グッズや、キック用のトランクス、サンドバッグ、サプリメントなどやる側用品も充実しているぞ。詳しくはお店にお問い合わせを！

※表示価格は全て税別価格

# GOODS
最新＆売れスジグッズをご紹介！

## 〈おすすめグッズ❶〉
Recommend

### 『マルチミネラルビタミン』
杏林予防医学研究所/7,000円（税別）

**現代人のための『マルチ』サプリメント**

マグネシウムや亜鉛、ミネラルが摂取不足になると効率良い代謝が行えず、余ってしまったエネルギー源は脂肪としてカラダに蓄えられてしまいます。それらを食事で補おうとしても、残念ながら今の食材には、昔ほどミネラルやビタミンが含まれていません……。「食事だけでは充分に摂れない栄養は、サプリメントで補う！」。悲しいけれど、現代人の常識です。

## 〈おすすめグッズ❷〉
Recommend

### 『ファスティング・ダイエット』
杏林予防医学研究所/18,000円（税別）

**今なお続く、ファスティングブーム**

「やっちゃうぞっ、バカヤロー！」つーことで、なんと全日本プロレスの小島聡選手が近日、『ファスティング・ダイエット』に挑戦することが決定！詳細はグレート・アントニオHPの『ファスティング日記』にアップします。お楽しみに!!

## グレート・アントニオ
西山千尋店長

「杏林予防医学研究所所長、山田豊文先生が開発した健康・美容アイテムをご紹介する杏林予防医学研究所公認のサイトがオープンしました。その名も『ヤマダ元気』!! 元気に興味のある方は、ぜひご覧ください。(『ヤマダ元気』サイト→http://www.yamadagenki.com)」

**グレート・アントニオ**
東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル1F ☎03-3219-9550
通信販売受付 ☎03-3295-4450 or 0570-007800
HPアドレス http://www.great-antonio.jp
営業時間/11:00～20:00（月曜定休）
通信販売受付/10:00～18:00（月～土曜）

## GOODS RANKING (8/15～8/27)

1. 『アパッチ男塾Tシャツ』 グレート・アントニオ/4,000円（税別）
2. 『ファスティング・ダイエット』 杏林予防医学研究所/18,000円（税別）
3. ケンドー・カシン『DON'T BLAZE Tシャツ』 全日本プロレス＆グレート・アントニオ/4,000円（税別）
4. 『元気ですか!! ジュース』 杏林予防医学研究所/4,800円（税別）
5. 『TPG Tシャツ』 グレート・アントニオ/3,500円（税別）

**1位 『アパッチ男塾Tシャツ』**

「お前も入るか!? アパッチ男塾」

惜しくもG1クライマックス王者を逃したが、団体のお客様のまとめ買いなどなど、繁華街にはアパッチ男塾生がたむろしているという噂も!? これはまずいっ！ まずいぞ～!!

# Et cetra

## 高田道場でサブミッションレスリング大会開催！

9月16日（月・祝）に高田道場で『第5回・高田道場サブミッションレスリング大会』を開催する。格闘技歴が1年以上で、健康な男子を大募集！
◆日時/9月16日（月・祝）受付・計量13:00～ 開始14:00～
◆場所/高田道場（品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山/東急目黒線武蔵小山駅下車・徒歩3分）
◆参加資格
○高校生以上で頭部の障害、感染症のない健康な男子
○格闘技歴1年以上の人
○週2回以上練習をしている人
○格闘技歴をきちんと明記している人
◆参加費/登録料（初回のみ）1,000円
一般・外部道場生1,500円/高田道場生1,000円
◆申し込み・問い合わせ/（株）高田道場・〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ℡03-5749-5030

## パンクラス・P's LAB東京に廣戸道場施療所『Reash LAB（レッシュ ラボ）』がオープン！

パンクラスのレフェリーとして、また選手たちの肉体管理を行うトレーナーとして、欠かすことのできない存在の廣戸聡一が『廣戸道場』の施療所をオープン。パンクラシストの肉体改造・コンディショニングを支える確かな技術力をP'sLABで、9月10日（火）から一般解放するぞ。それに伴いプレオープンも決定した。しなやかで、美しく、機能的な肉体を目指しているあなた！ 迷わず行けよ！
◆施療時間/火・木・土曜日の15:00～22:00(予約制)
◆受付時間/Reash LAB 11:00～20：00℡03-5792-7085 東京都港区南麻布4-2-25P'sLAB内
◆料金/初回10,000円・2回目以降5,000円
◆プレオープン・イベント/電話にて要予約
○参加費/500円（テキスト代込み）
○9月8日（日）12:00～13:30/9月14日（土）13:30～15:00

## あの秋山賢治が広島支部・支部長に！練習生も大募集！

日本武道空手道連盟・総合格闘技空手道禅道会が、広島支部を開設する。支部長には、打撃技からグラウンドまで高い技術を持ち合わせている秋山賢治が就任。クラスは4歳から中学生までの少年の部と、高校生以上の一般の部があり、ビギナーの方も大歓迎だぞ。強くなりたければ稽古にいそしめ！
◆問い合わせ/℡0265-34-2180 代表・秋山賢治

## 最強の具現者はだれだ！ 合気道S.A. オープントーナメント

合気道S.A.では10月12日（土）に開催される『第2回合気杯争奪 実践・リアル合気道選手権大会』の出場選手を募集している。当日は計量により、軽量と重量の二つに分けたうえでトーナメント形式で行われる。合気道は理屈だけでは強くなれない。腕に自信があるならば、出場あるのみ！
◆日時/10月12日（土）11:00集合 13:00試合開始
◆場所/都立多摩スポーツ会館・柔道場（JR青梅線東中神駅徒歩5分）
◆出場費/7,000円（記念品・ひざ・すねプロテクター貸し出し料含む）
○セコンド・応援が付く場合は1名につき、2,000円
◆申し込み/9月20日までに出場費用と身長・体重・氏名・年齢・性別・住所・電話番号・出場種目を明記のうえ、現金書留で下記に応募すること。
◆観戦者募集/観戦料3,000円 12:30開場、観戦希望者は、現金書留で9月末日までに観戦希望・氏名・住所・電話番号を明記の上、下記に応募すること。現金書留到着後、大会整理券を送付する。（基本的に大会整理券がないと入場できない）
◆問い合わせ/〒193-0821 東京都八王子市川町128-280 ℡0426-51-8418 代表・櫻井文夫

## 合気道S.A.では、ただいま通信講座参加者募集中！

合気道技に興味はあるが、どうしても都合がつかず、稽古に参加できないで悩んでいる人のために、通信講座が設けられた。この講座を受講すると昇級・昇段のビデオ審査も受験できるし、資格を取得すれば地区責任者になることも可能だぞ！
◆問い合わせ/〒193-0821 東京都八王子市川町128-280 ℡0426-51-8418 代表・櫻井文夫
合気道S.A.ホームページアドレス http://aikido-sa.com/

## 関西で少年・少女グローブ空手交流大会を開催！

大阪を拠点とする格闘スポーツスクール・レックスジャパンエンタープライズでは、9月22日（日）に『第5回関西少年・少女グローブ空手交流大会』を行う。試合では、少年部・少女部共にヘッドギア、グローブ、レッグガードを付けることが義務付けられているので安心だ。さあ、いよいよ始まるぞ、格闘技の秋。みんなも乗り遅れるな！
◆日時/9月22日（日） 開場9:30・開始10:00
◆参加クラス
○少年部/小学校1年～中学3年（男女）学年別
○女子部/16歳以上、経験不問
◆参加費/5,000円（障害保険料含む・入場料は無料）
◆申し込み/9月14日（土）まで
◆問い合わせ/大阪府大阪市北区長柄東2-1-21-101 格闘スポーツスクール・レックスジャパンエンタープライズ 龍生塾大会事務局 ℡06-6351-7994

# BOOK

## 『Dynamite!』開催記念・新刊情報！

### 〈新刊紹介❶〉 It's HOT!

### 『帰ってきたぼく。』

桜庭和志著/東邦出版
本体価格 1,400円/発売中

**またまた出ちゃいました！『ぼく。』に続く第2弾**

プロレスラーの自伝としては驚異の大ベストセラーとなった前作から2年あまり。『Dynamite!』で、"プロレス・ハンター"ミルコ・クロコップと世紀の一戦を繰り広げた桜庭和志の自伝第2弾『帰ってきたぼく。』がリリースされたぞ。本書では、伝説のホイス・グレイシー戦から、今回のミルコ戦決定までの出来事を、ユーモアたっぷりの桜庭節で大公開！ （オリジナル桜庭ステッカー付き）

### 〈新刊紹介❷〉 It's HOT!

### 『攻める。』

吉田秀彦著/河出書房新社
本体価格 1,500円/発売中

**柔道の魅力を一人でも多くの人に伝えたい！**

総合格闘技界大注目の男、吉田秀彦の初の自伝が登場した。吉田自身が、柔道を始めてから一貫して教えられ、心掛けていたことが、『攻め』ということだった。この本では、柔道を通して学んできたことをメッセージにして、人生の壁にぶち当たった時にどうするべきか、語っているぞ。人生、攻めあるのみ！

### 〈新刊紹介❸〉 It's HOT!

### 『ブラジリアン バーリトゥード』

井賀孝写真・文/情報センター出版局
本体価格 2,500円/発売中

**バーリ・トゥードの新たなる胎動を聞け！**

格闘技大国ブラジルで、名を馳せているブラジリアン・トップチームやシュート・ボクセ・アカデミーなど、日本でもお馴染みの道場を"闘う写真家"井賀孝氏が、カメラと道衣を抱えて大追跡したぞ。訪ね歩いた100日間の記録を総合格闘技本として出版。『Dynamite!』で活躍した選手たちの真の姿を写真でチェックしよう！

# 宇月田麻裕の北斗占い®

Mahiro Utsukita

破軍　武曲　廉貞　文曲　貪狼　禄存　巨門

## 9/4〜9/25

### ★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の１つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の１つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。
この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。
絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

### 北斗本命星早見表（ホクトホンミョウジョウ）

| 貪狼星 | 巨門星 | 禄存星 | 文曲星 | 廉貞星 | 武曲星 | 破軍星 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1959 | 1958 | 1957 | 1956 | 1955 | 1954 |
| 1960 | 1961 | 1962 | 1963 | 1964 | 1965 | 1966 |
| | 1971 | 1970 | 1969 | 1968 | 1967 | 1978 |
| 1972 | 1973 | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | |
| 1984 | 1983 | 1982 | 1981 | 1980 | 1979 | |
| | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 |
| 1996 | 1995 | 1994 | 1993 | 1992 | 1991 | |

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります。
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンゴク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ。聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです
武曲（ブゴク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

## 破軍星

**全体運**
足踏み状態の運気。こんな時は、時間をムダに過ごさず、溜まっている書類の整理をしたり、トレーニングや事業のプランを立ててたりしてみよう。そうしておけば、運気が動き出した時に、すぐにスタートが切れるはず。

**恋愛運**
フリーは、ただの友達だと思っていた人にトキメキを感じてしまう時。でも、まだアプローチの時期ではないので、ジンワリと接近していこう。

**勝負運**
大きな目標よりまずは実現しそうな勝負を。

**健康運**
ストレッチが大切。キッチリと筋肉を伸縮。

**金運**
身近なところにラッキー情報あり。

★ラッキーカラー★
コバルトブルー
★ラッキーアイテム★
アクセサリー
★ラッキースポット★
屋上

## 武曲星

**全体運**
季節は、情熱の夏からロマンティックな秋に移り変わり、あなたにもムードあるドラマが展開される暗示。いきなり大プロジェクトや試合出場の大抜擢なんてこともあり得そう。とにかく充実した日々を有意義に過ごそう。

**恋愛運**
ドラマのような恋愛が繰り広げられそう。もしかしたら、突然ライバルが出現して、激情の愛が展開されるかも…。フリーも思わぬハプニングの期待。

**勝負運**
自信がなかったらアシストを頼んでOK。

**健康運**
シェイプアップをするにはグッドタイミング。

**金運**
金銭トラブルの暗示。管理はキチンとして。

★ラッキーカラー★
ネイビーブルー
★ラッキーアイテム★
携帯電話
★ラッキースポット★
公園

## 廉貞星

**全体運**
吉兆星がスポットライトを当ててくれます。夏バテも吹き飛ばしてしまうくらい充実した日々を送れる暗示。今は「自己研磨」をテーマにしていくと運気がUP。女性ならば女らしく、男性ならソフトなイメージを出すと効果あり。

**恋愛運**
アナタに視線が集まりそう。「自分に厳しく他人に優しく」をモットーにして交際すると、さらに人気運が好調に。フリーは行楽地での出会いに期待。

**勝負運**
コラボレーション効果を狙うと勝負運UP。

**健康運**
高タンパクの食事を心掛けるとグッド。

**金運**
自己投資にお金をかけるなら惜しまずに。

★ラッキーカラー★
ベージュ
★ラッキーアイテム★
鏡
★ラッキースポット★
オフィスビル

## 文曲星

**全体運**
楽しいことに目がいってしまう時。仕事やトレーニングに身が入らず、集中力がダウン。こんな時は、遊びと仕事とのメリハリをつけて、時間の切り替えをしていくこと。徐々に生活のリズムができ、能率が上がるハズ。

**恋愛運**
趣味を通じて恋愛が発展！　フリーは、サークル活動に参加したり、仲間と行動することで恋が芽生える暗示。格闘技会場での出会いの期待もあり。

**勝負運**
思い込みで行動するとミスを誘発しそう。

**健康運**
無理なダイエットは厳禁。体調を整えて。

**金運**
困ったら年上の人に相談してみよう。

★ラッキーカラー★
イエローグリーン
★ラッキーアイテム★
スポーツグッズ
★ラッキースポット★
自宅

## 禄存星

**全体運**
家庭運がダウンしているので注意。ちょっとしたトラブルから、資金援助がストップされたり、何かと協力してもらえなくなったり。でも、家族にあなたのことを理解してもらうことは大切なこと。思いをちゃんと伝えてみよう。

**恋愛運**
嬉しい情報が入ってきそう。フリーは、恋人候補を紹介してもらえたり、合コンの誘いがあったり……。カップルは、二人の間に新鮮な風が吹き込む時。

**勝負運**
肩の力を抜いてリラックスしていけばOK。

**健康運**
森林浴でエネルギーの補給をしよう。

**金運**
ポジティブに考えていけば金運UP。

★ラッキーカラー★
オフホワイト
★ラッキーアイテム★
メール
★ラッキースポット★
水族館

## 巨門星

**全体運**
夏バテ気味でややエネルギーダウン。まずは、生活のリズムを整えることに専念して体調を戻そう。後半になったら徐々にパワーアップ！　気の合うパートナー探しをしたり、実力を身に付けていくことで、運気も徐々にUP！

**恋愛運**
恋人に対して不満が募る時。イヤなところが見え始めたら、どんどん熱が冷めていきそう。だけど、そんなところも好きになれたら本物の愛に進展。

**勝負運**
自分をPRするテクを身に付けるとグッド。

**健康運**
季節の変わり目、カゼなどひかぬよう注意。

**金運**
人の話をよく聞いておくと金運UPにリンク。

★ラッキーカラー★
イエロー
★ラッキーアイテム★
手帳
★ラッキースポット★
コンビニ

## 貪狼星

**全体運**
ここ数カ月のことを振り返り、見直しをしてみるのに良い時期。目標やトレーニング法、試合に対する姿勢などをゆっくりと考えてみよう。これらに○×をつけて、再検討していくことで、今までよりもさらに向上できるハズ。

**恋愛運**
始まったばかりの恋に暗雲が立ち込めてきそう。ここで壁を乗り越えられたら、しばらく関係はキープ。フリーは、友達の中に恋人候補がいる暗示。

**勝負運**
潜在的能力を引き出せば勝負運UP。

**健康運**
日焼けした肌をケアしないとボロボロに。

**金運**
種を蒔いておくと後から思わぬ収入に。

★ラッキーカラー★
ライトパープル
★ラッキーアイテム★
ハーブ
★ラッキースポット★
フィットネスクラブ



宇月田麻裕プロフィール　ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、webなどで活躍中。NTT Vポータル tel 0570-0033-03 「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/

撃

「心・技・体」極めた
一撃の術に震撼す

震

元極真会館オーストラリア女子チャンピオン特別試合1試合予定

元極真会館オーストラリア歴代チャンピオン3名参戦予定

2002 オープントーナメント

# 第3回 全日本空手道選手権大会

'02 OPEN TOURNAMENT THE 3RD ALL JAPAN KARATE CHAMPIONSHIPS

## 2002.9.22(日) SUN

## 豊田市体育館

OPEN/9:30 START/10:00

【主　　催】世界空手道連盟 真樹道場
【企画運営】WKA真樹道場総本部・愛知支部/真樹道場明鏡会/真樹道場各支部/真樹ジム本部・各支部
【特別協賛】大塚製薬
【後　　援】豊田市/豊田市教育委員会/中日新聞社/SRS DX /格闘技通信/格闘Kマガジン
紙のプロレス/ゴング格闘技/フルコンタクトカラテ/BUDO-RA

【お問い合せ先】
世界空手道連盟
真樹道場
WORLD KARATE ASSOCIATION

東京総本部 ☎ 03-3402-6105
愛知本部 ☎ 0565-24-3861
FAX 0565-24-3668

■チケットのお取扱い■　真樹道場愛知支部:0565-24-3861　真樹ジム愛知:0565-24-8166
チケットぴあ :052-320-9999　公武堂:052-241-2511 (株)ルート:0565-31-1121

●前売りチケット / 全席自由 2,000円・小中学生 1,000円

※当日の一般チケットは1,000円アップとなります
※小中学生チケットは前売り、当日とも同じになります

イラストレーション＝松本晴夫

# ザッツ・ムチャリブレ ⑩

山本隆司

## 面白きこともなき世に面白く（高杉晋作）

私はプロレスラーではない。格闘家でもない。ファイターでもない。プロレスや格闘技の試合を見て楽しんでいるファンである。

そのファンが〝プロレス的〟に生きようとすれば、どうすればいいのか？ あるいは〝格闘技的〟に生きるということはいったい、どんなことを意味するのか？

これは私に限らず非常に興味深いテーマである。〝プロレス的〟とは何かといった場合、すぐに思い出すのが幕末に散った高杉晋作の言葉だ。「面白きこともなき世に面白く」。これに尽きる。

これは晋作が療養していた時に見舞いに訪れた友人に言った上の句で、そのあと友人の望東は「すみなすものは心なりけり」という下の句を続けたという。

興行とはまさに「面白きこともなき世を面白く」するためにあるようなもの。それをやり続けた代表者がA・猪木である。猪木さんと言っておこう。猪木さんのマネージャーだった〝昭和の仕掛け人〟である新間寿氏もそのひとり。

ここで大事なことは何かと言ったら、この世の中が面白くないと強く感じること。人より数倍、強く感じることで面白いほうに逆転させたいと逆上する。猪木さんと新間さんにはそれがあった。

ただ面白くない。つまらないと思うだけでは凡人である。そんなことは誰でも考えることだからだ。

私なんかたった1秒でも退屈すると、ガマンできない。たぶん猪木さんもそうだ。人間にとって貧乏と退屈は二大悪である。この二つの悪をシュートして面白く生きるには、やはり心がまともでは無理だ。無茶苦茶な性格、変な人間であることが絶対的条件。

それによってしか退屈な時間と状況を破壊できないからだ。終わりなき日常を破壊することが〝プロレス心〟であり〝遊び心〟でもあるのだ。たとえば8・28『Dynamite!』は面白きこともなき世を面白くするためにやったようなもの。石井館長は21世紀の高杉晋作である。

そうでないとあんなリスクを背負って、国立競技場で格闘技のイベントはやらない。できない。どんなプロレスラーよりも、石井館長の中に一番〝プロレス心〟があったということである。

格闘家はべつにあえて面白いことをやる必要のない立場、ポジションにある。そういうアイデンティティなのだ。格闘家はどちらかというと〝格闘技心〟というよりも〝格闘技精神〟のほうに重点を置いている。プロレスと格闘技の違いとは〝心〟と〝精神〟の違いと言ってもいいだろう。

だから望東は「すみなすものは心なりけり」と言ったので「すみなすものは精神なり」とは決して言わなかったのだ。心には常に他者と舞台の二つが視界に入っているが、精神は自己追求が中心。

心はエンターテインメントになるが、精神はそれよりも自己完結のほうを選ぶ。だからべつに格闘家は試合をする必要はないのだ。

彼らは自分と対話し自分を見つめることに快楽を感じる人たち。『Dynamite!』に出場した選手は〝プロレス心〟があったというしかない。面白きこともなきマット界を面白くするためにだ。■

〜お客様は神様です〜

# あぶもぐ 大阪場所 千秋楽

ABNORMAL★MOGUTAN

親方◎小松モグタン

Brad

皆さん、マット・ガファリの絵には苦戦しましたか？ あの太い腹を見習って、図太く残暑を乗り切りましょう！

# ガファリ大賞決定！

**ふ**ざけんな。審判（レフェリー）に喝。ミルコVSボンヤスキーにしてもいきなりストップ。ボンヤスキー、まだ闘えたやろ！ マクドナルドVSマイヤーにしてもローが効いたからあんなふうに後ろになったんやぞ。スタンディングダウンを取れ、バカヤロウ！ なんでベルが負けたか分かるか？ セフォーと闘ってあんな強いパンチくらい痛くないと思ってた時にマッチメイクされたからやね。ベルがナンバー1じゃねぇ。パンチではセフォーだぞ。バンナ、ワット、ベル、ハント倒してんじゃん。理解しろ。オレは今年ジャパンGP行けねぇんだ！ 天田が勝つね。K―1を6番目に知ってるヤツは和田あき子だ。また会おう。K―17番目より。
（レイ・ロニーセフォー・岐阜県川辺町・17歳）

（長南憲司・千葉県流山市・？歳）

（本橋秀直・東京都羽村市・？歳）

◆前号のI編集長の総評『ガファリという名の公園』の絵を描いてくださいと募集したら、ガファリの絵を描いてくれた人が少なかったというか……。非常に残念でしたけど、数少ない作品の中から素晴らしいものを選ばせていただきました。本橋氏の作品も味はあるけど、長南氏のほうが分かりやすいので、長南氏の勝ち！ 図書券3000円分送らせていただきます。

◆コノヤロウ！ また好き勝手に一方的に書いてきやがって！ 今度はK―1を5番目に知っているヤツを教えてくれ！

**タ**ーザンが「THE夜もヒッパレ！」に出てくるだけでも笑えるのに、紹介された時の「ダァーッ！」ってなんだ？ アレ！ 笑いすぎて寝られなかったよ！
（藤井佑樹・埼玉県さいたま市・19歳）

◆ターザンがここだけはカットしてほしくなかったというのが、あの「ダァーッ！」の場面なんですよぉぉ！ これで、芸能界でやっていく目途が立ったと言っていましたよぉぉ！

**タ**ーザンが出演したから「THE夜もヒッパレ！」は9月に打ち切りになるそうです。それとも、どうせ終わるからヤケクソでターザンを呼んだのでしょうか？ ところで、以前載っていたPPJ（プロフェッショナル・ポイント・ジャッジメント）の復活を希望します。（例）マット・ガファリの〝レジェン度〟は5点満点ですよぉぉ。
（春名義行・兵庫県明石市・35歳）

◆勝手な憶測で決めつけないでくださいよぉぉ！ ターザンを出演させたのは、「ヒッパレ！」の最後の大ホームランですよぉぉ。

**試**験前の貴重な時間を奪ったガファリは侮辱罪で死刑に！ G1記事のサダハルンバ編集長の写真に故梶原一騎を彷彿させるドス黒いオーラを感じる今日この頃……。
（池原進・大阪府大阪市・24歳）

◆サダハルンバ編集長のドス黒さは底なしだぞ！

野武士中野巽耀 9.7ドス狩り出陣!!

（やざま優作・東京都小平市・30歳）

◆男なら、夏の最後は中野巽耀で締めろ！ このドスJr戦は必見だぞ！

この夏、プロレスラーが熱い!!

（竹下貴洋・熊本県山鹿市・14歳）

◆とにかくプロレスラーをたくさん並べると、ハガキがにぎやかになります。

吉田秀彦

（井上大輔・神奈川県横浜市・27歳）

◆『Dynamite!』の吉田はどうだった？ とにかく日本国民全員が柔道を習うまで、頑張ってください、吉田選手！

「**ガ**ファリという名の公園」＆「ガファリの試合レポート」はあんまり、オチャラケて取り上げてるんで、もううんざりといった感じです。
（小塚義峰・愛知県名古屋市・31歳）

◆あれはおちゃらけじゃありませんよぉぉぉ！ I編集長とターザンの変態師弟コンビに失礼ですよぉぉぉ！

「**ダ**メなものはダメ！」と問答無用にズバリ切り捨てるターザンの語り口が昔から好き。小川戦のリポートでもそれが健在だったので、なんとなく安心した。でも、太田プロの政治力には簡単に屈しそう。
（長瀬一樹・東京都板橋区・27歳）

◆あの仕事っぷりを見ていると、ターザンに太田プロが屈しているようにも見えるんだけどなぁ。

## ★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！ 質問もOK！ 強烈なぶちかましをお待ちしております。

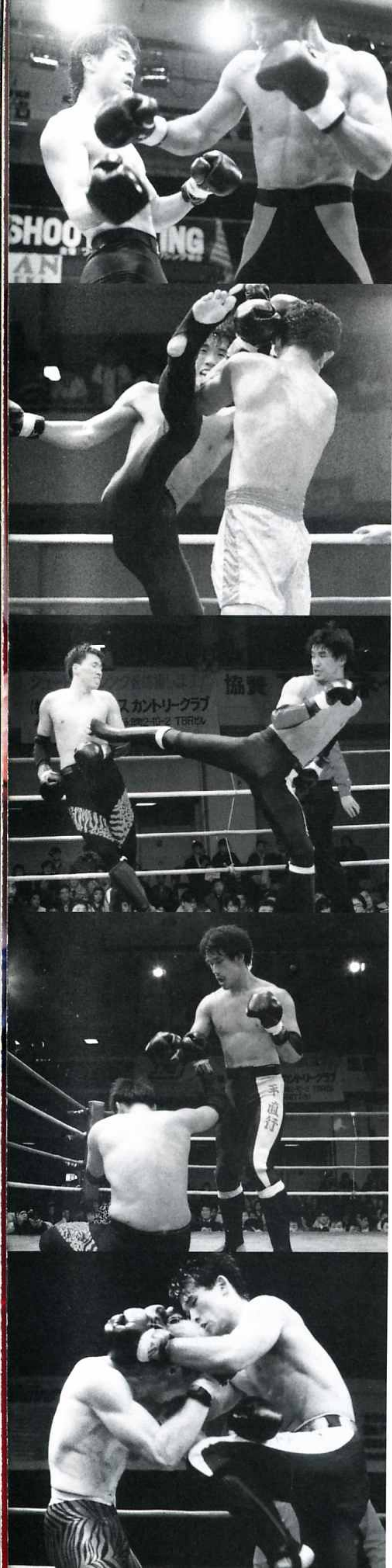
あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

大道塾をはじめとしてシューティング、シュートボクシング、柔術を極めた男・平直行。16年以上も格闘技の第一線で闘ってきた彼が引退試合を行うことになった。しかも、そのリングはプロ初デビューを飾った古巣のシュートボクシング。一見ちゃらんぽらんだが、やっぱり最後はシュートボクシングを選んだ彼が、SBの総帥シーザー武志と闘いの魅力について語り合う。

# 格闘技の天才 平直行 VS 格闘技界最高のワル!! シーザー武志

## これが闘いの魅力! シュートボクシングの魅力だ!!

司会◎中村カタブツ君（ブチ）

**シーザー**　俺と会った時っていくつ？

**平**　僕、タイガージムで指導員になる前でしたから、20歳ぐらいですね。

**シーザー**　その頃は会ってないよな。

**平**　挨拶はしたんですよ。でも、会長はその頃、佐山（聡）さんや前田（日明）さんに蹴りを教えていて、通いだった僕のことはたぶん覚えてないですね。

**シーザー**　あ、そうか（笑）。今、いくつ？

**平**　38歳ですから、もう18年ですね。

**シーザー**　月日の流れるのは早いね。

**平**　バブルの前ですもんね（笑）。

**シーザー**　その頃から金稼いでないんだね、俺もね（笑）。

——でも、平さんはSB時代のギャラを貯め込んでたらしいじゃないですか。

**シーザー**　結構、貯め込んでたの？

**平**　いえいえいえ（笑）。

**シーザー**　ガハハハ！　そんないっぱいやってないんだけどね（笑）。

**平**　でも、僕、コックさんのバイトしてたじゃないですか。だから、食費はかからないし、金使わなかったからお金貯まりますよ。

**シーザー**　格闘家なんかメシ食うところで働いたほうがいいよね。

**平**　減量は大変でしたよ。僕、12キロ落としましたから。

**シーザー**　水分で太るんだろうな。

**平**　あのぉ、お菓子とか（笑）。だってケーキとかあるんですもん、お店に。でも、計量オーバーしたことないですから。

**シーザー**　減量は結構シンドそうにやってるけど、キチンと落としてたからね。

——そういうところはちゃんとしてるけど、なんかチャランポランなイメージとかあるんですよね（笑）。

**平**　いや、チャランポランじゃないですよぉ！（笑）。

**シーザー**　どこがチャランポランなの？

——『LEGEND』のジョアニー・ローラー戦のレフェリングとかです（笑）。

**平**　あれはあれ以上見せたらダメでしょぉ！　僕自身、びっくりしたから（笑）。

**シーザー**　そんなヒドかったの？

**平**　いくらエキシビジョンでも、あれ以上、見せられない代物だったから。あのパンチの連打みたいなの（笑）。

——まあ、気持ちは非常に分かります（笑）。ということで、最初に会った当時、シューティングのタイガージムだったんですよね。

**シーザー**　そうそうそう。だから、全然知らなくて。さっきのように紹介されたのも覚えてないくらいで。だけど……。

## 人の悪口だけは言っちゃいけないですねぇ、この業界は★（笑）平

**平**　いつの間にか入り込んでいて（笑）。

**シーザー**　その頃、平、急にUWFに入りたいって言い出して、それで前田と藤原に、俺が頼みに行ったんだよな。そしたら、こいつ来ないんだよ（笑）。

——いい加減ですね（笑）。

**平**　しかも、その十何年後、プロレスの巡業で藤原さんと一緒になったんですよ。ホントに、どこで何があるか、分からないですね。人の悪口だけは、僕、言わないようにしてますから。必ず会いますよ、この業界（笑）。

**シーザー**　どこでやったんだっけ、プロレス。

**平**　バトラーツとみちのくと。

——狭いですからね、この業界は。で、UWFに入りたいという話の中から、どうしてSBが出てきたんですか。

**シーザー**　いや、なんか知らないけど、調子いいんだね。

**平**　「本当は会長、僕、シュートボクシングをやりたいんですけど」って言って（笑）。

**シーザー**　だから、わけ分かんないヤツだなぁって思ってさ（笑）。まあ、でも、本人がやりたいって言うならいいんじゃないかなって。前田と藤原には悪いけど、ウチのほうに来ちゃったんだよねって。

——前田さん、怒ったんじゃないですか。

**シーザー**　いや、前田はそんなこと覚えてないよ（笑）。

**平**　前田さんは会うたびに初対面ですから（笑）。

**シーザー**　なぁ？

**平**　い、いや、そんなことないですけど、覚えてるんじゃないですか（笑）。

**シーザー**　いや、アイツ、そんなに頭いい高校出てないから絶対に覚えてない。

**平**　い、いやぁ、ことあるごとに覚えてると思いますよぉ。

**シーザー**　いや、ネチネチ覚えているのは佐山だね。

**平**　いや、僕的にはですね、佐山さん、ネチネチ言うわりには忘れちゃうと思うんですよ。前田さんは結構、忘れたフリして覚えてるんですよ。

**シーザー**　前田は覚えてないよ。あんまり頭良くないからな（笑）。

——いやぁ、前田さんや佐山さんにここまで言えるのはシーザーさんだけですからね。前田さんが「不良時代の神様」って言うくらいですからね（笑）。

**平**　でも、こんなこと書けないでしょ？

**シーザー**　書いてもいいよ（笑）。

——でですね、そういう形でシュートボクシングに平さんが入ってきたわけです

◀SB時代の平の試合の数々。常に華のある闘いっぷりで会場を沸かせていた

が会長は結構買ってたんじゃないですか、平さんのことを。

**シーザー**　まあ、彼は彼で目標がなんかあったわけだから。でも、6年半ぐらい続いたんじゃないか?

**平**　そうですねぇ、結構長いですね。柔術が今一番長いですけど、それに次ぐ長さですね。

――目標はなんかあったんですか。

**平**　当時から僕は総合格闘技がやりたかったんですよ。でも、ないんですよ、はっきり言って。で、妥協してUWFでやろうかと思ったんですね。

――妥協！　口の悪い師弟だなぁ（笑）。

**平**　結局、妥協じゃないですか、今の総合と比べたら。で、当時、総合に一番近かったのがシュートボクシングだったんですよ。

**シーザー**　総合っていうか、打つ蹴る投げるっていう、この競技は、今の平に結構プラスになってるんじゃないかな。

**平**　キックボクシングより全然いいですね。組むことを前提に力を抜いた打撃ができるじゃないですか。そうすると総合でも力を抜いてできるんですけど、やってないと全然怖いですもんね。

**シーザー**　ただ、平の場合、感性というか、ガーンといった時はやっぱり群抜いてたよね。

――例えば、エワルド戦なんかですか。

**平**　飛び蹴り当てましたからねぇ（笑）。あの時、会長覚えてないかもしれないですけど、僕に「この興行は頼むぞ」って言ってたんですよ。

**シーザー**　そうだっけ?

**平**　その前、大会で会長が初めてKO負けして、救急車の中で言ったんですよぉ。

**シーザー**　そうだったか（笑）。

**平**　うわぁ～。それで頼まれてやったんですけど、僕、霊感強いんで霊感が乗ると凄い強いんですよ。霊感っていうか、ゾーンを超える時があるんですよ。超えないと全然やる気ないんですけど、でも、ゾーンを超えたら凄いですよ（笑）。

――どんな選手でした?　平さんは?

**シーザー**　外さないですね、ポイントを。悪いほうには渡らないっていうかね。

**平**　昨日、アンディのお墓参りで石井館長と食事したんですけど、館長にも言われましたね、「お前は手堅いよなぁ」って。「ジム、うまくいってるか」って話の中で（笑）。

――そういうところは昔からだったんですか。

**シーザー**　昔からじゃないの（笑）。

**平**　ちゃっかりしてるんですよ、僕。小さい頃の記憶で、なんか知らない家庭でメシをもらってるんですよ。そういうの得意なんですよ（笑）。

**シーザー**　ほんとに要領はいいんだよ。叱ったことなかったもんな。そりゃ、練習してる時は怒るけど、そういうのじゃないから。

## 要領良かったよ、やっぱり、そういう選手は強くなるよ★（笑）シーザー

**平**　みんなが怒られる時があるじゃないですか。いないんですよ、なぜか（笑）。学生時代も年に1回ぐらいヤバい時ってあったんですけど、その場にいないんですよ、僕。たまたま今日はさぼろうかなってあるじゃないですか。そういう時に限って大変なことになってるんですよ（笑）。

**シーザー**　たぶん、俺は思うんだけど、若い時に苦労してると思うんだよね。

**平**　僕、1週間、砂糖水だけで生きたことがあるんですよ、カブトムシみたいに（笑）。

**シーザー**　オヤジと2人だったんだよね。

**平**　でも、オヤジは再婚してお袋、14歳ぐらい下なんですけどね（笑）。

**シーザー**　こういうことを出さないのがエライんだよな。顔色を見るっていうのは変な言い方だけど、そういうのがあるんだろうね。

**平**　だから、格闘技って今、行っていいのか、力使っていいのかを分からないと強くなれないですよ。練習と試合は誰でもやるんですけど、それ以外の時をどう過ごすかで、そういう意識を研ぎ澄ましてるヤツは試合にも勝つし。

**シーザー**　それは天性だろうね。だから、普通の生活見たら強いか、弱いか分かるもんね。

**平**　要領の良さですね（笑）。

**シーザー**　要領は良かったね、昔から。やっぱりそういう選手は強くなるよ（笑）。

**平**　正道会館の全日本大会に出た時も館長に、「この子は行く時と行かない時が分かってますね」っていきなり見抜かれた（笑）。向こうが守ってる時にいくら殴っても効かないですからね。

**シーザー**　おまえ、空手出たっけ?

**平**　会長、一緒に行ったじゃないですか（笑）。

**シーザー**　ああ、そうか（笑）。

――平さんの良い部分ってどこだと思いますか。

**シーザー**　やっぱり勘がいいですよ。それはたぶん先祖がいいんじゃないの。DNAが。

**平**　うちの先祖は凄いですよ。バリバリの商人なんですけど、伊達藩の御用商人だったんですね。で、伊達藩って紫の着物着て伊達者って言われて目立つの好きな所で、そのお抱えだったんですよ。

**シーザー**　なんかそういう感じだよな（笑）。

**平**　殿様、紫を着ましょうよって薦めていたような商人だったんですよ（笑）。で、ウチの曾祖父さんが道楽して全部潰して逃げたんですよ。

**シーザー**　いい先祖だね（笑）。

――会長の覚えている平さんの試合というと?

**シーザー**　試合?　俺は平に言いにくいこと言うけど、一つね、高野っていうのがいたの。

**平**　あああ！　あれは運命ですね。

**シーザー**　あれはね、なんだか知らないけど、それまでボコボコにやられてるの、高野のほうが。ところが、ラスト10秒で一発逆転KOだよ。いやぁ、死んだかと思ったよ。そのぐらい。

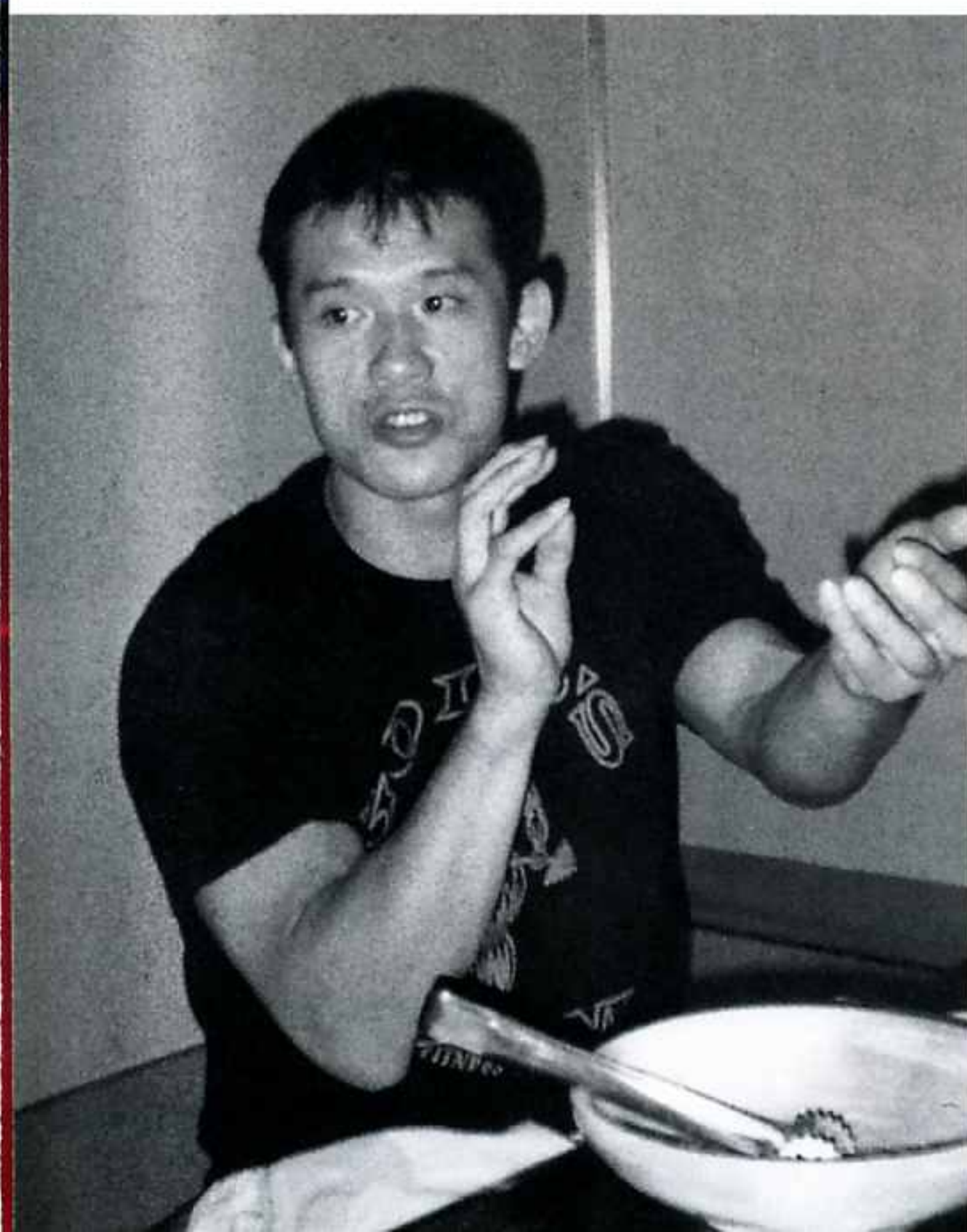
**平**　あれは凄いですよ。僕も全然余裕でラスト何秒なんで、もう一回だけ軽く打とうかなって気抜いて打ったんですね。そしたら、ゴ～ンって（笑）。

**シーザー**　俺ね、格闘技は何万試合って見てるけどね、あんな劇的っていうのかね。最後、12秒とかそんなもんだったん

# 平直行VSシーザー

だから。
**平**　最後ラッシュして終わりにしようと思って気楽にいったんですよ、倒す気もなく。見てるのも悪いから、ちょっといこうと思っていったんですよ（笑）。あれでホントにディフェンスするようになりましたよ。あれなかったら、途中で潰れてたかもしれないですね。
**シーザー**　結構、ナメてるところがあったからね。
**平**　僕、人生で2回KOされたことあるんですけど、一回はそれでもう一回は鉄パイプで殴られた時だけですから。同じぐらい（笑）。
**シーザー**　喧嘩？　喧嘩はモノ持ったほうが勝ちや。
**平**　勝ちですね。
**シーザー**　そう。モノ持たなきゃダメだよ。ガキの頃はモノ持った喧嘩しかしたことない。な？
**平**　はぁ。ともかく2回しかないですね、KOされたのは。あとはボディとか、もらって「もうイヤ」って寝る時はあったんですけど。
**シーザー**　こいつ、アバラにヒビがいってたんで。
**平**　だって、折れて内臓に刺さったらどうしようと思うじゃないですか（笑）。
**シーザー**　俺はちゃんとビデオでチェックしてるから「こいつ」って（笑）。
――呼び出したりするんですか。
**シーザー**　呼ばない。だって、俺だって寝た時あるから、そんなの言えないよ（笑）。
**平**　うわぁ～（笑）。
**シーザー**　だけどね、120戦以上はやってるんだけど、その中で寝たのは何回かあるよ。
――男らしく語りますね（笑）。
**平**　リアルファイトなのに（笑）。
**シーザー**　前の日、酒飲み過ぎてさぁ（笑）。朝まで飲んでたから。ズ～ッと連れ回されてバカバカ飲んで（笑）。面白かったなぁ、あの頃。
――ハチャメチャですね（笑）。平さんが辞めるって言った時は寂しい気持ちになったでしょう？
**シーザー**　ありましたね。ただ、こいつはある程度、年だし、考えてることがあるんだろうなって。気を配るタイプだから。
――不思議なのは大道塾、タイガージム、シュートボクシング、正道会館と動いていきながら、べつに恨まれてないというか、ちゃんとやっていけてるところなんですよね。
**平**　いや、恨まれてますよ。でも、基本的に僕はお金のためには動いてないんですよ。自分のやりたいことなんですよ。
**シーザー**　そうかもしれないな（笑）。あとはキャラじゃないですかね（笑）。
**平**　昔から給食のプリンを先に食べたり、お代わりは二つまでなのに、三つ食っても許される、そういうタイプ（笑）。格闘技より役に立ってますよね（笑）。
**シーザー**　だから、人間なんか一生を通じて何かをイイ思い出を残していくんですよ。だから、瞬間瞬間で見たらいけないんだなぁって思いますね。それは最近ですよ。50前ぐらいになって、よく思いますね。
――でも、会長は昔からすぐに怒るような人じゃなかったんじゃないですか。
**シーザー**　俺？　俺、結構、怒らないよな。怖そうに見えた？
**平**　僕、基本的に誰にでも入り込むんで（笑）。初めて行った外国で道聞かれますから、ホントに（笑）。

## 10年経ってまた会長と練習して、いいなぁって思って★（笑）平

**シーザー**　第一さ、俺と会った時は相手は佐山だからさ、佐山よりは俺のがいいと思うね（笑）。
――それは納得しますね（笑）。
**平**　いえいえいえ、そんなことないですよ。僕はビバ！　佐山さんです。そういえば、僕、佐山さんにも怒られたことないんですよ（笑）。
――生きることの天才ですね（笑）。で、最後に肝心の引退試合なんですが。
**平**　ここまで盛り上がったんで、試合はもうなかったことにしたいですね（笑）。
――雑誌にも載ったし（笑）。
**平**　十分だ、もう。試合なければいいなぁ（笑）。
**シーザー**　でも、ちゃんとしたヤツ当てますよ。そのほうが平としては素晴らしいかなって思うわけ。普通の引退試合は弱いのをぶつけて花持たせたりするけど、平の場合はまだ頑張れるよっていうのを後輩や生徒に見せなきゃいけない立場だからね。
**平**　うわぁ、見せられなかったらどうしよう（笑）。
**シーザー**　だから勝敗はどっちでもいいんですよ。だけど、闘うことにこだわってる平を表に出してやりたいなって思ってるんですよ。
――相手はもう決まってるんですか。
**シーザー**　フランスのゴールデン・トロフィーの選手で寝技も打撃も両方できる選手ですね。
――平さんどんな試合をしたいですか。
**平**　それに、若いピチピチの頃に戻そうとするのは無理ですから、味のある枯れた試合をしたいですね。若い奴だったらガーッといっちゃうところをスカすんだけど、パンと入るような。
**シーザー**　だけど、平がこう言ってる時は自信がある証拠ですよ。それは分かってるから。付き合い長いからね。心配なのはちょっとスタミナが続くかなっていうね。
**平**　今年、39歳ですからねぇ（笑）。
**シーザー**　いや、本音を言えば、行くと思ってるから（笑）。
**平**　いやぁ、シュートボクシングの試合は普通の人が1時間ダッシュしてるのと変わりないですよ、ホントに！　口は災いの元だったなぁ（笑）。
**シーザー**　平直行という人間を見せるしかないんだから。ヘロヘロになった平も見てみたいじゃない（笑）。
**平**　生き様を見せましょうか（笑）。この間の月曜日に会長と練習したじゃないですか。10年経ってるのに、なんか昔みたいに急にできるわけですよ。なんかいいなぁって思いましたよ、凄く。ありがたいなぁって。好き放題やってきたのに昨日までいたように接していただいて、ありがたいなぁって気持ちを見せますよ。■

# SRS・DX Editor's Talk
# 編集部トーク 裏事情

## 『Dynamite!』マッチメイク裏話

**A** それにしても『UFO LEGEND』に続き、石井館長プロデュースの『Dynamite!』も意外にカード発表が遅れたというか、ギリギリになって変更→変更が続いてしまったわけだけど、このへんの裏事情を今回は紹介しようか。
**B** ウン、これは『UFO』に続いて、一冊の本になるほどエピソード満載だったね（笑）。
**C** 結局、桜庭VSミルコ、吉田VSホイスが早々と発表されて、その次がなかなか決まらなかったのは、UFOや新日本の絡みがあって、猪木軍団の出場がなくなってきたからですよね。
**B** そう。本来は藤田や安田にも出場してもらいたかったのが、それが白紙になった。そこで、ノゲイラVSサップがやっと決まったところから、猪木軍抜きで『Dynamite!』が走り出すという方向性がハッキリ決まったということだね。
**A** で、次に決まったのが、「ハントVSフライ」「ホーストVSシュルト」のK―1ルール。
**B** シュルトの場合は「10・5K―1ワールドGP開幕戦の前にもう一試合やりたい」と言っていたので問題はなかったんだけど、K―1ファイターのほうが過密スケジュールで相手がいない。アーツやバンナ、セフォーは体調不良でまったく出場する予定がなかったからね。そこで、〝スリータイム・チャンピオン〟のホーストが「じゃあ、俺がラスベガスに続いて2連戦をやってやろう」という話になったらしいよ。ホーストは男を上げたけど、シュルトのほうは「よりによって一番嫌なホースト！」と言ってたみたいだね（笑）。
**C** ドン・フライはK―1ルールをすんなり受けたんですか？
**B** いや、やっぱり「アビディとK―1ルールでやってもいい」なんて発言していたけど、いざハント戦をオファーされた時は、かなり悩んでいたらしい。というより、フライは高山戦でリアルファイトは卒業するつもりだったからね。
**A** でも、そのハントがなんと1週間前に負傷欠場。フライにとってはちょっとかわいそうだったな。
**B** ハントが負傷欠場したことで、いよいよK―1側のベスト8ファイターはいなくなってしまった。そこで、名乗りを挙げたのが〝男・バンナ〟だよ。本来は試合する予定のなかったバンナが、体調不良をおして「ミスター・イシイのためなら」と、なんと試合当日に来日して試合をやった。こんなことは本当に前代未聞のことだよ。
**A** 男だねぇ、バンナは。受けたドン・フライもまさに男！ バンナVSフライは、男VS男の対決だねぇ（笑）。
**B** 今回はまさに〝男気の大会〟だよ。バンナ、フライだけじゃなく、ケガをおして出たノゲイラもそうだし、『プライド』王者ノゲイラ戦を受けたサップもそう。でも、日本人キラーのシウバに対して、日本人が誰も名乗りを挙げなかった。そこも大きなネックになったんだよねぇ。石井館長は本当に30人くらいのファイターに当たったみたいだよ。
**C** その中に、噂の長州力や天龍源一郎もいるんですね（笑）。
**B** そうそう（笑）。でも、結局シウバとやりたいと言っていた日本人でさえ最終的には出て来なかった。そこでヨハン・ボスジムのK―1ファイター、ジェレル・ベネチアンに一度は決まったんだけど、石井館長の「再度募集！」の呼びかけに岩崎達也、金泰泳、大山峻護の3人が名乗りを挙げたんだよ。
**A** 彼らも本当に男だよなぁ。あと、UFOの村上和成も「ドクターの診断次第で」という条件付きで立候補したらしいねぇ。
**B** そういう意味で、マッチメイクから『Dynamite!』はドラマチックだったよ。その他には、ジョシュ・バーネットVSヒース・ヒーリングのような対決も候補に挙がったんだけど、結局ジョシュのドーピング問題で実現しなかった。急きょゲーリーの試合が決まったのは、そんな理由からだったらしいよ。■

▲8・26東京ヒルトン・ホテルで行われた直前記者会見。このカードが決まるまで、本当に紆余曲折があった

◎本当に狂った夏だった。これだけ8月にビッグイベントが続くと、夏休みどころか、土日の休みすら一日もとれない。ラスベガスに行っても、一回もカジノさえしなかった。こんなのって、本当に前代未聞のことだ。まったくベラージオ・ホテルで、原稿を書きまくったり、打ち合わせばかりしている自分が虚しいこと、虚しいこと。でも、その分、イベントが成功すると大興奮する。やっぱり私は根っからの仕事人間である。こんなところばっかり、師匠のターザン山本さんに似ちゃったんだけど、最近の師匠はノン・ストレスで楽しそうなんだよなぁ。今回の『Dynamite!』で一番感じたのは、ファイターの生き様だった。初の国立競技場大会、そして誰でも出られる大会で、ファイターはこれに出るか出ないかを突きつけられていた。その中で、日本人選手、特にプロレスラーが名乗りを挙げなかったのはあまりにも寂しい話である。また、〝最強〟をめざす格闘家も同様である。なんで、こんなおいしい大会に出ないんだろう。そのイメージダウンはあまりに大きい。せめて半分くらいのファイターに、日本人で占めてもらいたかった。それに比べて、上空3000メートルからスカイ・ダイビングした猪木さんは凄い！ 現役のプロのファイターより、よっぽど勇気がある。特に無類の高所恐怖症の私には、シウバの対戦相手に名乗りを挙げることより、よっぽど勇気があるように見えるのだ。私だったら、究極の選択を迫られたら、シウバに殴られることを選んだ。『Dynamite!』は猪木さんをはじめ、男気を試される大会だったのだ。（谷川）

SRS・DX
次号の発売日は9月26日(木)です。
発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之　編集長：谷川貞治
DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、溝口真穂
野尻雅友、小林善夫、2in1、ナール企画、NORTON

これを見ずして夏を語るな！

**9・7DEEP**
**有コロ大会最終情報**

# これぞ、DEEPの真骨頂!!

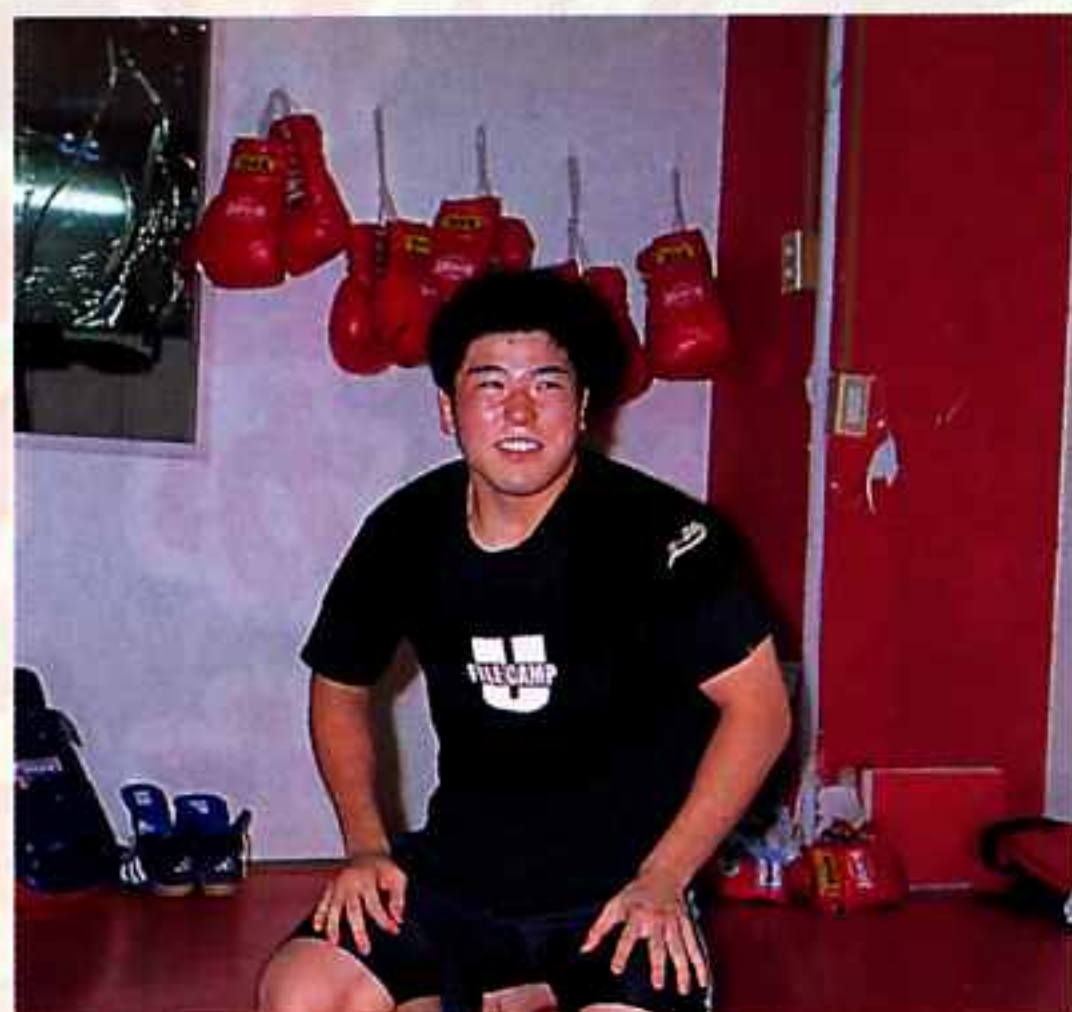
## ゴージャス松野が偉そうに大久保一樹に必殺技を伝授!!

撮影◎中島ミノル
取材&聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

松野の決め技・小龍包を伝授され、一宮対策は万全の様子の大久保ちゃん

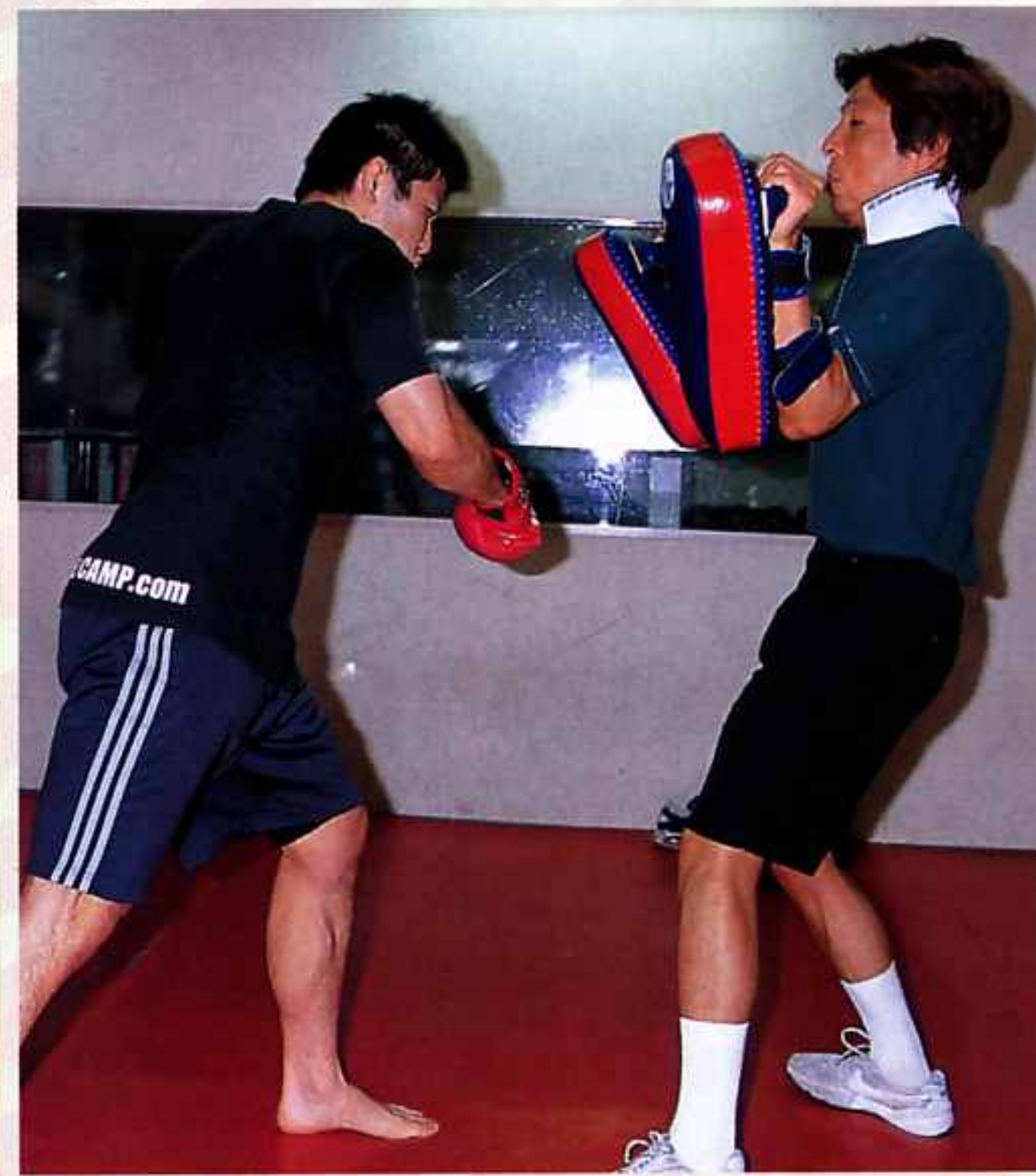
# 子犬のような大久保！松野からダメ出しの連続!!

## なぜ、反論しない？ ド素人の指導を全て受け入れる大久保ちゃん！

▲「勝ちたいと思います」という大久保ちゃんに、「勝ちますって言うんだよ！」とコメントまでダメ出しされる

▲ド素人に言われ放題だったのに、「なんだかゴージャスでした（笑）」と微笑む大久保ちゃん。叱られる姿が絵になる男だ

▼寝技にいたっては「やらないほうがいいね」とまで言われるのが悲しい。だが、それでも従順なのが大久保ちゃんだ

▼パンチにしても「切れがない」など、好き勝手なことを言われてしまう

▲松野は当日、セコンドについて大久保に檄を飛ばすことを約束

大久保ちゃんは可愛い。小動物として凄く可愛い。

その濡れた目はいつも伏し目がちで、前へ出るという欲深さに欠けている。

だが、だからこそ、ゴージャス松野という腐りきった男とのツーショットは大久保ちゃんをより一層引き立たせてやまない。

格闘技ド素人のくせに図々しくも技を指導し、しかも、ダメ出しまでする沢田亜矢子の元旦那。さすがはワイドショーを連日賑わせた男は肝の座り方がまるで違う。

そんな男に対して大久保ちゃんは一歩どころか百歩ぐらい軽く引いて、素直に頭を垂れている。

どう見ても蹂躙されているに等しい光景なのだが、大久保ちゃんはそんな場ですら、向学心に燃えているから、この2人は素晴らしい対になって見える。

「下になるな！」「はい」

「そんなパンチじゃ、一宮は倒れないぞ！」「はい」

明らかに松野は大久保ちゃんが負けると思ってる。だが、大久保はこれでも柔道の有段者であり、田村潔司の愛弟子だ。カト・クン・リーにも勝っている。

べつに弱くはないのである。

海千山千の松野＆一宮（免許偽造犯）に、ヒナ鳥チックな大久保ちゃんがどう立ち向かっていくのかが興味津々なのだ。

総合格闘技の大会の中で、強さではなく、弱々しさという武器を持って闘う大久保一樹。彼以外に誰も持とうしない、持ちたいとも思わないが、だからこそ、逆に光る個性を、この大会で堪能してみたいと思うのだ。■

# 松野さんは鋭い指摘をされてて、結構当たってると思います

Kazuki Okubo

――さっそくですが、先日のゴージャス松野さんとのスパーリングどうでした？

**大久保** あ、緊張して疲れました。

――それは松野さんに？

**大久保** 取材陣の人が凄かったんで。松野さんは普通でした。

――いや、全然普通じゃなかったですよ、松野さんは。

**大久保** あ、熱くなってた感じもしたんですけどぉ……。

――メチャクチャ熱くなってましたよ。

**大久保** 結構指導していただいて。「こんなパンチじゃ効かないぞ」とか、「下になるな」とか言われたんで……。

――言われちゃいましたね、あんなド素人に（笑）。

**大久保** ショックでした……。

――ショックって（笑）。

**大久保** ショックっていうか、アドバイスしたので、いやあのう……。いい経験になりました。

――いや、言い返したほうがいいですよ、本当に（笑）。

**大久保** なんか、立場が逆転してしまったような感じがしてたんで。

――してましたねぇ（笑）。なんで、「寝技は捨てたほうがいい」とか言われなきゃいけないんだろうかとか（笑）。

**大久保** 本当にもっと強気でいけば良かったんですけど……。

――いや、松野さんに強気になる必要はないと思いますよ（笑）。

**大久保** いろいろ言われてたんで、困ったっていうんですかね……。びっくりした。

――びっくりした（笑）。「ちょっと待ってくださいよ。僕は寝技の選手なんですけど」とは言えなかったんですか？

**大久保** そういうことは、出てこなかったです、頭の中に。なんかもう、いっぱいいっぱいだったんで。

――そうですね、記者会見とかああいうこと自体も場数を踏んでないし。そういえば、「試合の場数踏んでない」とも言われてましたね（笑）。

**大久保** 結構、なんて言うんですかね、鋭い指摘をされたんで。結構、当たっているんじゃないかと思います。

――当たってる（笑）。ホント、いいですねぇ、大久保さんは。人に愛されますよ（笑）。

**大久保** あ、はい……。

――Uファイルの大会の時も率先してマットを片づけてたのも印象的でした。

**大久保** はい（笑）。みんな片づけてたんで、自分もやんないといけないのかなぁって思って。

――いや、一番に動いてましたよ（笑）。でも、立場的にはしなくてもいいんじゃないかと思うんですよね。

**大久保** ああ、そうなんですか、そんな感じは自分の中ではなかったもんで。

――いやぁ、真面目な話、素敵ですよ（笑）。

**大久保** はい。あの、どう言ったらいいか……。ありがとうございます。

――はい。ありがとうございます（笑）。なんか、ホントに愛らしい感じですね。ちっちゃい頃から、そのどこかオドオドした感じってあったんですか（笑）。

**大久保** 挙動不審とはよく言われました。

――イジメられっ子だったんですか？

**大久保** どちらかというといじられキャラだったですね。イジメほどではないですね。

――どんな感じでいじられてたんですか。

**大久保** プロレス技をかけられてました。コブラツイスト、片エビ固め、キャメルクラッチとかをかけられて。

――基本ですね（笑）。なんか、田村さんとかにもいじられの対象になってるんだろうなって思うんですよ。

**大久保** いろいろ可愛がられて。面倒とか見てもらってるんで（笑）。

――突然、大久保さんのクラスに田村さんが現れたりしたことがあったみたいじゃないですか（笑）。

**大久保** あれは急に……。自分、もともと人前でしゃべること自体ダメなんで。さらに緊張しちゃって……。

――普段のクラスの時はどうなんですか。

**大久保** 質問とかされるともうちょっとダメなんですよ。うまく説明できなくなって、そういう場合は「いっぱいいっぱいなんで勘弁してください」って誤魔化しちゃうんです。

――誤魔化しちゃうんですか、先生が。ヒドイ話ですね（笑）。

**大久保** いや、それで助かる場合もあるんです。それが嬉しい（笑）。

――嬉しい？

**大久保** みんな常連さんなんで（笑）。

――田村さんとはどんな会話をされるんですか。

**大久保** あんまり発言もなく……。

――会話らしい会話もなく（笑）。

**大久保** なくはないんですけど、「最近どぉ」とか、そんな感じです。

――それは会話じゃないですね（笑）。で、なんて答えるんですか？

**大久保** 特に変わったことはないですと。いや、もっとあるんですけど、なんかうまく出てこないんですよぉ。

――いや、大丈夫です、気持ちは分かりますから（笑）。ところでなぜ格闘技を始めたんですか？

**大久保** もともとプロレスファンなんですよ。で、やってみないと気が済まない

# ああ、僕、子犬なんですか？……ありがとうございます

タイプなんですよ。

——意外ですね。

**大久保**　一つのことしか見えなくなる時があるんですよ。で、やってみないと始まらないなってことで。でも、総合格闘技はまったく興味なかったんですよ。

——興味なかったんですか！

**大久保**　プロレスファンだったんで。で、友達にリングスファンがいまして、最初はつまんないなと思っていたんですけど、田村さんの試合を見たら今までにない感じが伝わってきて。それで、田村さんのジムに通ってみようって……。

——じゃあ、そんなプロレス・ファンがあのカト・クン・リーに勝ったってわけですね（笑）。どんな心境でした？

**大久保**　僕、知らなかったんです。田村さんとか、周りの人に聞いたらかなりの有名人だよって言われて、自分の中で変なプレッシャーがありまして。負けられないっていうのと、怖いっていうかぁ。

——弾丸を避けますからね（笑）。

**大久保**　そうですね（笑）。で、なんていうか、未知の相手だったんで。実は強いとか、ルチャの禁止技をやってくるんじゃないかとか、変な妄想がありまして、相当あの時はナーバスになってましたね。あの時は疲れと精神的に追い込まれた部分で腹痛起こして胃腸炎になってたんですね。それで吐いたんです。それぐらい追い込まれていたんで。今思うと勝ったから良かったんですけど、あれで負けてたらどうなったんだろうって。

——でも、僕はカト・クン・リーに勝ちやがってて思っていましたからね（笑）。

**大久保**　あ……。でも、試合後にドスJrさんとカト・クン・リーさんと通訳の人がいて、「ありがとうございました」って言ったんですよ。そしたら「次もう一回やったら勝てる」って言われて「そうですね」って……。

——「そうですね」って言っちゃったんですか（笑）。

**大久保**　いや、なんて言ったのか覚えないんですけど、勝てると言われたんです。

——カチンと来たんですか？

**大久保**　カチンと来なかったんですけど、もうやりたくないって。

——思っちゃったんですね（笑）。まあ、その後、美濃輪戦、ネオブラッドでの闘いを経て、しかもネオブラッドは優勝者の門馬さんと一番いい試合して評価を上げたじゃないですか。

**大久保**　あ、そう言ってもらえると。ありがとうございます。

——みんなそう言ってましたよ。で、今回の一宮戦につながるわけですけど、どうですか。

**大久保**　いや、またカト・クン・リーと同じタイプの選手じゃないですか。未知の選手なんで。

——体重重いし、偽造王だし（笑）。

**大久保**　でも、カト・クン・リー以上の緊張はもうないです。あの試合を超えたら、そんなにビビることはないんで。緊張してるんですけど、あの時ほどはないんで。

——実際問題、体重が結構重いじゃないですか？

**大久保**　それがイヤなとこなんですよ。でも、それがハンディってことになったんですよ。

——つまり向こうの要求を呑んじゃったんですね（笑）。

**大久保**　呑んじゃった……。はい。

——呑んじゃった以上はしょうがないですね。でも、第1試合ですから盛り上げてもらいたいですね。

**大久保**　試合内容で盛り上がればいいんですけど、始まっちゃえばそんな余裕ないと思うんで。

——思い切りやるしかないですよね。

**大久保**　陰ながら応援してください。

——なんで陰なんですか（笑）。ともかく緊張せずに頑張ってください。

**大久保**　はい、頑張ります。あのぉ、こんなんでいいんですか？　インタビュー成り立っているんですか？

——メチャクチャ成り立ってますよ（笑）。僕が思ってるのはこの試合はゴージャス松野、一宮章一っていう海千山千の男たちを、まあ、なんていうか、大久保さんっていう子犬のような少年がどういうふうに振り払っていくかっていうのが楽しみなんですよ（笑）。

**大久保**　僕、子犬……。

——ちょっと弱気な男がいざリングに上がったら、どう変わるかが楽しみなんですよ。だから、見所は大久保さんの表情だよっていうのを言いたいですね（笑）。

**大久保**　あ、どうもありがとうございます。頑張ります。■

昨年末のDEEPでは美濃輪とも対戦。大物と当たったり、イロモノと当たったり、大久保ちゃんの格闘人生は波瀾万丈

Kazuki Okubo

# 覆面ワールドリーグ戦構想、そして『サエキ・ボンバイエ』とは何か？

## まだまだ続く佐伯代表の野望！

ほとんど毎号のように続いてきたDEEP情報。締めはもちろんこの人、佐伯繁代表のインタビューだ。田村VS美濃輪実現、修斗参戦までの苦労話や、自らのプロレスデビューをも狙う今後の野望について聞いてみた。

聞き手◎橋本宗洋

——代表！　今回は実に見事な手腕を発揮されて、DEEP史上どころかこの夏最高のカードだって評判ですよ。

**佐伯**　いや～、おかげさまで、これまでとはチケットの売れ行きも全然違いますねぇ。あとは『Dynamite!』が終わってファンが一息ついたところで、最後のもうひと伸びと。（テープレコーダーに近付き）当日券は午後2時から発売ですんで、よろしくお願いします！

——これはしっかり載せておきましょう（笑）。今回、超・正統派カードの田村VS美濃輪から超・飛び道具の大久保VS一宮戦まであるんですけど、代表としてはどれが一番のお気に入りですか？

**佐伯**　全部いいカードだと思ってますけど、やっぱり企画としては一宮選手でしょう（笑）。あと決定して「やった！」と思ったのは三島VS伊藤かなぁ。

——修斗側から「パンクラスの選手とやらせるのはカンベンしてくれ」みたいな話はなかったんですか？

**佐伯**　ん～、これ難しい話なんですけどねぇ……。その辺は筋を通しながらも、うまくビジネスとしてっていうか、ナアナアにならないようにね。坂本さん（一弘。修斗協会会長）の考えっていうのは凄い共感できるんですけど、そこでこう、仲良くなりすぎないように。例えば「こういうカードはやめてくださいよ」って言われた場合に、断りにくくなっちゃうじゃないですか。やっぱり三島選手も、ウチに出てくる以上、ある意味勝負かけてると思うんですよ。そしたらこっちもできるだけいい相手を用意してあげたいし。そういう部分でですね。

——ドスJrも半年ぶりの復活ですね。

**佐伯**　ドスはねぇ、今アメリカで練習してるんですよ。マルコ・ファスのジムで。

——そうなんですか？

**佐伯**　気合い入ってますよぉ！　あれだけのルチャのビッグネームが、自分の試合をキャンセルしてまでVTの特訓してるんですから。

——じゃあ、かなり成長したところが見られそうですね。

**佐伯**　特に寝技がうまくなってるような気がするんですよねぇ。ただ、ドスが得意のパンチとか投げじゃなくて、覚えての寝技を使いたがると中野さんにもチャンスは出てくるかなと。あとルチャに関して言うと、12月の大会も都内でやるんですけど、ソラールがまた出るかもしれないですよ。

——え、ソラールって前回の試合（鈴木みのる戦）で金的で反則負けになったんで〝永久追放〟なんじゃ……？

**佐伯**　そこはまぁ、ね（笑）。それで来年はまた対抗戦をやって、ゆくゆくは『覆面ワールドリーグ』。リーグって名前でトーナメントやるんですけど（笑）。メキシコだけじゃなくて日本のマスクマンも集めて、昼夜興行でやろうかなと。これが来年の大目標なんですよぉ。

——ムエタイが出るって話は？

**佐伯**　それも12月ですね。ランバーと、ラジャの元ライト級王者と、現役のJrウェルター級王者。この3人で。ルールはヒジありでやりたいですねぇ。日本人でも、初参戦の大物を考えてますよ。

——やるなぁ～。あ、あとはあれですね。代表の選手デビューですね（笑）。かなり噂になってますよ。

**佐伯**　ただDEEPはガチだから……。

——プロレスデビューでいこうと（笑）。

**佐伯**　浅野社長とか松野さんができるんだったら、オレもって（笑）。まず受け身覚えないといけないですねぇ。

——メチャ本気ですね！（笑）。

**佐伯**　やるんだったら、自分で選手集めてプロレスの興行をやりたいですね。DEEPとは別に。

——村浜選手とか髙阪選手とか、DEEPゆかりの選手だけでもできますもんね。それこそルチャ勢もいるし。『サエキ・ボンバイエ』ですよ！

**佐伯**　いいですねぇ～！　それでボクは第1試合に出ますから。

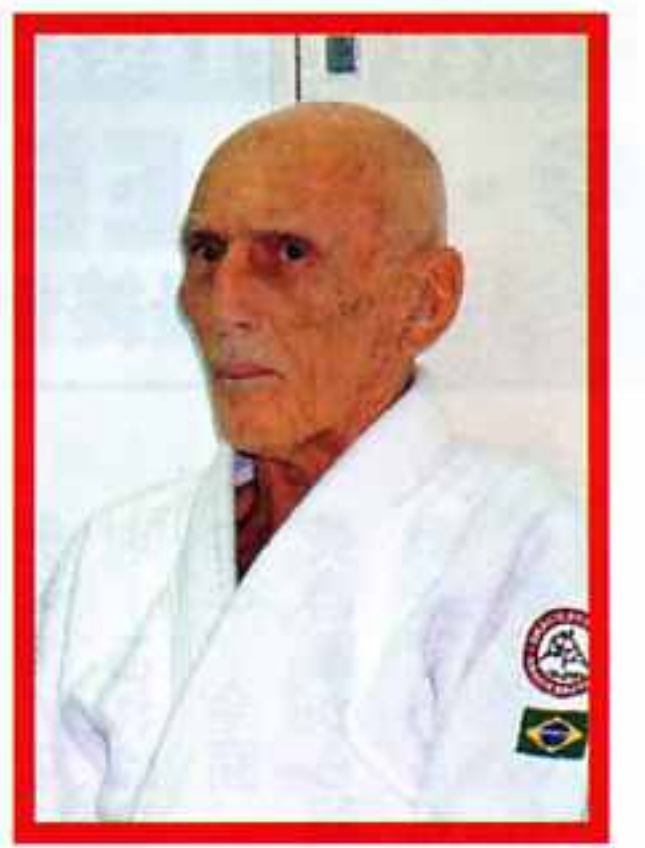
——スタイル的にはどんなのがやりたいんですか？

**佐伯**　さすがにこの体じゃ飛べないんで（笑）。ハンセンみたいなブルファイトがいいかなぁ。

——相手はどうします？　マット・ガファリとか（笑）。

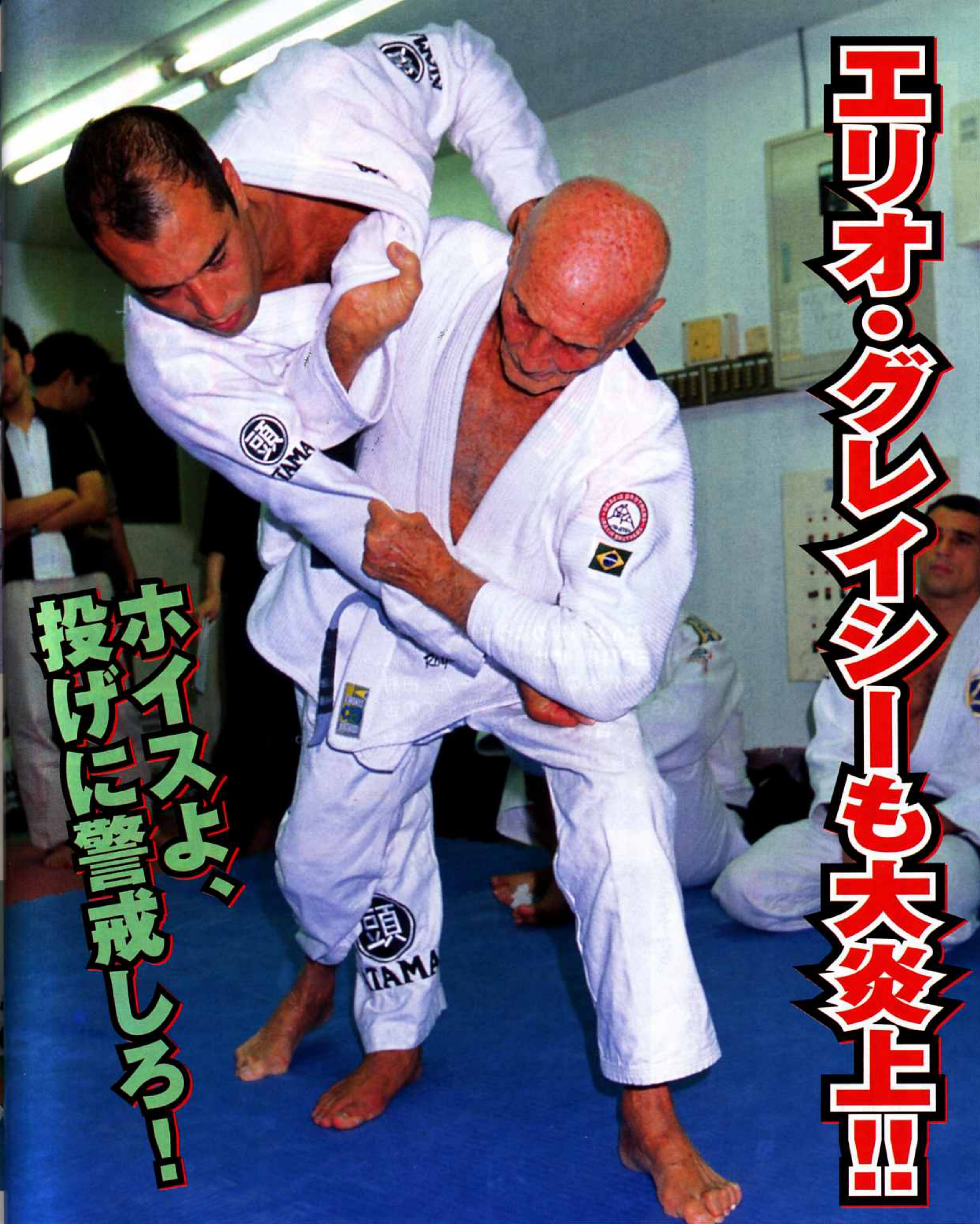
**佐伯**　ガファリはねぇ、もう1回ガチンコが見たいんですよねぇ。

——じゃあそれはDEEPで。

**佐伯**　大刀光ならいつでも用意できるんで、はい（笑）。■

# ハッスル爺さん！グレイシー柔術総帥

# エリオ・グレイシーも大炎上!!

## ホイスよ、投げに警戒しろ！

撮影◎中島ミノル
取材&文◎中村カタブツ君（ブチ）

8月22日に行ったホイス・グレイシーの公開スパー。そもそも手の内を明かさないグレイシー勢が目新しいことをするわけもなく、さらに言うなら、この号が出る頃にはすでにホイスVS吉田の結果が出ているわけだ。

しかしである。エリオの動きが見られるのは、この時だけだし、グレイシー一族一番のスターはやはりエリオ！　このジジイの元気なところはやはり読者の方々にお届けしないともったいないだろう。

まあ、なにしろ、89歳という本来だったら、相当ヨボついてるはずのお方だが、写真のようにいまだにホイスを投げ飛ばす力があるのは驚異的。さすがは50歳の時にハイティーンの女子と結婚して子供をガンガン生ませた男だけのことはある。道衣を着てても裸になってもともかく元気！

もちろん、ジジイらしく口も達者。51年前の対木村戦については「ワシはタップしてないから負けてない。だから、ホイスと吉田の闘いはリベンジじゃあないんじゃよ。フォフォフォ」と、平気で言うあたりもグレイシー魂の塊で、年季の入り方が違う。

やはり格闘家は長生きした者が勝ちという気がしてならない。

ホイスとのスパーは10分ほどであったが、やっぱり元気なところを随所に発揮してくれた。ホイスを下から絞めてみたり、バックに回って絞めてみたり、投げて見せたりとよく動いて記者陣を驚かせる。

練習後の会見ではホイス戦に向けての質問もあったが、「エリオさんはなぜそんなに元気なんです



イ

か？」という、素朴な疑問もぶつ

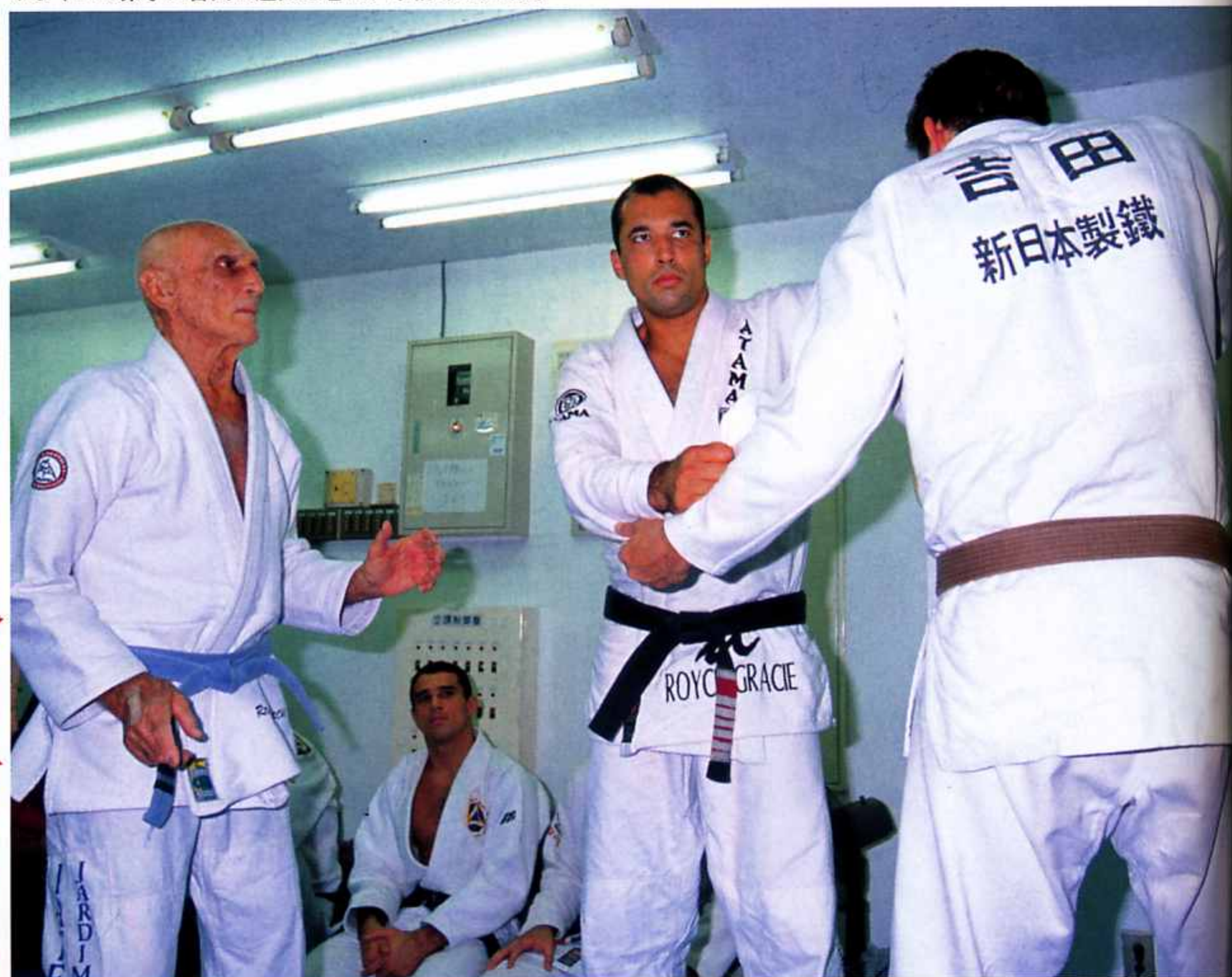
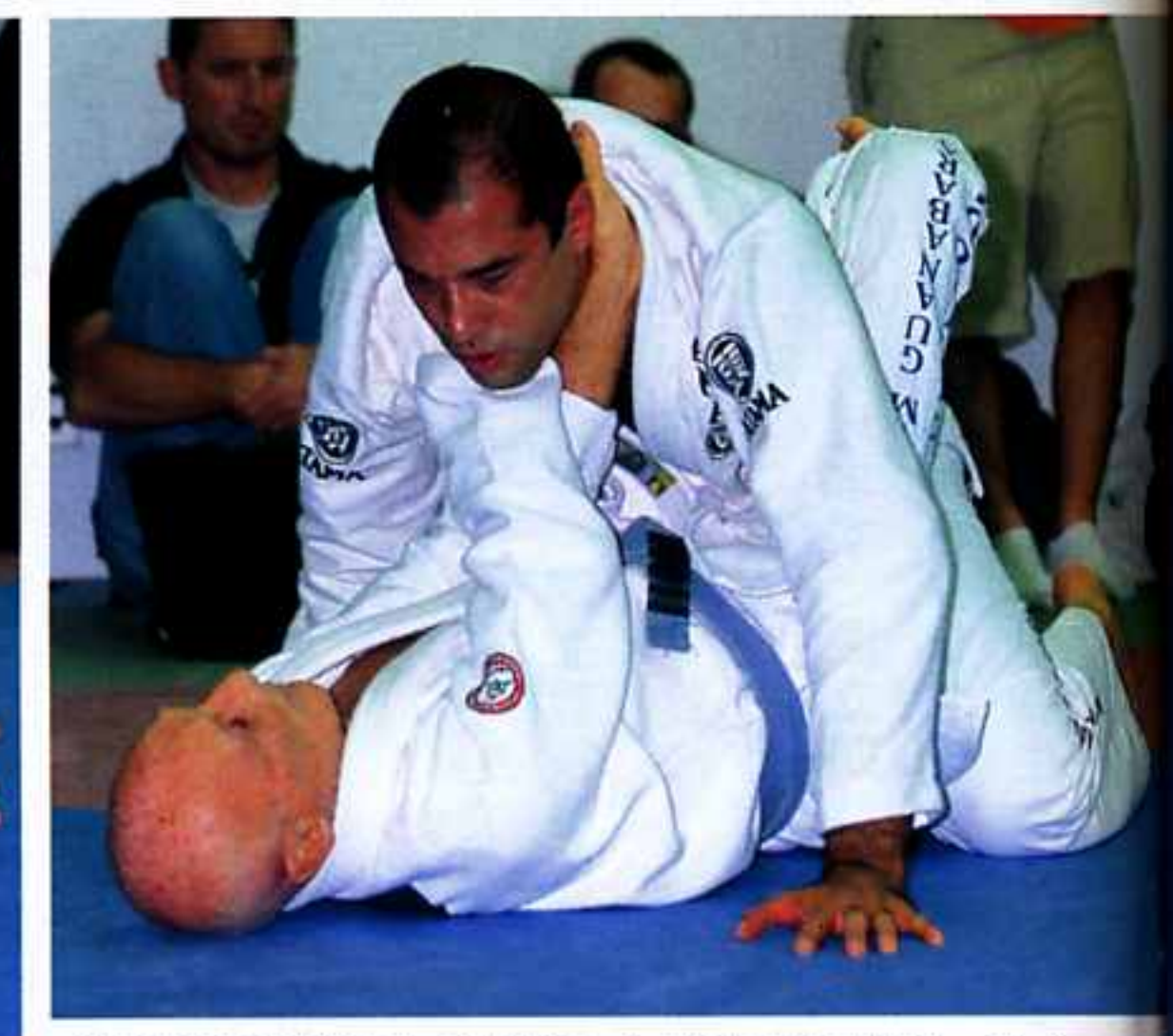
# ホイス、打撃&タックルも習得済み!

# 仮装? 吉田秀彦VS ホイスの秘訣も伝授!!

▼ホイスの弟子に吉田の道衣を着せ、本格的に技指導

▲ハイキック、後ろ回し蹴り、カカト落としと数々の蹴り技を披露。打撃対策は万全の模様だ

▲パンチもワンツーからのフックなどコンビネーションをいくつか見せる

▲ホイラー相手に、タックルも決めるホイス。ハッキリ言ってそんなにうまくない

▲バックを奪ったエリオはサイドから首を狙っていく

▲下からの襟絞めのポイントを改めて確認。ホイスの顔がアッという間に真っ赤になる

か?」という、素朴な疑問もぶつけられ、「もちろん、それはグレイシー柔術を長年やってきたからじゃ」と高らかに笑って、生きることの素晴らしさを印象づけてくれたりしたのだった。

そして、クライマックスは、ホイスの弟子、ジョーン・バークに本物の吉田秀彦の道衣を着せて、仮想というか、仮装・吉田戦まで敢行! 昨年、米寿を迎えたエリオの勇ましい姿に乾杯したい。

で、肝心のホイスだが、打撃に関しては、カカト落とし、後ろ回し蹴り、パンチもワンツーからフックしてウィービングするなど、ひととおり習得していることは見せつける。また、打撃からタックルに入る動きも何度か見せてくれたが、これはちょっとクワガタっぽくてまだまだの感がある。全体的に言えば立ち技については、知っているかなっていう程度。

もっとも吉田もそれは同様なので、もしも当日、打撃戦になったら、別の意味で前代未聞の事態となることは必至だろう。

ともかく、この時点でグレイシー陣営が警戒していたのは吉田の投げだけ。それさえ潰せば、勝利の文字は揺るぎないという感じではあった。実際、ホイス陣営では道衣をTシャツばりにピチピチにすることも考えているという情報もあったりと、投げに関してだけは細心の注意を払っている。

そもそも柔道はスポーツだと言ってはばからないエリオ。格闘技である、グレイシー柔術がスポーツに負けるわけがないという、一族の決意がヒシヒシと感じられた公開スパーであった。■

# 試合前、エリオ＆ホイスの証言

――エリオさんはホイス選手が吉田選手に勝つためにどんなアドバイスをしているんですか？

**エリオ**　ホイスはわしが教えたことを全て知っておるので、特別なアドバイスなどはしておらん。

――例えば、柔道家と闘うにあたって、技術面じゃなくて、精神的なアドバイスはありませんか？

**エリオ**　ホイスとは生まれてから一緒におるし、小さい頃から何もかも教え込んどるので、精神的にも今さらアドバイスなどは特にしておらんよ。

――吉田選手のグラウンド技術はどのように評価していますか？

**エリオ**　写真でしか見たことがないし、実際の試合を見ておらんから、闘うまでは分からん。ただ、オリンピックで優勝しておるので、見てはおらんがおそらく強い選手だと思っておる。

――さきほど、ホイス選手と実際に肌を合わせて練習していましたけど、どんなアドバイスをしていましたか？

**エリオ**　特にアドバイスをしたほどじゃない。「試合ではこういう展開になるだろう」ということで、相手の首の持ち方をどういうふうにやればいいとか、その程度じゃ。

――エリオさんはだいたい、試合の展開はどのようになると思っていますか？

**エリオ**　この試合に関しては、いろんなことがあり得ると思っておるが、わしも息子も、わざわざ負けるために長旅をして来ていない。ホイスは必ず勝つ。

――どんなルールが理想ですか？

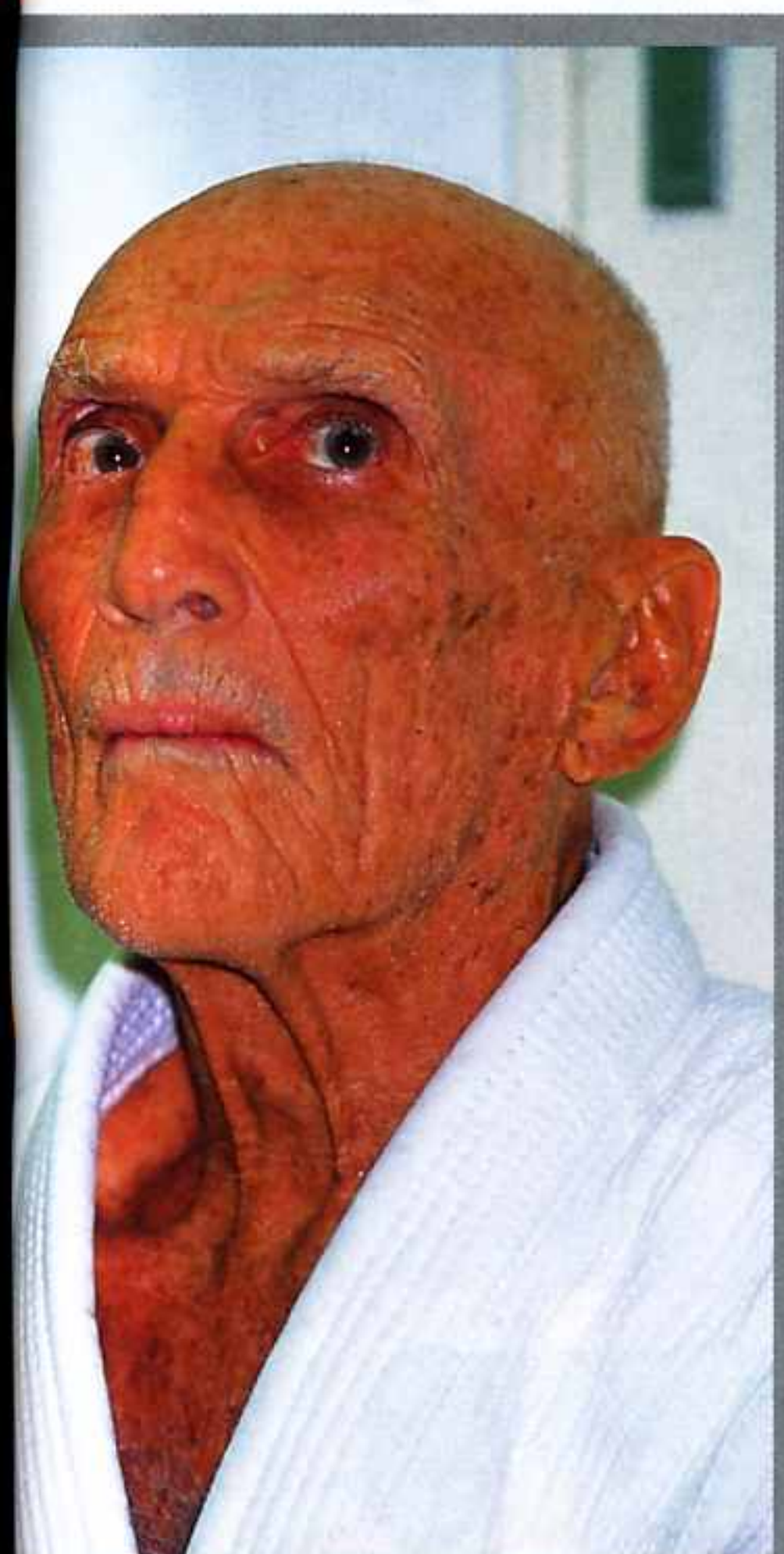
**エリオ**　ルールはわしが決めるわけじゃない。プロモーターが決めたルールの中で闘うだけじゃな。

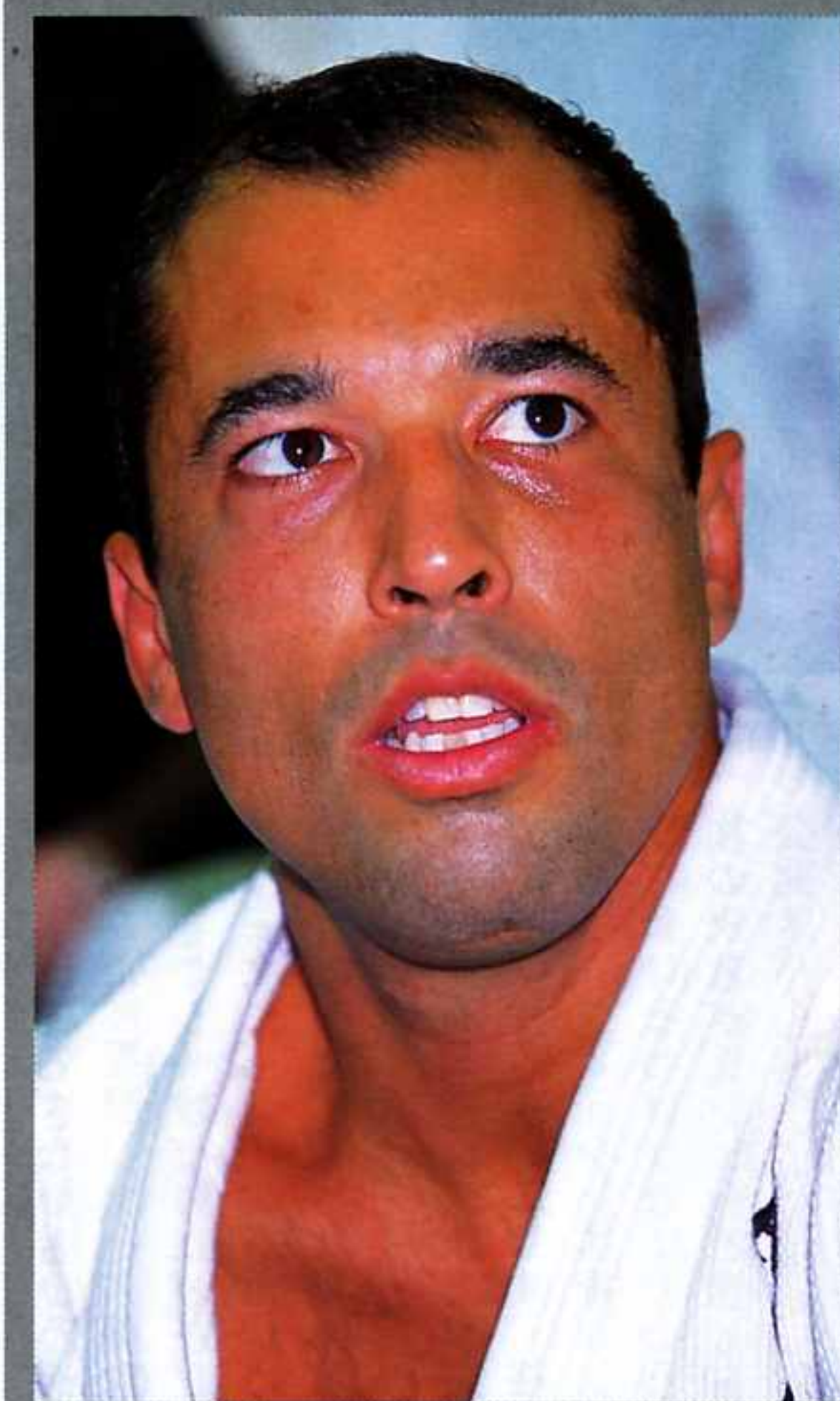
――ホイス選手、今回吉田戦に向けて、強化した点は？

**ホイス**　この試合は何が起こるか分からないので、総合的に練習しています。特別に強化したところはありません。

**エリオ**　わしらの柔術は試合の展開次第で、自分たちで考えながらやっておるので、特別にこの選手に関して、こういう練習というのはやっておらん。試合の展開次第で動くことが大事なんじゃ。

――吉田選手のどんな攻撃を注意しますか？

**ホイス**　自分が投げられることに関しては注意します。

Helio Gracie

Royse Gracie

――吉田選手は打撃技の練習もしていますけど、それに関してはどうですか？

**ホイス**　さっきも言いましたが、この試合は何が起こるか分からないので、自分としてはアレに注意しなければならないとかじゃなく、総合的に練習しています。

**エリオ**　わしらの柔術はどんな格闘技にも対応できるように練習しておるので、何かを特別に練習するんじゃなくて、総合的に練習するのが目標なのじゃ。

――吉田選手は柔道が強いという以外に情報がありませんが、不安はありませんか？

**エリオ**　不安などあるわけないじゃろう。柔道はスポーツだと思っておる。ただ、今回の試合に関しては格闘技の部分が入るので、相手のレベルもあるが、いい試合になるかもしれんし、いい試合にならないかもしれんな。

**ホイス**　ヨシダが柔道以外の技術を出すのかは、当日分かるでしょう。

――ホイス選手は屋外で試合をしたことはありますか？　また、国立競技場は見たことがありますか？

**ホイス**　ブラジルで1回だけ野外で試合をやったことがあります。国立競技場は写真でしか見たことがありません。

――エリオさん、その年まで長生きなのは何か秘けつがあるんですか？

**エリオ**　うむ、今まで柔術をやってきたことが元気でいる秘けつだと思っておる。

――ホイス選手、理想の勝ち方は？

**エリオ**　勝ち方に理想などない。勝てばいいんじゃ！

**ホイス**　父と同じ考えです。

**エリオ**　ヨシダに質問じゃが、練習をしておるのか？

――柔道家と闘うことを、ファミリーとしてはどうとらえていますか？

**エリオ**　柔道だけにこだわるとしたら、いいファイターにはなれん。■

▲グレイシー軍団が集結してのホイスの公開スパー。1列目左からホウケウ・グレイシー（38歳）、ホイラー・グレイシー（36歳）、ホイス・グレイシー（35歳）、ホビン・グレイシー（31歳）、そしてホイスのスパーリングパートナーのジョナサン・バーク（28歳）、ホイスの打撃コーチのノノ（41歳）、後ろにいるのがエリオ・グレイシー（89歳）

Dynamite!
SUMMER NIGHT FEVER
8・28国立競技場

# 石井館長のプロレス進出の切り札 ビル・ゴールドバーグ 遂に日本に上陸！

# 『Dynamite!』はアンビリーバボー!……

撮影◎乾晋也（インタビュー）
聞き手◎小松魔裟夫

# BILL GOLDBERG

ゴールドバーグはかつて新日本プロレスが提携していたアメリカのメジャープロレス団体・WCW最後のエースだったレスラーである。そのゴールドバーグがなんと、K−1の石井館長プロデュースで全日本プロレスに参戦することになり、日本のプロレス・格闘技マスコミは騒然。そして、8・28『Dynamite!』にも姿を現すなど、プロレスと格闘技の区別なくマット界の勢力地図を左右するキーパーソンとなったのだ。そのゴールドバーグに話を聞いてみた。

# 私はボブ・サップを誇りに思う 負けたからといって、恥じることはない

―お疲れ様ですッ！　実はですね、ゴールドバーグさんが出場する予定だった新日本プロレスの東京ドーム大会（2000年1月4日）に僕も観戦に行っていたんですけど、あの時中止になってしまったこともあって、ファンはあなたが日本に来ることを心から待ち望んでいたんですよ。

**ゴールドバーグ**　そうかい。あの時は大会の5日前に300針を縫う大ケガをしてしまって、ファン以上に私のほうがガッカリしたよ。そのことはビデオで会場に流れたと思うけど。

―はい、車のガラスを素手でブッ壊していた映像ですね。

**ゴールドバーグ**　まあ、今度は新日本プロレスではなく、全日本プロレスに上がるんだけど、私の試合を待ち望んでくれていたファンは、素晴らしいショーをするので見てほしい。瞬きするなよ！

―はい、しません（笑）。あのう、WCWがなくなった時に、ゴールドバーグさんは当時、トップ中のトップレスラーだったじゃないですか？　いわば、最後のエースだったと思うんですよ。絶対にWWF、今はWWEですけど、声が掛かったと思うんですけど、その中で次の戦場として日本のプロレス界を選択した理由を教えてください。

**ゴールドバーグ**　ハッキリ言ってしまえば、今WWEと契約するのは普通のレスラーのすることだ。私は普通のレスラーではない。

―たしかに、あなたは大スターです。

**ゴールドバーグ**　ありがとう（笑）。だから、私は今WWEと契約する気はないし、契約する時期でもない！　私は、彼らが契約をする相手として適当な相手だとも思わないしね。

―ちょっと分かりにくいですね。もっと具体的に理由を教えてください！

**ゴールドバーグ**　私がWWEと契約したくない理由はいっぱいある。彼らの主義・哲学、試合日程が主なところだけど、彼らとプレイ・ゲームをしたくないんだ。

―プレイ・ゲーム？

**ゴールドバーグ**　政治的な駆け引きは好きじゃない！　つまり今のWWEは、私が本当にやりたいことを楽しんでやれる環境にないということだ。それとWWEは年間拘束日数が200日もあるんだ。これにも耐えられないね。

―なるほど。そんな中で全日本プロレスというリングを選択したわけなんですけども、その理由を教えてください。

**ゴールドバーグ**　ムタは新日本から全日本に移ってどのくらい経つんだ？

―およそ、半年ぐらいですね。

**ゴールドバーグ**　世界レベルのレスラーというと、ムタを筆頭として何人かいるが、正直ムタがいなかったら全日本には来なかったと思うな。

―武藤さんにはどんな印象を持っているんですか？

**ゴールドバーグ**　ムタと言えば、悪いことを言うことが何もない。言うとすれば、全部いいことになってしまう。私にとっては、レスラーとしてよりも、彼の人間性の部分に惹かれている比重が高いんだ。

―そうですか。あなたが、日本のプロレス界に参戦することについて、アメリカではどんな反響がありましたか？

**ゴールドバーグ**　インターネットにはファンの反響とか出ていたりするらしいな。ただ、私はあまりよく知らないんだ。実は、私はファンとあまり話をしないほうなんだ。なぜなら、私は哲学として、無駄は少ないほうがいいという考えを持っていて、これはファンたちとの接し方にも関わってくるんだけど、できるだけ露出を少なくすることにしているんだ。露出が少ないと、ファンの期待も大きくなっていくとは思わないか？

―思いますねぇ、それは。

**ゴールドバーグ**　そうだろう。それが私のライフスタイルなんだ。だから、私はアメリカのファンがなんと言っているのか分からない。その辺は君のほうが知っているんじゃないか？

―アメリカの反響は分かりませんが、日本ではかなり期待が膨らんでいますね。

**ゴールドバーグ**　関係ないと思うかもしれないが、ここで君に忠告をしておきたい。仕事仕事じゃなくて、仕事の後にリラックスして、またその後に仕事を一生懸命にやるというふうにしないと、次のステップに進めないよ。実際、アメリカでプロレスをやると、拘束日数が多いので、リラックスする時間が持てないんだ。

―仕事とリラックスのバランスをうまく取れということですね。

**ゴールドバーグ**　ただ、日本に闘いの場を移すことによって一つ残念なことがある。それは、アメリカで子供たちにプロレスを見せてやれないこと。それが残念だ。私は子供の笑顔を見るのが好きなんだ。それが、アメリカでプロレスをする一番大きな理由なんだ。昨日、エンセンイノウエの子供が私を見て、凄い喜んでくれた。エンセンイノウエが私のファンであったことも光栄に思うし、彼の子供が私のことをリスペクトしてくれていたということも光栄に思う。私は試合のなかった2年間、何をしていたかと言うと、子供に関するチャリティをやっていたんだ。実は、私が仲の良かった子供が3日前に死んだんだ。もし、今アメリカに帰れたとしたら、その子の所に行ってみたい。それから、なんでチャリティをやるのかと言うと、私に会うことで、子供たちは自分が今かかっている病気とかを忘れることができるんだ。私は子供にとっていい目標でありたい。私に自分の未来を見てほしいと思っているんだ。それが、WWEに行くと、子供たちに見せられないことをさせられてしまうだろう？　WWEがそれを変えない限り、私はWWEに行かない。全ては私の名誉のためだ。もし、私がWWEのようなことをやったとしたら、私は鏡で自分の顔を見られないだろうな。

―ゴールドバーグさんは子供のファンをとても大切にするんですね。

**ゴールドバーグ**　いろんな子供と触れ合ってきたんだけど、1人の子供についての話をするから聞いてくれ。子供の名前はダコダっていうんだが、体中に32カ所のガンがあって、もう死ぬ寸前だったん

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER
8・28国立競技場

だ。私はクリスマスにチャリティで、その子の所に行った。私はユダヤ人だから普通、クリスマスはお祝いしないんだけど、ハマーっていう四駆にいっぱいのおもちゃを入れてダコダのいる施設に持って行って、子供たちに配ったんだ。そして、ダコダにおもちゃをあげた時に、もう死ぬ間際だったんだけど、目をパッチリ開けて、大喜びしてくれたよ。医者からは、もう長くないって言われていたんだけど、それからダコダは1年半も長生きすることができたんだ。

――それはいい話ですね。さて、話は突然変わります。昨日の『Dynamite!』の感想を聞かせてください！

**ゴールドバーグ** ふう～……、アンビリーバボー……。そこにいられること自体が光栄なんだが、さらに参加できたことは光栄以上のものだ。

――アンビリーバボーですか（笑）。何が一番印象的でしたか？

**ゴールドバーグ** イノキさんが空から降りてきたこととか、いろいろあったんだけど、観客の熱狂が凄かったな。もちろん、試合そのものも凄かった。イノキさん、タカダさん、サクラバ、ヴァンダレイ・シウバとかとあの場に一緒にいられたことは最高の喜びだったよ。

――WCW時代に一緒だったボブ・サップ選手の試合はいかがでした？

**ゴールドバーグ** フフフ、アンビリーバボーっていう言葉を何回も使っているので、それは使わないことにしておこう（笑）。私は彼を誇りに思うよ。彼はMMAの試合は3試合目だろう？　あそこまで闘えることが素晴らしい。『プライド』のナンバー1の相手に、できることを全てやりつくし、あそこまで闘ったことに関して、私は自分のことのように誇りに思う。彼は負けたからといって、何も恥じることはないよ。

――アメリカであなたは『プライド』に参戦したいということをおっしゃったと聞いたんですけど、あなたがああいう総合格闘技をやることは考えていますか？

**ゴールドバーグ** それはまだ分からないな。私はこう見えても慎重な性格でね。まあ、誰にでも勝てる状態になったら、すぐにでもやるさ。中途半端にやって、負けてしまうと、たぶん他の誰よりも失うものが多いので、そこはキチッと準備をしておきたい。知識においても100パーセントでないと、相手に対して不利になるので準備をしないとな。しかし、私も体力には自信はあるが、私以上にボブ・サップは身体的に凄いものを持っているなぁ。ハッキリ言おう、ボブ・サップは怪物だ！　だから、彼以上に練習をしてから、MMAに挑んでみたい。

――でも、あなたはボブ・サップ選手と違って、全米のスターですから、もし試合を行ったら、もの凄い反響を呼ぶと思うんですけどね。

**ゴールドバーグ** ありがとう（笑）。ちゃんと準備をしてやりたいと思う。

――総合格闘技と言えば、以前、オバケジムで練習して……。

**ゴールドバーグ** ノーッ！　その質問はやめてくれッ！

――分かりました。みんなそのことに関しては敏感だなぁ。では、話題を変えます。あなたが日本に来たのは石井館長のプロデュースだということなんですが、館長とお会いしたのは、日本に来てからが最初ですか？

**ゴールドバーグ** そのとおり。こちらに来てから、一緒に食事をしたよ。

――どうですか。石井館長の印象は？

**ゴールドバーグ** とてもリスペクトできる人物だ。側にいられて光栄に思うよ。

――石井館長があなたをプロデュースするということに関してはどうですか？

**ゴールドバーグ** もし、私をプロデュースする人間がイシイさんじゃなかったら、私はここにはいないよ。

――石井館長のような頼もしい人物にプロデュースしてもらえれば、百人力ですね。今後はどのように、活動を展開していくつもりですか？

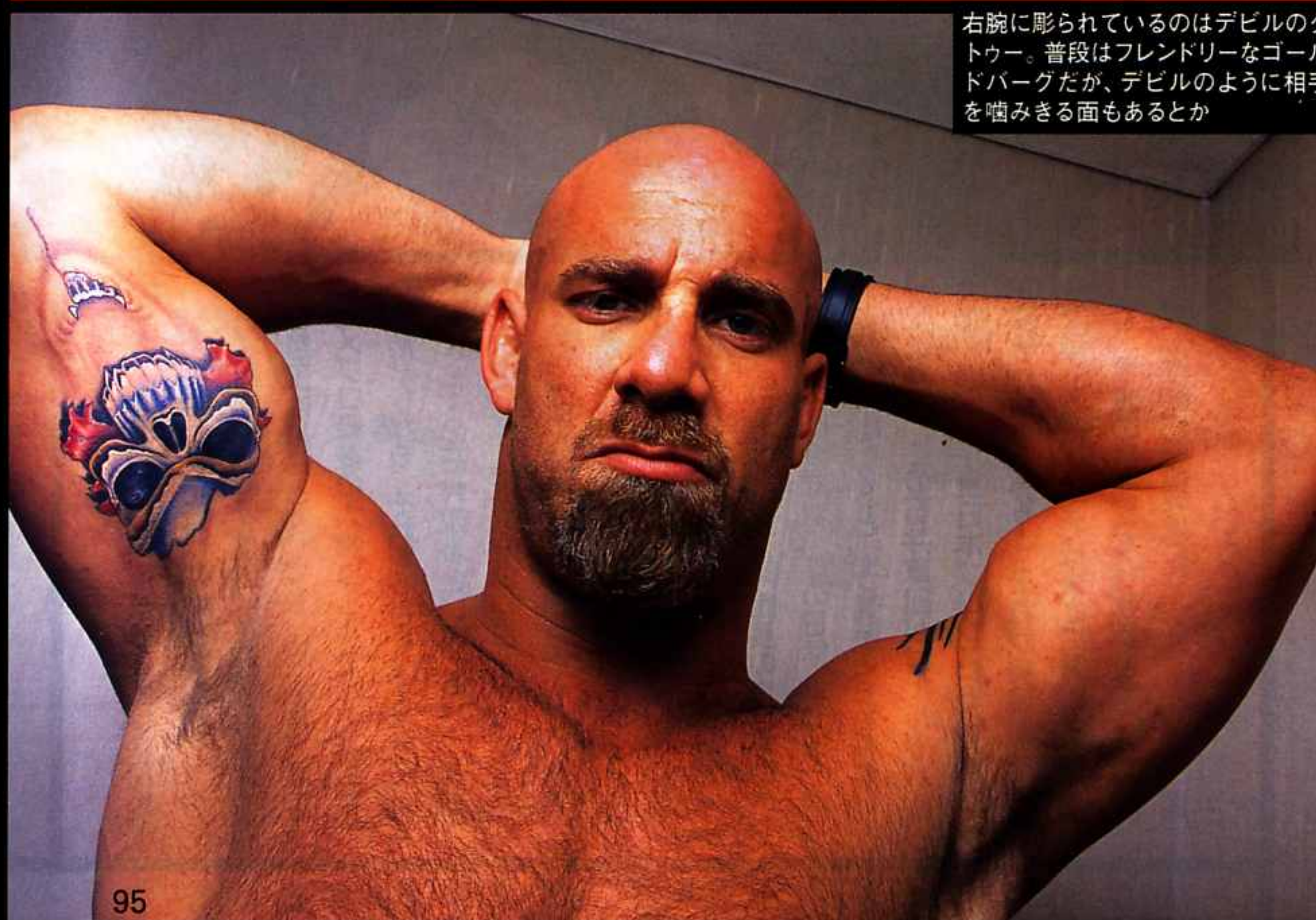
**ゴールドバーグ** コジマとケアを倒したら、次を考える。「Who's next!」（次は誰だ！）■

## （総合格闘技は）他の誰よりも失うものが多い そこはキチッと準備をしてから出たい

右腕に彫られているのはデビルのタトゥー。普段はフレンドリーなゴールドバーグだが、デビルのように相手を噛みきる面もあるとか

# BILL GOLDBERG

# 圧巻！
## 8・30全日本プロレス武道館 遂にゴールドバーグ日本デビュー！

日本デビューの相手は「いっちゃうぞ、バカヤロー」でお馴染みの小島聡。ファンのテンションがもの凄い高い試合だった

**結構、格闘技指向？ 飛び付きヒザ十字を披露！**

▲WCW時代から使っていた飛び付きのヒザ十字固め。日本のプロレス、格闘技のビデオはかなり見ているとのこと

## BILL GOLDBERG

▲フィニッシュホールドはこの体勢から高速スイングネックブリーカー。得意技のスピアー、ジャックハマーは出さなかった

**石井館長、サップ、グレコ、バーネットも来場 全日本プロレスVS石井軍団5対5マッチ実現か？**

▲会場には石井館長、ボブ・サップ、サム・グレコ、ジョシュ・バーネットが来場。館長と武藤のツーショットは新鮮だ。また、全試合終了後にはゴールドバーグと館長、サップ、グレコ、バーネットが集合。このメンバーでプロレス界にも殴り込みか？

真夏のプロ格興行戦争のトリを務めることになった全日本プロレスの日本武道館大会2連戦。この武道館大会の目玉はなんと言っても、日本初上陸のアメプロ最後の大物ゴールドバーグの参戦だ。しかも、それをプロデュースするのがK―1の石井館長ということで、大いに話題を呼んだ。その初日となった8月30日、ゴールドバーグは、来場していた石井館長が見守る中、WCW時代同様のパワフルなプロレスを展開。見事に小島聡を破り、日本デビュー戦を勝利で飾った。全日本プロレスと石井館長のまさかのドッキングは大成功。この日は、サップ、グレコ、バーネットという選手たちも来場していたが、この石井軍団がゴールドバーグに続いて、全日本プロレスに上がる可能性はあるのか？　それが実現すると、プロレス界にとってはまさに脅威。ともかく、今後の展開に期待が持てるゴールドバーグの初登場だった。■

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER
8・28 国立競技場
総括座談会

出席者◎ターザン山本（無限の求心力男）
サダハルンバ谷川（本誌"叶姉妹と第三次接近遭遇"編集長）
小松魔裟夫（本誌"記念撮影担当"編集部員）
司会◎柳沢忠之（本誌"宇宙一の猪木信者"発行人）

# 2002年8月28日晴れ渡る夜空の下に新しいプロレス降臨！

# つまり俺には「吉田秀彦」にしか見えなかったんですよぉ

山本　おい、谷川ぁ！　俺は『Dynamite！』が一生の宝物というか、2002年クレイジーサマーの最高の思い出になったよぉ！

谷川　あ、エリオ・グレイシーへの特別功労賞のプレゼンターとして、晴れの舞台に上がったことですね。

山本　違いますよぉ！　おまえもいたじゃないかぁ、あの現場に。

小松　あ、叶姉妹と記念写真を撮ったこと？

山本　そーゆーことですっ！

小松　石井館長が大会総括のコメントを出していて、それを取材してたらいきなり山本さんが「おい、モグタン！　カメラを持ってちょっと来い!!」って。で、「叶姉妹と写真撮ってくれ！」って撮られたんですよ。

――ダハハハッ！

小松　そうしたら編集長も後ろから来ていて「ぼ、僕は山本さんの弟子なんですけど、一緒に撮らせてください」って。

――何やってんだ、二人して（笑）。

小松　さらにその後ろから島田裕二レフェリーまで来て「僕もお願いします」って。

――んあ～！

小松　で、後で写真を見たら編集長のヒジがあの巨乳に触れてるんですよ。

山本　な、なにぃ～っ!!

――常に無意識で得してる男だけど、それは明らかに確信犯だな（笑）。

谷川　ま、ま、まあ、ページも少ないのでさっそく本題に入りましょう。

山本　くぅ～っ！　俺は一生の思い出だと思ってたのに、谷川はもっといい思いをしてたのかぁ。許せんなぁ！

谷川　さ、さあ、山本さん、『Dynamite！』を総括してください。

山本　あれはもう、一等星の輝きのごとき大成功でしたよぉ。成功した原因の一つは、ノゲイラvsボブ・サップの試合が届いたということですよぉ。よ～するにあの試合がMVPなんだけども、それに匹敵するぐらいにその前の5試合も様々な価値観を持って散らばっていたわけ。それも含めて総合的に良かったなというか。まあ、ファイターとして飛び抜けていたのはボブ・サップとノゲイラ、それに尽きるよなぁ。

谷川　奇しくもノゲイラとドン・フライという、当初は出場する予定のなかった猪木軍の二人、そして総帥の猪木さんの闘魂タイプは会場の雰囲気を盛り上げましたよねえ。

山本　俺が思うには、そうやって状況を追い詰めたほうが爆発するんですよぉ。

谷川　猪木さんまで追い詰められましたからね（笑）。あんな猪木さんの登場はプロレスで見たことないですからねえ。一種、異様な光景でしたよねえ、夜空から舞い降りてくる姿というのは。まあ、あの大会の成功は晴れた夜空とあれだけ集まった観客の数じゃないですかね。でも、本当に一番の成功の要因っていうのは、吉田の存在でしょうね。

山本　成功の要因を考える上で重要なのは、誰が真の勝利者であるかを考えることなんですよぉ。逆に言うと負けた人間は誰なのかというね。そこでしょ、テーマは。

谷川　モグは誰が勝利者だと思う？

小松　あ、勝利者……？

山本　この『Dynamite！』というイベントで誰が一番勝ったのかを考えることによってこのイベントの本質が見えてくる。

小松　……やっぱり、叶姉妹の巨乳に触れたってことで、編集長ですかねえ。

――どういう評価基準だ、それ（笑）。

谷川　そ、その話はもういいって。

山本　まず、石井館長が勝利者だったのかという、そこが重要だよなぁ。

谷川　間違いなく石井館長は勝利者だったでしょう。当日の天候から何から全て運が味方しましたし、K―1勢は圧勝ですし。僕はまさか、ミルコまで勝つとは思わなかったですよ。あのイベントでの真の勝利者は吉田だと思うんですけど、その吉田以外のことで考えたら、ファンは「K―1は勢いがある、プロレスには勢いがない」という印象を持ったんじゃないですかねえ。

山本　石井館長は大満足だと思うよね

Dynamite! 8・28国立競技場
総括座談会

# 「ホッとした」ということはもうプロだという証明だねぇ

ぇ。でも試合の勝利者が真の勝利者だと思う？
**谷川**　試合の勝利者って？
**山本**　つまり吉田は真の勝利者だったのかということですよぉ。
**谷川**　僕は試合前、吉田は負けて桜庭は勝つという逆の結果を想像したんですよ。それで興行としてはハッピーエンドかなって思ってたんですけど。で、これまで柔道をやってきた人が総合格闘技や他流試合の舞台に上がった時に、金メダリストでさえも通用しない、と。そこから新たなドラマが始まるというプロレス的なストーリーみたいなものをイメージしてたんですけど。
**山本**　俺は吉田選手を初めて生で見たんだけど、柔道を背負ってるようには見えなかったんだよなぁ。吉田選手は、吉田………なんて言うんだ？　名前は。
**小松**　あ、秀彦です。
**山本**　………しでしこ？
――ダハハハッ！　江戸っ子か、今日は。
**山本**　つまり俺には「吉田秀彦」にしか見えなかったんですよぉ。全然、柔道というジャンルを背負っているイメージがないし、背負ってないからこそプロになったんじゃないのか？
**谷川**　柔道を背負ってないというのもある意味では正しいんですけども、『プライド』がメジャーになっていく段階で桜庭和志というスターが生まれたじゃないですか。その桜庭とも違うタイプの新しいヒーローが出てきた感じがしましたけどね、僕には。
**山本**　だけど、その人の生き方や試合ぶりにファンが思い入れを持てるとか、感情移入ができるかどうかというのも、もの凄く重要なテーマだと思うんだよなぁ。まだ1試合しか見てないから分からないんだけど、「非常にクールな人だなぁ」というか、ファンとの間に間合いがあるような気がするんだよねぇ。
**谷川**　そこは人によって感じ方の差が出ると思うんですけど、新しいスターとして可能性という点では評価は高いと思いますよ。
**山本**　あ、そうかねぇ。
**谷川**　吉田の魅力っていうのはプロレス的に考えると分かりにくいと思うんですよ。
**小松**　吉田が勝った瞬間に、観客がバーッと立ち上がったのはホントに凄かったです。
**山本**　それは日本人が勝ってほしかったのか、対グレイシーに勝ってほしいと思ったのか。よ～するに吉田個人に勝ってほしかったのか、それとも柔道が柔術に勝ってほしいと思ったのか。どういう心境だったんだろう。
**谷川**　いやぁ、柔道がグレイシーに勝ってほしいと思ってた人は凄く少ないでしょう。
――つまりは遠心力なんですよ。
**谷川**　吉田秀彦という新しいスターに関しての期待はあったと思いますけどね。
――だから、そういう遠心力を求めているんですよ。
**谷川**　求めてる感じがしましたよね。コメントを見ても吉田は誰よりもプロレスラーっぽいですもんね。「因縁ができたっていうことで……」って。山本さんが言うようにファンとの距離はちょっと開いてたりするんですけど、一枚上手というか……。「再戦はしますか？」って聞かれたら、「あの体勢からだったら」とか、計算なしにああいう発言をできるところは凄いですよ。
**山本**　したたかだよなぁ。つい最近までアマチュアだった人とはとても思えないよぉ。
――まあ、勝った後の顔が全てだと思うけどね。あの顔ができたってことは、本当にプロとしての意味があるというか、それが遠心力なんだけどね。山本さんの発言とは逆になるけど、あの顔は何かを背負ってる者じゃないとできないですよ。だから、まさに吉田のコメントにありましたけど「オリンピックは嬉しかった。今回はホッとした」って。その「ホッとした」って言葉に全ての意味があるっていうことでしょう。
**山本**　「ホッとした」ということは、もうプロだという証明だねぇ。
――そういうことです。「嬉しいというより安心した」っていう意味ですから（笑）。
**谷川**　やっぱり世間と対峙した顔ですよね。入場の時にまったく動じることなく、吉田が笑って凄く嬉しそうに観客を見てたじゃないですか。あの顔が凄く印象的でしたね。
――俺はアマチュア的に試合に勝って嬉しいってことじゃなかったところに、吉田の意味があるなって思ったね。
**山本**　俺はその吉田の魅力というか、存在意義がぜ～んぜん分からないんだよなぁ。
――たぶん、今回の吉田秀彦を考えることがこれからの新しいプロレスの価値観というか、新たなフォルムになると思いますね。
**谷川**　それは確実になるね。迫力はあったけどボブ・サップVSノゲイラは興行のメインにはならないと思うんですよね、僕は。
――あれこそが、これまでの通常のプロレスの一般的なフォルムであり、プロレスの価値観であり、求心力でしょ。
**谷川**　そう。で、逆に言うとプロレスファンはあの試合に対してはメチャメチャ反応したでしょ。ノゲイラは耐えて耐えてヘロヘロになりながら最後極めて、いつ何時誰とでも闘うっていう「リアル猪木」だったけど。あの大会を見た時に、「吉田とは何か？」っていうのが分かった時に、吉田を考えることが凄く重要なことだと思いましたね。たぶん、そこを考えられない人はスッキリしないと思うんですよね。山本さんを含めて。
――ダハハハッ！
**山本**　いや、俺は吉田………選手に対してはまったく未知数なんだよぉ。
**小松**　秀彦です。
**山本**　まず、これまでの俺のデータにな

# プロレスの泉というか、井戸が枯渇しちゃったもんなぁ

いんだよぉ。遠心力のスターといえば現代的だし、今のファンと同調してるし、凄く分かりやすいんだけどなぁ。

——吉田秀彦という個人と捉えるよりは、アマチュアの世界で一時代を築いたとか、ガチンコの世界で実績を築いた人間が出てくる初舞台としては、これまではプロレス以外になかったわけですよ。つまり、オーバーに言うとプロレスのデビュー戦で『朝日新聞』の一面に載る遠心力を作り上げたというか、今までのプロレスから、こういうイベントのフォルムに代えたということを証明したのは大きいですよ。

**山本**　それはつまり、新日本プロレスが提供していたというか、世間に対してプレゼンテーションする舞台がなくなったというか、ズバリ言ってしまうと新日本に力がなくなったってことですよぉ。つまりこれまでのプロレスのフォルムが崩壊して新しい舞台が登場した時に、ちょうどそこに吉田がハマッて、「こういう成功形態がありますよ」と証明してしまったということだなぁ。

——だから、試合内容のフォルムとしてもそうでしょう。分かりやすく言えば、橋本真也を破った小川直也のデビュー戦とはまったく違った形態のものを見せて、それが遠心力として凄く届いた、と。

**山本**　うん、ガチッとハマッたんだよなぁ。

——ルールとしては凄く伝わりづらいし、面白くないものですよ。でも、それがあそこまで伝わったんですからね。

**谷川**　相手もよかったよねえ、グレイシーというのは。

**山本**　ベストもベスト、大ベストですよぉ。

**谷川**　グレイシーというベストな相手が出てきたっていうのも、遠心力としては凄くよかったんですよ。

——吉田を考える時に、吉田秀彦単体で考えるか、こういう存在が出現したと考えるかが重要で、『朝日新聞』では「金の再出発」っていう見出しだったけど、ある意味では再生ですよ。プロレスっていうのが再生の舞台だとしたら、その再生の舞台が『Dynamite!』のような舞台に移ったんですよ。

**谷川**　『東スポ』でも、「DSEが2億円払う」と書いてあったけど、アマチュアの凄い選手がこういう舞台に出て、こうなっていくみたいな感じで報道されると、まるでサッカーやプロ野球の世界のように、それはやっぱり遠心力として届くんじゃないですかね。

——でも、それがこれまでのプロレスの形態というか、プロレスだったわけですよね。吉田みたいな選手や存在を再生する場としてあったのがプロレス。そのフォルムからすれば、俺はこれこそがプロレスでなければいけないと思ってるんですよ。

**谷川**　そこで『プライド』を考えた時に、プロレスっていうものが凄く重要なキーワードだったじゃないですか。そのプロレスというか、プロレスラーが限界に辿り着いちゃったんですよね。桜庭は突然変異みたいな形で出てきたんですけど、藤田和之がやって、高山善廣に受け継いで、石澤常光や永田裕志や小原道由も出てきたけど、それ以上のものが出てこなかったというか、尽きちゃって。そういう状況で出てきたのが、吉田秀彦みたいな新たな道ですよね。

**山本**　プロレスの泉というか、井戸が枯渇しちゃったもんなぁ。

**谷川**　つまりプロレスラーが新しいプロレスを見せるのは無理だっていうことでしょう。昔、僕らが新日本に見ていたフォルムみたいなものを、『プライド』でみんなが一生懸命に作ろうとしてきたじゃないですか。でも、その時にもうプロレスラーでは無理だって感じに突き当たったら、次に出てくるのは吉田秀彦であり、たとえば若乃花でありということになるんですよね。それが遠心力として凄くハマるんじゃないですかね。

——で、そこではもう「最強」っていう概念もかすみますよね。ボブ・サップVSノゲイラを見てて思ったけど、あんなの誰がどう見ても4点ポジションでのヒザ蹴りがあったらボブ・サップの勝ちじゃないですか（笑）。それだけでも「どっちが強いか？」っていう概念じゃないんだよね。ミルコもそうだし吉田もある意味じゃそうなんだけども、身体能力に優るものはないっていうかね。

**谷川**　そうだよなあ。

——プロレスの現象の中で「技が力を制する」っていう、「柔よく剛を制す」じゃないけど、それが日本人の気質に合ってプロレスがこういう格闘技フォルムになっていって、ノゲイラが最後に関節を極めるっていう、ある種のハッピーエンドだよね。で、それが求心力を持つんですよ。あれをまともに見てて、遠心力ではやっぱりノゲイラは強いんだって思うけど、求心力としてはヒザ蹴りありだったら、ボブ・サップになんかかなうわけないでしょ。

**谷川**　最初のファースト・コンタクトで潰されてガツンッとやられたら終わりだもんね。

——それが分かっちゃったでしょう。たとえば高山とボブ・サップがやるとして、あの試合を見て高山が「4点ポジションでの打撃OKですよ」って言ってやる怖さは見たくないですよ。もう、辞めてくれっていうかね。

**谷川**　そうなると、もうルールで遊ぶというか、ルールで見せるしかないよね。そう考えると、やっぱり吉田の存在は重

▲大会翌々日に行われた共同取材には３０人を超える記者、カメラマンが殺到。注目度の高さがうかがえる

Dynamite!
8・28国立競技場
総括座談会

# 何が必要かといったら状況が必要なんですよぉ

要だったなぁ。僕が凄く感じたのは、一般誌なんかは桜庭が負けたこともあって、「吉田に乗ろうかな」っていう遠心力があるじゃないですか。そこに今回の一番のテーマがあると思いますけどね。だから、吉田に乗れるか乗れないかですよ。

**山本** それが重要なテーマだなぁ。

**谷川** 求心力という意味ではまだ乗れないと思うんですよ。山本さんが言うように柔道を背負ってないように見えるし、よく分からないというかね。

——ノゲイラVSサップが面白かったのは求心力なんだけど、あれが通じたのは遠心力ですからね。一般の人にしてみれば身体のデカイ選手が出てきて、パワーでねじ伏せるような試合をしてね。最後にそれよりも身体が小さい、しかも外国人のノゲイラが技で極めるという。それは遠心力なんですよ。

**山本** 遠心力だよねえ、あれは。

——そこに我々は求心力を見つけようとして、「吉田じゃなくて、ノゲイラVSサップだよね」って言うんだけど、結局それは遠心力なんだなっていうことだからね。でも、昔のプロレスは遠心力があったんですよ。

**谷川** 間違いなくあったんですよぉ。

——だから、プロレスは遠心力なんて言いながら、求心力に封じ込めてきたでしょう。もともとはプロレスっていう形態自体に遠心力があったんですよ、今までは。

**山本** あ、今気付いたよぉ、そっちが言ってることに。その「遠心力」と「求心力」という言葉を説明しなくちゃいけないんだけどさ。そのキーワードに気付きましたよぉ。

——なんですか?（笑）。

**山本** えーっと吉田………?

**小松** あ、秀彦です。

**山本** 秀彦まで覚えられないんだよなぁ。

**谷川** んあ〜!

**山本** 求心力と遠心力の定義をしなくちゃいけないんだけど、つまり意味性なんですよぉ。遠心力というのは意味性の必要がないという。ということは、べつに吉田に個人的な意味性とか価値観を求める必要もないし、それを打ち出す必要もない。何が必要かといったら、状況が必要なんですよぉ。猪木さんが天から降りてくるという状況、吉田選手がホイスと闘うという状況、その状況に反応するかどうかということでしょ。ところが俺たちは状況だけじゃなく、それに何か意味付けや価値付けをしないと、それに入っていけないし、興奮しないわけよぉ。その理由に対してやる側も見る側も共有してきたんだけど、それが必要なくなったんだよねぇ。ホイスと吉田が闘うとなると、50年前のエリオVS木村政彦を理由付けに考えるんだけど、もうとにかく金メダルを取った柔道家がグレイシー柔術と闘うという状況設定だけでOKだ、と。ある意味では手軽さというかコンビニ的というか、マクドナルド的というか、俺はそういうことを象徴してた感じがするよぉ。

**小松** う〜ん、それはお手軽すぎませんか。

**山本** いや、今まではプロレスが格闘家を呼び込んだ場合は「プロレスは最強である」「プロレスは勝たなくてはいけない」という、もの凄く重たいイメージ、価値付けがあったんだけどぉ、それが必要なくなってしまった。そういう状況の中で「吉田選手は当然勝つよね」という変化が起きてきたんじゃないかと感じたよぉ。

**小松** つまり、フラッと立ち寄ってワンコインでハンバーガーをパクッと食うというか。

**山本** そーゆーことですっ!

**谷川** それはちょっと違うと思うけどなあ。

——山本さんが言う意味性っていうのは、後から付いてくるものでしょう。

**谷川** それでいいと思うんだけどね。

——それこそがアングルですよね。

**山本** アングルっていうか仕掛けだよぉ。

——結局ね、スポーツ紙には写真も載ってなかったけど、国立競技場の外で試合前に「新日VS魔界倶楽部」っていう場外バトルっていうのがあったんでしょう? 安田たちが来て永田や中西学と駐車場か

Dynamite!
8・28国立競技場
総括座談会

# マット界は吉田をどういじれるかにかかってるなぁ

なんかでやったという（笑）。

**小松**　国立の場外バトル（笑）。

――やったらしいんだよ。でも、それこそ意味がないことをしてるというかね（笑）。おそらくそれは新聞を必要とするやり方でしょう。新聞は必要なんだけれども、新聞の煽り方っていうのは、もう逆に求心力に封じ込めてるんだなって気がしますよ。だから、吉田に関していえば、次を出さなくちゃいけないわけ。吉田の次はなんなのか。それを出した時に初めて乗れるでしょう。

**山本**　吉田の次はもう打撃系の選手とやるしかないんだよ、俺からすると。その時、危険性とかさぁ、意味性として響くんだよなぁ。デンジャラスな部分が見えた瞬間に意味性が出てくるんですよぉ。

**谷川**　そういう流れになりそうですよね。「桜庭敗北」「吉田勝利」っていうのは凄く象徴的だった感じがするんですよね。

**山本**　もしも、俺がスポーツ新聞の記者で吉田選手を意味付けするとしたら、絶対にヒールにしますよぉ。ヒール像を創ることによって、求心力を持たせるというか、そういう戦法に出て惹き付ける。それで逆にヒーローになるかもしれないし、さらに吉田が一般に注目される意味を吸収するかもしれんしなぁ。

**谷川**　なんか、ヒールでも輝くような気がしてしまうから、やっぱり吉田は底知れないという感じがしますねえ。

**山本**　俺たちがこれまでプロレスに関わってきて何が一番変わったというか、これまでは「新参者にはおいしい思いをさせない」という思想があったわけですよぉ。そういう構造が崩れたよねぇ、これがプロレスファンの価値観の中での一番の大変動だよぉ。ハッキリ言ったら吉田VSホイス戦は「新参者が自分のポジションを獲得した歴史的な試合」で、明らかに遠心力が上位概念ですよぉ。つまり、ズバリ言ってしまえば「プロレスが力を失った」と。そういう意味でプロレスは、今回の吉田の勝利によってアントニオ猪木が作ってきた構造そのものがオールすべてぜ～んぶ完全に通用しなくなった、と。

**谷川**　なんか、猪木さん自体が距離感を保って寂しく吉田を褒めてましたもんねえ。

**山本**　ということは、『Dynamite!』における一番の敗北者はアントニオ猪木だということですよぉ！

**谷川**　それは宇宙一の猪木信者の柳沢忠之的にはどうなの？

――んあ～！

**山本**　よ～するに猪木さんがやってきたことがいい形で終焉し、それが『Dynamite!』で現実化したということだよぉ。

――でもね、それはこれまでずっと猪木さんがやってきたことなんですよ。

**谷川**　まあ、吉田の次が楽しみですね。

**山本**　吉田選手が切り札になるかどうかということですよぉ。これから先、マット界は吉田をどういじれるかにかかってるなぁ。

**谷川**　いじれると思いますけどねえ。

**山本**　それを本人が作ってくるのか、それとも偶然的にでき上がってきちゃうものなのか。俺はまだ全然見えないもんなぁ。

――まあ、キャラクターという意味でいうと、逆に吉田が一般を巻き込む遠心力に耐えられるかどうかでしょうね。仮に桜庭がつまずいた部分があるとしたら、その遠心力に耐えられなかったということだと思うんですよ。で、どうしても自分から求心力に走っちゃう。それはプロレスラーの自己プロデュースっていう概念ですよ。

**山本**　スターという存在は常に他者にプロデュースされなきゃダメなわけですよぉ。

――他者にプロデュースされるのが遠心力になりますよね。だから、桜庭だけじゃなくて、プロレス心を持ってる選手の諸刃の剣として、自己プロデュースっていう毒薬がどう作用するかでしょうね。この世界で本当の意味でのスターが出ないというポイントはそこじゃないかな。これからの吉田を見る上でもそこがポイントでしょうね。

**山本**　結論が出たなぁ。

**小松**　じゃあ山本さん、最後にキレイに締めてください。

**山本**　俺が締めるのかぁ……。じゃあ、ご唱和ください。い～ち、にぃ、さん、ダイナマイッ！

**谷川**　んあ～！

■

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER in 国立
8・28国立競技場

# そ、そんなバカな！K―1ルール2戦目のシュルトにホースト、まさかのドロー……

# スリータイムチャンピオンに何が起こった！

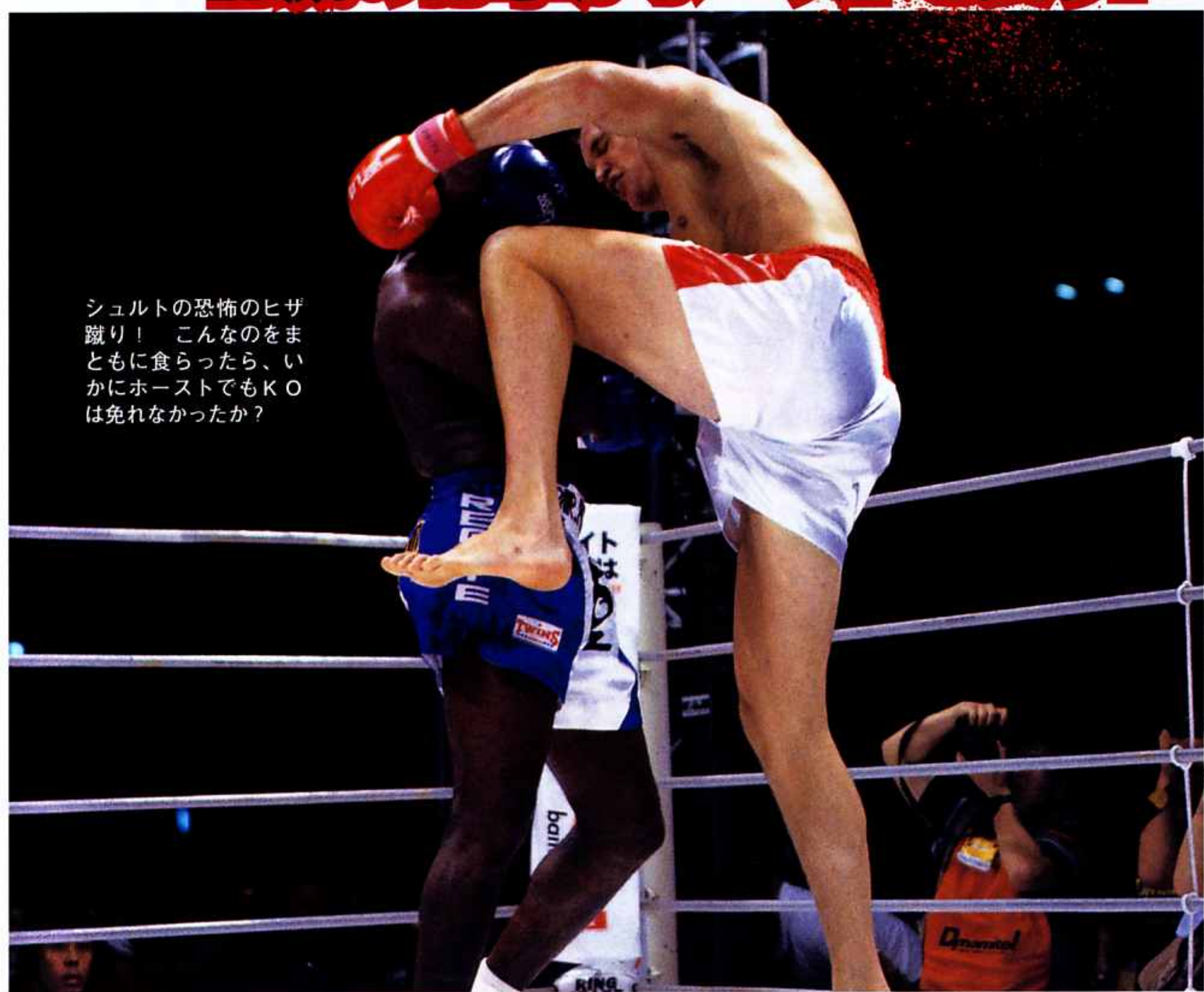
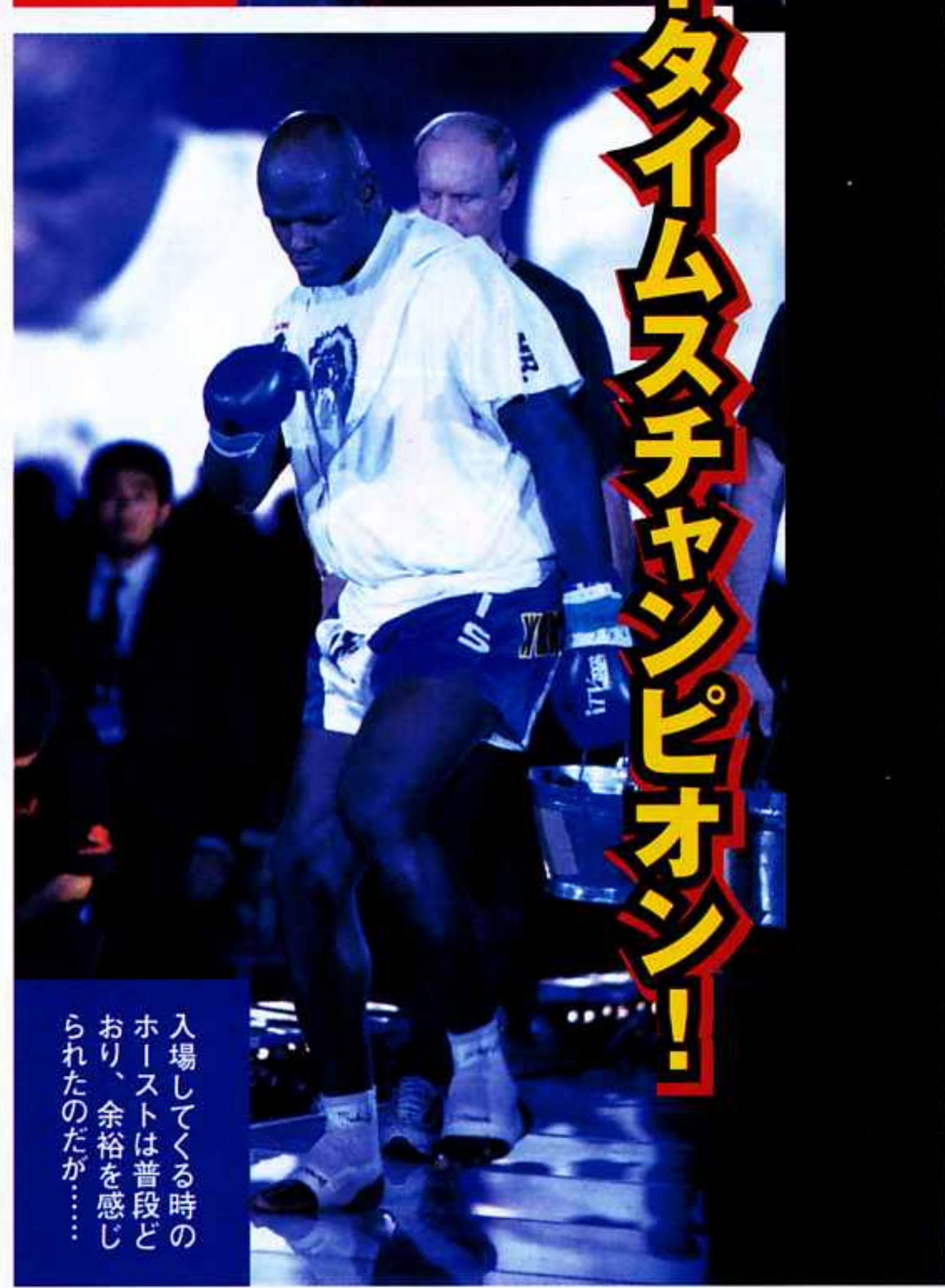
まさか、K―1ルールでは難攻不落のはずのホーストが、K―1ルール2戦目のシュルトにドロー。この結果は、負けに等しい

# 実はオランダ対決！人間摩天楼VSスリータイムスチャンピオン！

▼シュルトの圧力に押されてか、この日のホーストは下がりがち。しかし、まさかコーナーに追い詰められる姿を見せられるなんて思いもしなかった

▼シュルトの前蹴りはとにかく凄い。ホーストとこんなにも足の長さが違うのだ

広い国立競技場がよく似合うシュルトは、キックパンツ姿で登場した

## 規格外の体から繰り出される脅威の打撃がホーストを襲う！

シュルトの恐怖のヒザ蹴り！　こんなのをまともに食らったら、いかにホーストでもKOは免れなかったか？

入場してくる時のホーストは普段どおり、余裕を感じられたのだが……

『Dynamite!』のコンセプトは他流試合。国立競技場という前代未聞の大会場で行われる以上、出場する選手は、会場に見合うようなトップファイターでなければならない。ファンもそう思っているはずだ。アーネスト・ホーストはK―1グランプリを3度も制している〝スリータイムスチャンピオン〟。アビディとベルナルドがK―1ルールで、よもやの敗戦を喫した今、K―1ルールにおいて完璧な技術を持つホーストこそ、石井館長が全幅の信頼を置くK―1の最後の砦。その偉大なる男が、満を持して出陣してきたのだ。

ホーストが迎え撃つ相手はセーム・シュルト。数々の対戦相手を、その脅威的な打撃で叩きのめしてきたシュルトだが、今回の相手はホーストである。ファンが想像したのはあの大木のようなシュルトが音を立てて崩れるシーンだろう。

だが、試合が始まると、そんな想像はいっぺんに吹き飛んだ。シュルトの211センチという身長が、想像以上にホーストを苦しめたのだ。とにかく、ホーストの打撃がシュルトになかなか届かない。しかも、その打撃は凶器そのもの。また、巨体の圧力のために、あのホーストが下がって闘わざるを得ない状態にまで、陥ってしまったのだ。

ホーストもなんとか決定打をもらわないようにしていたのだが、ファンの目には防戦一方と映っただろう。しかも、今回はラスベガス大会から間がなかったということもあって、コンディションもあまり芳しくなかったし、モチベー

# 見よ、このハイキック！今年のK—1GP優勝候補の一角だ！

▶身長211センチのハイキック！ ホーストはよくぞまともに食らわなかったものだ

## シュルトのコメント

「私のほうが攻撃もしていたし、相手にも多くのダメージを与えていたので勝ったと思いました。勝利を剥奪されたような気分です。信じられない結果に終わってしまいました。ホーストは素晴らしいキックボクサーだと思いますし、大変なる尊敬を抱いております。今後はK—1のチャンピオンシップを狙いたいと思います」

## ホーストのコメント

「凄くタフな試合で、大変難しい判定になると思いました。どっちに転ぶか分かりませんでした。ラスベガスの試合が11日前にあって、そのあとオランダに帰って時差ボケがあって、そのあとまた日本に来て、そこでまた時差ボケがあるということで、いつもよりはコンディションは良くなかったと思います。自分の思うとおりにできませんでした」

## 裁定はまさかのドロー……

▶ラスベガスまでは自信に満ちあふれていたスリータイムスチャンピオンだったが、大会場での不本意なファイトに、試合後も表情は冴えなかった

▲試合を優位に進めていたシュルトの勝利かと思いきや、ジャッジは3人揃ってドロー裁定。ホーストの表情が印象的だ

この日はパンチ中心だったが、得意のローキックも時折出していた

▲K—1を3度も制したホーストがやられっぱなしでいるわけがない。身長差をものともせずに、果敢にパンチを打っていく

★第4試合/K-1ルール（3分5R）
△アーネスト・ホースト（5R判定ドロー）セーム・シュルト△
〈オランダ/ボスジム〉　〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉
※50-50、49-49、50-50

ションにも問題があった。

ホーストのモチベーションと言えば、イジケに他ならない。3度もグランプリを制しているにもかかわらず、ファンやマスコミからの扱いの悪さ。これがホーストのイジケ・パワーの源となっている。「もっと、俺をリスペクトしろ！」。このような怨念が、今年はやたらと爆発し、各大会でKO勝ちを連発している要因となっているのだ。

ところが、今年はKO勝ちが多く、マスコミからの評判も良かったせいか、イジケの虫が落ち着いている。試合後に、「休憩前の試合で、青コーナーでの登場」という扱いについて聞いても、まったく気にしていなかったようだ。

これではダメだ。こういった細かいところにまでイジケた怨念を行き渡らせないと、ホーストの強さは爆発しない。何しろ、ポスターに自分の写真が使われていないと、わざわざオランダからクレームを付けてくる男である。満たされた状態では、ホーストのモチベーションは上がらないのだ。

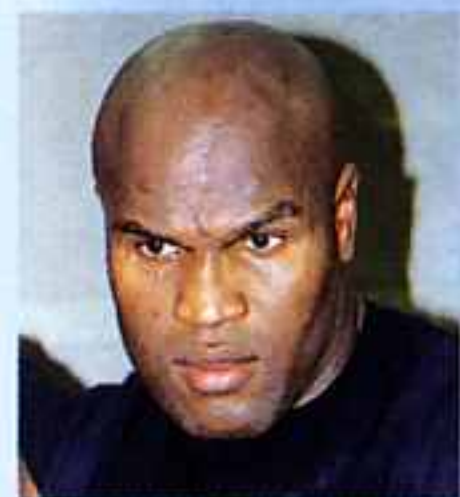
しかし、それよりも楽しみなのは、ホーストを追い込んだシュルトのグランプリでの活躍。既に開幕戦の出場は内定しているが、この日の闘いを見る限り、台風の目になりそうな予感がする。ホーストの技術があってこそ、やっとのことで、ドローに持ち込めたのだ。優勝だって、ない話ではない。

こうなると、K—1最後の砦であるホーストとの再戦が楽しみになってくる。ぜひ、ホーストにはイジケ魂を思う存分爆発してもらい、シュルト狩りのお手本をグランプリで見せてもらいたい。（小松）

# 力持ちがやっぱり一番強い！グッドリッジ、またもK—1粉砕

## 丸太棒の右腕がガチンゴチン！ 総合初体験のヴァン・ダム、無惨……

ゴンブトの腕から振り下ろされた右拳が、まともに顔面にゴチン。いくらタフなヴァン・ダムでも、こりゃ、たまらない

### グッドリッジのコメント

「長く闘いすぎたな。本当は30秒くらいで終わらせるつもりだったが、思ったより相手が石頭だったということさ。弱点を突くのが闘いの鉄則だからね。ロイドがグラウンドが弱いと思ったから、今日は最初から組みに行っただけのこと。とにかく早くKO勝ちできるならルールはK－1でも『プライド』、プロレスでもなんでもいいよ」

### ヴァン・ダムのコメント

「いい経験だった。試合が決まったのは3日前だから、もちろん、PRIDEルールの練習はしてないよ。そういう意味でもいい経験だったね。今後はいろんなルールで闘えるように練習していくつもり。ゲーリーとはもちろんもう一度闘いたい。その時はK－1ルールだね。そうしたら泣きを見るのは、今度はゲーリーのほうさ」

◀マウントを取った時点で、グッドリッジは勝利を確信。まずは観客にこのポーズを見せてから、最後の仕上げに取り掛かった

◀「今日は試合を長くやりすぎたな」。K—1戦士に3連勝のグッドリッジは余裕たっぷり

▶失意のヴァン・ダム。「今度はK—1ルールで再戦したい」という言葉に力はない

全てはこの投げから始まった。グッドリッジはこの体勢から、ヴァン・ダムを強引に投げ捨てた

▲ヴァン・ダムは鼻血にまみれ、その表情には恐怖が走る

★第3試合/PEIDE特別ルール（5分3R）
○ゲーリー・グッドリッジ（1R3分39秒、レフェリーストップ）ロイド・ヴァン・ダム●
〈トリニダード・トバゴ/フリー〉　〈オランダ/ドージョーチャクリキ〉
※マウントパンチ連打

てっきり殴り合いになると思っていた。なにせ、グッドリッジはついこの間、K—1ラスベガス大会で、ベルナルドを豪快にブッ倒してきたばかり。元アームレスリング世界王者の怪力は、キックボクシングが本職のヴァン・ダム相手に打撃で渡り合っても十分通用するはず、とその気になっていてもおかしくない。ところが、この男、なかなかクレバーだ。闘いという現場は、そんなに生やさしいものじゃない、と知り尽くしていた。本職『プライド』ルールのリングに戻ってきたグッドリッジには、真っ向正面から拳を応酬し合う気なんてさらさらなかったのだ。

ゴングが鳴ってすぐ、グッドリッジは差し合いに持ち込むと、反り投げでオランダ人を豪快に投げ捨てる。あとはもう自分の領地だ。ヴァン・ダムがハーフガードで耐えるところを力ずくで押しつけて、左拳を顔面へ叩き込む。寝技初体験のキックボクサーは鼻血をしたたらせ、はや弱気な表情だ。さらにマウントを取って、残すは仕上げだけ。その丸太ん棒のような右腕を突き上げ、9万観衆に指し示してから、そのままガチンガチン。ディフェンスもろくにできないヴァン・ダムは、側頭部に続けざまに5発食らって、もはや意識朦朧。レフェリーはそのままストップをかけた。

一言で総括すれば、力の差。これ以外に論評のしようがない。けれど、K—1で堅実な技術を見せてきたヴァン・ダムが、格闘家として一皮むけるためにあえて挑んできたこの冒険、その勇気だけは高く評価したい。（宮崎）

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER in 国立
8・28 国立競技場

# K—1無敗のヴェネチアン こいつは総合ルールでも強い!

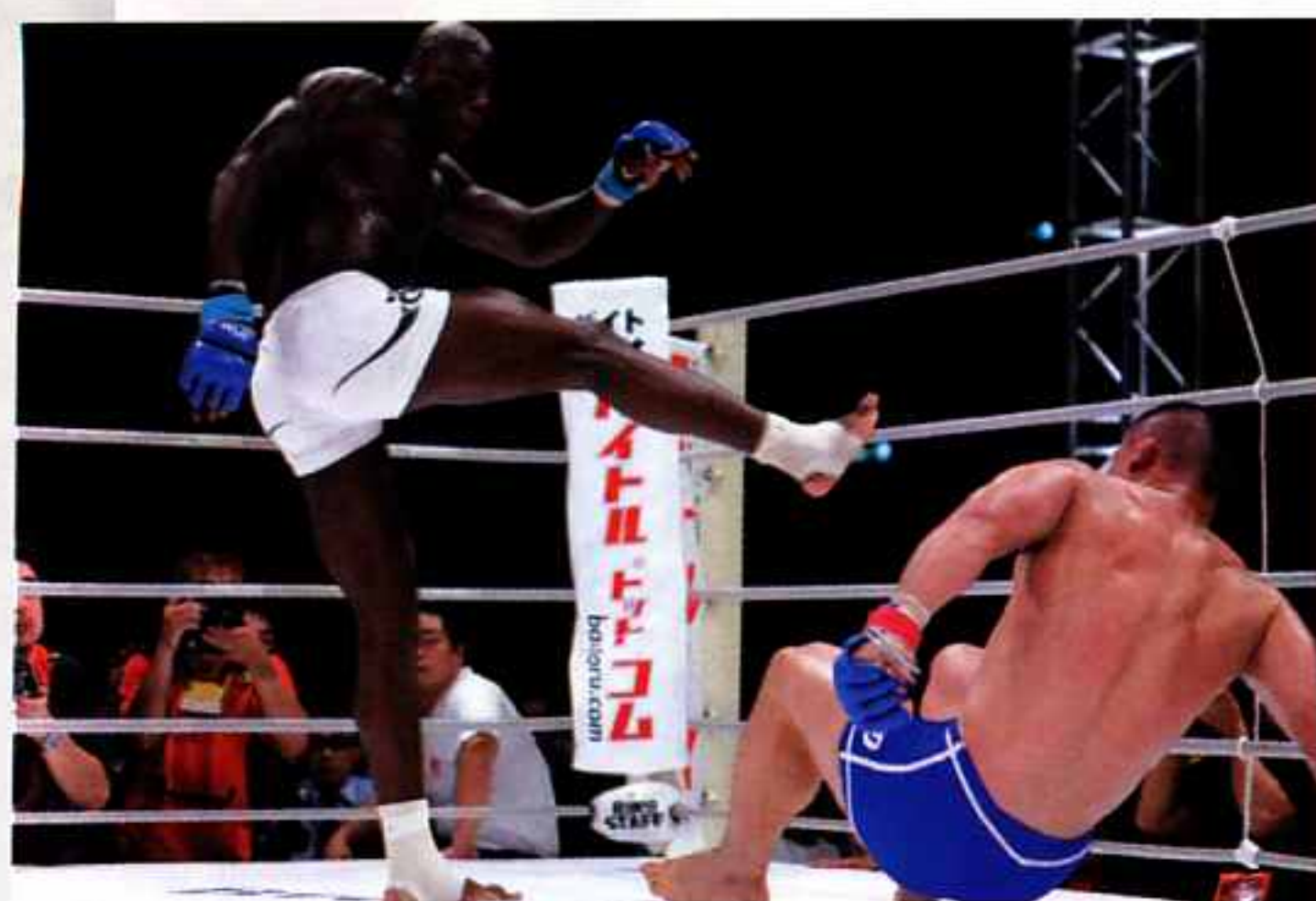
# 熱い男の電撃参戦! しかし気迫は空回り……

## 松井のコメント

「練習でできていたことをまったく出せなかったですね。急きょ試合が組まれたとはいえ、調整不足もヘンなプレッシャーもなかったので、グラウンド勝負で極めたかったのですが……。勝てる相手だっただけに、今回勝利という結果を残せず残念です。相手の打撃はまったく怖くなかったです。ただ自分が不甲斐ない、それだけです」

## ヴェネチアンのコメント

「今はK－1が主戦場なんですが、2年前からブラジリアン柔術の練習をしてまして、今回総合のルールでも結果を残せて嬉しいです。立ち技で仕留めたかったのですが、松井の動きが素早く、なかなか当てられませんでした。グラウンドに持ち込まれてもうまく対処できたと思うので、機会さえあれば今後も総合に挑戦したいです」

▶K—1のリングで負けなしのヴェネチアンが相手とはいえ、自分の土俵である総合ルールで敗北を喫した松井。試合後の両者の表情はこんなにも違っていた

◀ヴェネチアンが松井の寝技をしのげば、松井もヴェネチアン自慢の打撃をギリギリで回避。両者ともにお互いの持ち味を警戒した展開が続いた

▶3Rには松井が渾身のドロップキックを繰り出す。膠着気味な展開に静まりかえっていた観客を沸かせるものの、残念ながら空振りに終わる

惜しくも当たらず!

▲積極的にタックルを仕掛ける松井だが、その後の攻め手に欠けた。一方のヴェネチアンは苦手なグラウンドでも時おり上になり、冷静にパンチを放っていく

★第2試合/PRIDE特別ルール(5分3R)
○ジェレル・ヴェネチアン(3R判定2-1)松井大二郎●
〈オランダ/ボスジム〉 〈日本/高田道場〉
※マウントパンチ連打

K—1から新たに、総合に十分対応できそうな選手が出てきた。ジェレル・ヴェネチアン。知名度はイマイチだが、キックでの戦績は35戦33勝負けなし。K—1のリングでも昨年のワールドGPオランダ予選で優勝し、13戦13勝という無敗記録を持っているファイターだ。当初はヴァンダレイ・シウバとの対戦が予定されていたが、大会2日前になってカードが変更。髙田道場の斬り込み隊長こと、松井大二郎との対戦が実現した。

ルールはヴェネチアンにとって初挑戦となる『プライド』ルール。松井有利かと思われたが、意外にもヴェネチアンの総合への対応能力の高さが光った一戦となってしまった。序盤こそ松井のタックルで何度も転がされてしまうヴェネチアンだが、そこからの攻撃を確実にガード、終盤では松井のタックルそのものを潰し、上からパンチを浴びせるなど、したたかなところを見せつけた。結果はスタンドの打撃で押し、グラウンドの展開でも決して攻め込まれることがなかったヴェネチアンの判定勝利。

急なカード編成ということで、松井に調整不足など不安要素があったことは否めない。しかし、ヴェネチアンにも対戦相手の変更やルールの面で不安要素があったのも事実。ならばこそ、ここ最近勝ち星のない松井の奮闘に期待したかったのだが……。

この日桜庭に勝ったミルコはもちろんだが、このヴェネチアンも総合への対応力は目を見張るものがある。負けた松井を責めるより、勝ったヴェネチアンの実力を誉めるべきかもしれない。（太田）

# プロデューサーからプロレスラー、識者まで真夏の夜の大イベントを総括！

# ダイナマイッ！な証言集

## 『Dynamite!』総合プロデューサー 石井和義館長

### 「調子に乗って来年もやりたいなと。ホイスの件はもう一度審議します」

**石井** 本当に僕らが考えていた以上の凄い試合になっちゃって。ラスト3試合、それ以上にジェロムとドン・フライの試合は凄かったし。そして猪木さんのダイブ。ノゲイラ選手も凄かったけど、負けたボブ・サップ選手の怪物ぶり、あれ何も知らなくて強いんで、技教えたらとんでもなくなってしまうなと思いました。吉田選手とホイス選手の試合は、ルール上はレフェリーストップというのは基本的にないので、あと10秒あれば僕は落ちてたと思うんですよ、完全に極まっていたんで。レフェリーがどういう判断をしたのか分からないですけど、やっぱり止めるのが少し早かったのではないかなとは僕も思います。レフェリーを集めてもう1度、2週間かけて審議して、主催者なりの答えを出したいと思います。ホイス選手もあそこまで普通は抗議をしないと思うんですが、その辺のルール上の取り決めは完全に守れてなかったところもあったのではないかなと。しかし、ホイス選手が自ら倒れ込むのももう少し厳しくとるべきではなかったかなと。僕なんかは吉田選手の豪快な投げが見たかったし。ミルコ選手VS桜庭選手は、復帰第1戦でみんなが桜庭選手の勝利を望んでたと思うし、僕も桜庭選手に頑張ってほしかったですが、本当に残念な結果になってしまって。それ以上に、ミルコ選手の桜庭選手への対応がパーフェクトだったと。桜庭選手も攻めてましたけど、もう一つ不運だったなと。桜庭選手はもう1度、再起していただいてミルコ選手と再戦をぜひやってほしいなと。そのためには僕らもどんな努力もしたいなと思ってます。全体的に素晴らしい大会だったと思いますし、お客さんもいっぱい入ってですね、雨も降らずに風も爽やかでいい大会だったなと思います。

――2週間の審議期間の基準は？

**石井** 1週間くらいで審議をするんですけど、それを答弁書とかですね、文章にして英語に直して正式に向こうに出す。そして向こうとの話し合いをしなくちゃいけません。一方的に通告もなかなかできないので、向こうの主張も聞きながら、吉田選手の話も聞きながらあらゆる角度でジャッジメントを検討して、それから話をしたいなと。そのために余裕を持って2週間ということに。

――判定が覆る場合はあるんですか？

**石井** いや、覆ることはないですけど、まあ向こう（の主張）はノーコンテストということにはなってますんで、ノーコンテストか吉田選手の勝ちかというところが最大のポイントになってくるかなと思います。

――第2回大会は？

**石井** はい、これに懲りずにですね、調子に乗ってまた来年もやりたいなと。国立ですね。やるとしたら来年の夏のこの時期がいいんじゃないでしょうか。これで11年間雨が降ってませんから。

――年末の大会はまた違った形で？

**石井** 年末は年末でまったく違ったコンセプトでいろいろ仕掛けていきたいなと。■

## 客席の顔ぶれもDynamite!な豪華さだあっ！

▲この人たちが客席にいれば、そのイベントも一流の証拠か。ファンの目を引きまくった叶姉妹

▲浅草キッドの水道橋博士と観戦したのは長嶋一茂さんと北野あつしクン

▲石井館長とガッチリ握手！　の森喜朗元首相

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER in 国立
8・28 国立競技場

3000メートルからのダイブに成功！

# アントニオ猪木

## 「桜庭はケガもあって不運だった。出てきた勇気は評価しないと」

――昨日行われた『Dynamite!』の総括をお願いします。

**猪木**　良かったなぁと。ちょうどヘリポートのほうに行っちゃったんで、前半の試合は見られなかったんですけどね。まあ、非常にノゲイラとボブ・サップの試合も凄かったし。まあ、桜庭に関しては前のケガがあったり、この時期に出てくるのはまだ早いんじゃないかと思ったんで、これはまあ不運というか。あとは吉田の試合に関しては、ホントは昨日見るまではあんまりよく知らないというか、名前は知ってましたけどね。やっぱり昇っていく勢いは凄いなって感じがしたんで。スターというかそれが誕生したということで。まあ、みんないろんな部分で刺激しあっていければ、どうしても外人にいつも負けてしまうものから、またもう一つ進化をしてもらわないと。ところで、昨日、武藤はなんで来てなかったの？

――いや、見に来てました。

**猪木**　リングに上がった？

――上がってはないです。

**猪木**　どうして上がらなかったの？　上がりゃあいいのにねぇ（笑）。上がったら激励してあげたのに。

――ホイス選手が試合後に「負けていない」と言って物議をかもしてますけども。

**猪木**　あそこの場面は俺には分からないね。見てないからね。レフェリーがどう判断したか。ただ、もう一つ欲を言えばね、これは柔道のジャケットマッチであれば落とすまでだろうねぇ。結局残酷とかっていうより、柔道家は落としっこをしてるわけだから。ただ、（吉田は）今回はデビュー戦ですから、もう進化していくでしょうから、こういうジャケットマッチじゃなくなっていくと思いますよね。

――桜庭VSミルコ戦はいかがでしたか？

**猪木**　よくやったじゃん、桜庭が。例えば彼が状況というか、自分の体調はさておいてもその場面というのが作られてしまったら、もう出るしかないなということで出てきた勇気は非常に評価しないといけない

――闘魂ダイブはいかがでしたか？

**猪木**　ヘリコプター？　結果的には凄いいい体験をさせてくれたというか。高い所ったってバンジージャンプかなんかかなって考えてた（笑）。今回もあんまり余計なことを、だってあの人たちが大丈夫だっていうことは、大丈夫なんだから。1つは人間関係の、ある意味では自分の今回のことが怖いことだとは思ってないんですね。それよりも、要するに勇気というかみんないろんな部分で、高所恐怖症とかみんな持ってる人がいるかもしれないけど、何か信頼というか、そういう部分を信じれば恐さっていうのは全然なくなってくるというか。俺も決まっちゃったらしょうがねぇじゃねぇのっていうそれだけの話でね。ただまあ、昨日は大変天気も良かったし、雲もほとんどなかったんで、メッチャクチャ綺麗な100万ドルの夜景なんていう比じゃない、ホントに体験をさせてもらってね、ありがたかったです。100万ドルのやけくそ！　なんつってね。ダ～ッハハハハハ。

（大会翌日『闘魂TV』記者会見にて）■



▲ボブ・サップをこの世界に誘ったサム・グレコ

▲ゴールドバーグと格闘家たちの珍しい2ショットも多数見られた。大会後のパーティーではトム・エリクソンと

"Who's Next!"
ゴールドバーグが来た！

▲石井館長に導かれ、ゴールドバーグがリングに登場。8・30＆31 全日本プロレス武道館大会をアピールし、最後は決めゼリフ"Who's Next!"

ドリームステージエンターテインメント

# 森下直人社長

## 「全てのことが苦労でした。でも、世界一だって言えるイベントができたと思う」

「問題も多かったけども、市場作り、格闘技の市場を大きくするという部分では、何かことを起こさないことにはいけないんで。いいことも悪いことも、ことを起こすから始まると思うんで。そういう意味では、一つのトリガー（引き金）にはなったかなぁという。ただ僕の立場でいけばですね、本当に勝ってもらいたい人が勝てなかったりですね、グレイシーと吉田選手の試合ももう一歩すっきりしなかったって部分があるんで。残念だなと思うんですけど、それもポジティブに捉えて、これからのいろんなストーリーを展開していければなと思います。トータル的には良かったと思いますね。いい勉強になったなって。演出面とかトータルな製作の部分でも、いろんな人がいろんな形で努力してくれて。イベントとしては、世界一だって言えるくらいのイベントができたと思うんで。苦労といえば、もう全部苦労ですね。ドリームステージだけでやってるイベントじゃないんで、K―1サイドとの調整も当然しなきゃいけないし、国立競技場側も、こういう民間企業に貸し出ししたこと、格闘技の大会も初めてですし。そういう部分では国立側との調整も相当大変な部分もありましたし。マッチメイクも、全てが大変でしたね。ただ、本当にたくさんのお客さんが入ってくれて、そういう部分では嬉しいなと思いますし。ほんと98％苦労ですからね。2％の大きな喜びを感じられたというのは幸せだなと思いますけどね。また、ただ『良かった』だけで終わらずに、今後のために反省点があればあるほどいいなと思いますね」

全日本プロレス

# 武藤敬司

## 「もう一つリングがあってプロレスを見せられたら勝負できたんじゃないかな」

当日、会場にはいたもののリング上での挨拶などは行わなかった武藤。翌日の新聞各紙では次のようなコメントが伝えられた。

「よく（観客が）入ったね。総合格闘技をナマで見るのは初めてだけど、国立競技場は広かったね。うらやましいよ。試合も、プロレスとはひと味違った凄い試合ばかりだったね。吉田、桜庭、みんないい試合だったと思うよ。ただ、技術的なものよりも、オレの中で強烈に印象に残ったのは、やっぱりボブ・サップ。ケモノみたいなファイトで、正直、今日一番インパクトがあったね。最終的にはスタミナ切れでやられちゃったけど、勝てそうな場面もたくさんあったし。ウチの武道館に来るって？　心して待ってますよ。今度はオレたちが、オレたちの持ってる素晴らしいモノを見せないとね。ふと思ったんだけど、もし今日、会場にもう一つリングがあって、そこでプロレスを見せられたら勝負できたんじゃないかなってことだよね。サップや吉田以上に注目される自信はあったからね。プロレスはお客さんを悲しませたり、怒らせたり、満足させたりしないといけない。ライブで勝ち負けの結果を求める、総合格闘技のお客さんとは、求めるものが違ってくるってこと。だからオレたちは、王道プロレスの伝統を守りながら、同時に総合格闘技を攻めていくよ。全日本で、プロレスの魅力を存分にお見せしますよ。それと石井館長には感謝してる。ゴールドバーグにしても、国立のリングで、オレたちの大会をきっちりコマーシャルしてくれたからね」

▲九重親方も会場に。現役時代、この人の最強説を唱える人も多かった

▲大晦日の『イノキ・ボンバイエ』に続き、実況は古舘伊知郎氏。"リオの関節カーニバル！"（ノゲイラ）など名フレーズを連発！　解説は髙田延彦と石井館長が務めた

Dynamite! 8・28国立競技場

『Dynamite!』ルールディレクター

## 島田裕二

**「オレがレジェンド・レフェリーだってことが分かったね!」**

「いや〜、ホントにダイナマイトだったね。やっぱりね、オレがレジェンド・レフェリーだってのが分かったね。印象に残ってる試合は、メインもそうだけどヴァンダレイと岩崎っていうのがね。(元)極真とシュート・ボクセっていうね。極真もこのまま終わりませんよ。(苦労した点は?)ホイスもそうだけどね、ああやってお客さんがいっぱい入ってくれたらもう、全て苦労も報われましたよぉ。あとは1日のTBSの視聴率が楽しみだね」

吉田秀彦のセコンドを務めた

## 大山峻護

**「我が子を戦場に送り出す母の気持ちで。ボクのほうが焦りました」**

「今回は、吉田さんのセコンドについたんですが、こんなことを言ったら先輩に失礼かもしれませんけど、我が子を戦場に送り出す母のような気持ちで見ていました。足を取られた時は、『落ち着いてください、大丈夫です』なんて言いながら、ボクのほうが焦っちゃって。でも、吉田さんは、大舞台にもまったく動ずることがないし、本当にスーパースターなんだなと痛感しました。こんな凄い試合のセコンドにつかせてもらってホントに光栄です。9月29日の『プライド』では、吉田さんに負けないくらい、いい試合ができるよう頑張りたいと思っています。桜庭さんは本当に残念でしたけど、日本人として、桜庭さんが戻ってくるまで頑張りたいと思います」

大会翌日、新日本で藤田和之と対戦

## 高山善廣

**「サクは調子が変に良すぎたかな?負けより、ケガしたのが大きい」**

「野外のビッグイベントは気持ちがいい。見るには(笑)。やるには……どうなんだろ。でも見てる人は凄い気持ちいいと思いますね。猪木さんが空から降ってきて。いいッスね。こういうビッグイベントはいいッスね。一番印象に残った試合? 一番はつけらんないですね。ん〜……、サクがいい調子だったのにっていう。変に良すぎたのかな。負けより、ケガしちゃったことの落ち込みがあるんじゃないかな。そんな気がするんですけどね」

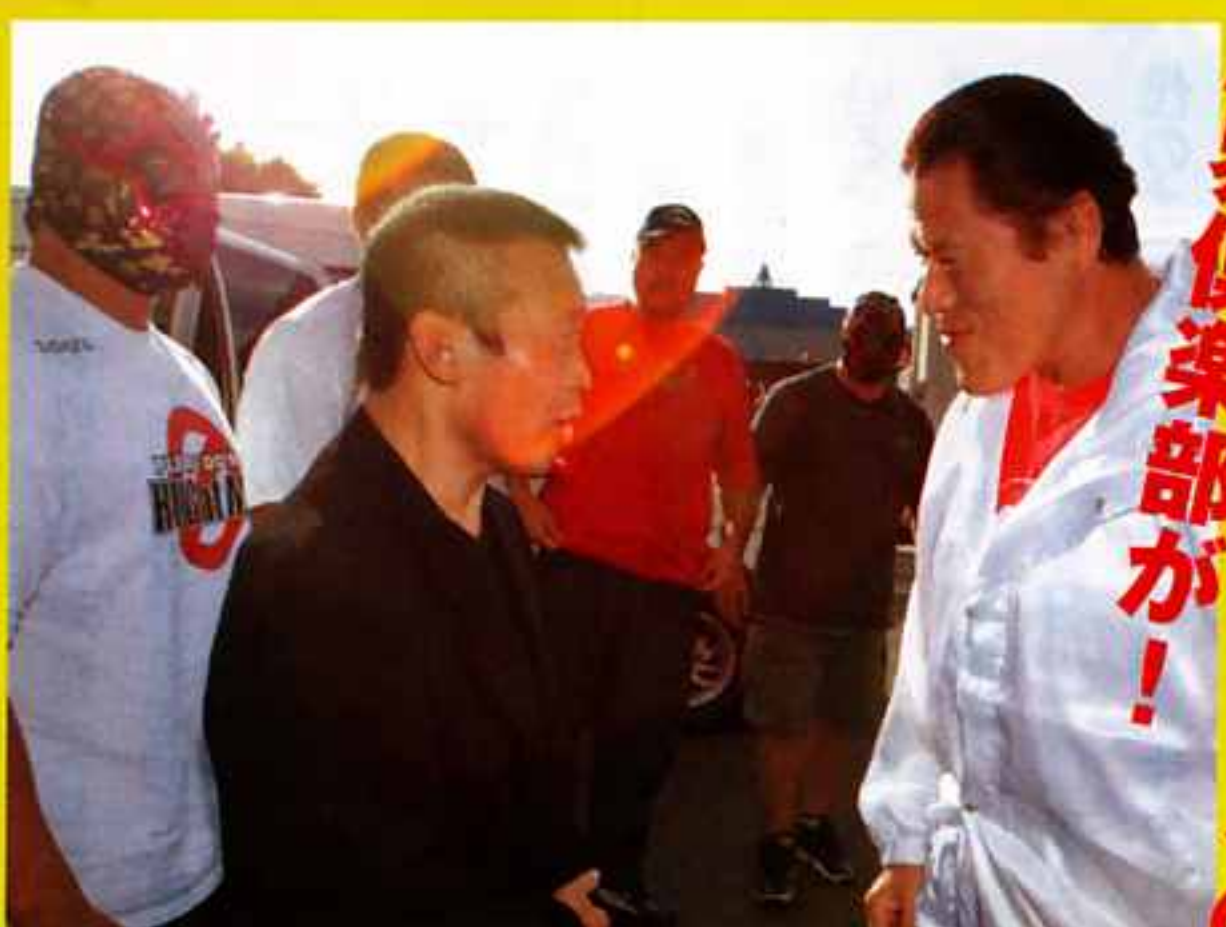
国際武道大学教授

## 柏崎克彦

**「袖車絞めにいくのは基本どおり。吉田はきちっと作戦を練っていた」**

「ホイスは『まいった』してないんだろう? 落ちたかどうかは、俺の見ていた位置からはよくは分からなかったけど、まあ、ちょっと中途半端な結果だったな。審判は見込みでとるんじゃなくて、確認しなくてはダメだよ。吉田にしたら、もし落ちたと感じたんだったら、もっと深くちゃんと落とさないと。ただ、あの試合の中でお互いにとって、いいポジションというのは、吉田のあの横四方だけなんだよ。あそこから袖車絞めにいくのは基本どおり。非常に賢明な選択だったよな。でも、柔術でもあれはポピュラーな技だと思うからディフェンスができなかったんなら、それはお粗末な話だよ。袖車絞めは古くからある柔道のごくごく普通の技。最近ルールが変わって使いやすくなったけど、ポピュラーな技術なんだよな。今回、吉田は引き込みに対する対策をちゃんとやっていたし、きちっと作戦を練っていたよ。細かいところまできちんと考えて。まあ逆に言うと、相手が吉田の思うとおりにやらせてくれる、そのレベルの選手だったってことも言えるけどな」

## 会場入りする猪木の後に魔界倶楽部が!

▲大会の2時間前、会場入りする猪木を新日本プロレスの永田裕志、中西学が出迎える。と、猪木の背後から現れたのは星野勘太郎率いる魔界倶楽部(安田忠夫、柳澤龍志、魔界1号、2号)だ! 猪木のガードマン役を名乗り出てVIP入口に向かう魔界倶楽部の面々だったが、これを永田、中西が阻止。新日本武道館大会を翌日に控え、早くも国立競技場が騒然となったのだった

▲角界からは横綱・武蔵丸も。ノゲイラVSサップ戦がお目当てだったとか

総評

文◎ターザン山本

# 真の勝利者は『Dynamite!』を見た君たちファンだ!

8月28日、国立競技場で行われた『Dynamite!』を総括しようとしたら、その答えは一つしかない。

あの興行のチケットを買って、試合を見に行った君たちが、一番の勝利者だったと……。もしかすると国立競技場でプロレスや格闘技の試合をやることは、二度とないかもしれないからだ。

もともとどんな興行も〝聖なる1回性〟のもとでやられてきた。そこに興行というものの魅力がある。ある日、ある場所でその時にしかないものを、観客やファンの前でやって見せるもの。

それが興行の定義でもある。これまで国立競技場ではマット界の人間は、誰も興行をやれなかったのだ。それが初めて実現したとなれば、ファンは真っ先に飛んで行くしかないだろう。

何はさて置いても私なら行く。だから私はファンの人たちに「理屈抜きで国立へ行け!」と叫び続けた。しかし行く行かないは、本人の問題。私に強制力があるはずがない。

ただ、これだけは言える。私がこれまで25年間、プロレスの仕事を職業としてやってきたのは、一つにはプロレスにのめり込んでしまったという自分の性格に由来している部分が大きい。

プロレスに関わったり、プロレスを好きになるという行為は、プロレスと反応しあうDNA(遺伝子)が、自分の中にあるからだ。そこから私はプロレスを好きになるには、才能が必要だという結論に到達した。

才能は性格という言葉に置き換えてもいい。実際、私は「才能とは性格のことだ」と思っている。そしてもう一つ私がプロレスから離れられなくなってしまった理由は「ひょっとして私がプロレスの世界から別の世界に行ったら、その瞬間からもの凄く面白いことが始まるんじゃないか……」という恐怖感があるからである。

その不安がある限り私は、プロレス界から逃げ出せないままでいる。これからも絶対に足を洗えないかも。

たとえば今回の8・28国立大会がいい例ではないか? 私は『Dynamite!』は格闘技のイベントと言われているが、あれは形を変えたプロレスの興行だと思っている。

『プライド』なんか形を変えた新日本プロレス、形を変えた新しいプロレスとしか、言いようがないものである。

現実のプロレス、現実のプロレス団体は面白くないが、今では形を変えたプロレスが、それにとって代わって面白くなっている。そういう時代なのだ。

そのことを最もはっきりと証明して見せてくれたのが『Dynamite!』である。だから『Dynamite!』はプロレスの敵ではない。あれは広い意味でプロレスというジャンルの中に同居して存在している強力なライバルだ。

UWFがプロレスの進化に失敗したあとを受けて、『プライド』が登場し、さらにスケール感のあるものとして『Dynamite!』が出現した。

UWFがやろうとしたことを『プライド』が受け継ぎ、そこからもう一段階進化したものが『Dynamite!』である。プロレスから『Dynamite!』へは、歴史の必然なのだ。

進化と言うよりもそうならざるを得なかったと言ったほうがいい。つまり進化とはその方向に進んでいかなければならなかった事情があるのだ。進化とはオーバーなことではなく事情のことなのだ。

必要に迫られてそうなってしまう事情のことである。今、マット界では必要にせまられて『Dynamite!』が自然発生したのだ。あれは決して突然変異的に生まれたわけではない。

そしてその事情はいつも〝市場の原理〟が、引き起こすものなのだ。市場の原理とはファン、読者のニーズのことを意味している。ニーズとは社会的な意味での「要求」「必要」「需要」のこと。

『Dynamite!』はまさしく時代のニーズによってしか、生まれなかったしろもの。これからは『Dynamite!』的なものが、マット界の主流となっていくだろう。

だからといっていつもいつも国立競技場でやるというわけではない。そんなことはできるわけがない。『Dynamite!』で見せてきたものが、時代精神として主流になっていくだろうという予感である。

では『Dynamite!』とはなんなのか? それがテーマとなってくる。『Dynamite!』は一言で言うと他流試合を基本コンセプトにしている。

たとえば今回で言うと『プライド』VS

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER in 国立
8・28国立競技場

▼第5試合のあとで行われたセレモニーでは、「葉隠れ」の精神を称え、エリオ・グレイシーに特別功労賞が与えられた。プレゼンターは日本のマスコミを代表して我らがターザン山本が務めた

「K―1」という他流試合である。この他流試合は〝流派〟の違うものが闘うという狭い意味合いのものではない。

もっと広い意味で技術体系の違いから格闘家、選手としての価値観の違いを含めた形で他流試合と言っているのだ。

たとえばボブ・サップとアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの試合は、サップは「K―1」のリングでも試合をしているが、いわば2人とも〝なんでも有り〟のルールで闘っているファイター。

そうすると『プライド』を主戦場にしているこの2人の試合は、他流試合とは言えなくなる。でも、両者の対決は観客やファンからすると、他流試合に映った。これをどう説明するかである。

つまり、こういうことである。サップとノゲイラはパワー対テクニックという対決の図式があり、その対決の構図が他流試合のように見えるのだ。

本来なら違った技術体系に育ってきた者同士が激突することを、我々は他流試合と呼んできた。だが、この試合では明らかにパワーで優位に立っていたサップが、前半、ノゲイラをあわや敗北寸前まで追い詰めるところまでいった。

ノゲイラの高度なテクニックが、サップのパワーの前に押し潰され、まったく有利な状況にはならなかった。それはファンからするとスリルとサスペンスに満ちた展開になり、まさにはらはらどきどきさせられた。あの攻防は言うまでもなくプロレス的な流れである。

格闘技の名勝負というよりも、プロレスの名勝負に近いものがある。おそらく昭和のプロレスファンは、この試合に「意を得たり」と思ったはずである。

これもまた形を変えた名勝負の新しいパターンと言わざるを得ないのだ。私はサップとノゲイラの試合は、体重差が60キロ近くあったこと。これが他流試合的なものにした要因と考えている。

簡単に言うとリングで闘う選手の間にはっきりしたハンディが、見てとれる試合。体重差というのはその最も分かりやすい例である。ミルコ・クロコップと桜庭和志だって軽く10キロ以上の体重差があった。そのハンディを見せるのが他流試合の新しい形と言えなくもない。

ミルコと桜庭が立って向かい合っている時は、打撃を専門にしているミルコが有利。その時、桜庭はハンディを背負っている。組んで体が密着した展開になると、今度は桜庭が有利になる。

闘う条件を〝不平等〟と〝ハンディ〟という二つの概念のもので、勝負を競い合う。そういう「勝負論」のことを、広く他流試合と言うのだ。

このやり方がファンにとっては最も刺激的で興味深く面白い。これはやる側（選手）からしたら本来、受け入れがたい話である。みんな冗談じゃない。なぜ、そんな危険なこと、理にかなわないことをやる必要があるんだと反論する。

それを無視して面白いことは、面白いこととして選手にやらせる。無茶なカードを作ってやらせる。それをファンが求めていること、市場が求めていることなら、選手も〝NO〟とは言えない。

プロは市場のニーズに応えないとプロとは言えないからだ。選手にもそのことが少しずつ分かり始めている。

『Dynamite!』はこうして、選手（ファイター）たちの意識の改革と変革をもたらす力となった。もう後戻りはできない。そういうドスを選手は『Dynamite!』で突き付けられたと言ってもいいだろう。■

ツ は嘘つきだ!!

# 日本国民を敵に回すのか!? 怒り心頭のグレイシー一族の決断!!

ノーコンテストにならなければ我々は日本国民全員がアンフェアな人たちだと判断する!

非常に不満足な結末となってしまった吉田秀彦VSホイス・グレイシー戦。あの会場ではどう見てもホイスが落ちているように見えない中、レフェリーが試合をストップしてしまったからだ。だが、ビデオで見直してみると微妙に落ちているようにも見える。真実はいったいどうだったんだろうか? 結局のところ、試合を止める権限のないレフェリーのミスジャッジとしか言いようがないのである。そんな状況の中、ホイス&エリオらグレイシー側の言い分を思い切り聞いてみた。

聞き手◎中村カタブツ君(ブチ)

**エリオ** この新聞は今日発売したのか? なんてことじゃろうなぁ。まずはワシから昨日の試合について言いたいことがあるから聞いてるんじゃ。

——はい。

**エリオ** 我々はレフェリーが過った裁定を下したことを残念に思っておる。そして、もっと残念だったのはヨシダに勇気とモラルがなかったことじゃ。

——モラル?

**エリオ** レフェリーの過ちを認めなかったことじゃよ。ホイスはあそこで失神してはおらんよ。ヨシダ自身、それを十分に分かってるはずだからモラルがないと言ってるんじゃ。続けていいか? この試合がノーコンテストに終わらなかった場合、我々は日本国民の皆さんが昨日のレフェリーのようなアンフェアな男と思えてしまうことが残念じゃ。

——日本国民全員ですか!?

**エリオ** そうじゃ。だから、あの試合はノーコンテストにしてほしいと思うのじゃ。

**ペドロ** あと、一点。取材に関してはOKですが、ホイスは質問には答えないということです。ですから、答えるのはエリオか、私ということになることを了承してください。

——分かりました。僕もこの裁定は完全にミスジャッジだと思います。そして……。

**ホイス** (突然)ちょっといいか? この新聞にはなんて書いてあるんだ?

**通訳** 〝吉田ホイスを絞め殺す〟と書いてあります。

**ホイス** ふぅ~、おかしいと思わないか? こういう新聞は全部ヨシダが勝ったと書いてあるんだろ? だけど、今日、取材しにきた人たちはみんなミス・ジャッジだと認めてくれている。なのに、なぜ、こういう記事になるんだ?

——あの時点では負けの裁定が下ってしまっているんで、そのまま書いたんだと思います。悔しいと思いますが。

**ホイス** ……。

——ただ、吉田選手は試合後、ホイスさんの身体から力が抜けていくのが分かったと語っていたんですよ。

**ホイス** もし、ヨシダがそういうことを言ってるのであれば、彼は嘘つきだ! もう、私から言えるのはそれしかない。

——では、ホイスさんは落ちてないわけですね。

**ペドロ** ホイス、ここは僕が答えるよ。なぜ、ヨシダが嘘つきなのかというと、彼はホイスに袖車を仕掛けましたが、それはただ、袖車の準備していただけなんです。ホイスはそれをディフェンスしていたんです。ですから、レフェリーが試合をストップした時点では、あの技の効果はまったくなかったということです。

**ホイス** 実際、やって見せよう(左ページの写真参照)。

——つまり、落ちるわけがないと。

**ペドロ** そのとおり。ホイスは完璧にディフェンスしているんです。新聞には失神KOと書いてあるけど、そんなバカなことはありえないんですよ。それに、ホイスはすぐに立ち上がったでしょ? 本当に失神しているのであれば立てるはずがないんです。

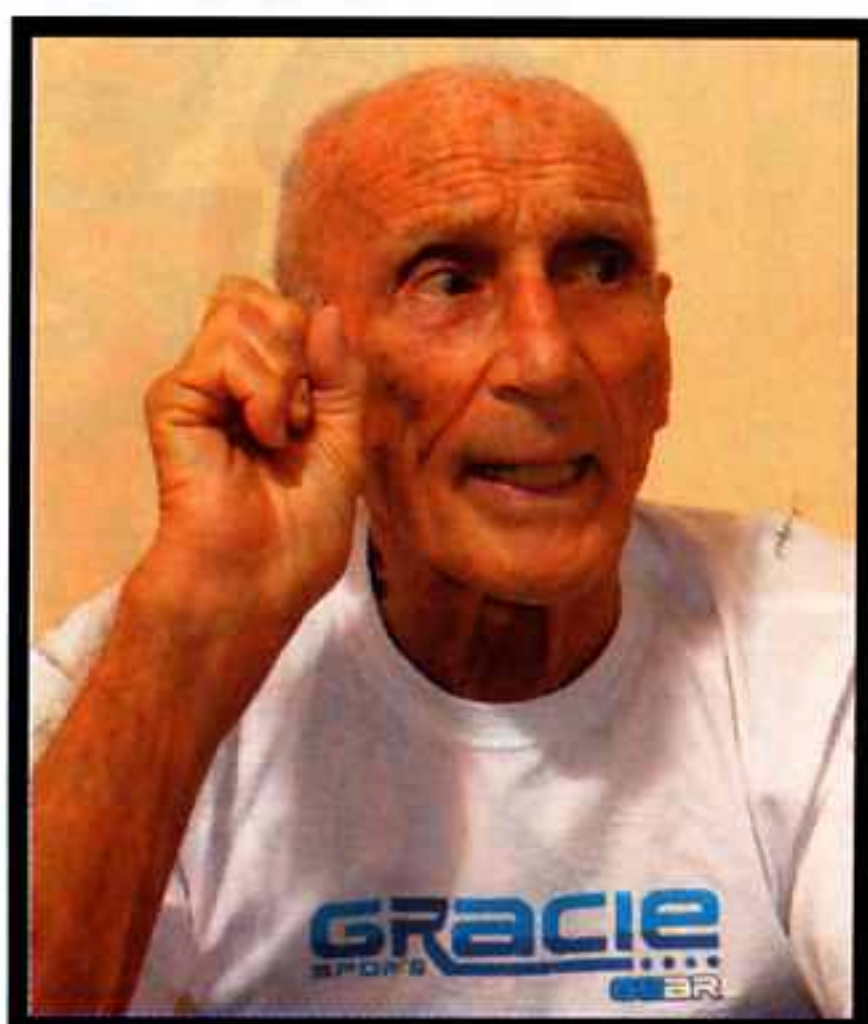
——昨日の試合のビデオはご覧になられました?

**ペドロ** 見ました。

——これは僕の素人目で見た感想なんですが、吉田さんが絞めている時、ホイスさんの手から力が抜けていったように見えたんですよ。

**ペドロ** それはまったくありえない。なぜなら、ホイスはガードをしていたんですよ。柔術というのは力を使ってやるものではないんです。もし、力が抜けていたように見えたのなら、ホイスはリラックスしてヨシダの動きを察知しようとしていたんです。

**ホイス** 勝負だから勝ち負けはあるさ。だが、こんな形で負けと言われるのは我慢できない! 私はサクラバとの試合で負けたことを認めているだろう? だから、絶対に負けを認めないということじゃないんだ。ミスジャッジで負けにさせられたことが悔しいんだ。私にはプライドがある!

# ヨシダには失望した！アイツ

――エリオさんの考えも同じですか？
**エリオ**　もちろんじゃ。
――こんな結果では試合前日までルールミーティングしていた意味がないですね。
**ペドロ**　そのルールミーティングに関して言いたいことがあります。ホイスはルール変更の要求を一切してないんです。これはハッキリさせておきたいです。ホイスの主張は最初の契約の時のルールでやってほしいと言っていただけ。それをプロモーター側が変更の要求をしてきたというのが真実です。
――分かりました。結末はともかくとして、柔道金メダリストの吉田選手と闘った印象はどうですか？　柔道は強かったですか？
**ペドロ**　ヨシダはオリンピックチャンピオンですし、ホイスはUFCのチャンピオンですから素晴らしい試合になると思ってました。
(ここでいきなり退席しようとするホイス)
――あ、すいません。一言、吉田さんの印象をお願いします。
**ホイス**　ヨシダに関することなんか聞きたくない！　ヨシダについて語るには、今はあまりにも興奮し過ぎているんだ！　私はヨシダのサインが欲しいと最初思っていたんだ。ファンだったからさ。だが、もういらない。がっかりだ。嘘つきめ!!(そして退出)。
――う～ん。では、エリオさんは吉田さんの柔道をどう見ましたか。
**エリオ**　全然、柔道をやらなかったじゃろ。できの悪い柔術はやっていたようじゃがな。
**ペドロ**　ヨシダはレッグロックをかけようとしていましたね。でも、あの技は柔道の技にはないでしょ？
**エリオ**　試合中、攻めていたのはホイスじゃろ？　ヨシダはただディフェンスをしていただけじゃろ？
**ペドロ**　ビデオを見れば分かると思いますが、ホイスは試合開始7秒でヨシダを掴み、10秒でレッグロックに入っていました。試合全体を見ても、ホイスがアタックし、ヨシダがディフエンスするという展開でしたでしょ？　ヨシダがアタックしたのはレッグロックをかけた時だけなんですよ。
**エリオ**　ハッキリ言ってキムラは、ヨシダと違ってワシを攻めてきた。まことに勇気のある男じゃった。人間的にもそれは立派じゃったぞ。それにじゃ。キムラとの試合ではカーロスがタオルを投げ、レフェリーがワシに、これでいいかと確認してきたのじゃ。今回の試合とは全てが違うんじゃ。キムラは攻めたがヨシダは守ってばかりだったな。
――吉田さんは試合後に「自信がついた」と発言してるんですね。それはたぶんグレイシー柔術ってこの程度のものなんだと見切ったということだと思うんですが。
**ペドロ**　ヨシダが自信を持つためにレフェリーの力を借りなければいけないというのであれば、とても残念だと思います。昨晩、ヨシダはよく眠れなかったはずですよ。
――それは吉田さんがホイスは落ちたと嘘をついたから？
**エリオ**　そうじゃ。この試合で負ける怖れがあったのはヨシダだったじゃろう。
――再戦に関してはノーコンテストにならなければ、やりたくないということですか？
**ペドロ**　そうです。
**エリオ**　今回は本当に不公平だった。ノーコンテストにならなければ次回はないと思ってるな。プロモーターの現段階の判断には、どう思っていいのか分からないぐらい戸惑ってるんじゃ。
**ペドロ**　新聞がこのような形で書いてしまってるわけですから、このままだと日本の方々は真実が分からない状況になってしまいます。
――だから、再戦したほうがいいんじゃないですか？
**ペドロ**　まずはノーコンテストでしょう。あとのことはあとで考えます。
**エリオ**　ワシが今、技をかけてもいいんじゃよ。本当の技がどういうものかを見せてやってもいいんじゃ。ワシは悔しいんじゃ。失神した人間がすぐに立つなんてありえないし、起き上がったとしても意識が朦朧としているんじゃよ。あそこで失神していたなんてことはありえないんじゃよ！
**ペドロ**　「100%ありえません」と断言できます。
――ストップされた直後、ホイスさんはどんなことを言ってましたか？
**ペドロ**　レフェリーに向かって「どうして止めたんだ」と言ってましたね。「なぜ、なぜ」と。
――吉田さんを捕まえて、主催者に何か言ってましたが、なんて言っていたんですか？
**ペドロ**　だから、ヨシダにも「真実をレフェリーに言ってほしい」と主張していたんです。ヨシダにも、「これは間違いだと証言してほしい」と言ってました。ヨシダはオリンピックチャンピオンなので、レフェリーの間違いに気付いたはずですし、正直に認めてほしかったです。だが、彼はそうしなかった。ガッカリです。
――う～ん、吉田側とグレイシー側の主張はまったく相反する状態ですね。
**ペドロ**　意見はいろいろあると思いますよ。しかし、今はビデオというものがありますから、それを見れば全てが明らかになると思います。どの格闘技の専門家に、そのビデオを見せたとしても、ホイスの主張が正しいことが理解できると思います。ともかく我々が言いたいのは、ホイスがあの技を完璧にディフェンスしていたということ。もう一つはレフェリーのミスジャッジで試合が不当に終わってしまったということです。そして、ヨシダに言いたいのは、それで満足なのかということです。皆さん、ビデオを見てください。■

## あの技で落ちるわけがない!!

▲「ヨシダの袖車は効いていなかった。なぜなら、右手で防御していたからだ。ヨシダはあの時、右手の拳を自分の首に押しつけていただけ。だから落ちるわけがない」と解説するホイス。相手はマイアミ柔術の総帥ペドロ・バレント

# 「終わってからいろいろ言われて、後味が悪い！ 再戦かどうかは主催者側に決めてもらうしかない」

…、落ちたと思った。
…ですから（苦笑）」

――大会から2日経ちましたが、どうですか今の心境は？

**吉田**　いやべつに、ホッとしたという感じで。普段と変わりない生活ですよ。

――普通の生活に戻ったと？

**吉田**　昨日は道場の指導があったんで、2時頃に道場に来て、軽くランニングして、その後子供たちと一般の入門生を教えて、9時頃まで道場にいましたんで、あまり普段と変わりないですね。

――今回、調整はうまくいった感じですか？

**吉田**　今までと違ったのは、やはり柔道だと相手のレベルが分かるんですけど、まったく違う世界なんで、どれくらいのことをどれくらいやったらいいのかが分からなかったんで、自分の中では打撃にしても柔道にしてもやれることを目一杯やろうと思って、今までにない練習をしたつもりです。

――実際、試合に臨むにあたって不安は？

**吉田**　不安はいつも持っていることで。まあでも、試合の時には全部忘れてました。

――直前にルールのことで結構ゴタゴタしたような感じだったんですけど、そのへんはあまり気にならなかったですか？

**吉田**　う～ん、いやべつに。どういうルールでも、こっちからはルールに関してどうのこうのと言ってなかったんで、あまり気にはならなかったですね。

――打撃に関して、最初とは違うルールになったと思うんですけど、それによって試合に何か影響はありましたか？

**吉田**　まあ、顔に打撃がなくなったということで、ボクもやりやすくなったというのはありますね。まあ、あるならあるで、それに対応した試合の流れになっていたと思いますし。あまり気にはしていなかったですね。

――試合の運びとしては、ほぼ思いどおりにできましたか？

8・28『Dynamite!』国立大会の興奮冷めやらぬ8月30日、世田谷区梅ヶ丘の吉田道場で、吉田秀彦共同インタビューが行われた。大会直後から取材依頼が殺到したため急きょ、依頼のあった媒体全てを集めての合同インタビューとなったが、集まった記者・カメラマンはなんと約30人。判定に対するグレイシーの猛抗議で多少の後味の悪さは残してはいるものの、格闘技界のニューヒーローの誕生が、大反響を巻き起こしている。

**吉田**　予想していたとおり……になったと思います。組んだら多分すぐ引き込んでくるなと分かっていましたんで、それを想定した練習もしましたし、……組んだ時にだいたい相手の、力というのが分かりましたんで、それほど怖いなというのはなかったですね。

――そういう意味では、冷静に？

**吉田**　冷静というか、今までね、柔道でしかしたことなかったんで、足の関節とか、そういうので戸惑った部分はありましたね。

――実際にヒールホールド、かなり惜しい線までいっていたように思うんですけど？

**吉田**　効いていましたかね？

――感触はなかったですか？

**吉田**　いや、入ったなと思ったんですけど、関節が柔らかいんで、なかなか。

――逆に足を攻められた場面もありましたけど？

**吉田**　あれはべつにあまり痛くなかったです。ただ道衣を持たれていて、足が抜けなかったんで、どう攻めたらいいのかなと。

――「最初に組んでみてなんとなく力を感じた」ということですけど、実際に闘ってみて、ホイス選手はいかがでしたか？

**吉田**　う～ん……最初は関節とかじゃ「まいった」しないなというのは分かっていたんで、いかに絞めるかというのばかり考えていたんで、本当ならもう少し立ち技で投げて、それから絞めや寝技に移行したいなというのがあったんですけど、ボクが技をかけるより先に引き込まれちゃって。力的には、やはり寝技になると足腰に凄い力があって、しつこい力っていうんですかね、そういうのをやっぱり感じましたね。

――最後、横四方の形にいったんですけど、あれは流れの中で割とすんなりと？

**吉田**　入ってしまったら、結構すんなりと。入るのにもうちょっと手こずるかなと思ったんですけど。一本足を越えてしまったら、すんなりと入らせてもらったので、ちょっとホッとしたというか……。

――あそこからのシミュレーションというか、横四方から縦四方、最後は袖車絞め、その前に腕がらみを狙っていたんですけど、そのあたりというのは繰り返し練習されてた？

**吉田**　それは柔道の時と一緒なんで。まあ、横四方に入って、足が一本まだ絡まっていたんで、腕がらみいってみてダメだったんで、それから相手の頭の後ろに手を回したらすんなりと入れさせてくれたんで、そこからはいつも練習しているとおりなんで、もうこんなにキレイに入ってしまっていいのかな、という感じでしたね。

――袖車絞めは柔道の頃も練習はしていたんですか？

**吉田**　いや、見てのとおりあまり寝技はうまくないんで（苦笑）。まあ……最近ですね。試合が決まってから、いかにして勝てるかっていったら、やっぱり絞めるしかなかったんで。他にも絞め方とかいろいろ勉強したんで、それが出たって感じです。

――国立という大舞台で試合をしてみて、何か感じたことはありますか？

**吉田**　なんか思ったより緊張しなかったんで、外で初めてボクも試合をして、リングも初めてですし、あれだけの観衆の前で試合をするのも

▲吉田は袖車絞めをジェスチャー入りで説明。「完璧に極まっていて、ホイスは力が抜けていった」と力説した

# 「ホイスの力が抜けたんで、ボクも人は殺したくはない

初めてだったんで、凄い緊張するのかなと思ったんですけど、なんかすがすがしくできた。なんか気持ち良かったです。

――今後の予定について、分かる範囲で何かありますか？

**吉田**　……あっ、明日、吉田道場のバーベキューです。

――それは祝勝会も含めた形で？

**吉田**　いやいや前から決まっていたんで、負けたらどうしようかなって思っていたんですけど（笑）。みんなでバス借りて行きます。夏休み最後ってことで、親と子供と一緒に楽しくやろうってことで一応企画したんですけど、50人くらい来るので楽しくやりたいなと思います。

――しばらく練習ばかりだったと思うんですけど、いま何かやりたいことはありますか？

**吉田**　いや……まあ、お盆休みもなかったんで、少し休んで……。何しよう？　まあ、することもないんで、ここで子供たちに柔道を教えます。

――エリオさんが、一昨日の試合は吉田選手にはなんの非もないんだけど、レフェリーのジャッジが間違っているから、無効試合にしてほしいと言っているようですが？

**吉田**　べつにまあ、終わってから、ボクもああだこうだ言いたくないですし、それはもう主催者側に決めてもらうしかないんで、ボクはやるだけのことは全部やったつもりなんで、それに関しては何も言うことはないです。……（ホイスは）落ちていたんですかね？

――ビデオはご覧になりました？

**吉田**　見ていないです。

――落ちてる……感じもありますよね。

**吉田**　やってて力が抜けたんで……だからもう落ちたと思ったんで。

――感触としては、これは落ちたなというのが強かった？

**吉田**　感覚的に、こうなって、完璧にこうなって、こう入ったんで（ジェスチャーで説明）。

――ホイス選手の顔が周りからは見えなかったんで、どうなっているのか分からなかったんですけど？

**吉田**　ボクにも見えてないです（笑）。

――息づかいとかで、落ちた感覚というのは？

**吉田**　力がなくなったんで、落ちたかなというのはありましたね。

――それまではどこかに力を感じていた？

**吉田**　最初、ここに腕があって、ボクがこの上からだったんですよ、絞めてるのが。それが、こうなって抜けて、完璧に入ったんで。

――それで反射的に「落ちた、落ちた」とレフェリーに？

**吉田**　いや「落ちたんじゃないの？」って、自分では見えないから。ボクも殺したくないですからね（苦笑）。見えないから、どうなのかなっていうのはレフェリーに見てもらわなければいけないじゃないですか。だから、それはもう、ボクも全然分からないですし、レフェリーに見てもらうしかできなかったんで。でも、あのまま続けてもらっても、全然ボクは良かったんですけど、それはだから判断は、レフェリーが一番多分見えるところにいたと思いますし、ボクは、やってて力がなくなっていくのが分かったんで、どうなのかなって。

――吉田選手自身は、決着は付いたと？

**吉田**　試合の上では、ですね。だから、納得いかないというなら、まあそれは主催側に任せるしかないですし。今回やってみて、何が良かったかというのは、これくらいのレベルでこういうふうにやればいいなというのが、今までちょっとそういうのが分からなかったんで、柔道の試合と違って。どういう流れでどういう形で試合を運んでいけばいいのかというのが、自分の体をもって体験できたことが良かったんで、それが一番ですね。それがこういう勝負になったというのは、ボクもちょっと後味が悪いですし、それはまあ、あとでゆっくり考えれば、今後のことはですね、主催者側に任せて。

――手応えを感じたということは、今後もこういう試合を継続していくという希望が？

**吉田**　希望というか、そういう、なんていうんですかね、条件にあった、そういう試合であれば、いいんじゃないかなと。べつにやるとは分からないですけど。どうなっていくかはボクもちょっと分からないですけど。まあ、流れに任せて。話が来た時にはそういう話を聞いて、考えていきたいなと思います。

――吉田選手としては道衣はずっと着ていきたいという希望なんでしょうか？

**吉田**　ボクは着ていきたいと思いますね、もしやるんであればですけどね。それがないと、ボクのいいところも出せないですし。

――グローブについてはどうですか？

**吉田**　それもまあ、今後どういう内容でオファーが来るかも分かりませんし、その時に考えたいなと思います。

――グローブがあってもできる準備はされているわけですか？

**吉田**　一応打撃の練習はしてましたけど、実戦と練習じゃ、違うんで。そのへんがどうなるかってのは分からないんですけど。

――仮定の話ですけど、相手も道衣を着てほしいという希望もあるんですか？

**吉田**　着てもらったほうがやりやすいですよね。

――DSEの森下社長は正式に『プライド』参戦のオファーを出したいということを表明しているんですけど、このお話し合いには応じるつもりはありますか？

**吉田**　まだ聞いていないんで。まあ、いろんな話が多分あると思うんで、それは来た時に話し合いで合意すればいいんじゃないかなと思います。

――森下社長は、できれば11月に東京ドームであるんで、そこで髙田選手の引退試合を考えてもらって、その相手として吉田選手になったら嬉しいなみたいなことをおっしゃっていたんですけど、吉田選手にとって髙田選手というのは？

**吉田**　誰がどうのっていうのはないんですけど、プロとしてやる以上は相手がどういう選手でもやらなくてはいけないっていうのが、話が来ればですけど、前向きには考えていきたいですけど、その中でルールの面とかがあえば、ですね。

――髙田選手の試合は今までご覧になったことは？

**吉田**　ありますよ。

――印象というのは？

**吉田**　やっぱりこういう格闘技を引っ張ってきてくれた人なんで、ボクにとっては雲の上の存在ですよね。

――引退試合の相手として名前が出てくることに対しては？

**吉田**　まぁ、有り難いですね。……だからといって、やるってわけではないですよ。

――馬乗りになって相手の顔面を殴りつけるということができますか？

**吉田**　普通にケンカだったらできないですけど……ケンカだったらやるか（笑）。どうですかね、そういう場面になってみれば分かると思うんで、まだそうなっていないんで、それは分からないです。それが、試合だったら、ルールの中に入っていたらやると思います。

――試合の時は何キロだったんですか？

**吉田**　102キロです。

――今後もそのウェイトで？

**吉田**　柔道の時に減量ばかりしていたんで、減量しないで試合をするっていうのが一番の条件です（笑）。

――ヘビー級でやっていきたいと？

**吉田**　自然体でやりたいというのはあります。

――いろいろな選手が続々と吉田選手の相手に名乗りをあげているんですが？

**吉田**　いやぁ、ボクは知らないです。

――『プライド』ヘビー級のチャンピオン（ノゲイラ）とかミドル級のチャンピオン（シウバ）とか、「ヨシダという名前は私に刷り込まれた」と言ってますよ。

**吉田**　あっ、そうですか。

――闘ってみたくはないですか？

**吉田**　いやぁ、ノゲイラは強いでしょ（笑）。■

▲問題のシーン。レフェリーはホイスが失神していると判断し試合をストップ。しかし、吉田が腕をほどくと、ホイスは自分の足で立ち上がった。果たしてホイスは落ちていたのか？

Dynamite! SUMMER NIGHT FEVER in 国立
8・28国立競技場

## 観客数史上最高の91,107人を記録
## 何もかもがDynamite! 真の伝説(レジェンド)は作られた

ダイナマイト！　フォーエバー！　2002年8月28日、ついにこの日がやってきた。前日まで降水確率80％と、雨天延期か騒がれていたにもかかわらず、燃えるような熱さが国立競技場に戻ってきた。史上空前の真夏の格闘技ワールドカップ『Dynamite!』は、間違いなく歴史に残る大会となった

# 8・28真夏の夜の蜃気楼

▲観客席は人、人、人でギッシリ。サク応援シートのノリもダイナマイト！　ワールドカップ以降ニッポン人のスポーツ観戦のスタイルが変わってきたような……

▲まさにリビングレジェンドなエリオと猪木が、聖火台に格闘ロマンの炎を点火！　しびれる〜

▲W杯サッカーよろしく、この日は出場選手をイメージした言葉を綴ったフラッグが客席を取り囲んだ

▲グッズコーナーも大盛況！　この日に合わせて大会オリジナルTシャツなど、数多くのグッズが発売された

### 総合プロデューサー
### 石井館長の挨拶

「みなさんの夢、私たちの夢が今日ここで実現しました。ありがとうございます。現在、格闘技界で最もダイナミックな爆発を見せている『プライド』とK-1が、互いに協力しあって実現することになりました。私たちは、みなさんが見たいモノを、見たい時に一番いいタイミングで提供する。私たちは夢の請負人です。今日ここに来ている方々は歴史の証人です。最後まで勇気ある選手たちに、温かい声援をお願い致します。ただ今より、SUMMER NIGHT FEVER 史上最大の格闘技ワールドカップ『Dynamite!』を開催します。押忍！」

# 男の子から、男へ。

キーワードは「無痛」「無傷」「安心」。
過去20万人の治療実績を誇る
上野クリニックの技術と安心が
一冊の本になりました。
あなたの下半身の悩みにしっかり、
まじめにお答えします。

**第1章　日本人の3人に2人は包茎です。**

包茎は病気ではありませんが、病気を起こす根源になるとともに、心理的なコンプレックスの原因にもなるのです。解決の第1歩は24時間無料相談ができる東京上野クリニックのフリーダイヤルから。

**第2章　包茎は百害あって一利なし。**

包茎で大損した男の実話集。●包茎は早漏のもと。●包茎は雑菌の溜まり場、性病の巣。
包茎治療で得した男の実話集。●ムスコが一皮むけたら人間も一皮むけた。●いつでも「気持ちいい」セックスができる。

**第3章　最新の技術「無痛」治療法。**

綿密な研究を重ね、東京上野クリニック独自の最新技術「無痛4段階麻酔システム」を開発。手術を受けた方から「痛くなかった」という声が、その成果を実証しています。●まず確実な基礎麻酔から。●深部冷却法を採用することで痛みをシャットアウト。●日本一の極細針を使用することで針を刺したことすら感じさせません。●すぐ切れてしまう局部麻酔だけではなく「背面神経ブロック」により、手術中・手術後も完全無痛を配慮します。

**第4章　ていねいな手作業「無傷」の仕上がり。**

東京上野クリニック独自の手術法により「無傷」を実現。それはひとりひとりに合わせた「複合曲線作図法」を行っているから。●東京上野クリニックでは手術跡が残りにくい特殊な高周波メスを使用しています。●東京上野クリニックでは美容形成用の特殊糸と極細針を使い、他にはない独自の方法で縫合。

**第5章　男の性を尊重した「安心」の提供。**

●東京上野クリニックは、オール男性によるプロフェッショナル集団です。
●東京上野クリニックは、男性泌尿器専門の形成外科であり、女性美容形成はいっさい行っておりません。
●東京上野クリニックでは、24時間対応のフリーダイヤルシステムを完備しています。
●東京上野クリニックでは、「生涯再診無料」という安心保証システムを導入しました。
●東京上野クリニックでは、来院すら他人にわからない完全予約制による無料診断システムを導入しています。

**第6章　早めの対応が肝心な性病治療。**

●包茎は尿道炎やコンジローム、包皮炎などの原因をつくりやすくします。●たいていの性病は早めの治療ですぐ完治。迷わずすぐに相談を。
●東京上野クリニックは、包茎治療と同じく、性病検査についても24時間受け付けております。

**第7章　男女とも快感をアップする法。**

●「余分な包皮」のカットは女性を歓喜させます。●カリに摩擦感が生まれない「余分な包皮」は、セックスの快感を大きく妨げます。

**第8章　男をさらに磨く改造計画。**

●東京上野クリニックでは、独自の方法で開発したコラーゲンによる亀頭増強法を提案いたします。
●東京上野クリニックでは、敏感な亀頭を強化して早漏を抑えます。

**第9章　もうひとつの男を磨く道。それは育毛。**

●日本人の4人に1人は薄毛に関する悩みを抱えています。●東京上野クリニックでは、その人にあった治療法をセレクトします。
●東京上野クリニックは、豊富な育毛法を提案します。

**第10章　もうひとつの男を磨く道。それは脱毛。**

●いま、スベスベ肌の男性がなぜモテる。●東京上野クリニックのレーザー脱毛なら、「無痛」「無傷」「安心」。
●東京上野クリニックのレーザー脱毛で得した男の話。

（以上：全て目次より）

MEN'S BODY POWER UP　一生に一度の男の手術

24時間直接電話相談 0120-508-550
メンズ総合テープ案内 0120-087-008
24時間無料電話相談　一生に一度の男の手術　無痛！無傷！安心！
東京上野クリニック

「MEN'S BODY POWER UP」
定価648円（税別）判型：A5判　ページ数：80頁

発行所 株式会社双葉社
〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3番28号

## ご紹介できる全国の上野クリニック一覧

| クリニック | 電話 | 住所 |
|---|---|---|
| 札幌 | 011-252-6000 | 中央区北4条西2 アイビル4F |
| 仙台 | 022-723-3000 | 青葉区中央1-6-27 仙信ビル7F |
| 新潟（NEW） | 025-241-4000 | 新潟市花園1-4-6 柳都ビル2F |
| 大宮 | 048-642-1000 | さいたま市宮町2-11 ハシモトビル7F |
| 東京 | 03-3274-4000 | 中央区八重洲1-8-16 新槇町ビル14F |
| 上野 | 03-3876-7000 | 台東区根岸1-8-18 高松ビル4F |
| 渋谷（NEW） | 03-5784-3000 | 渋谷区宇田川町33-8 塚田ビル7F |
| 新宿 | 03-3343-4000 | 新宿区西新宿1-3-15 栃木ビル7F |
| 横浜 | 045-323-5000 | 西区北幸2-10-50 北幸山田ビル2F |
| 千葉 | 043-221-8000 | 中央区富士見1-2-11 勝山ビル6F |
| 浜松 | 053-452-6000 | 浜松市鍛治町140-3イズムハママツCビル5F |
| 名古屋 | 052-562-5000 | 中村区名駅3-26-21 新香取ビル6F |
| 京都 | 075-352-5000 | 下京区新町通七条下ル東塩小路町593クリスタル駅前ビル1F |
| 大阪北 | 06-6456-3000 | 北区梅田1-2 駅前第2ビル2F |
| 大阪南 | 06-6634-3000 | 中央区難波3-5-11 東亜ビル8F |
| 岡山 | 086-224-9000 | 岡山市本町6-36 第一セントラルビル3F |
| 福岡 | 092-415-6000 | 博多区博多駅東1-12-7 第13岡部ビル2F |
| 鹿児島（NEW） | 099-812-3800 | 鹿児島市中央町3-26 西駅M.Nビル5F |

この本についてのお問い合わせは
TEL/03-5543-3700

泌尿器科・形成外科・性病科
東京上野クリニック

24時間無料電話相談
0120-508-550
携帯・PHSからもご利用できます。

メンズ総合テープ案内
0120-087-008
携帯・PHSからもご利用できます。

メール相談もできる男のHP　http://www.ueno.co.jp　携帯アドレス　http://www.ueno-c.com

SRS DX 10・10 臨時増刊号 No.78
8.28『Dynamite!』国立大会・速報!
吉田、グレイシーに圧勝! 桜庭、ミルコに敗れる!
平成12年4月25日第3種郵便物認可 平成14年10月10日発行 増刊 第4巻・19号・通算78号
編集人・谷川貞治 発行人・柳沢忠之 発行所・(株)フジテレビ出版/(株)ローデス 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F 電話/03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号
定価680円 本体648円



雑誌21586-10/10
Ⓛ-2002,11/4
T1121586100683
Printed in Japan